文化庁委託事業
ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業
業務成果報告書

令和５年３月３１日

株式会社ＪＴＢ

報告書　目次

１．事業全体概要	１－１．事業の目的と目標	２
	１）事業の目的	２
	２）事業の目標	２
	１－２．事業概要	３
	１）事業実施体制	３
	２）公募事業	５
	①日本語教育を実証する日本語教育機関の公募実施	６
	②実証事業の適切な進捗管理	１０
	３）自主事業	１３
	１－３．事業スケジュール	１４
２．自主事業概要	２－１．自主事業で開発した教材やシステムの概要	１５
	１）スタンダードコース	１６
	２）観光コース	２２
	３）就労コース	２９
	２－２．事業報告会	３６
３．オンライン日本語教育実証事業の実施内容と分析結果	３―１．参画日本語教育機関	４０
	３－２．グッドプラクティス	５０
	１）実証結果にみるグッドプラクティス	５０
	２）レベル別・コース別・学習方法別・対象別グッドプラクティス	５８
	３－３．オンライン日本語教育プログラム評価	６５
	１）受講者による評価（アンケート）	６６
	①調査項目	６６
	②事前アンケート調査結果	６７
	③事後アンケート調査結果	７１
	２）日本語教師による評価アンケート（アンケート）	７７
	①調査項目	７７
	②事前アンケート調査結果	７７
	③事後アンケート調査結果	８１
	３）日本語教育機関責任者による評価（アンケート）	８８
	①調査項目	８８
	②調査結果	８８
４．教師向け研修概要	４－１．日本語教師研修	９０
	１）目的と研修概要	９０
	２）研修内容	９１
	３）日本語教師研修実施スケジュール	９３
	４）理論編	９４
	５）実践編	９８
	６）日本語教師研修受講者を対象とした調査結果	１０２
	７）全体総括	１２７
	４―２．Ｚｏｏｍ研修	１２８
	１）目的と研修概要	１２８
	２）研修内容	１２９
５．評価検証委員会による分析	５－１．文化庁の枠組みによる「グッドプラクティス」	１３３
	５－２．教育的視点から見たグッドプラクティス	１３４
	５－３．オンラインによる日本語教育の成果と課題	１４３
	１）オンラインによる日本語教育の成果	１４３
	２）オンラインによる日本語教育の課題	１４５
	５－４．オンライン授業普及に向けた制度・仕組みに関する提言	１４６
	１）オンライン授業普及に向けた制度・仕組みに関する問題点	１４６
	２）オンライン授業普及に向けた制度・仕組みに関する提言	１４８
６．事務局総括	６－１．一般社団法人　全国各種学校日本語協会　総括	
	１）自主事業について	１５１
	２）実証事業について	１５２
	３）全体総括	１５３
	６－２．事務局　総括	１５４

１－１．事業の目的と目標

１）事業の目的

新型コロナウイルス感染拡大による入国制限等の影響により、我が国に入国できない外国人留学生が増加の一途を辿っている。令和３年１１月からの水際対策に係る新たな措置により段階的に外国人留学生の受入れが開始されたものの、オミクロン株の影響もあって、外国人の入国停止措置が継続されている状況にある。

コロナ禍でオンライン授業は増えてきているものの、各機関の取り組みは区々であり、質の高い日本語教育をオンライン環境において実現することは必要不可欠と考え、本事業は、入国が困難な外国人留学生への日本語教育環境を構築するため、オンラインを活用した日本語教育を実証することで、ウィズコロナにおける持続的な日本語教育のあり方を検討することを目的としている。

２）事業の目標

本事業は、多様なカリキュラムを用いて外国人への日本語教育を行う日本語教育機関を公募・選定し、選定した各日本語教育機関による外国人への日本語教育の実証を支援する【公募事業】、公募事業で実施する日本語教育機関による外国人への日本語教育の有意性を高めることを目的に、事業全体の報告会の開催、日本語教師研修、日本語教育モデルの開発および実証結果の分析を行う【自主事業】に大別される。

この【公募事業】・【自主事業】を通じて、ウィズコロナ対応として、入国が困難な外国人留学生への日本語教育環境を構築するため、オンラインを活用した日本語教育を実践・実証する。

入国前の外国人留学生が日本語教育の授業に参加できるよう、留学生等のレベルに応じた多様なオンライン授業を実証する。実証においては、対面とオンラインのハイブリッド型、事前学習に最適な録画授業の配信・反転授業のオンデマンド型、混在型のハイフレックス型など、多様なオンライン授業を展開する。

事業の実施にあたり本事務局では、以下に示す３つの目標を定めた。

事務局の目標

目標 1　質の高い日本語教育プログラムを創りオンライン環境において実施するために、各機関の環境に合わせた多様なプランを用意・提案し、多くの日本語教育機関とともに実証していく。

目標 2　多様なオンライン日本語教育の現状を把握するとともに伴走支援を行い、持続可能なオンライン日本語教育の提供に向けた受講者・教師双方に対する環境整備を行う。

目標 3　オンライン日本語教育の発展に向け、現状の課題抽出および今後の取り組みに対する提言を取りまとめる。

1－2．事業概要

1）　事業実施体制

委託元：　文化庁

委託　　実証成果提出

事業主体　：　株式会社ＪＴＢ

事業運営

事 務 局
（株式会社ＪＴＢ内）

事業運営協力：一般社団法人
全国各種学校日本語教育協会

●事業全体管理（スケジュール策定・進捗管理・事務局ホームページ運営）
●公募、選定（公募フォーマット作成・選定・採択通知発信）
●自主事業（日本語教育モデルの開発、日本語教師研修実施）
●事業専用システム運営
（事業進捗管理システムkintone、学習進捗管理システムlearningBOX）
●各種マニュアル作成
●日本語教育機関　伴走支援（問い合わせ対応・月次報告書、月次収支報告書、最終報告書確認）

評価検証委員会

有識者

株式会社 創建

【評価検証委員会】

●公募選定基準策定
●アンケート項目検討
●事業報告会構成検討、開催（講評・ファシリテーション）

【成果分析】

●分析のためのルーブリック作成
●日本語教育機関作成の成果報告書集約･分析
●グッドプラクティス抽出

＊株式会社 創建
●報告書作成協力
（アンケート回答整理、全体構成整理協力）

再委託　　実証結果報告
事業説明会参加

実証主体　：　各日本語教育機関

オンライン日本語授業の実証・月次報告書および月次収支報告書の作成、提出、成果報告まとめ

■評価検証委員の紹介

委員氏名	所属・役職
宇佐美　洋 氏	東京大学大学院 総合文化研究科　教授
小林　ミナ 氏	早稲田大学大学院 日本語教育研究科　教授
藤本　かおる 氏	武蔵野大学グローバル学部　日本語コミュニケーション学科　准教授

上記３名からなる評価検証委員会は、本事業において以下の役割を担っている。
・公募選定基準策定協力
・アンケート項目検討時の助言
・事業報告会構成検討時の助言、開催協力（共有事例への講評・ファシリテーション）
・分析のためのルーブリック作成
・成果報告書分析
・グッドプラクティス抽出

■事業分析フロー

本事業では、上記評価検証委員会を中心に実証成果の分析を行った。
全８３コースの実証よりグッドプラクティスの抽出を行った際のフローについて、以下に記載する。

1	**事業の最終成果報告として、各日本語教育機関が「最終報告会資料」を作成** ・実証内容、実証時の授業や教材の写真 ・実証成果（成果と課題、取り組みの工夫） ・各日本語教育機関の自己評価、振り返り（マトリクス）
2	**文化庁より明示された分析の観点で評価を行うため、評価検証委員が分析の観点(※1)に照らし合わせルーブリック(※2)を策定** （※１）分析の観点…以下の３つの観点。 ①コースの目標設定とプログラム（カリキュラム・教員配置・評価等）の適切性 ②教育内容・方法の適切性 ③目標の達成度･成果の分析 （※２）ルーブリック…評価検証委員が実証を総体的に評価する目的で策定したルーブリック。「日本語教育機関の自己評価」「事務局が行った総体評価」の2つの評価を土台に、評価検証委員が独自の視点で採点を行った。
3	**２のルーブリックに則り、事務局および株式会社創建（分析協力）がグッドプラクティスを抽出** 以下のとおり、実証内容だけでなく多様な視点から成果を分析し、グッドプラクティスを抽出した。 ・実証内容　・各校の自己評価　・ルーブリック　・評価検証委員
4	**評価検証委員による独自の視点での検証・分析** ２および３の手法でのグッドプラクティス抽出・分析に加え、有識者である評価検証委員が独自の視点でグッドプラクティスを抽出し、分析・講評を行った。

２）公募事業

ウィズコロナにおける持続的な日本語教育の検討し、入国が困難な外国人留学生への日本語教育環境を構築するため、オンラインを活用した日本語教育を実践・実証を行った。

各日本語教育機関独自のカリキュラムを用いて行うフリーコースのほかに、実証に取組みやすい教材、カリキュラム等をパッケージ化したスタンダード・観光・就労の３コースを含めた計４コースを設定し、公募を行った。

上記の４コースについては、オンライン授業だけでなく、対面とオンラインを合わせたハイブリッド型、事前に最適な録画授業の配信を組み合わせたハイフレックス型など、多様なオンライン授業環境での実証を募集した。

４コースの概要は、以下に示す通りである。

［各コース概要］

コース名	概要
フリーコース	日本語教育機関独自のカリキュラムや指導法に基づき、多様な実証を行うコース
スタンダードコース	株式会社スリーエーネットワーク社が提供する『みんなの日本語初級Ⅰ』をベースにし、日本語を楽しみながら学べるコース オンライン授業（オンライン（双方向）・ハイブリッド）に適した教材およびカリキュラムを用意
観光コース	ＪＴＢパブリッシング「るるぶ」等の観光画像を活用した教材で、実践的な日本語の習得を目指すコース 各地の観光資源情報（名所旧跡、郷土料理、お土産、方言等）にふれながら観光地で必要な会話を取り上げ、実践的な日本語の習得と日本事情の理解を学べるオンデマンド教材とカリキュラムを用意
就労コース	留学生のみならず、生活者・就労者を含む受講者が日本事情に親しみながら学べるコース 留学生の５人に１人がアルバイトをしているコンビニエンスストアを舞台に、就労現場等の会話を盛り込んだオンデマンド教材とカリキュラムを用意

①日本語教育を実証する日本語教育機関の公募実施

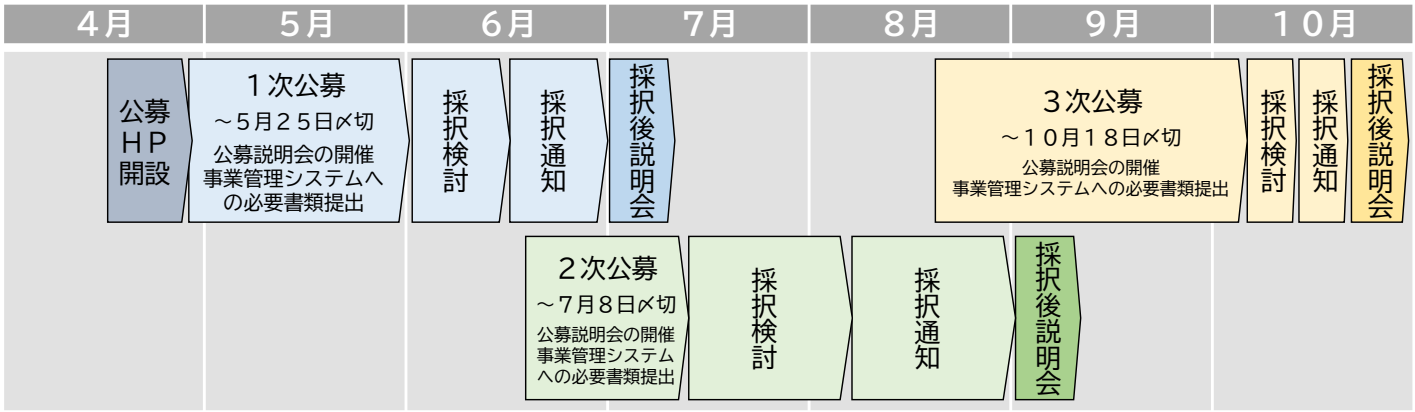
より多くの日本語教育機関へ実証への参画を促すため、時期をわけて全３回の公募を実施した。

【公募実施期間】　１次公募：令和４年４月２８日～令和４年５月２５日
２次公募：令和４年６月２２日～令和４年７月８日
３次公募：令和４年８月２２日～令和４年１０月１８日

【公募説明会】　１次公募：説明会　４月下旬から５月上旬に５回開催
２次公募：説明会　オンデマンド開催（ホームページ配信）
３次公募：説明会　オンデマンド開催（ホームページ配信）

【実証開始】　１次公募：６月下旬実証開始（実証授業は７月上旬開始）
２次公募：８月下旬実証開始（実証授業は９月上旬開始）
３次公募：９月下旬実証開始（実証授業は１０月上旬開始）

［公募スケジュール］



公募する日本語教育コースは、自主事業において開発したコースを含む先述の４コースとした。

各コースの実証主旨を以下に示す。

［各コースの実証主旨］

コース名	実証主旨
フリーコース	日本語教育機関独自のカリキュラムや指導法に基づき、多様な実証を実施
スタンダードコース ※自主事業開発コース	オンライン日本語授業の経験が無い、または経験が浅い日本語教育機関に向け、オンライン授業の入門編カリキュラムと指導法を提供し、実証を実施
観光コース ※自主事業開発コース	自主事業において開発したオリジナルカリキュラムとコンテンツを用いて実証を行う。既存教材ではアプローチできない部分に対し、実証を実施
就労コース ※自主事業開発コース	

1．事業全体概要

1－2．事業概要
2）公募事業　①日本語教育を実証する日本語教育機関の公募実施

- 日本語教育機関の公募にあたっては、専用ホームページを通じて公募説明会の受付を実施し、事業への理解醸成を促し、より有効な事業となるよう配慮を行った。公募説明会は、事業の目的、実施内容、申込条件、スケジュール等について詳細な説明を行っている。
- 事務局ホームページの構成は以下のとおり。

トップページ

1-1. 事業内容

1. 出入国管理及び難民認定法第7条第1項第2号の基準を定める省令の表の法別表第一の四の表の留学の項の下欄に掲げる活動の項の下欄の規定により法務大臣が告示をもって定める外国人等に対する日本語教育を行う機関（以下「日本語教育機関」という）が行う入国前の外国人留学生等を対象とした多様なオンライン教育の実証に関する業務
2. 上記の業務に付随する必要な業務

1-2. 応募要件（実証事業公募申請に必要な要件）

1. 法務省告示校であること。
2. 出入国在留管理庁において、令和３年に留学生の在籍管理が適正に行われていると認められる教育機関（いわゆる適正校のこと）であること。ただし、令和２年適正校であったものの新型コロナウイルス感染症の影響をもって入国した留学生数が減少したことにより令和３年において適正校でなくなった機関や新設校は除く。

1-3. 公募期間、事業期間、事業規模、採択予定校数

1. 3次公募　公募期間：令和4年8月22日（月）～10月18日（火）12時まで
   ※各日本語教育機関の皆様におかれましては、令和4年度中の取組として申請をお願いします。
   ※公募申請の状況により、公募期間を延長、または変更する可能性がございます。
2. 3次公募　事業期間：採択通知後～令和4年12月末
   本事業の実証は採択通知を受領し、事務局と契約を交わしたあとに開始してください。
3. 事業規模（再委託費用）：上限10,000千円/1告示校あたり
4. 採択予定校数：60校 ＊1次・2次・3次公募合わせての校数になります。

1-4. お知らせ

7月25日付けで入管庁から発出された周知文の記載（本邦の 日本語教育機関が海外に居住する者に対して行う当該オンライン授業について、 日本語教育機関に入学しようとする者の日本語履修歴として認める）のとおり、在留資格「留学」の取得要件の１つである、渡日前「日本語履修歴（150時間以上）」がオンライン教育でも認められることが明文化されました。

つきましては、150時間の渡日前日本語教育プログラムについて、本事業 文化庁補正予算「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業」をぜひご活用くださいませ。

1-5. 再委託先日本語教育機関 選考スケジュール

1-6. 公募説明について

3次公募概要は、公募の手引きのほか、公募説明資料（PDF）をご確認くださいませ。

・ダウンロードはこちら
●公募説明資料（事業概要版）
●公募説明資料（コース説明版）

1-7. 最終報告会について

本事業の最終報告会を以下の日程で実施いたします。

開催形式： オンライン開催（Microsoft Teams）
開催日時： 2023年1月18日(水)　12:30-15:00
申込締切： 2023年1月12日(木)　正午

【申し込みURL】　参加を希望される方は、以下URLよりお申し込みください。

https://forms.office.com/r/xJRpd30hRh
※1月17日(火) 正午までに、当日の参加URLを登録いただいたメールアドレスへお送りします。

1-8. 事業成果報告

本事業の事業成果概要について、報告いたします。本ホームページ上での成果報告の公開は、2023年2月28日（火）までを予定しております。

- 事業成果報告

公募説明会申込	実証事業参加申請	日本語教師研修申込
専用ページへ	専用ページへ	専用ページへ
公募説明会への参加をご希望の日本語教育機関のみなさま	実証事業への取り組みご希望の日本語教育機関のみなさま	日本語教師研修参加をご希望の日本語教育機関のみなさま

★３次公募時のホームページ画面より抜粋

実証事業申請のページ

文化庁 ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業

実証事業の申請

ー概要ー

1. 質の高い日本語教育プログラムを創りオンライン環境において実施するために、各機関の環境に合わせた多様なコースを用意・提案し、多くの日本語教育機関とともに実証していく。
2. 多様なオンライン日本語教育の現状を把握するとともに伴走支援を行い、持続可能なオンライン日本語教育の提供に向けた受講生・教員双方に対する環境整備を行う。
3. オンライン日本語教育の発展に向け、現状の課題抽出および今後の取り組みに対する提言を取りまとめる。

フリーコース

特徴
学校独自のカリキュラムや指導法に基づき、多様な実証を行います。更に、新たに教材の開発、カリキュラムの作成、受講生の環境に合わせた方法でオンライン教育が行えるように環境を整えていきます。

日本語レベル
A1、A2、B1、B2、C

手法
オンライン型、　ハイブリッド型、
オンデマンド型、ハイフレックス型

実施回数・頻度
各日本語教育機関のカリキュラムによって変動

シラバス概要
各日本語教育機関がもつ実績を生かし、よりよいオンライン日本語教育を確立するための実証を行うコースです。
①学校独自のカリキュラムや指導法を用いて、オンラインによる日本語教育の授業実証を行います。

②オンラインによる日本語教育に適した教材(動画を含む)、カリキュラム検討、作成および実証を行います。オンライン教育に適した新たな教材やカリキュラム等の開発を行い、指導法を確立していきます。

スタンダードコース

特徴
日本語教育機関で多く採用される『みんなの日本語初級Ⅰ』をベースに作成されたオンライン教育に適した教材を用い、授業を行います。

日本語レベル
A1、A2

手法
オンライン型、ハイブリッド型

実施回数・頻度
①『みんなの日本語初級Ⅰ』をベースにしたオンライン授業(90分×20回)
②ゼロ初級者向けに上記にひらがな・カタカナを加えたオンライン授業(90分×27回)

シラバス概要
①スリーエーネットワーク社が提供する『みんなの日本語初級Ⅰ』をベースにしたオンライン授業を行います。

②ゼロ初級者向けに、ひらがな・カタカナを加えたオンライン授業を行います。

観光コース

特徴
外国人留学生の関心が高い日本観光を授業のテーマとし、10地方の観光情報を紹介しながら、実際の観光シーンに役立つ具体的な会話を盛り込みました。各地方の観光地情報(観光スポット、グルメ、お土産、方言など)に触れ、自然に日本事情に親しめる内容になっています。日本観光を疑似体験により楽しむことで、日本語学習への意欲を掻き立て、コロナ禍で薄れがちになっている日本留学意欲を高める教材として役立てられるよう作成いたしました。

日本語レベル
A1、A2、B1

手法
オンデマンド型、ハイフレックス型

実施回数・頻度
90分×10回(週2回×5週間)または45分×20回(週4回×5週間)

シラバス概要
①観光ガイドにおいて国内No.1の発行部数を誇るJTBパブリッシングの旅行情報誌『るるぶ』の観光素材(画像)を活用し、各地の観光地情報(名勝、食べ物、土産、方言など)を提供するとともに、タスクシラバスにより観光シーンでの会話各4編を収録します。観光に必要な実用的な会話と少し発展的な応用会話も盛り、授業のバリエーションが広げられ、またゼロ初級者から初級終了者までより多くの受講者が参加できるよう、反転授業に加え、表記・翻訳等で理解を深めます。(90分×10回) 同様のコンテンツを2回に分けて行うことも可能です。(45分×20回)
②反転授業として視聴する事前学習用オンデマンドビデオを3言語(英語・中国語・ベトナム語)で制作します。ナレーションに翻訳字幕をつけ、その他にも翻訳を併記し、日本語のみの授業用教材にもローマ字表記を付記します。また、受講生の理解度確認・評価のため、授業回ごとのクイズも活用します。

就労コース

特徴
留学生のみならず、生活者・就労者を含む受講者を対象に、コンビニを舞台にした就労場面における日本語教材を開発しました。実際の日本語利用場面を想定しながら、具体的なシーンで利用できる生きた日本語の語彙や表現を習得し、さらに日本事情にも親しんでいただける内容になっております。

日本語レベル
A2、B1、B2、C

手法
オンデマンド型、ハイフレックス型

実施回数・頻度
週2回(90分(2シーン)×10回＋90分(1シーン)×2回＝12回

シラバス概要
①反転授業用の受講者向け学習オンデマンドビデオ(3言語:英語・中国語・ベトナム語収付)、教職員向けの授業用ビデオ(日本語)、授業用PPT、授業用のマニュアルをご用意し、その使い方の説明会も実施します。反転授業を初めて行う先生方も安心して実証していただけます。全22シーンの授業を行うコースです。
②留学生が、買い物客から店員として活躍し、最後は店長になるまでの過程を通じて、就労場面で使う日本語を学んでいきます。
1 オリエンテーション(日本での就労・資格外活動など)
2 「コンビニ顧客・従業員」顧客と従業員の会話シーン
3 「コンビニ従業員」従業員と店長の会話シーン
4 「コンビニ店長」店長と本部経営指導員の会話シーン
ーマーケティング、マーチャンダイジング、店舗運営管理

手法		
	オンライン型	：双方向でオンライン授業を行うもの
	ハイブリッド型	：対面授業とオンライン授業を組み合わせたもの
	オンデマンド型	：録画した授業を配信するもの(反転授業の事前学習等)
	ハイフレックス型	：ハイブリッド型とオンデマンド型を組み合わせたもの

3次公募スケジュール

- 日本語教師研修についても、事務局ホームページでの申し込み受付を行った。

★３次公募時のホームページ画面より抜粋

文化庁 ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業

日本語教師研修の申し込み

ー概要ー

1. オンライン授業での日本語教育の指導スキルのボトムアップを行い、オンライン授業に対応できる日本語教員の裾野を広げる。
2. 日本語教員が「日本語教育の参照枠」の理論を理解し、学習方法・教え方・評価手法を包括的にとらえたシラバスによりカリキュラミングされた研修を実施し、日本語教員のスキル向上を目指す。

日本語教師研修

特徴

参加した受講生同士で参照枠を学びあい、様々な学習観、評価観を知り、
自らの勤務する学校のマイスクールCan-doを作成して、現場のカリキュラムに活かすことを目指す研修です。

受講対象者

告示校の推薦を受けた専任日本語教師
（経験1年以上が望ましい）

手法

オンライン形式（Zoom使用）

実施回数・頻度

【理論編】週1回　全10回　定員30名
R1：水曜クラス　10:00～11:30
R2：金曜クラス　13:30～15:00
R3：土曜クラス　10:00～11:30

【実践編】週1回　全10回　定員20名
J4：火曜クラス　10:00～11:30
J5：木曜クラス　13:30～15:00
J6：土曜クラス　13:30～15:00

シラバス概要

【理論編】
・日本語教育の参照枠について理解し、その現状と課題を知る
・日本語能力観、日本語熟達度の捉え方を理解する
・5つの言語活動ごとのCan-do（活動、方略、テクスト、能力）を知る
・Can-doをベースにしたカリキュラム開発計画の手順を考える

【実践編】
・5つの言語活動別に、生活・留学・就労等の活動状況に応じたCan-doを検討する
・参照枠を活かした日本語教育の基準や目標を考える
・各自の勤務校におけるマイスクールCan-doを作成する

詳細はこちら

研修スケジュール・ 募集予定人数

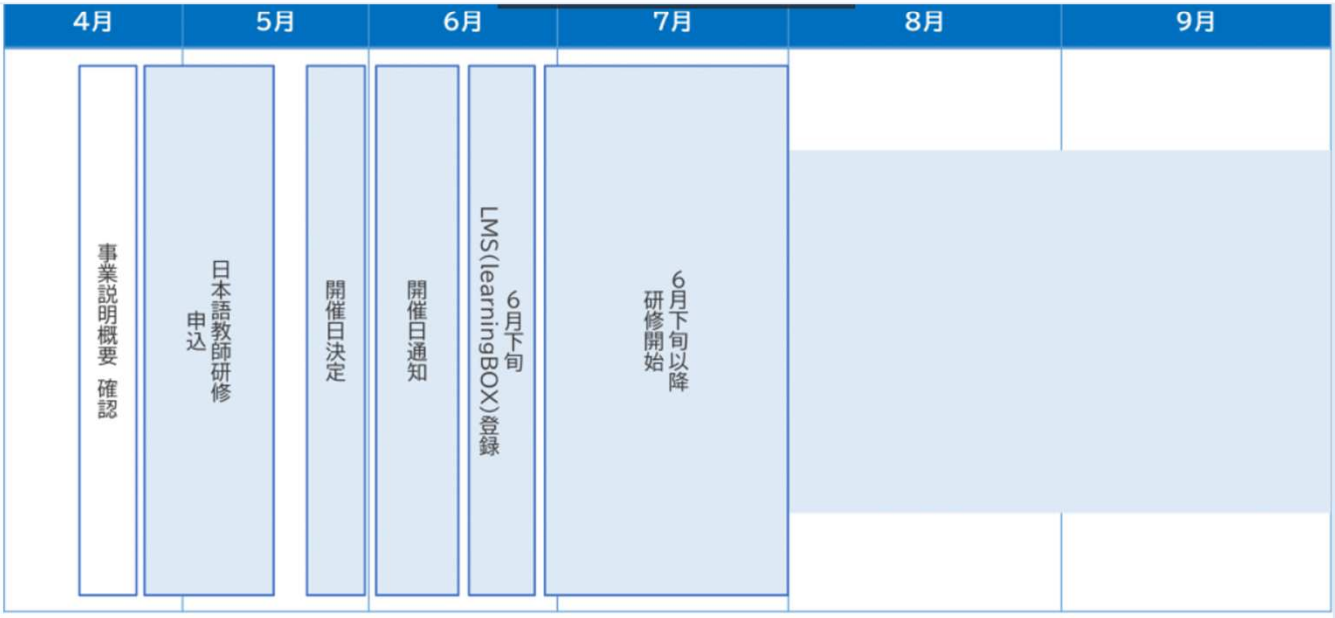
区分	ターム	実証期間	実施頻度・回数
理論編	週1回 全10回 / 30名 / 各クラス		
	R1	6月22日～8月31日	水曜クラス　10:00～11:30
	R2	6月24日～9月2日	金曜クラス　13:30～15:00
	R3	6月25日～9月3日	土曜クラス　10:00～11:30
実践編	週1回 全10回 / 20名 / 各クラス		
	J4	7月5日～9月13日	火曜クラス　10:00～11:30
	J5	7月7日～9月15日	木曜クラス　13:30～15:00
	J6	7月9日～9月17日	土曜クラス　13:30～15:00

※休講：8月11日～8月17日

★３次公募時のホームページ画面より抜粋

応募要件

受講対象者	告示校の推薦を受けた専任日本語教員（経験1年以上が望ましい）
講師レベル・条件	日本語教師養成講座講師経験10年以上の講師が担当
実施環境	learningBOX利用（受講生登録、講師登録、出欠管理、成績管理などを実施）
必要備品	PC（カメラ・音声）、通信/事務局からのレンタルなし パワーポイントや資料をダウンロードする必要あり
その他	成果物提出、出席率80％以上の受講生には、修了証授与



申し込み方法

（1）提出方法

○ 研修内容と研修スケジュールを確認のうえ、推薦書（様式1）を記入し、「日本語教師研修に申し込む」のページから提出してください。

（2）提出期限

【理論編】 令和4年6月16日(木) 12:00必着
【実践編】 令和4年6月23日(木) 12:00必着

○ 提出期限を過ぎてからの書類の提出、及び差替えはできません。

（3）留意事項

○ 日本語教育機関1校につき、日本語教員2名までお申し込み可能です。

必要書類	ダウンロードはこちら
【添付書類（推薦書）】*	ダウンロード書類 【推薦書（様式1）】 参照書類 研修概要・申込の手引き

②実証事業の適切な進捗管理

■日本語教育機関の事業進捗管理

<u>オンライン日本語教育の進捗状況の把握・管理・報告</u>

・日本語教育機関の公募申請は、事務局ホームページへ申請書類を提出する流れをとった。

・採択後は専用ツール（kintone）を使い、各種マニュアルのダウンロード、月次報告、精算まで事業開始から終了までの手続きおよび事務局とのやり取りができるプラットフォームを整えた。各フェーズで必要な様式をダウンロードできるようにするほか、事務局からの連絡やＦＡＱの確認ができるよう整備・更新を行った。

★トップページには「お知らせ」を掲載。
・マニュアルや各種説明動画などへのリンクを貼り、情報へのアクセスをしやすい環境を整えた。
・「ＦＡＱ」「修了証書・受講時間証明について」「各種動画」「各種マニュアル等」へ同じプラットフォームからアクセス可能。

★右側サイドメニューには事業で使用する報告ページ（アプリ）一覧を表示し、提出するアプリを選択後に左記画面より書類をアップロードし提出を行った。
※左記は「報告」アプリの画面イメージ。

<u>●各日本語教育機関への支払い対応</u>
支払いフローの明確化を図るため、再委託先である各日本語教育機関への再委託費用の支払いについてもkintone上でやり取りを行った。支払いは日本語教育機関ごとに分割払いまたは事業終了後の一括払いの２パターンで希望をとり、各証憑書類の確認完了後に支払いまたは承認を行った。

■日本語教育機関・受講者の事業進捗管理

●ＬＭＳ（LearningManagementSystem：学習進捗管理システム）の導入

- 本事業ではＬＭＳを活用し、実証事業を行った。ＬＭＳはlearningManagementSystemの略で、オンラインにおける学習を行う際のプラットフォームとなるシステムである。事業において、日本語教育機関は教材（テスト・クイズ等）の作成および配信、受講者とのやり取り、成績管理を行った。受講者は教材の閲覧およびダウンロード、ZoomURLからの授業参加を行った。
- すべての日本語教育機関（実証校）にＬＭＳのアカウントを提供し、オンライン日本語教育環境の整備および受講者の学習進捗確認・管理の利便性を高め、オンライン日本語教育の効果の最大化を図った。
- ＬＭＳは、事業推進の連携先である一般社団法人 全国各種学校日本語教育協会加盟校でも利用実績のあるlearningBOXを利用した。日本語教育機関が独自で多様な問題や教材を作り発信できるほか、学習進捗の確認・成績の確認ができる環境を整えた。

●分析にかかるデータ収集

- 本事業前後での日本語教育へのモチベーションの変化などについて、授業でも利用するＬＭＳを通じて各受講者へアンケートを実施した。※分析のためにアンケート集約やデータ抽出を行う旨は事前に受講者へ通知、承諾を得ている。
- ＬＭＳについては、個別使い方レクチャー（オンラインで実施）を含むシステム利用に関する問い合わせ対応を行った。特に利用開始直後においては、「日本語教師用のＩＤ登録方法」「権限付与に関する質問」などが寄せられ、マニュアル説明や電話口での説明が難しい事象に対して、オンラインで画面投影をしながらレクチャーを行った。

［learningBOX画面　抜粋］

※日本語教師アカウントのみ、以下の「コンテンツ管理」から独自コンテンツの作成・アップロードが行える環境を提供し、オンライン授業実証の取り組みの中でＬＭＳを実践的に利用できるよう工夫した。

●オンライン日本語教育の実証にかかる相談対応

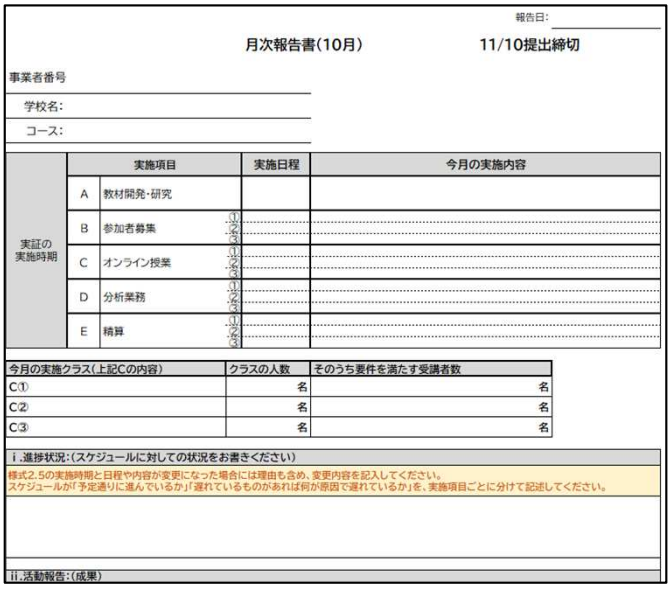
- 各日本語教育機関への伴走支援としてkintoneより事務局へ連絡・質問ができる体制を整備した。日本語教育全般にかかる事項の問い合わせについては、事務局より有識者（全国各種学校日本語教育協会）へ確認のうえ回答ができる体制とし、適切な回答をタイムリーに行い、スムーズな実証を推進した。

●月次提出書類の確認およびフィードバック

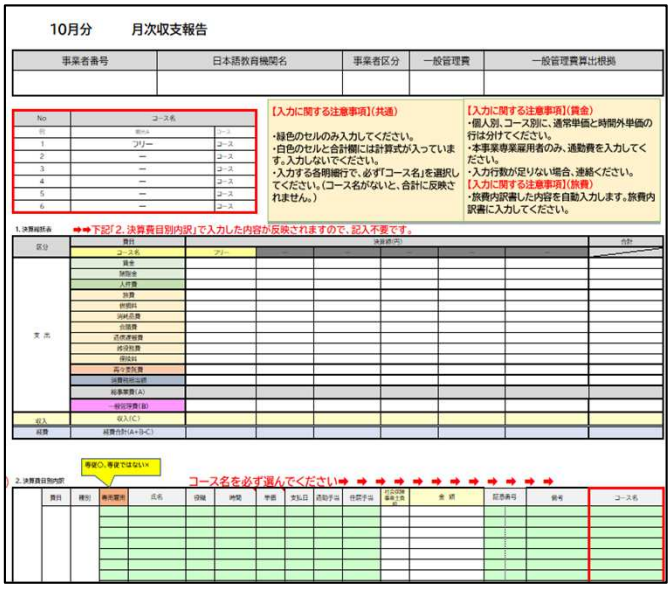
- 実証事業進捗管理にあたり、各日本語教育機関が月次で報告を行うことを必須とした。
- タイムリーにフィードバックを行うことにより事業進捗確認および必要に応じたフォローアップを継続して実施した。報告内容の確認は選定同様に客観的な視点で確認し、かつ確認項目の漏れを防ぐため、１校の報告につき事務局内で２名以上のチェックを実施後、各日本語教育機関へ適宜フィードバック、再提出依頼を行った。

日本語教育機関からの提出物一覧	
採択時	業務委託契約書・個人データの処理に関する覚書・契約時業務計画書・通帳コピー
月次 （毎月１０日締切）	事務局様式１１　月次報告書 （月ごとの活動について、「教材開発・研究」「参加者募集」「オンライン授業」「分析業務」「精算」の項目ごとに業務内容詳細・成果・課題・次月（今後）の目標を記載した様式。）
月次 （毎翌月末日締切）	事務局様式１２　月次収支報告書および証憑書類 （月ごとの活動について、費目ごとに支出・収入を計上した様式。）
報告会関連資料	中間報告会資料（※実証開始時期の関係で１次公募３０校のみ） 最終報告会資料
その他契約関連資料	変更契約書　等

様式１１　月次報告書フォーマット



様式１２　月次収支報告書フォーマット



３）自主事業

公募事業で実施する日本語教育機関による受講者への日本語教育の有意性を高めることを目的に、日本語教師研修、日本語教育モデルを開発する事業、事業全体の実証・報告会の開催及び実証結果等の分析を行った。

①日本語教師研修・Zoom研修

■日本語教師研修
日本語教師を対象としたオンラインでの研修を実施。研修内容は「日本語教育の参照枠」の理解・実践に向けたスキル向上を目的に、理論編・実践編各１０回（１コマ９０分）を設定した。
■Ｚｏｏｍ研修
オンライン授業を初めて行う、または経験の浅い日本語教師に向けて、Ｚｏｏｍの使い方を学べる動画を作成した。動画は事業進捗管理システムkintoneおよびＬＭＳで公開した。

②日本語教育モデル開発

合計３コースのオリジナル教材（ＰＰＴ・動画教材等）を作成した。

【スタンダードコース】
日本語教育機関で多く採用されるスリーエーネットワーク社が提供する『みんなの日本語初級Ｉ』をベースにオンライン授業に適した形に教材を電子化する。
・スリーエーネットワーク社が提供する『みんなの日本語初級Ｉ』をベースにしたオンライン授業およびゼロ初級者向けに上記にひらがな・カタカナを加えたオンライン授業で使用する教材を作成。

【観光コース】
観光素材（画像等）を活用し、各地の観光地情報（名勝、食べ物、土産、方言など）を提供するとともに観光地での場面会話を取り上げ実践的な日本語の習得を目指す。
・反転授業として視聴する事前学習用オンデマンドビデオを、３言語（英語・中国語・ベトナム語）で制作する。合わせて教師向けにオンライン授業で使用する教材用ビデオの作成、受講者の理解度確認・評価のため回ごとのクイズも作成。

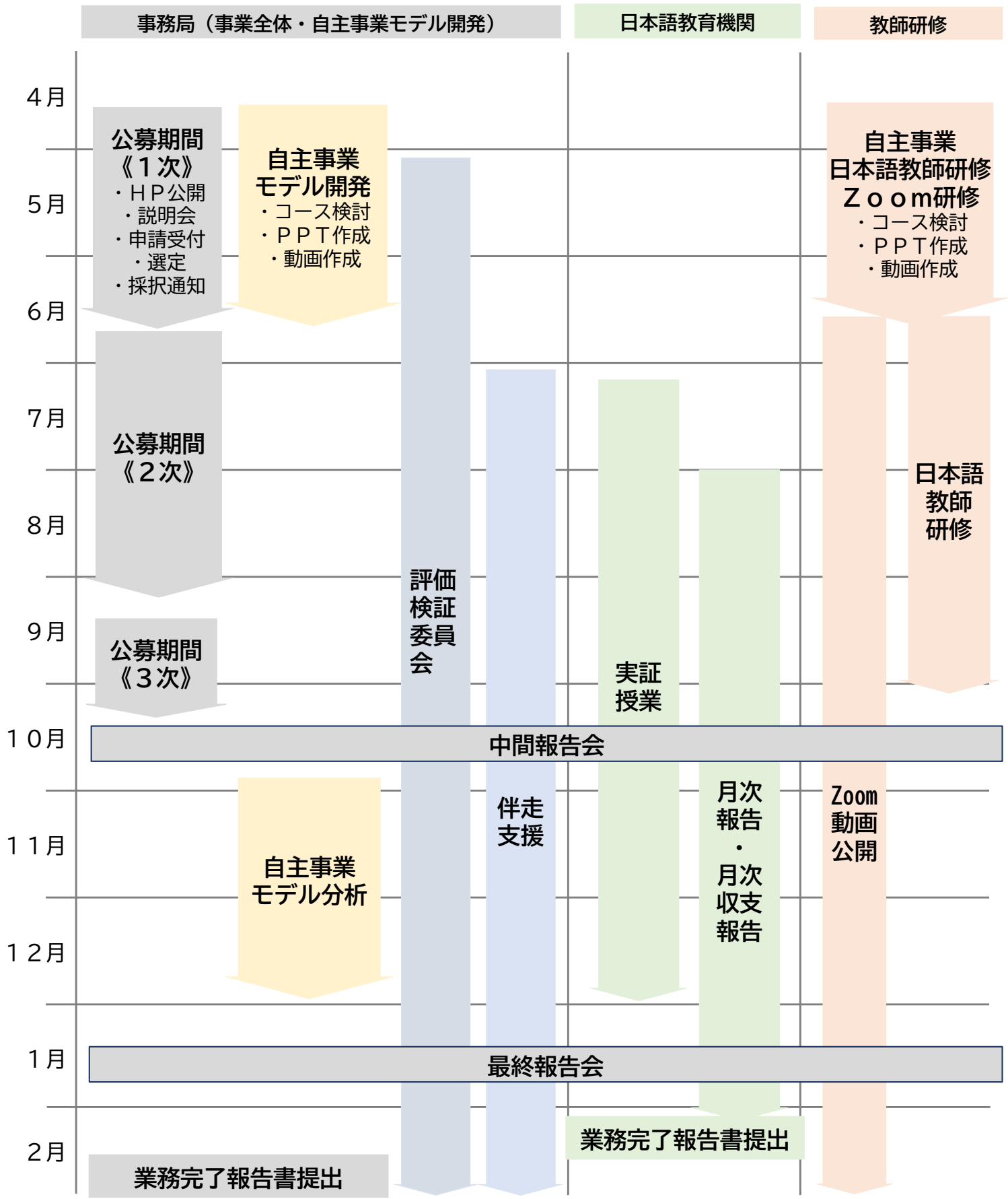
【就労コース】
コンビニエンスストアでのアルバイト現場等の会話を動画で盛り込み、学習意欲を維持しながら学ぶオンデマンド教材を作成。反転授業として視聴する事前学習用オンデマンドビデオを、３言語（英語・中国語・ベトナム語）で制作する。 授業時に使用する、クイズを含むＰＰＴも作成する。

③事業全体の実証・報告会の開催および実証結果等の分析

■事業報告会の開催
実証中期である１０月と実証終了後である１月に、事業報告会を開催した。

■実証結果等の分析
日本語教育機関作成の最終報告会資料およびアンケート（受講者・日本語教師・日本語教育機関責任者）から実証の成果を分析した。分析においては評価検証委員会作成の独自ルーブリックも用い、多角的に実証成果の検証を行った。

１－３．事業スケジュール


事務局（事業全体・自主事業モデル開発）
日本語教育機関
教師研修
４月
５月
６月
７月
８月
９月
１０月
１１月
１２月
１月
２月
公募期間《１次》
・ＨＰ公開
・説明会
・申請受付
・選定
・採択通知
自主事業モデル開発
・コース検討
・ＰＰＴ作成
・動画作成
自主事業日本語教師研修Ｚｏｏｍ研修
・コース検討
・ＰＰＴ作成
・動画作成
公募期間《２次》
公募期間《３次》
評価検証委員会
伴走支援
実証授業
月次報告・月次収支報告
Zoom動画公開
日本語教師研修
中間報告会
自主事業モデル分析
最終報告会
業務完了報告書提出
業務完了報告書提出

２－１．自主事業で開発した教材やシステムの概要

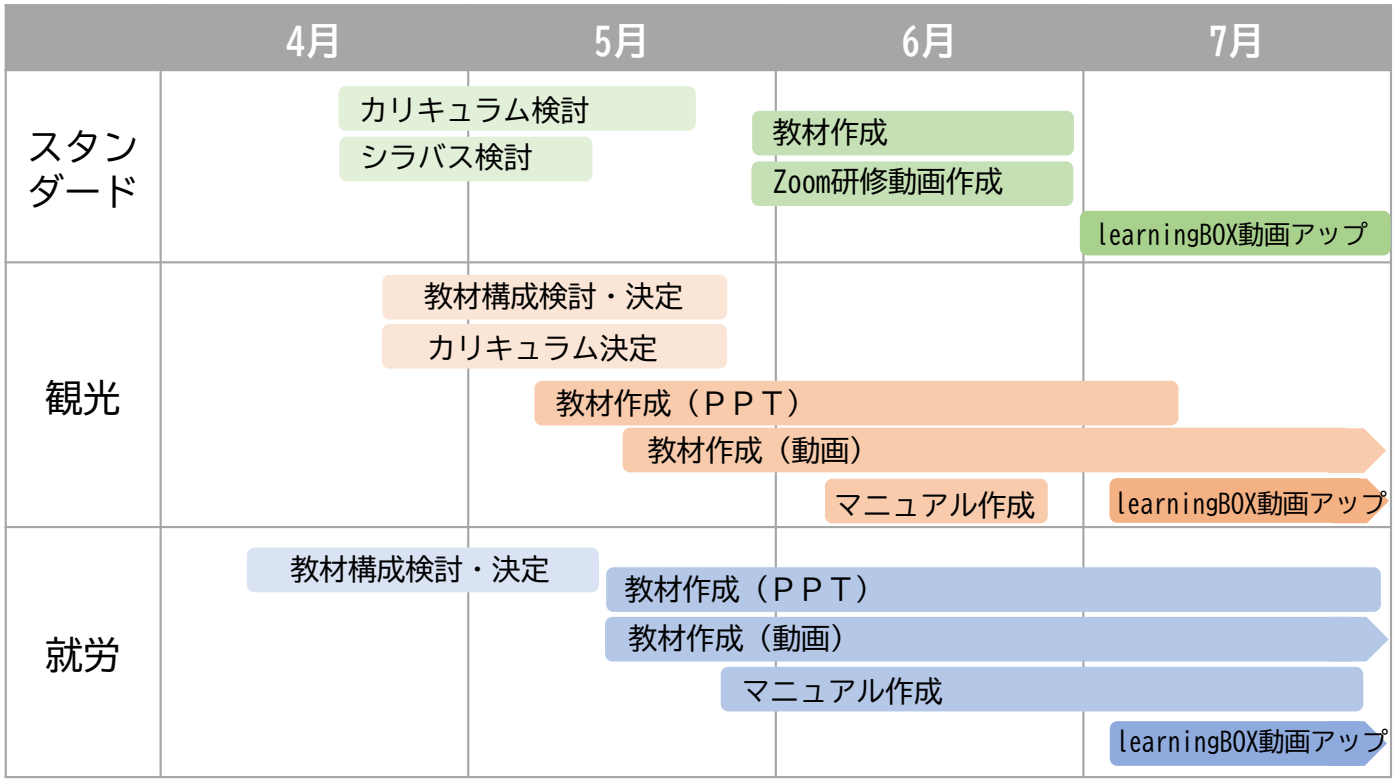
自主事業における取り組みとして、以下に示す３つのコースの教材開発を行った。

①スタンダードコース　②観光コース　③就労コース

開発したコースを事業内公募において採択した日本語教育機関が授業実証を行った。

各コースの詳細報告は、次ページ以降に示す。

●スケジュール



１）スタンダードコース

①コース概要

項目	内容
目的	日本語教育機関が参画しやすいオンライン対応カリキュラムを作成・整備し、オンライン授業スキルの底上げを行うとともに、オンライン日本語教育の裾野を広げる。 オンライン対応カリキュラムを使った実証を行い、基本的な言語活動〔話す〕〔聞く〕〔読む〕の日本語能力を向上し、単純かつ日常的に必要とされる表現の日本語を習得することを目的とする。
対象となる受講者	・日本語レベル：Ａ１、Ａ２ ・日本語学習目的：進学、就労、一般 ・言語圏：漢字圏、非漢字圏
実証要件	・手法：オンライン、ハイブリッド ・言語活動：話す（やりとり）、話す（発表）、聞く、読む、書く
概要	日本語教育機関で多く採用されるスリーエーネットワーク社が提供する『みんなの日本語初級Ｉ』をベースにオンライン授業に適した形に教材を電子化した。 ①スリーエーネットワーク社が提供する『みんなの日本語初級Ｉ』をベースにしたオンライン授業（９０分×４０回）のカリキュラムと教材を作成した。教材では、導入時に文型の使用場面がわかるように工夫を行った。 ②ゼロ初級者向けに、上記にひらがな・カタカナを加えたオンライン授業（９０分×４７回）のカリキュラムと教材を作成した。教材では、各文字の筆順を明示し、イメージがつきやすいように、導入した文字を使用する語彙のイラストを挿入した。

②－１　カリキュラム内容（文字）

ひらがな
第1回　あ行～ま行 ①　PPT･50音表を提示 ②　PPT･あ行を提示 ③　PPT･「あ」を提示　　教師の発音をもとに音の確認(コーラス) ④　PPT･「あさ」を提示　教師の発音をもとに音の確認(コーラス) ⑤　PPT･筆順を確認　(空書) ⑥　ノートに練習「あさ」 ⑦　PPT･確認問題　各行、上記に同じ　　＊　⑦の確認問題は「□さ」
第2回　や行～濁音･半濁 ①　PPT･50音表を提示 ②　PPT･や行を提示 ③　PPT･「や」を提示　　教師の発音をもとに音の確認(コーラス) ④　PPT･「やさい」を提示　教師の発音をもとに音の確認(コーラス) ⑤　PPT･筆順を確認　(空書) ⑥　ノートに練習「やさい」 ⑦　PPT･確認問題　各行、上記に同じ　＊　⑦の確認問題は「□さい」

カタカナ
第4回　ア行～ワ行 ①　PPT･50音表を提示 ②　PPT･ア行を提示　　教師の発音をもとに音の確認(コーラス) ③　PPT･「ア」を提示　　教師の発音をもとに音の確認(コーラス) ④　PPT･「アイスクリーム」を提示　　教師の発音をもとに音の確認(コーラス) ⑤　PPT･「ア」筆順を確認　(空書) ⑥　ノートに練習「ア」 ⑦　PPT･確認問題 　　＊　　各行、上記に同じ　　＊　⑦の確認問題は「□イスクリーム」
第5回　濁音･半濁音･拗音 ①　PPT･50音表を提示 ②　PPT･ガ行を提示　　教師の発音をもとに音の確認(コーラス) ③　PPT･「ガ」を提示　　教師の発音をもとに音の確認(コーラス) ④　PPT･「ガ」筆順を確認　(空書) ⑤　ノートに練習「ガ」 ⑥　PPT･「ギ」を提示　　教師の発音をもとに音の確認(コーラス) ⑦　PPT･「ジョギング」を提示　教師の発音をもとに音の確認(コーラス) ⑧　PPT･「ギ」筆順を確認　(空書) ⑨　ノートに練習「ギ」 ⑩　PPT･確認問題　各行、上記に同じ　　＊　⑦の確認問題は「ジョ□ング」 　＊　語彙のないものは、音の確認のみ （＊「ノートに練習」→　一文字づつ、あるいは一行ごと）

②－２　カリキュラム内容（文法）

※『みんなの日本語初級Ⅰ（第２版）』を用いたスタンダードコース用

回	指導項目
1	教室のことば
	日常のあいさつ
	～は～です（名前・身分など）
	～は～じゃ（では）ありません
	～は～ですか
2	～の～（所属）
	だれ／どなた
	～も～です
	～は－歳です
3	これ／それ／あれは～です
	～は～ですか、～ですか
	～の～（内容）
	～の～（持ち主）
4	～は～のです
	この／その／あの～は～のです
5	ここは＜場所＞です
	＜場所・もの・人＞はここです
	＜物・人＞は＜場所＞です
	＜場所・物・人＞はこちらです
	どちら（方向・場所）
	国／会社は～です
6	～の～（～製の）
	～は－円です
7	－時－分です
	～は～曜日です
	～は－時から－時までです
	－時に～ます
	－時から－時まで～ます
8	～ます／ません／ました／ませんでした

③成果物

■文字（ひらがな／カタカナ）

１．カリキュラム

２．授業用ＰＰＴ教材（全７回分）

３．授業の進め方とＰＰＴの使い方（教師用手引）

４．テスト

①ひらがなテスト

②カタカナテスト

③ひらがな・カタカナまとめテスト

■文法

１．カリキュラム

２．授業用ＰＰＴ教材（『みんなの日本語』１～２０課）

３．授業の進め方とＰＰＴの使い方（以下、教師用手引）

①１３～１４課用

②１４、１７～２０課用

③その他の課用

４．テスト

①１～５課　②６～１０課　③１～１０課　④１１～１５課　⑤１６～２０課

⑥１１～２０課　⑦総合テスト（みんなの日本語１～２０課）

⑧総合テスト（読解）　⑨日本語テスト（Ｎ５レベル）

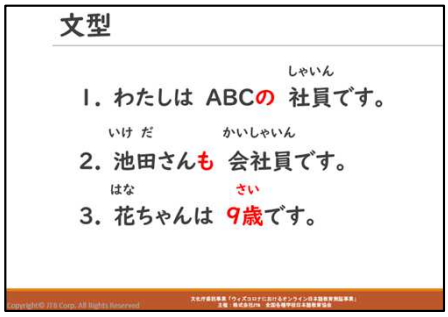
５．その他資料

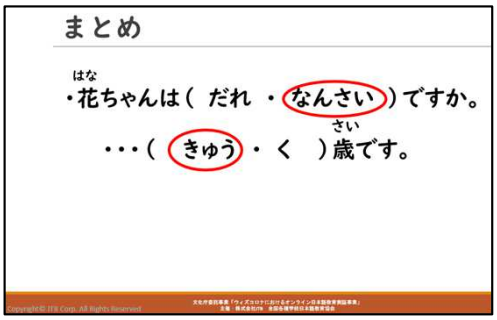
①レディネス調査

②スタンダード評価表

③使用マニュアル

④教師用使用方法解説動画





④開発段階における教材に関する協議事項

■文字

協議事項	開発段階における工夫
語彙の選定	・既習の文字を使用すること、また段階的に読める文字が増えるように、使用する語彙を厳選した。 ・伝わりやすさを重視し、『みんなの日本語』で用いられる語彙以外も選定し利用した。
イラストの選定	・文字の難易度に応じて、効果的なイラストを使用することで理解を促した。
教師用手引の内容	・初めてオンラインで文字指導をする教師が理解しやすいように、回ごとに進め方を詳述した。 ・授業での使用実態に応じて、教材を使用する教師が適宜イラストや語彙を追加できる旨を明記した。

■文法

協議事項	開発段階における工夫
カリキュラムの作成	・多くの日本語教育機関で取り入れられている進度（２日で１課）を目安にカリキュラムを作成した。オンライン授業では時間がかかると想定される内容には、時間的ゆとりを持たせたカリキュラム構成とした。
ＰＰＴ 教材の作成	・オンライン授業の経験が浅い日本語教師のために、教材はシンプルなつくりとし、指導上の留意点をメモ欄に記載した。 ・ＰＰＴ教材と電子教材の切り替えが多くなることを想定し、必要な要素のみをＰＰＴに入れた。 ・各回の最後に当日学習した内容を確認する問題を入れる等、授業をまとめやすくするよう工夫した。
教師用マニュアルの作成	・全授業に共通で使えるものに加えて、イレギュラーな展開をする課については、別途手引を作成した。 ・教材の使用方法を解説した説明動画を準備し、スムーズに活用できるよう工夫した。

■評価

協議事項	開発段階における工夫
文字テスト	・テスト用紙にイラストを配置し、解答する際の一助とした。 ・５０音を満遍なく提示できるように工夫した。
文法テスト	・文法や助詞を網羅し、受講者レベルを考慮した問題数とした。 ・オンラインでは文作成問題が実施困難であるため、代替案として並べ替え問題を採用した。 ・learningBOXで作成可能な様々な形式のテスト（例：択一問題・並び替え問題・正誤問題等）を使用し、単調にならないよう配慮した。それらの機能の活用により教材作成から採点、集計を効率的に行うことができた。
その他資料	・評価に関する資料は受講者ごと、クラスごとにExcelで管理し、複数の日本語教師で共有できるよう工夫した。

⑤開発後の課題と今後の展望

	課題	今後の展望
1	今回作成した教材では、文字の「書く」ことへの指導・確認が困難である。	・「書く」ことが必要な受講者には、従来の方法で実際に書いた成果物を写真やスキャンで提出させて添削する方法が効果的ではないかと考える。 ・ オンライン授業の性質を活かして、「書く」ではなく「打つ」に活動内容を変更することで、従来の文字指導から一歩進んだ文字指導ができると考える。
2	教材作成で使用したフォントが一部のソフトウェアで表示できない問題が発生した。	・使用するフォントを再検討する、あるいは、事前に受講者や教師に当該フォントに対応したデバイスを使用しているか注意喚起することが必要である。
3	今回作成した教材には、訳と文法解説がないため、理解が難しい部分があった。	・英訳、イラストの掲載、自習用の補助教材の提供等で補うことが望まれる。

２）観光コース

①概要

項目	内容
目的	外国人留学生の関心が高い日本観光を授業のテーマとし、各地の観光情報を提供するとともに、観光シーンにおける具体的な会話を盛り込むことで、日本と日本文化への関心を深め、日本での日本語学習への意欲を高めることを目的とする教材を作成する。また、外国人留学生が日本観光への関心を高め、将来ホテルなどの観光業を就労先とした場合にも役立つような教材とする。 日本各地の興味深い画像への関心に導かれ、様々な実践的なタスクを達成できる日本語会話力を習得することを目的とする。
対象となる受講者	・日本語レベル：Ａ１、Ａ２、Ｂ１ ・日本語学習目的：進学、就職、一般 ・言語圏：漢字圏、非漢字圏
実証要件	・手法：オンデマンド、ハイフレックス(反転授業) ・言語活動：話す（やりとり）、話す（発表）、聞く、読む、 日本事情・日本理解
概要	①　１県または１地方につき２地域を選定し、各１０枚の画像とナレーションを用いて各地の観光地情報（名勝、食べ物）を提供した。各地の観光場面で想定される基礎的な実践会話を取り上げ、さらに受講者のレベル差にも対応できるよう、応用的な会話も作成した。 会話はルビとローマ字表記を付したＰＰＴを作成して動画に収録した。 （１県/地方９０分×１０回） ②　反転授業として視聴する事前学習用オンデマンドビデオを、３言語（英語・中国語・ベトナム語）で制作した。ナレーション部分には翻訳字幕をつけ、ＰＰＴには翻訳文を記載した。 授業用には日本語字幕のついた教材用動画を作成し、受講者の理解度確認・評価のため各回のクイズも収録した。

②カリキュラム内容

地方	場所	会話番号	場面状況	タスク	会話番号	表現
北海道	ニセコ	１－１	スキー場レンタル店	スノーボードの道具をレンタルする	１－１	N　はどれにしますか
					１－１	N　をお願いします
					１－１	V　たいです
					１－１	すみません
		１－２	ホテルフロント	チェックアウトをする荷物を預かってもらう	１－２	N　や　N
					１－２	V　てください
					１－２	V　てもいいですか
					１－２	V　とき
	函館	１－３	すし屋	寿司を注文する	１－３	１つ、２つ
					１－３	N　はぬいてください
					１－３	V　ことができません
					１－３	いかがですか
					１－３	いらっしゃいませ
					１－３	何にしますか
		１－４	レンタカー屋	レンタカーを借りる	１－４	N　と　N
					１－４	N　はどうしますか
					１－４	V　たいんですが
					１－４	事故にあったらどうしますか
東北	岩手	２－１	小岩井農場	チケットを買う	２－１	A　し、　A　し、それに、牛乳が　A　です
					２－１	N　がいちばん好きです
					２－１	N　で何がいちばん好きですか
					２－１	すみません。　N　を（２）まいください
		２－２	わんこそば屋	食べ方を聞く	２－２	いっしょに　V　ましょう
					２－２	おなかがいっぱいです
					２－２	そんなに食べられません
					２－２	どうやって　V　ますか
					２－２	どのくらい　V　ますか
					２－２	もう食べられません
	宮城	２－３	牛タン屋	おすすめを聞く	２－３	N　と読みます
					２－３	V　たことがあります/ありません
					２－３	V　てあります
					２－３	V　てみましょう
					２－３	何ですか
		２－４	七夕まつり	祭りについて質問する	２－４	N　から　N　まで
					２－４	N　という
					２－４	V　ように
					２－４	V　んです
					２－４	行われる
埼玉	川越	３－１	菓子屋横丁	場所を聞く	３－１	N　があります
					３－１	N　ですね
					３－１	V　ています
					３－１	V　たいんですが
		３－２	川越氷川神社	おみくじを引く	３－２	N　って何ですか
					３－２	N　という意味です
					３－２	V　たいです
					３－２	V　てください
					３－２	どういう意味ですか
					３－２	何と読みますか
	長瀞	３－３	ＢＢＱ場	病院を聞く	３－３	N　がいたいです
					３－３	N　がわかる人
					３－３	N　はどうですか
					３－３	どうしたんですか
					３－３	近くに　N　がありますか
		３－４	川下り乗り場	川下りのルールを聞く	３－４	A　くなります
					３－４	N　が見えます
					３－４	V　ないようにしてください
					３－４	V　前に
					３－４	このままでもいいですか

２－１．自主事業で開発した教材やシステムの概要
２）観光コース

地方	場所	会話番号	場面状況	タスク	会話番号	表現
東京	原宿	４－１	竹下通り	古着屋で試着する	４－１	V　てみてもいいですか
					４－１	ちょっと　A　です
					４－１	もっと　A　のがありますか
		４－２	ねこカフェ	ねこカフェで注文する	４－２	V　たいんですが
					４－２	V　てください
					４－２	いかがですか
					４－２	お時間は？
					４－２	お飲み物は？
					４－２	お好きな席にどうぞ
	浅草	４－３	仲見世	仲見世で お土産を買う	４－３	N　は使えますか
					４－３	いらっしゃいませ
					４－３	この　N　をください
					４－３	少々お待ちください
		４－４	人力車	人力車に乗る	４－４	いかがですか
					４－４	いくらですか
					４－４	こちらからどうぞ
					４－４	楽しんでください
					４－４	ちょっと　A　ですね
					４－４	どうも
					４－４	もっと　A　くなりませんか
山梨	富士山	５－１	富士山５合目	両替をする	５－１	N　があると便利です
					５－１	N　かかります
					５－１	V　たほうがいいです
					５－１	どこでできますか
					５－１	なるほど
		５－２	富士山８合目	日本人と雑談する	５－２	あとどのくらいですか
					５－２	あのう
					５－２	いえいえ、まだまだです
					５－２	ここ、いいですか
					５－２	どちらから？
					５－２	日本に住んでいますか
	甲府周辺	５－３	タクシー乗り場	タクシーに乗る	５－３	N　までおねがいします
					５－３	どちらまで
					５－３	どのくらいかかりますか
					５－３	失礼しました
		５－４	ブドウ農園	ブドウ狩りをする	５－４	V　ことができますか
					５－４	お持ちください
					５－４	お待たせしました
					５－４	にもつをあずかりましょうか
長野	地獄谷温泉	６－１	旅館フロント	旅館にチェックインする	６－１	N　と　N　をお願いします
					６－１	外湯に　V　時
					６－１	予約した　N　です
		５－２	旅行フロント	アクセスを聞く	５－２	N　で行ったほうがいい
					５－２	V　ことができます
					５－２	V　てみます
					５－２	V　と、 （１）時間くらいかかります
					５－２	V　と思います
	松本城	６－３	松本城城内	お城で写真撮影を頼む	６－３	N　を入れて写真をとる
					６－３	ここを　V　と、とれます
					６－３	写真をとっていただけませんか
					６－３	はい、チーズ
		６－４	本丸公園	わからない言葉を聞く	６－４	N　って？
					６－４	V　という意味です
					６－４	どういう意味ですか

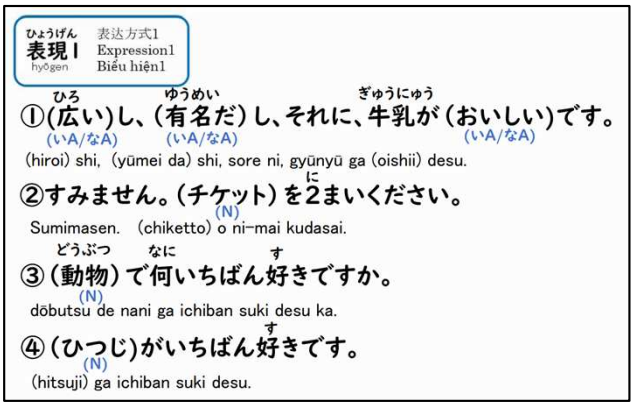
地方	場所	会話番号	場面状況	タスク	会話番号	表現
京都	京都市内	７－１	着物レンタル店	着物の着付けの申し込みをする	７－１	N　込みで（5000）円です
					７－１	V　たいんですが
					７－１	何名様ですか
	伏見稲荷	７－２	伏見稲荷大社境内	神社で参拝のマナーを聞く	７－２	V　方
					７－２	よかったら、　V　ましょうか
					７－２	何を　V　ているんですか
	二条城	７－３	二の丸御殿	見学するときの注意点を聞く	７－３	N　はご遠慮ください
					７－３	V　てください
					７－３	V　てもいいですか
					７－３	どうぞお上がりください
	鴨川ほとり	７－４	大文字山	風習について質問する	７－４	V　てみたら？
					７－４	V　てみます
					７－４	気をつけてくださいね
					７－４	すてきな　N　ですね
大阪	遊園地	８－１	遊園地案内所	場所を聞く	８－１	N　のとなりにあります
					８－１	N　はどこですか
					８－１	N　をもらってもいいですか
					８－１	どうぞ
		８－２	遊具乗り場	待ち時間を聞く	８－２	N　だったら
					８－２	V　てください
					８－２	だいたい（３）時間くらいです
					８－２	どうやって　V　ますか
					８－２	どのくらい　V　ますか
					８－２	まず　次に　それから
	道頓堀	８－３	たこ焼き屋	注文とテイクアウトをする	８－３	N　ください
					８－３	N　でお願いします
					８－３	N　はいりますか
					８－３	いらっしゃいませ
					８－３	何にしますか
		８－４	交番　警察	落とし物が届いているか聞く	８－４	A　くて　A　い　N　です
					８－４	N　だと思います
					８－４	N　をなくしました
					８－４	どこで　V　ましたか
					８－４	届いていません
					８－４	どんな　N　ですか
岡山	後楽園	９－１	電話問合せ	電話で開園時間を聞く	９－１	N　はいつですか
					９－１	V　たいんですが
					９－１	ぜひ　V　たいです
					９－１	そちらは何時から何時までですか
					９－１	もしもし
	直島	９－２	直島路上	道に迷う	９－２	N　が見られます
					９－２	V　てしまいました
					９－２	ここはどこですか
					９－２	ちょっと教えていただけませんか
					９－２	どうしましたか
	児島地区	９－３	友達との会話	特産品や名物について聞く	９－３	N　なんです
					９－３	V　そうです
					９－３	V　ましょう
					９－３	V　ませんか
					９－３	食べられます
	倉敷	９－４	ホテルフロント	ホテルでおすすめを聞く	９－４	N　ができます
					９－４	N　だったんです
					９－４	N　はどうですか
					９－４	V　てみたいです
					９－４	どこかおすすめがありますか

地方	場所	会話番号	場面状況	タスク	会話番号	表現
九州	博多	１０－１	ラーメン屋台	ラーメン屋でおすすめを聞く	１０－１	N　って何ですか
					１０－１	N　のこと
					１０－１	いらっしゃいませ
					１０－１	はいよ
	大宰府	１０－２	太宰府天満宮	お守りと場所について聞く	１０－２	（１５）分くらいで　V　ますよ
					１０－２	N　はどうですか
					１０－２	V　たいんですが
					１０－２	どんな　N　がおすすめですか
	仙厳園	１０－３	仙厳園出口付近	わからないことを質問する	１０－３	N　には　N　があるんですよ
					１０－３	N　は何ですか
					１０－３	V　てもいいですか
	鹿児島市内	１０－４	市内のバス停	注意点を聞く	１０－４	V　ないように気をつけてね
					１０－４	V　る
					１０－４	V　んですか

③成果物

受講者用：　事前学習用ビデオ（３言語：英語・中国語・ベトナム語）

教 師 用：　①教師向け授業用ビデオ（クイズ含む）
②教師用マニュアル
③授業用シラバス
④ナレーションスクリプト



④開発段階における教材に関する協議事項

協議事項	開発段階における工夫
構成の決定 カリキュラムの決定	・実際の観光場面で役立つ会話のタスクシラバス教材とした。 ・楽しく日本事情を学べるようにナレーションや方言、名物の紹介といった各地の観光地情報を提供した。 ・反転授業の教材は、受講者の多い中国語・英語・ベトナム語の３か国語に決定した。 ・全１０回、１回完結型。教材のプロトタイプを作成し、観光場面でどのようなタスクが可能か検討後
１０地方の決定 教材フレーム決定	・作成委員の日本語教育機関がある５地方と、外国人留学生に人気があり、学習の関心を持ちそうな５地方に決定した。
内容及び ＰＰＴ の作成	・観光場面における会話をリストアップし、各地方のシーンに合うものを採用した。内容の重複や、語彙や表現バリエーションが増えるように検討した。 ・Ｂ１の受講者向けに、会話２に応用会話をつけることとした。
会話ＰＰＴ作成ルール決定	・Ａ１、Ａ２の受講者を想定し、初級者でも見やすいようにローマ字表記、漢字のルビ、翻訳をつけるため、文字の大きさや位置、フォント、色付け、空欄の幅を決定した。 ・ローマ字表記は、受講者に広く使用されている初級教材に合わせたものに決定した。 ・Ａ１、Ａ２レベルに合わせた漢字を選定した。
翻訳作成ルール、 翻訳フォーム作成	・日本語に対応する翻訳がわかりやすいよう、配置を決定した。
登場人物の決定	・会話に出てくる留学生のキャラクターを受講者の国籍に合わせ、欧米人２人、アジア人　２名の計４名に決定。
イラストの決定	・ＰＰＴに使用するイラスト数を１地方１２枚まで選定。
ナレーション 作成ルール	・普段の授業で教師が受講者に話しているような、親しみやすい雰囲気で原稿を作成する。 ・初級者を意識した語彙選びで、約３分、８００字程度で作成した。
画像選定 画像許諾取得 動画作成	・ナレーションに合う画像を選定した。 ・楽しい雰囲気で学習が進められるよう、ナレーションと会話部分にＢＧＭをつけることにした。
方言、名物の作成	・方言について、あいさつなど頻出度の高いフレーズを紹介した。 ・ネイティブの方に音声収録を依頼した。 ・方言の意味がすぐわかるよう標準語訳をつけた。
マニュアル作成	・どのレベル、経験の教師でも同質の授業ができるよう、指導教案を作成した。

⑤開発後の課題と今後の展望

	課題	今後の展望
1	日本観光への関心から幅広い受講者が参加し、クラス内でのレベル差が大きく見られた。 レベル差がある場合の対策もあったが、マニュアルに明記していなかったため、時間が足りなくなったり、会話２が難しすぎたというケースが散見された。	・レベル差への対応策を検討し、マニュアル等で共有できるとよい。 ・レディネス調査などを十分に行い、各クラスで教材をどのように扱うかを検討しておくことが非常に重要である。授業前に各クラスの特性を確認、理解したうえで授業に臨んでいく。
2	初級レベルの留学生を対象とする場合、普段文型積み上げ型教授法を採用することが多いため、タスク達成型の授業スタイルに慣れていない教師もいた。	・教師が初級イコール文型積み上げという概念に固執せずに、コース内容やカリキュラムに応じて授業が展開できるようにする。 ・各日本語教育機関で行われている試行や手法を共有し、教師のスキルアップや共に学ぶ機会を設けていく。
3	今回の観光コースにおける事前学習用・授業用動画は、各地の観光画像があり、著作権の課題から当動画教材以外は一切配布していなかった。本事業内における利用との限定条件のもと画像の利用を許諾いただいた施設・寺社仏閣等も多くあり、事業終了後は利用ができない。 各日本語教育機関が様々な工夫をして授業を行っていたが、授業をスムーズに進めるためには事務局提供教材に加え各日本語教育機関オリジナルの補助教材が必要であったことが本コースの課題である。	受講者の特性やネット環境により、どのように対応すべきかは異なる。各地の観光画像（特に寺社仏閣等）の著作権の課題を、再度許諾をとる等でクリアすることができれば、授業ごとに日本語あるいは翻訳版ナレーションのスクリプトやＰＰＴを受講者に配布することも検討できるかもしれない。

３）就労コース

①概要

項目	内容
目的	日本で勉強する留学生の５人に１人がコンビニでアルバイトとして活躍している背景より、コンビニでのアルバイト現場等の会話を動画で盛り込み、学習意欲を維持しながら学ぶオンデマンド教材を作成した。 上記オンデマンド教材を反転授業の教材として活用することにより、事業内公募において実証を行い、その成果を検討する。これから留学する学生だけでなく、来日後の留学生、生活者、就労者も実証の対象としたい。 就労場面においての様々な実践的なタスクを達成できる日本語会話力を習得することを目的とする。
対象となる受講者	・日本語レベル：Ａ２、Ｂ１、Ｂ２、Ｃ１ ・日本語学習目的：進学、就労、一般 ・言語圏：漢字圏、非漢字圏
実証要件	・手法：オンデマンド、ハイフレックス（反転授業） ・言語活動：話す（やりとり）、話す（発表）、聞く、読む、日本事情・日本理解
カリキュラムの概要	①事業内公募実証時授業：基本形９０分(４５分１シーン×２)、週１回で全１２回（約３ケ月）。 ②日本で働くときに役立つ日本事情の理解を促すとともに、日本語の語彙や表現（聞く、話す、読む）を習得することが目標。 ③反転授業を行うことを想定し、受講者用予習動画（英語・中国語・ベトナム語の字幕つき）を協力企業とともに実際の店舗を利用して作成。 ④生きた場面で日本事情に親しみながら日本語を学ぶことができるよう、大きく４つのシーンに分けてカリキュラムを作成した。コンビニの顧客としてのシーン、次に同コンビニにアルバイトとして面接を受け店員として働くシーン、その後店長になり働くシーンまで、主人公の成長ストーリーとして楽しめる構成となっている。 （1）第１回（４５分） 「オリエンテーション」（日本での就労-資格外活動について等） （2）第２回～１２回（４５分） 「コンビニ顧客・従業員」顧客と従業員の会話シーン（接客） （3）第１３回～２０回（４５分） 「コンビニ従業員」従業員と店長の会話シーン （作業指示、店内情報共有） （4）第２１回・２２回（９０分） 「コンビニ店長」店長と本部経営指導員の会話シーン（経営指導）

②カリキュラム内容

	場面・内容	目標
第１回	オリエンテーション ・資格外活動のルールについて ・コンビニについて 　　コンビニとは。仕事内容など	留学生の資格外活動のルールがわかる。 コンビニとは何か理解できる コンビニ店員の仕事内容がわかる。
第２回	客として： レジでのやりとり （通常商品の購入や 　電子マネー支払いをする）	店員の問いかけに対し、受け答え（レジ袋の要不要と支払方法を伝えること）ができる。
第３回	客として： レジでのやりとり （温め・袋詰めの希望を伝える）	店員の問いかけに対し、受け答え（温め・袋分けの返事）ができ、袋の値段を聞くことができる。
第４回	客から店員として： 店長とのやりとり （面接を受ける）	アルバイトの面接で、志望理由やシフトの条件などを話すことができる。
第５回	店員として： 店長とのやりとり （初出勤でお店の案内、出勤退勤など働く時の注意事項を聞く）	初出勤の職場であいさつができ、 店長からの注意事項を理解できる。
第６回	店員として： レジでの接客 （付属品の説明とクーポンの利用時の対応をする）	付属品の案内とクーポン利用客への応対ができる。
第７回	店員として： レジや売り場での接客 （店内の商品や場所、支払方法の案内をする）	店内の場所案内や商品案内、 支払い方法の応対ができる。
第８回	店員として： レジや売り場での接客 （わからないからないことがある場合の対応をする）	自身がわからないことがある時に 臨機応変な応対ができる。
第９回	店員として： レジや売り場での接客 （レジと売場でのおすすめ販売をする）	試食販売実施時や困っているお客様への おすすめができる。
第１０回	店員として： レジや売り場での接客 （声掛けと商品の値段を案内をする）	おすすめ商品の声かけや商品の値段の案内ができる。
第１１回	店員として： レジや売り場での接客 （声掛けと商品の在庫確認をする）	おすすめ商品の声かけや商品の在庫確認後の説明・謝罪ができる。

	場面・内容	目標
第１２回	店員として： レジでの接客 （宅配便受付業務をする）	宅配便受付業務ができる。
第１３回	店員として： 店長との会話 （電話で遅刻理由と到着予定を伝える）	店長に理由とともに遅刻の連絡ができる。
第１４回	店員として： 店長との会話 （早退の許可をもらう）	店長に理由とともに早退を申し出ることができる。
第１５回	店員として： 店長との会話 （シフト変更依頼をする）	店長に理由とともにシフト変更が依頼できる。
第１６回	店員として： 店長との会話 （朝礼に参加する）	朝礼での連絡事項が理解できる。
第１７回	店員として： 店長との会話 （雨天時の作業支持を受け、対応をする）	店長の指示を正しく理解し、行動できる。
第１８回	店員として： 店長との会話 （暑い日の作業指示を受け、対応する）	店長の依頼を理解し、行動できる。
第１９回	店員として： 店長との会話（ミスの報告）	店長に報告・連絡ができ、ミスを詫びることができる。
第２０回	店員として： 店長との会話（提案する）	接客で気づいたことから、 店長に品揃えの提案ができる。
第２１回	店長として： 本部経営指導員との会話 （経営のビジョンを持ち、現状分析を行う）	店舗の将来像を考え、現状分析ができる。
第２２回	店長として： 本部経営指導員との会話 （発注分担を任せることを決める）	発注分担を任せる意味が理解できる。

＊第１回～第２０回までの授業時間は１回１場面４５分
＊第２１回、第２２回（店長としての回）の授業時間は１回１場面９０分

③成果物

■受講者用教材

〇受講者用予習動画（英語・中国語・ベトナム語翻訳付きの３種類）

タイトル	内容
登場人物	その回の登場人物を紹介
今日の場面	主人公のジャンさんにかかわる、その回の場面を提示
＜会話動画＞	
今日の会話	ビデオのスクリプトを見ながら、会話を聞く
言葉と表現	「今日の会話」の言葉や表現のうち、覚えておくとよいものを提示
今日のポイント	各回でマスターしたい会話表現

■教師用教材

①授業用会話動画（日本語）

②授業ＰＤＦ⇒受講者用の内容に、下記を加えたもの。

タイトル	内容
練習	「今日のポイント」の練習用ページ
クイズ	理解度を確認するための質問

③授業マニュアル（４パターン）

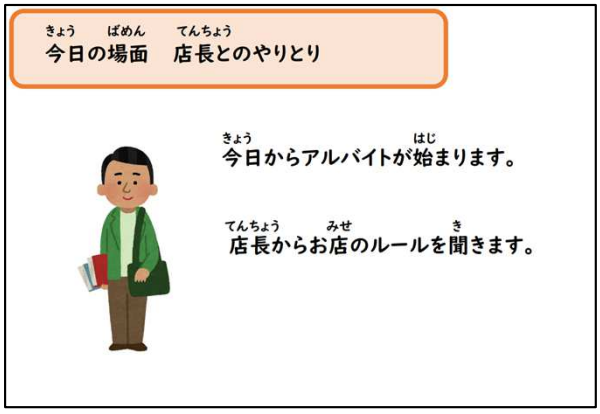
⇒授業の進め方や注意点が記載されている。

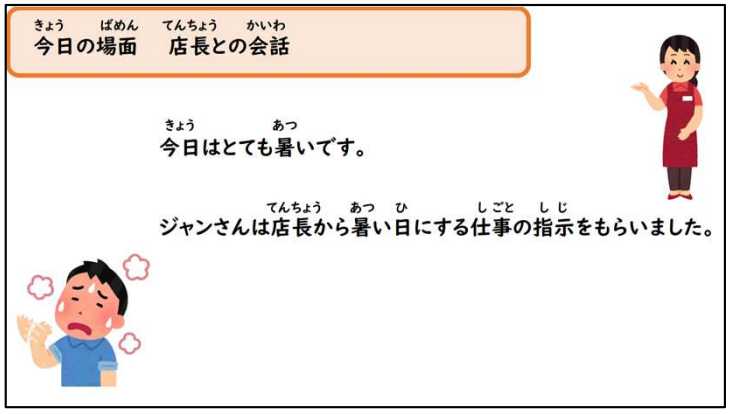
・第１回（４５分　オリエンテーション）

・第２回～第２０回（４５分授業）

・第２１回（９０分授業）

・第２２回（９０分授業）





④開発段階における教材に関する協議事項

協議事項	開発段階における工夫
カリキュラム・シラバスの内容検討	・言葉・表現についての共通ルールを確認、決定した。 ・派生語彙は使わないことにした。 ・教材に加え、マニュアルを作成。文書内にＰＰＴの画像を入れ、授業でのＰＰＴの使い方や指導項目を示した。 ・クイズの方向性として、目標達成が測れる質問にした。 ・問題数は各回３～５問とし、３択の選択問題とする。また、問題は易～難になるように配置した。 ・練習の方向性について、ＰＰＴ１枚につき会話表現１つとキュー３つを掲載することとした。 ・発展練習として会話作成することも盛り込んだ。 ・協力企業作成の会話を確認し、修正を行った。
ＰＰＴ教材の作成	・理解促進のため、会話に登場する重要な語彙や表現をＰＰＴに載せる。 ・受講者予習動画用ＰＰＴの内容を画面共有しながら、作成委員の中で意見交換をし、場面の統一性を持たせた。 ・ルビは基本漢字の上、熟字訓は中央にふることで統一した。 ・教材を見やすくするために、文字の色や大きさや配置を統一した。 ・「表現」や「単語」には通し番号をつけることとした。 ・想像力を働かせてもらうため、場面説明はあまり詳細には記載せず、場面説明にとどめることにした。 ・訳のつけ方は　基本文につけるが、臨機応変に対応する。 ・会話はページ数を節約しつつも、なるべく意味の切れ目で改ページする。 ・表記上の詳細な取り決めを行った。 （上位語彙は上に配置すること、読点句読点などは抜くこと、金額にカンマはいれないこと。単位の表記には算用数字を使用すること等） ・教材の内容に親しみやすさを覚えてもらうため、イラストを使用することにした。
翻訳ＰＰＴのチェックポイント	・翻訳後ＰＰＴについて下記のような表記上の取り決めを行った。 算用数字：全角、半角は区別しない仕様にする。 会話の中：「…」の後に「。」「、」をつける。 「」の中に句読点、記号は入れない。 言葉と表現：例には「。」をつけない。 「…」は三点リーダーを使用。　例）「・・・」→「…」 「？」の後ろはスペース１つあける。 「わかる」「がんばる」は、ひらがな表記にする。 「ああ」←２番目の「あ」も大きい文字にする。 ・教材のチェックは２名体制で行う。 ・修正は、チェック表をもとに修正し、人物写真を追加する。
前半練習・クイズ確定	・英語・ベトナム語翻訳に関する協議 ・ベトナム語翻訳は、ベトナム人講師がチェックする。 ・第２回～１１回の「練習」「クイズ」の検討及び修正に関する協議

協議事項	開発段階における工夫
説明会動画視聴後の修正について	・採択者説明会動画で使用する資料を見ながら意見交換を行い、以下の要望に対する解決を考えた。 ・「練習のキューを増やしてほしい」という意見があり、各日本語教育機関で追加できるようマニュアルに記載した。 ・第１回～２２回の会話や語彙、表現などの全体の流れが見たいという意見に合わせ、第２回～第２２回までの会話を一覧閲覧可能にした。 ・第１回オリエンテーションにて、なぜコンビニでの会話を採用したのか、コンビニでアルバイトをするメリットをマニュアル等に追加した。
learningBOXへの格納、 進捗報告等	・learningBOX上でのコース内構成に関する協議を行った。動画は視聴回数制限を設けることに決定した。繰り返し学習することを考え、視聴回数は受講者１０回、日本語教師３０回とした。
第２１回・ 第２２回の 内容検討	・第２１回、第２２回の内容に関して、「フランチャイズ」「本部指導員」など理解が難しい語彙について説明するために、受講者向けにはわかりやすいＰＰＴを用意し、教師向けには詳細な設定が分かるようにマニュアルを作成した。 ・第２１回のマニュアルと授業用ＰＰＴについて、前回からの補足で【主人公が店長になるまでの経緯】を追加した。 ・第２２回のマニュアルと授業用ＰＰＴについて、学習テーマ【目標】を「人材育成」とするととした。

⑤開発後の課題と今後の展望

	課題	今後の展望
1	就職活動時に必ず必要な「面接」の場面（第４回）では、志望理由に汎用性のある文法を使用し、わかりやすい例文も提示した。しかし実際の授業ではＡ２レベルの受講者にとっては、文章が長すぎたり、語彙や文法のレベルが合わず、時間内に収まらないなど、理解が十分でなかったこともあった。	有益な情報を確実に届けるために、ＰＰＴ内に詳細な翻訳を記載する、または受講者用に翻訳レジュメなどを別途準備、配布することが有効であったと考える。 面接の志望理由もＡ２レベルの受講者でも覚えやすく、使いやすい例文をを提示できるように、十分な精査と配慮を行っていきたい。
2	現在使われている「生きた日本語会話」を意識するあまり、教材ＰＰＴに漢字表記が多く、圧迫感を感じる受講者がいたようだった。	非漢字圏の受講者も考慮し、漢字、ひらがな、カタカナの全体的な文字構成のバランスを考えるべきであった。
3	練習の問題数が少なかったこと、確認テストが口頭だったことで、受講者の正確な評価が容易ではなかった。	練習は問題数を増やし、確認テストはＰＰＴの中にではなく、ＬＭＳ上にアップするなどの手法も考える。ＬＭＳ管理にすることで、受講者も教師も振り返りや点数の確認ができるようになる。今後は、教師と受講者が相互に評価確認ができるスムーズな仕組みを提供していきたい。
4	オンライン授業ではその性質上、受講者と教師との相互のやりとりが対面授業に比べて、少なく単調な授業になってしまう傾向にある。 来日や日本で働くことに対して就労という場面でモチベーションが高められるような工夫を凝らした。が、多少ストーリーが飛躍しており、理解に苦しく、活発な会話ができなくなってしまったケースもあった。	オンライン授業の主流になりつつある、動画やイラストを多用した動的教材にし、「わかり易く飽きさせない」高品質の教材を作成することが重要である。この点では本教材で一定の評価は得られた。 今後は、　受講者のレディネス調査やニーズ調査を行い、積極的なやりとりが発生するような場面設定を検討、補足するワークなども併せて考えたい。

２－２．事業報告会

■事業報告会の開催

事業期間中、合計２回の事業報告会を開催した。

実証参画校は報告会への参加を必須とし、多くの日本語教育機関の取り組みを共有し合うとともに、自身の所属する日本語教育機関の取り組みを振り返ることができる機会とした。また、報告会へ向けて、各日本語教育機関がその時点での取り組み状況（成果・課題）をＰＰＴまたはword資料にまとめ、事務局へ提出を行った。なお、報告会実施時期の関係上、中間報告会では１次公募参画校３０校、最終報告会では２・３次公募参画校を含む全３８校がそれぞれ資料の作成・提出を行った。

＜実施日程＞

中間報告会：令和４年１０月１９日（水）　１２:３０～１５:００

最終報告会：令和５年　１月１８日（水）　１２:３０～１５:００

＜開催形式＞

完全オンライン形式（Microsoft Teamsを利用）

なお、中間報告会はクローズド開催、最終報告会はオープン開催とした。

■報告会開催までの業務

各報告会開催にあたり、初めに事務局で構成案の検討を行ったのち、評価検証委員会の議題にあげ、報告会の目的設定・構成確定および事例共有フォーマットの作成を進めた。

オンラインで参画校が一堂に会す貴重な機会であったため、事務局から口頭でお伝えすべき事務連絡についてもまとめ、当日投影用のＰＰＴ資料・スクリプトの作成を進めた。

また、当日滞りなく会を進行するため、各事例共有校に協力いただき、報告会前に「報告会事前レクチャー（報告会主旨共有・投影資料作成時の注意点・当日の注意点共有）」と「接続チェック・投影資料チェック※日本語教育機関ごとの個別開催」を実施した。

報告会当日に動画の音声が流れなかったり、画面切り替えの際にタイムラグが生じたりなどのオンラインならではの課題はあったものの、終了後アンケートでは「他校の取り組みが参考になった」という声も多く聞かれ、ウィズコロナの時代においてオンラインでも十分に効果的な報告会が開催できることを実感した。

各報告会の目的、開催趣旨は以下のとおりである。

【中間報告会】 令和4年10月19日(水) 12:30～15:00

■目的

●実証事業中間における成果・課題の整理・共有

事業中期であるこの時期に本事業の取り組みについて振り返ることで、具体的な事業参画の理由・目的やビジョン、教材工夫、現状抱える課題を整理し、再考できる機会とする。
同時に、実証事例の共有(報告会での発表)により知見を共有し、各日本語教育機関の日本語教師のスキルの向上を図る。

●実証事例共有による横のつながり創出とモチベーション向上

実証校同士の実例共有により、事業効果の最大化を図り、日本語教育機関相互にモチベーションを高め合う機会とする。

■実施内容

・実証事例共有（フリーコース・スタンダードコース・観光コース・就労コース各２校）
・日本語教師研修　成果報告
・有識者講評

■参加人数

人数：９５名　※文化庁・有識者・事務局を除く

●中間報告会用ＰＰＴフォーマット（報告会開催時期の関係上、１次公募校のみ作成）

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

文化庁
ウィズコロナにおける
オンライン日本語教育実証事業

【中間報告会　報告資料】

日本語教育機関名	
コース名	

主催：株式会社JTB

文化庁　ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業
事務局：株式会社JTB

1. 日本語教育機関紹介

日本語教育機関名

＊日本語教育機関紹介（学校の特色を簡単に記載）
＊本事業について
●事業参画の理由・目的・課題、参画にいたった背景など、具体的に記載ください。
例：オンライン教育に取り組んだことがなく、教員のICTリテラシーに大きな課題があり、オンライン教育の知見拡大のため参画した。
自校の環境・受講者の特色に合わせたオンライン教材の作成に課題感があり、オンラインを想定し作成されたコンテンツの実証により、将来的な自校のオンライン日本語教育の発展に役立てたいと感じ参画をした。

※日本語教育機関の写真（授業風景など）の画像も組み込みながら、資料作成をお願いいたします。

文化庁　ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業
事務局：株式会社JTB

2.　具体的な実践例

日本語教育機関の独自の取り組みや工夫に触れながら、取り組み・実践した内容について記載ください。

【記載する内容例】
・（様式2）に記載の、取り組む事業概要
→目標（レベル・言語活動・対象・手法・当コース受講者人数など）
→教育内容、学習方法、評価方法
→受講者の学習環境（オンライン参加●割：PCからの参加●名・・・等）

・日本語教育機関独自の工夫
→パッケージコースの内容に加え、受講者のレベルや特色に合わせて行ったこと。
→フリーコースにおいて、本実証事業において挑戦していること、取り組んでいること。

文化庁　ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業
事務局：株式会社JTB

3.　取り組みの成果

採択後～これまでの期間で、取り組んできた実証の成果について記載してください。

【記載する内容例】
・実証の成果：月次報告 6～9月の内容を総括して記載
・各校で定めた目標に対する達成度合など

【最終報告会】 令和5年 1月18日(水) 12:30～15:00

■目的

●実証事業成果・課題の共有

事業終了後であるこの時期に、各校の取り組みについて振り返ることで事業を通じ得られた成果や課題を認識できる機会とする。

●実証事例共有およびディスカッションによる、事業効果の最大化

多様な実証結果に触れるとともに活発な意見交換を行うことで、成果をさらに伸ばし、また課題に対してのアプローチの選択肢を増やすなど、将来のオンライン日本語教育に向けた多様なアイディアの着想を得られる場とする。

■実施内容

・自主事業　成果報告
・実証事例共有（フリーコース３校、スタンダード・観光・就労コース各１校）
・事例を踏まえたディスカッション
・日本語教師研修　成果報告
・有識者講評
※Googleformsを用いリアルタイムで募集した質問をベースに、ディスカッションを展開した。

■参加人数

全１２４名　※文化庁・有識者・事務局を除く。

●最終報告会用ＰＰＴフォーマット（事例共有校のみ作成）

文化庁
ウィズコロナにおける
オンライン日本語教育実証事業

【最終報告会　報告資料】

日本語教育機関名	
コース名	

主催：株式会社JTB

文化庁 ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業
事務局：株式会社JTB

1. 日本語教育機関紹介

日本語教育機関名	

＊日本語教育機関紹介（本事業に関わる、学校の特色を簡単に記載）
＊本事業について
●事業参画の理由・目的・課題、参画にいたった背景など、具体的に記載ください。
例：オンライン教育に取り組んだことがなく、教員のICTリテラシーに大きな課題があり、オンライン教育の知見拡大のため参画した。
自校の環境・受講者の特色に合わせたオンライン教材の作成に課題感があり、オンラインを想定し作成されたコンテンツの実証により、将来的な自校のオンライン日本語教育の発展に役立てたいと感じ参画をした。

※日本語教育機関の写真（授業風景など）の画像も組み込みながら、資料作成をお願いいたします。

文化庁 ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業
事務局：株式会社JTB

2. 具体的な実践例

日本語教育機関の独自の取り組みや工夫に触れながら、取り組み・実践した内容について記載ください。

【記載する内容例】
・（様式2）に記載の、取り組む事業概要
→目標（レベル・言語活動・対象・手法・当コース受講者人数など）
→教育内容、学習方法、評価方法
→受講者の学習環境（オンライン参加●割：PCからの参加●名・・・等）

・日本語教育機関独自の工夫
→パッケージコースの内容に加え、受講者のレベルや特色に合わせて行ったこと。
→フリーコースにおいて、本実証事業において挑戦していること、取り組んでいること。

文化庁 ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業
事務局：株式会社JTB

3. 取り組みの課題

採択後～これまでの期間で、取り組んできた実証結果を受け、日本語教育機関の感じる課題について2～3例記載してください。

【記載する内容例】
(1)以下に該当する課題（課題の内容・課題が見えてきた経緯等）
※課題が、以下のどちらに該当するか、記載してください。複数選択も可能です。
①教育内容　②学習方法　③評価方法　④ICT関連　⑤オンラインならではの課題
⑥その他

(2)課題に対するアプローチ方法とその結果
※課題として取り組み、一部成果が出ているが継続して取り組んでいく内容について記載いただいてもOKです。

■参加した日本語教育機関の声

《中間報告会》

・日本語を日本で学ぶ経済的メリットが低くなっている経済状況の中で、これまでの「出席率やビザを盾にとった指導」ではない方法で、学習意欲を高めていくことを常に問い続けていきたいと思わされた。

・有識者から、「学生は学習項目をただ覚えるのではなく、「どう使っていくか」を重要視すべきであり、学んだことを「自分の状況（現場）に置き換え、どう活用するか」を考えさせる流れに変えていく必要がある。」という講評が非常に心に響いた。普段の授業でも意識しているが、あらためてその大切さを実感し今後の授業で活かしたいと感じた。

・他校の発表でもインターネット環境や受講料が無料であることでモチベーションが下がったということやオンライン授業における教材問題などを聞いて、同じような問題を抱えている学校が他にもあると感じた。対応の仕方についても本校でも実施した対応と似ていたので、本校の対応が間違いではなかったのだと自信がついた。

・オンライン授業を対面授業と同等の質で実施するためには、やはりＩＴ環境の充実が必要という意見が多かったと思う。今後、日本語教育においてオンライン授業がコロナなどに関係なく授業形態のひとつとして継続されることを見据え、ネット環境やプロジェクター・モニター・集音器など周辺機器に予算を投じスムーズな運営ができるよう整備が急務であると感じた。

・まさにこれから開始するという状況の中で事例共有校の報告が非常に興味深く、参考になりすぐに取り組みに導入できること、またこのやり方で間違いないと確認できることが多かった。

・コロナになって、確かに私たちは学生のために準備する学習環境も刷新しなければならない。今回のようなオンラインの授業も、教室の再現と考えるかどうかも、きちんと考えるべきだ。書字の確認などについても、書くより打つほうがもしかすると学生のスキルとしては重要かもしれず、日本語教育に携わるものとして、もう一度原点に立ち返るべきだと強く感じた。

《最終報告会》

・教師指導の点で当校では対面授業の評価表を３点ほど修正し、オンライン授業用の評価表を活用しているが、有識者より「対面とオンラインは全くの別物。」と話されていたことを受け、評価表を見直し、評価基準について再考していく必要があると考えている。

・オンライン授業における「書く」技能のレベルをチェックする方法について悩んでいた。「エンピツを持って紙に書く」という練習方法をベストな風に考えてしまっていたが、ＩＴ技術の進歩、実際に日本語受講者が日本語を「書く」場面などを考えた時に、本当にそれが必要なのかと考えさせられた。従来の教育方法に固執することなく、学習環境に合わせた臨機応変な対応を考えていかなければならないと感じた。

・オンラインで物理的な距離があっても、授業で完成度の高いものができるということは、コロナ禍だからこその日本語教師の学びだったと思う。発表で「受講者同士のやり取りを多くいれることでクラスの良い雰囲気づくりをした」という内容があり、この点に関しては対面でも非対面でも共通して重要な点であるとあらためて思った。

・オンライン授業では教室授業に比べ、使用できるツールに限りがあり、口頭での指導に加え、ＰＰＴ教材、動画作成、ＰＰＴでの練習問題なども加える授業が効果的であると感じた。ただし、これを行うためには膨大な工数がかかることが、本事業を通じて強く感じた。

・オンライン授業に特化した教材を作成している学校で、それを協働作業で行なっている学校があった。教材作成は一人で行うと業務過多になる一方、複数人で行った場合は出来具合やスピードにばらつきがでるため、協働作業で行うことでそれらを回避するようにしているのは参考となった。

3ー1．参画日本語教育機関

本事業には、合計38校の法務省告示校かつ適正校が参画した。

フリーコース32コース(17校)、スタンダードコース15コース(15校)、観光コース19コース(19校)、就労コース17コース(17校)、計83コースの実証を行った。

コース別授業数は、以下の通りである。総合計で1,869の実証が行われた。

		オンライン(双方向)のみ			ハイブリット型			オンデマンド型			ハイフレックス型		
		進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般
A1	話す(やりとり)	26	9	26	2			7	4	8			2
	話す(発表)	12	7	14				6	4	7			2
	聞く	27	10	27	2			7	4	9			2
	読む	24	11	21	2			5	4	6			2
	書く	13	3	13	2								1
	日本事情・日本理解	11	7	14				5	4	6			1
	その他	6	2	7				2	1	2			1
A2	話す(やりとり)	29	12	31	2	1	1	21	10	21		1	2
	話す(発表)	23	10	24				18	8	18		1	2
	聞く	30	13	32	2	1	1	21	10	21		1	2
	読む	26	12	26	2	1	1	19	9	19		1	2
	書く	6	3	9	1			2	2	2			1
	日本事情・日本理解	25	12	27				20	10	20		1	1
	その他	7	4	11				4	2	6			1
B1	話す(やりとり)	18	14	22				14	8	16		1	2
	話す(発表)	12	9	17				11	7	14		1	2
	聞く	21	15	25				15	9	17		1	2
	読む	17	13	20				13	8	15		1	2
	書く	4	5	4				1					1
	日本事情・日本理解	16	13	19				14	9	16		1	2
	その他	8	5	11				6	4	8			1
B2	話す(やりとり)	9	7	8				3	1	2		1	2
	話す(発表)	4	4	4				2	1	2		1	2
	聞く	12	9	11				4	2	3		1	2
	読む	9	6	8				4	2	3		1	2
	書く	4	4	4				1		1			1
	日本事情・日本理解	7	5	6				4	2	3		1	2
	その他	3	2	3				1	1	1			1
C	話す(やりとり)	4	4	5				2	1	1			
	話す(発表)	2	3	4				1	1	1			
	聞く	5	5	6				3	2	2			
	読む	5	5	5				3	2	2			
	書く	2	2	2				1					
	日本事情・日本理解	4	4	4				3	2	2			
	その他	1	1	1				1	1	1			
実証数		432	250	471	15	3	3	244	135	255	0	15	46
実証数総合計				1,869									

［参画日本語教育機関一覧（順不同）］

No.	学校名	所在地	実証コース	フリーコース備考	レベル	手法	対象	言語活動						
								話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情日本理解	その他
1	渋谷ラル日本語学院	東京都	D. フリー		A1	(2)ハイブリッド	1. 進学	○		○	○	○		
			D. フリー		B1	(1)オンライン	2. 就職	○			○	○	○	
2	早稲田京福語学院	東京都	A. スタンダード		A1	(2)ハイブリッド	1. 進学	○		○	○	○		
			A. スタンダード		A2	(2)ハイブリッド	1. 進学	○		○	○	○		
			C. 観光		A2	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	
			B. 就労		A2	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	
			B. 就労		A2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	
			B. 就労		A2	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	
			B. 就労		A2	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	
3	学校法人新井学園　赤門会日本語学校	東京都	A. スタンダード		A1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○	○	
			A. スタンダード		A1	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○	○	
			A. スタンダード		A2	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○	○	
			A. スタンダード		A2	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○	○	
			D. フリー		B2	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○	○	○	
4	学校法人新井学園　赤門会日本語学校日暮里校	東京都	A. スタンダード		A1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○	○	
			A. スタンダード		A1	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○	○	
			A. スタンダード		A2	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○	○	
			A. スタンダード		A2	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○	○	
			D. フリー		B2	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○		○	
			D. フリー		B2	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○		○	
5	東京こころ日本語学校	東京都	A. スタンダード		A1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		
			A. スタンダード		A1	(1)オンライン	2. 就職	○		○	○	○		
			C. 観光		A1	(1)オンライン	3. 一般	○		○				
			C. 観光		A1	(3)オンデマンド	3. 一般			○				
6	埼玉日本語学校	埼玉県	A. スタンダード		A1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		
			A. スタンダード		A1	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		
			B. 就労		B1	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	○
			B. 就労		B1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	○
			B. 就労		B1	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	○
			B. 就労		B1	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	○
7	ウィズドム国際学院	千葉県	A. スタンダード		A1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		○
			A. スタンダード		A1	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		○
			A. スタンダード		A2	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		○
			A. スタンダード		A2	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		○

No.	学校名	所在地	実証コース	フリーコース備考	レベル	手法	対象	言語活動						
								話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情日本理解	その他
8	ISIキャリア外語アカデミー原宿校	東京都	C.観光		A1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			C.観光		A1	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	
			C.観光		A1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			C.観光		A1	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			C.観光		A1	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	
			C.観光		A1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	
			C.観光		B1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			C.観光		B1	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	
			C.観光		B1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			C.観光		B1	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			C.観光		B1	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	
			C.観光		B1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		A2	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	○
			B.就労		A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	○
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B2	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B2	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		C	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		C	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	○
			B.就労		C	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		C	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		C	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	○
			B.就労		C	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
9	ABK学館日本語学校	東京都	D.フリー		A1	(1)オンライン	1.進学				○	○		
			D.フリー		A1	(1)オンライン	2.就職				○	○		
			D.フリー		A1	(1)オンライン	3.一般				○	○		
			D.フリー		A2	(1)オンライン	1.進学				○	○		
			D.フリー		A2	(1)オンライン	2.就職				○	○		
			D.フリー		A2	(1)オンライン	3.一般				○	○		
10	学校法人金井学園　秀林日本語学校	東京都	A.スタンダード		A1	(1)オンライン	1.進学	○		○	○			

No.	学校名	所在地	実証コース	フリーコース備考	レベル	手法	対象	言語活動						
								話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情日本理解	その他
11	北海道日本語学院札幌本校	北海道	C.観光		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	
12	岡山外語学院	岡山県	A.スタンダード		A1	(1)オンライン	1.進学	○		○	○	○		○
			A.スタンダード		A1	(1)オンライン	3.一般	○		○	○	○		○
			D.フリー		A1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○			○
			D.フリー		A1	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○			○
			D.フリー		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○			○
			D.フリー		A2	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○			○
			C.観光		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
13	KIJ語学院	兵庫県	D.フリー		A1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○				
			D.フリー		A1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○				
			D.フリー		A1	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○				
			D.フリー		A1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○				
14	KCP地球市民日本語学校	東京都	D.フリー	A	A1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○		○	○	
			D.フリー	A	A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○		○	○	
			D.フリー	B	A1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○		○	○	
			D.フリー	B	A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○		○	○	
			C.観光		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A2	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	

No.	学校名	所在地	実証コース	フリーコース備考	レベル	手法	対象	言語活動						
								話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情日本理解	その他
15	ARC東京日本語学校	東京都	D.フリー	日本語会話（入門）	A1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本語会話（入門）	A1	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本語会話（入門）	A1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語	B1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語	B1	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語	B1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語	B2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語	B2	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語	B2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語	C	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語	C	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語	C	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	A1	(1)オンライン	1.進学			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	A1	(1)オンライン	2.就職			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	A1	(1)オンライン	3.一般			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	A2	(1)オンライン	1.進学			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	A2	(1)オンライン	2.就職			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	A2	(1)オンライン	3.一般			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	B1	(1)オンライン	1.進学			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	B1	(1)オンライン	2.就職			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	B1	(1)オンライン	3.一般			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	B2	(1)オンライン	1.進学			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	B2	(1)オンライン	2.就職			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	B2	(1)オンライン	3.一般			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	C	(1)オンライン	1.進学			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	C	(1)オンライン	2.就職			○	○		○	
			D.フリー	日本での就職活動と日本語（英語通訳付き）	C	(1)オンライン	3.一般			○	○		○	
			D.フリー	日本語能力試験Ｎ２対策	B1	(1)オンライン	1.進学			○		○		○
			D.フリー	日本語能力試験Ｎ２対策	B1	(1)オンライン	2.就職			○		○		○
			D.フリー	日本語能力試験Ｎ２対策	B1	(1)オンライン	3.一般			○		○		○
			D.フリー	日本語能力試験Ｎ２対策	B2	(1)オンライン	1.進学			○		○		○
			D.フリー	日本語能力試験Ｎ２対策	B2	(1)オンライン	2.就職			○		○		○
			D.フリー	日本語能力試験Ｎ２対策	B2	(1)オンライン	3.一般			○		○		○
			D.フリー	日本事情と日本語表現（中級）	B1	(3)オンデマンド	1.進学			○	○		○	
			D.フリー	日本事情と日本語表現（中級）	B1	(3)オンデマンド	2.就職			○	○		○	
			D.フリー	日本事情と日本語表現（中級）	B1	(3)オンデマンド	3.一般			○	○		○	
			D.フリー	日本事情と日本語表現（中級）	B2	(3)オンデマンド	1.進学			○	○		○	
			D.フリー	日本事情と日本語表現（中級）	B2	(3)オンデマンド	2.就職			○	○		○	
			D.フリー	日本事情と日本語表現（中級）	B2	(3)オンデマンド	3.一般			○	○		○	
			D.フリー	日本事情と日本語表現（中級）	C	(3)オンデマンド	1.進学			○	○		○	
			D.フリー	日本事情と日本語表現（中級）	C	(3)オンデマンド	2.就職			○	○		○	
			D.フリー	日本事情と日本語表現（中級）	C	(3)オンデマンド	3.一般			○	○		○	
			B.就労		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	
16	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	長野県	C.観光		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○

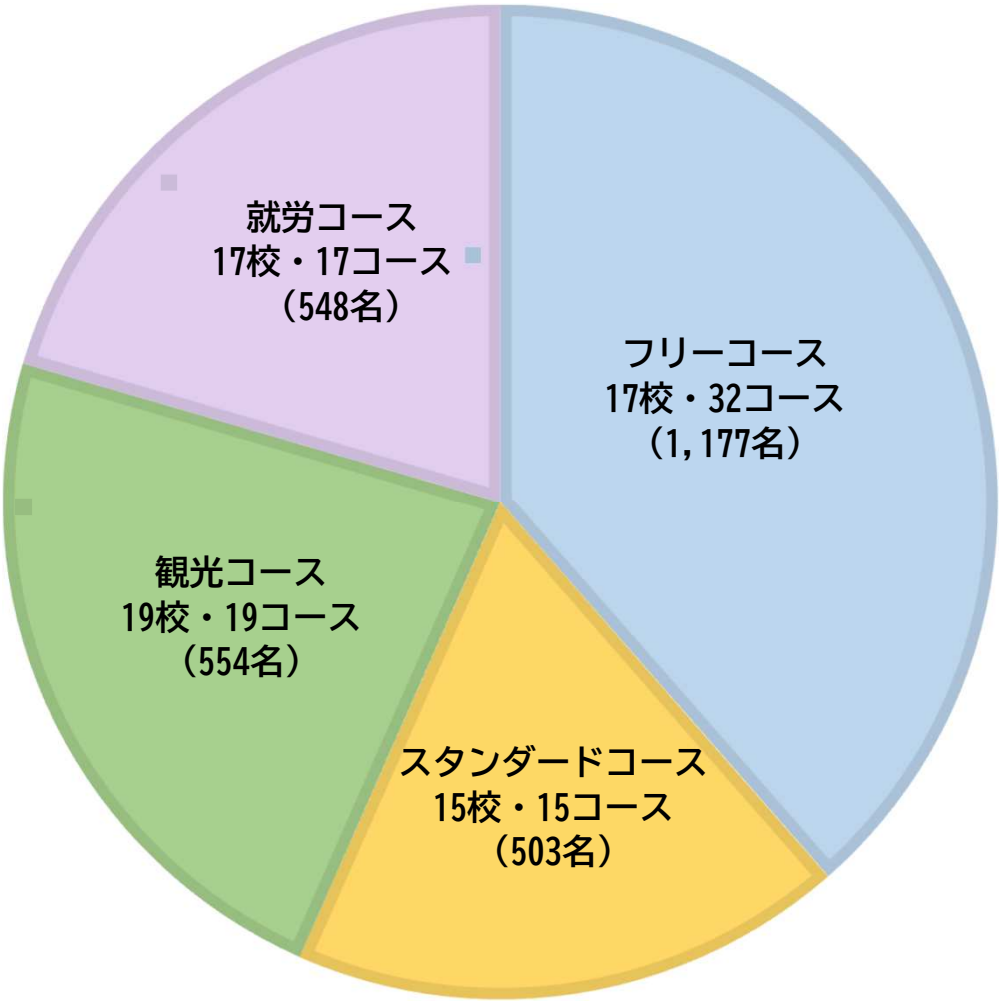
No.	学校名	所在地	実証コース	フリーコース備考	レベル	手法	対象	言語活動						
								話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情日本理解	その他
17	アークアカデミー新宿校	東京都	A. スタンダード		A1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○			
			A. スタンダード		A1	(1)オンライン	2. 就職	○		○	○			
			A. スタンダード		A1	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○			
			A. スタンダード		A2	(2)ハイブリッド	1. 進学	○		○	○			
			A. スタンダード		A2	(2)ハイブリッド	2. 就職	○		○	○			
			A. スタンダード		A2	(2)ハイブリッド	3. 一般	○		○	○			
			D. フリー	日本語能力試験N１対策コース	B1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N１対策コース	B1	(1)オンライン	2. 就職	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N１対策コース	B1	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N１対策コース	B2	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N１対策コース	B2	(1)オンライン	2. 就職	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N１対策コース	B2	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N１対策コース	C	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N１対策コース	C	(1)オンライン	2. 就職	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N１対策コース	C	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N２対策コース	B1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N２対策コース	B1	(1)オンライン	2. 就職	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N２対策コース	B1	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N２対策コース	B2	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N２対策コース	B2	(1)オンライン	2. 就職	○		○	○	○		
			D. フリー	日本語能力試験N２対策コース	B2	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		
			D. フリー	ゲームコース	A2	(1)オンライン	1. 進学	○		○			○	
			D. フリー	ゲームコース	A2	(1)オンライン	2. 就職	○		○			○	
			D. フリー	ゲームコース	A2	(1)オンライン	3. 一般	○		○			○	
			D. フリー	ゲームコース	B1	(1)オンライン	1. 進学	○		○			○	
			D. フリー	ゲームコース	B1	(1)オンライン	2. 就職	○		○			○	
			D. フリー	ゲームコース	B1	(1)オンライン	3. 一般	○		○			○	
			D. フリー	ゲームコース	B2	(1)オンライン	1. 進学	○		○			○	
			D. フリー	ゲームコース	B2	(1)オンライン	2. 就職	○		○			○	
			D. フリー	ゲームコース	B2	(1)オンライン	3. 一般	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	A2	(1)オンライン	1. 進学	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	A2	(1)オンライン	2. 就職	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	A2	(1)オンライン	3. 一般	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	A2	(3)オンデマンド	1. 進学	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	A2	(3)オンデマンド	2. 就職	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	A2	(3)オンデマンド	3. 一般	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	B1	(1)オンライン	1. 進学	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	B1	(1)オンライン	2. 就職	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	B1	(1)オンライン	3. 一般	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	B1	(3)オンデマンド	1. 進学	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	B1	(3)オンデマンド	2. 就職	○		○			○	
			D. フリー	初級会話コース	B1	(3)オンデマンド	3. 一般	○		○			○	
			D. フリー	進学セミナー	B1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○	○	
			D. フリー	進学セミナー	B1	(3)オンデマンド	1. 進学	○		○	○	○	○	
			D. フリー	進学セミナー	B2	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○	○	
			D. フリー	進学セミナー	B2	(3)オンデマンド	1. 進学	○		○	○	○	○	
			D. フリー	進学セミナー	C	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○	○	
			D. フリー	進学セミナー	C	(3)オンデマンド	1. 進学	○		○	○	○	○	
18	大阪文化国際学校	大阪府	C. 観光		A1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	○

No.	学校名	所在地	実証コース	フリーコース備考	レベル	手法	対象	言語活動						
								話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情日本理解	その他
19	東京ギャラクシー日本語学校	東京都	A. スタンダード		A1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		
			D. フリー	フリーコース上級会話	A1	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		
			D. フリー	フリーコース上級会話	B1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○				
			D. フリー	フリーコース上級会話	B2	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○				
			D. フリー	フリーコース上級会話	B2	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○				
			D. フリー	フリーコース上級会話	B2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○				
			D. フリー	フリーコース上級会話	C	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○				
			C. 観光		A1	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A1	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A1	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A1	(3)オンデマンド	2. 就職	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A1	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	2. 就職	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	
			C. 観光		B1	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		B1	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○		○	
			C. 観光		B1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	
			C. 観光		B1	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		B1	(3)オンデマンド	2. 就職	○	○	○	○		○	
			C. 観光		B1	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	
			B. 就労		A2	(4)ハイフレックス	2. 就職	○	○	○	○		○	
			B. 就労		B1	(4)ハイフレックス	2. 就職	○	○	○	○		○	
			B. 就労		B1	(4)ハイフレックス	3. 一般	○	○	○	○		○	
			B. 就労		B2	(4)ハイフレックス	2. 就職	○	○	○	○		○	
			B. 就労		B2	(4)ハイフレックス	3. 一般	○	○	○	○		○	
			D. フリー	フリーコース初級会話	A1	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○				
			D. フリー	フリーコース初級会話	A1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○				
			D. フリー	フリーコース初級会話	A2	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○				
			D. フリー	フリーコース初級会話	A2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○				
20	ARC京都日本語学校	京都府	D. フリー	Ａ－１ 入門 日本事情・会話コース	A1	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－１ 入門 日本事情・会話コース	A1	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－１ 入門 日本事情・会話コース	A1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－２ 初級日本事情・会話コース	A2	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－２ 初級日本事情・会話コース	A2	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－２ 初級日本事情・会話コース	A2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－３ 初級日本事情・会話コース	A2	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－３ 初級日本事情・会話コース	A2	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－３ 初級日本事情・会話コース	A2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－３ 初級日本事情・会話コース	A2	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－３ 初級日本事情・会話コース	A2	(3)オンデマンド	2. 就職	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－３ 初級日本事情・会話コース	A2	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－４ 初級日本事情・会話コース	A2	(3)オンデマンド	1. 進学	○		○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－４ 初級日本事情・会話コース	A2	(3)オンデマンド	2. 就職	○		○	○	○	○	
			D. フリー	Ａ－４ 初級日本事情・会話コース	A2	(3)オンデマンド	3. 一般	○		○	○	○	○	
			C. 観光		A1	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A1	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A1	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A1	(3)オンデマンド	2. 就職	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A1	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	2. 就職	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	

No.	学校名	所在地	実証コース	フリーコース備考	レベル	手法	対象	言語活動						
								話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情日本理解	その他
21	東京上野日本語学院	東京都	A. スタンダード		A1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		
			A. スタンダード		A1	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		
			C. 観光		A2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	
			B. 就労		A2	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	
			B. 就労		A2	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	
			B. 就労		B1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	
			B. 就労		B1	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	
22	帝京平成大学附属日本語学校	東京都	A. スタンダード		A1	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		○
			A. スタンダード		A2	(1)オンライン	3. 一般	○		○	○	○		○
			C. 観光		A1	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A1	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A1	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A1	(3)オンデマンド	2. 就職	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A1	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A2	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A2	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	2. 就職	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		A2	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		B1	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		B1	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		B1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		B1	(3)オンデマンド	1. 進学	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		B1	(3)オンデマンド	2. 就職	○	○	○	○		○	○
			C. 観光		B1	(3)オンデマンド	3. 一般	○	○	○	○		○	○
23	千駄ヶ谷外語学院	東京都	D. フリー	就職活動のための日本語	B1	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	就職活動のための日本語	B1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	就職活動のための日本語	B2	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	就職活動のための日本語	B2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	就職活動のための日本語	C	(1)オンライン	2. 就職	○	○	○	○	○	○	
			D. フリー	就職活動のための日本語	C	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○	○	○	○	
24	千駄ヶ谷日本語教育研究所付属日本語学校	東京都	D. フリー	総合日本語	A1	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○				
			D. フリー	総合日本語	A1	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○				
			D. フリー	総合日本語	A2	(1)オンライン	1. 進学	○	○	○				
			D. フリー	総合日本語	A2	(1)オンライン	3. 一般	○	○	○				
25	千駄ヶ谷日本語学校	東京都	D. フリー	日本語能力試験対策	B1	(1)オンライン	1. 進学			○	○			○
			D. フリー	日本語能力試験対策	B1	(1)オンライン	3. 一般			○	○			○
			D. フリー	日本語能力試験対策	B2	(1)オンライン	1. 進学			○	○			○
			D. フリー	日本語能力試験対策	B2	(1)オンライン	3. 一般			○	○			○
			D. フリー	総合日本語	A1	(1)オンライン	1. 進学	○		○				
			D. フリー	総合日本語	A1	(1)オンライン	3. 一般	○		○				
			D. フリー	総合日本語	A1	(3)オンデマンド	1. 進学	○		○				
			D. フリー	総合日本語	A1	(3)オンデマンド	3. 一般	○		○				
			D. フリー	総合日本語	A2	(1)オンライン	1. 進学	○		○				
			D. フリー	総合日本語	A2	(1)オンライン	3. 一般	○		○				
			D. フリー	総合日本語	A2	(3)オンデマンド	1. 進学	○		○				
			D. フリー	総合日本語	A2	(3)オンデマンド	3. 一般	○		○				
			D. フリー	総合日本語	B1	(1)オンライン	1. 進学	○		○				
			D. フリー	総合日本語	B1	(1)オンライン	3. 一般	○		○				
			D. フリー	総合日本語	B1	(3)オンデマンド	1. 進学	○		○				
			D. フリー	総合日本語	B1	(3)オンデマンド	3. 一般	○		○				
26	武蔵浦和日本語学院	埼玉県	A. スタンダード		A1	(1)オンライン	1. 進学	○		○	○	○		

No.	学校名	所在地	実証コース	フリーコース備考	レベル	手法	対象	言語活動						
								話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情日本理解	その他
27	ISI外語カレッジ	東京都	C.観光		A1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
			C.観光		B1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			C.観光		B1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
28	学校法人大原学園　大原日本語学院	東京都	C.観光		A1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A1	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	○
29	ISIランゲージスクール京都校	京都府	C.観光		A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	
30	ISIランゲージスクール	東京都	C.観光		A2	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			C.観光		A2	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	○
31	東京外語学園日本語学校	東京都	C.観光		A1	(1)オンライン	3.一般	○	○	○	○		○	
			C.観光		A1	(3)オンデマンド	3.一般	○	○	○	○		○	
32	学校法人朝日学園東京明生日本語学院	東京都	B.就労		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		B2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		B2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
33	神戸住吉国際日本語学校	兵庫県	B.就労		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	
34	エリート日本語学校	東京都	A.スタンダード		A1	(1)オンライン	1.進学	○		○	○	○		○
			A.スタンダード		A1	(1)オンライン	3.一般	○		○	○	○		○
35	アース外語学院	大阪府	D.フリー		A1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
			D.フリー		A2	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	
36	東北多文化アカデミー	宮城県	A.スタンダード		A1	(1)オンライン	1.進学	○		○	○	○		
			C.観光		B1	(1)オンライン	1.進学	○	○	○	○		○	○
			C.観光		B1	(3)オンデマンド	1.進学	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(1)オンライン	2.就職	○	○	○	○		○	○
			B.就労		B1	(3)オンデマンド	2.就職	○	○	○	○		○	○
37	東海学院文化教養専門学校	茨城県	C.観光		A1	(4)ハイフレックス	3.一般	○	○	○	○		○	
			B.就労		A2	(4)ハイフレックス	3.一般	○	○	○	○		○	
38	カイ日本語スクール	東京都	D.フリー	日本語総合コース	A1	(4)ハイフレックス	3.一般	○	○	○	○	○		○
			D.フリー	日本語総合コース	A2	(4)ハイフレックス	3.一般	○	○	○	○	○		○
			D.フリー	日本語総合コース	B1	(4)ハイフレックス	3.一般	○	○	○	○	○	○	○
			D.フリー	日本語総合コース	B2	(4)ハイフレックス	3.一般	○	○	○	○	○	○	○

受講者数はフリーコース１，１７７名、スタンダードコース５０３名、観光コース５５４名、就労コース５４８名、計２，７８２名であった。（延べ人数。複数コース受講の場合、それぞれ１名としてカウント）



３ー２．グッドプラクティス

１）実証結果にみるグッドプラクティス

各校で実施された日本語教育授業の評価は、以下の文化庁より示された分析の区分に加え、分析の観点を参考に評価検証委員会が作成した＜行った実証を総体として評価するルーブリック＞に基づき抽出している。

≪文化庁より示された分析の区分と観点について≫
【区分】
レベル【Ａ１、 Ａ２、 Ｂ１、 Ｂ２、 Ｃ】：５レベル
授業で扱う技能等【話す(やり取り)、話す(発表)、聞く、読む、書く、日本事情、その他】：７領域
実施手法【オンライン、ハイブリッド、オンデマンド、ハイフレックス】：４手法
学習目的【進学、就職、一般】：３種類

【観点】
①コースの目標設定とプログラム（カリキュラム・教師配置・評価等）の適切性
②教育内容・方法の適切性
③目標の達成度・成果の分析
上記の５つの観点を組み合わせた計420項目からなるマトリクス（5×7×4×3＝420）が示され、今回の事業で得られた多様な教育実践例から「グッドプラクティス」を、このマトリクスの各項目についてそれぞれ複数選定するよう求められている。

＜行った実証を総体として評価するルーブリック＞

	４点	３点	２点	１点
日本語教育機関独自の目標	「現状の課題」「目標」「期待する成果」「成果を自己分析できる体制・手法」という４項目について、申請時の目標や課題に実証を踏まえた明確な記述がなされている。	３項目について、申請時の目標や課題に実証を踏まえた明確な記述がなされている。	２項目について、申請時の目標や課題に実証を踏まえた明確な記述がなされている。	申請時の目標や課題に実証を踏まえた明確な記述がなされた項目が１つ以下である。
学習効果・成果（総括）	複数の観点について、すべて根拠を示しながら総括がなされている。	複数の観点について総括がなされているが、根拠が示されていないものがある。	複数の観点について総括がなされているが根拠がまったく示されていない。	１つの観点についてしか述べられていない。
日本語教育機関の実証内容 ※日本語教育機関のマトリクス自己評価から点数付け。	すべての項目が４以上である。	ほとんどの項目が４以上だが、いくつか３が見られる。	４以上の項目と３以下の項目がほぼ同数である。／ほとんどの項目が４以上だが、１が見られる。	すべての項目が３以下である。

■「グッドプラクティス」の抽出のための採点方法は、以下の根拠に基づくものである。

【根拠１】参加校による個別の自己評価データ

参加校はコースごとに、「授業で扱う技能等（※１）」それぞれについての「達成度」を、「レベル」「手法」「目的」に分け、６段階（※２）に分けて自己評価している。

（※１）授業で扱う技能等
話す（やり取り）・話す（発表）
聞く・読む・書く・日本事情・その他
（※２）６段階

6	達成できた	3	やや達成できなかった
5	ほぼ達成できた	2	あまり達成できなかった
4	やや達成できた	1	まったく達成できなかった

［自己評価データ　イメージ］

		オンライン（双方向）のみ			ハイブリッド型		
		進学	就職	一般	進学	就職	一般
A1	話す（やりとり）	5	4	6	5	5	6
	話す（発表）	6	6	5	5	5	5
	聞く	5	5	5	5	5	5
	読む	2	3	3	2	3	3
	書く	1	1	2	1	1	1
	日本事情･日本理解	5	5	6	5	5	6
	その他						

【根拠２】事務局が行った総体評価のデータ

本事業参加校は事業終了後、実施したコースごとに「最終報告書」を提出している。
評価検証委員会では、その報告書の記載内容のうち「日本語教育機関独自の目標」「学習効果・成果（総括）」「日本語教育機関の実証内容」の3項目に注目し、行った実践を総体として評価するためのルーブリックを作成した。
そして、そのルーブリックに基づいて、事務局において日本語教育機関ごと、コースごとの評価を行った。（4点×3項目=12点満点）

【根拠１】として示された、「授業で扱う技能等」それぞれについての自己評価の評点に、その日本語教育機関・コースに対する総体評価【根拠２】の評点を加算する。例えば、総体評価の評点が１１点であった日本語教育機関・コースが、「話す（やり取り）」、「話す（発表）」、「聞く」、「読む」という各項目についてそれぞれ５点、５点、５点、４点、という自己評価を行っている場合、その日本語教育機関・コースの評点は以下の通りとなる。

例）話す（やり取り）　１１+5=１６
　　話す（発表）　１１+5=１６
　　聞く　１１+5=１６
　　読む　１１+4=１５

●グッドプラクティスとして抽出したコース

本事業においては、全420マトリクスのうち179項目については該当がないため、対象となるのは241項目のみである。また上に示した手順に従い抽出をした結果の上位1～3コースをここで示し、別冊【グッドプラクティス事例集】にまとめた。

		オンライン(双方向)のみ			ハイブリッド型			オンデマンド型			ハイフレックス型		
		進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般	進学	就職	一般
A1	話す（やりとり）	1	1	3									
	話す（発表）	1	1	1									
	聞く	1	2	3									
	読む	2	3	3									
	書く	1	1	2									
	日本事情・日本理解	1	1	1									
	その他	2	2	1									
A2	話す（やりとり）	2	1	3				2	1	2			
	話す（発表）	3	2	3				3	1	3			
	聞く	2	2	3				2	1	2			
	読む	3	3	3				2	1	2			
	書く	2	2	2				1	1	1			
	日本事情・日本理解	3	3	3				3	2	3			
	その他	2	2	2									
B1	話す（やりとり）	3	3	3				3	2	3		1	1
	話す（発表）	3	3	3				2	1	2			1
	聞く	3	3	3				3	1	3			
	読む	3	3	3				3	1	3			
	書く	1	1	1				1					
	日本事情・日本理解	3	3	3				3	1	3			
	その他	3	3	3				3	1	3			
B2	話す（やりとり）	1						1				1	1
	話す（発表）											1	1
	聞く	3	2	2				1				1	1
	読む	2	1	1				1					
	書く	2	1	1				1					
	日本事情・日本理解	3	2	2				1				1	1
	その他	1	1	1									
C	話す（やりとり）	2	1	1				1					
	話す（発表）	1	1	1									
	聞く	3	2	2				1					
	読む	3	2	2				1					
	書く	2						1					
	日本事情・日本理解	3	2	2				1					
	その他												
実証数		71	60	66	0	0	0	41	14	30	0	5	6
実証数総合計				293									

■A１レベル

手法	対象	言語活動	日本語教育機関名	コース	日本語教育機関名	コース	日本語教育機関名	コース
オンライン	進学	話す（やりとり）	岡山外語学院	フリーコース 相槌文型オンライン用教材作成	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校	フリーコース 総合日本語
		話す（発表）	岡山外語学院	フリーコース 相槌文型オンライン用教材作成	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校	フリーコース 総合日本語		
		聞く	岡山外語学院	フリーコース 相槌文型オンライン用教材作成	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校	フリーコース 総合日本語
		読む	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	岡山外語学院	フリーコース 相槌文型オンライン用教材作成	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース
		書く	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス				
		日本事情・日本理解	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース				
		その他	岡山外語学院	フリーコース 相槌文型オンライン用教材作成	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース		
オンライン	就職	話す （やりとり）	岡山外語学院	フリーコース 相槌文型オンライン用教材作成	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース		
		話す （発表）	岡山外語学院	フリーコース 相槌文型オンライン用教材作成				
		聞く	岡山外語学院	フリーコース 相槌文型オンライン用教材作成	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース		
		読む	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	岡山外語学院	フリーコース 相槌文型オンライン用教材作成	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース
		書く	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス				
		日本事情 日本理解	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース				
		その他	岡山外語学院	フリーコース 相槌文型オンライン用教材作成	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース		
オンライン	一般	話す （やりとり）	埼玉日本語学校	スタンダードコース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	ＫＣＰ地球市民日本語学校	フリーコース 間接法
		話す （発表）	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース				
		聞く	埼玉日本語学校	スタンダードコース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	東京こころ日本語学校	観光コース
		読む	埼玉日本語学校	スタンダードコース	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース
		書く	埼玉日本語学校	スタンダードコース	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス		
		日本事情 日本理解	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	ＫＣＰ地球市民日本語学校	フリーコース 間接法		
		その他	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース				
ハイブリッド	進学／就職／一般	話す （やりとり）						
		話す （発表）						
		聞く						
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
オンデマンド	進学	話す （やりとり）	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語				
		話す （発表）						
		聞く	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語				
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
オンデマンド	一般	話す （やりとり）	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語				
		話す （発表）						
		聞く	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語				
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
ハイフレックス	進学／就職／一般	話す （やりとり）						
		話す （発表）						
		聞く						
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						

■A２レベル

手法	対象	言語活動	日本語教育機関名	コース	日本語教育機関名	コース	日本語教育機関名	コース
オンライン	進学	話す（やりとり）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語
		話す（発表）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	岡山外語学院	観光コース
		聞く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	東京ギャラクシー日本語学校	フリーコース 初級会話	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語
		読む	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース
		書く	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース		
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース
		その他	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース		
オンライン	就職	話す（やりとり）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース				
		話す（発表）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成		
		聞く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース		
		読む	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース
		書く	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース		
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース
		その他	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成		
オンライン	一般	話す（やりとり）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	東京ギャラクシー日本語学校	フリーコース 初級会話
		話す（発表）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	東京ギャラクシー日本語学校	フリーコース 初級会話
		聞く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	大阪文化国際学校	観光コース
		読む	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース
		書く	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース		
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース
		その他	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	大阪文化国際学校	観光コース		
ハイブリッド	進学	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース				
		話す（発表）						
		聞く	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース				
		読む	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース				
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
ハイブリッド	就職	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース				
		話す（発表）						
		聞く	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース				
		読む	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース				
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
ハイブリッド	一般	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース				
		話す（発表）						
		聞く	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース				
		読む	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース				
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
オンデマンド	進学	話す（やりとり）	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語
		話す（発表）	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	岡山外語学院	観光コース
		聞く	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語
		読む	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース		
		書く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース				
		日本事情 日本理解	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース
		その他						
オンデマンド	就職	話す（やりとり）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース				
		話す（発表）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース				
		聞く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース				
		読む	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース				
		書く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース				
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース		
		その他						
オンデマンド	一般	話す（やりとり）	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース		
		話す（発表）	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	岡山外語学院	観光コース
		聞く	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース		
		読む	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース		
		書く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース				
		日本事情 日本理解	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース
		その他						
ハイフレックス	進学／就職／一般	話す（やりとり）						
		話す（発表）						
		聞く						
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						

■B１レベル

手法	対象	言語活動	日本語教育機関名	コース	日本語教育機関名	コース	日本語教育機関名	コース
オンライン	進学	話す（やりとり）	埼玉日本語学校	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	東北多文化アカデミー	観光コース
		話す（発表）	埼玉日本語学校	就労コース	岡山外語学院	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース
		聞く	埼玉日本語学校	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語
		読む	埼玉日本語学校	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	岡山外語学院	就労コース
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策				
		日本事情 日本理解	埼玉日本語学校	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	東北多文化アカデミー	観光コース
		その他	埼玉日本語学校	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	東北多文化アカデミー	観光コース
オンライン	就職	話す（やりとり）	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	岡山外語学院	就労コース	ISIキャリア外語アカデミー原宿校	観光コース
		話す（発表）	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	岡山外語学院	就労コース	ISIキャリア外語アカデミー原宿校	観光コース
		聞く	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	岡山外語学院	就労コース
		読む	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	岡山外語学院	就労コース	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語		
		日本事情 日本理解	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語
		その他	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	岡山外語学院	就労コース	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策
オンライン	一般	話す（やりとり）	埼玉日本語学校	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	岡山外語学院	就労コース
		話す（発表）	埼玉日本語学校	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	岡山外語学院	就労コース
		聞く	埼玉日本語学校	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語
		読む	埼玉日本語学校	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	岡山外語学院	就労コース
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語		
		日本事情 日本理解	埼玉日本語学校	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語
		その他	埼玉日本語学校	就労コース	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	岡山外語学院	就労コース
ハイブリッド	進学／就職／一般	話す（やりとり）						
		話す（発表）						
		聞く						
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
オンデマンド	進学	話す（やりとり）	埼玉日本語学校	就労コース	岡山外語学院	就労コース	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース
		話す（発表）	埼玉日本語学校	就労コース	岡山外語学院	就労コース		
		聞く	埼玉日本語学校	就労コース	岡山外語学院	就労コース	アークアカデミー新宿校	フリーコース 海学セミナー
		読む	埼玉日本語学校	就労コース	岡山外語学院	就労コース	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース
		書く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 海学セミナー				
		日本事情 日本理解	埼玉日本語学校	就労コース	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース	岡山外語学院	就労コース
		その他	埼玉日本語学校	就労コース	岡山外語学院	就労コース	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース
オンデマンド	就職	話す（やりとり）	岡山外語学院	就労コース	東京ギャラクシー日本語学校	観光コース		
		話す（発表）	岡山外語学院	就労コース				
		聞く	岡山外語学院	就労コース				
		読む	岡山外語学院	就労コース				
		書く						
		日本事情 日本理解	岡山外語学院	就労コース				
		その他	岡山外語学院	就労コース				
オンデマンド	一般	話す（やりとり）	埼玉日本語学校	就労コース	岡山外語学院	就労コース	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース
		話す（発表）	埼玉日本語学校	就労コース	岡山外語学院	就労コース		
		聞く	埼玉日本語学校	就労コース	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース	岡山外語学院	就労コース
		読む	埼玉日本語学校	就労コース	岡山外語学院	就労コース	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース
		書く						
		日本事情 日本理解	埼玉日本語学校	就労コース	岡山外語学院	就労コース	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース
		その他	埼玉日本語学校	就労コース	岡山外語学院	就労コース	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース
ハイフレックス	進学	話す（やりとり）						
		話す（発表）						
		聞く						
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
ハイフレックス	就職	話す（やりとり）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース				
		話す（発表）						
		聞く						
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
ハイフレックス	一般	話す（やりとり）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース				
		話す（発表）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース				
		聞く						
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						

■B２レベル

手法	対象	言語活動	日本語教育機関名	コース	日本語教育機関名	コース	日本語教育機関名	コース
オンライン	進学	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー				
		話す（発表）						
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー		
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳）	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー
		その他	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策		
オンライン	就職	話す（やりとり）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語				
		話す（発表）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語				
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語		
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語		
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語
		その他	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策				
オンライン	一般	話す（やりとり）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語				
		話す（発表）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語				
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語		
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語
		その他	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策				
ハイブリッド	進学／就職／一般	話す（やりとり）						
		話す（発表）						
		聞く						
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
オンデマンド	進学	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー				
		話す（発表）						
		聞く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）		
		読む	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）		
		書く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー				
		日本事情 日本理解	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）		
		その他						
オンデマンド	就職	話す（やりとり）						
		話す（発表）						
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		書く						
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		その他						
オンデマンド	一般	話す（やりとり）						
		話す（発表）						
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		書く						
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		その他						
ハイフレックス	進学	話す（やりとり）						
		話す（発表）						
		聞く						
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
ハイフレックス	就職	話す（やりとり）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース				
		話す（発表）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース				
		聞く	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース				
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース				
		その他						
ハイフレックス	一般	話す（やりとり）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース				
		話す（発表）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース				
		聞く	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース				
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース				
		その他						

■Cレベル

手法	対象	言語活動	日本語教育機関名	コース	日本語教育機関名	コース	日本語教育機関名	コース
オンライン	進学	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語		
		話す（発表）	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語				
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）
		書く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	アークアカデミー新宿校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ１対策コース		
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー
		その他						
オンライン	就職	話す（やりとり）	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語		
		話す（発表）	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語		
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語
		書く	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語				
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語
		その他						
オンライン	一般	話す（やりとり）	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語		
		話す（発表）	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語		
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語
		書く	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語				
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語
		その他						
ハイブリッド	進学／就職／一般	話す（やりとり）						
		話す（発表）						
		聞く						
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						
オンデマンド	進学	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー				
		話す（発表）						
		聞く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー				
		読む	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー				
		書く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー				
		日本事情 日本理解	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー				
		その他						
オンデマンド	就職	話す（やりとり）						
		話す（発表）						
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		書く						
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		その他						
オンデマンド	一般	話す（やりとり）						
		話す（発表）						
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		書く						
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）				
		その他						
ハイフレックス	進学／就職／一般	話す（やりとり）						
		話す（発表）						
		聞く						
		読む						
		書く						
		日本事情 日本理解						
		その他						

2）レベル別・コース別・学習方法別・対象別グッドプラクティス

各校における実証の成果より、効果的であったとされる日本語教育手法について探ることを目的に、レベル別、コース別、学習方法別、対象別の各校の評価にみるグッドプラクティスについて以下に整理する。

※表に記載の「授業数」は、各日本語レベルにおける『コース』『日本語教育機関』『手法』『対象』『言語活動』のマトリクスをそれぞれ１とカウントした際の合計数である。

■レベル別

【全体的傾向】

- ✓ レベル別では、レベルが高くなるに従い、実証評価も安定して高くなる傾向にある。
- ✓ Ｂ１レベル以上は、平均値を上回っており、日本語能力について一定レベルを有する受講者の方が日本語の習得率は高い傾向にあるものと考えられる。
- ✓ 以下では、レベル別の評価の高い実証事例について整理している。

レベル	授業数	評価		
		平均値	最小値	最大値
A1	91	15.0	9.0	18.0
A2	137	15.5	11.2	18.0
B1	106	15.5	10.0	18.0
B2	44	15.6	11.0	17.3
C	23	16.4	15.2	17.0
計	401	15.4	--	--

【グッドプラクティスの例　Ａ１レベル】

上位１０実証

学校名	実証コース	レベル	手法	対象	言語活動別_評価（18点満点）							
					話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	Ave
帝京平成大学附属日本語学校	C. 観光コース	A1	(1)オンライン	3. 一般	18	18	18	18		18	18	18.0
ABK学館日本語学校	D. フリーコース	A1	(1)オンライン	1. 進学				18	18			18.0
ABK学館日本語学校	D. フリーコース	A1	(1)オンライン	2. 就職				18	18			18.0
ABK学館日本語学校	D. フリーコース	A1	(1)オンライン	3. 一般				18	18			18.0
岡山外語学院	D. フリーコース	A1	(1)オンライン	1. 進学	18	18	18	18			18	18.0
岡山外語学院	D. フリーコース	A1	(1)オンライン	2. 就職	18	18	18	18			18	18.0
埼玉日本語学校	A. スタンダードコース	A1	(1)オンライン	3. 一般	18		18	18	18			18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C. 観光コース	A1	(1)オンライン	2. 就職	17	17	18	18		18	18	17.7
帝京平成大学附属日本語学校	C. 観光コース	A1	(1)オンライン	1. 進学	16	17	17	17		18	18	17.2
KCP地球市民日本語学校	D. フリーコース	A1	(1)オンライン	3. 一般	18	17	17		16	17		17.0

日本語教育機関名	帝京平成大学附属日本語学校		
レベル	Ａ１、Ａ２、Ｂ１	コース	観光コース
言語活動	話す(やりとり)、話す(発表)、聞く、読む、日本事情、その他	学習方法	オンライン、オンデマンド
		対象	一般、進学、就職
グッド プラクティス内容 （主な事項のみ）	・「話す」能力の向上には、動画の後に教師とリピート練習を実施、発音やイントネーションの間違いが支障となりえる場合、問題なく理解できる発音になるまで繰り返し練習を実施、さらに基本的な言い回しは、代入練習や会話練習を追加し、本コンテンツ以外のシチュエーションでも使えるように練習。 ・「聞く」能力の向上には、受講者が「知っている」と答えた場合には、どこで知ったのか、行ったこと（食べたこと）があるのかなど、会話として深く質問することで、受講者の経験などをアウトプットしてもらう機会を創出。 ・「日本事情・日本理解」においては、教材動画のナレーション部分を視聴後、特に面白い風習や特色、特産物などについて動画の振り返りとして一緒に復習。どう感じたか？自分の国ではどうか？など、いくつかの質問を投げかけ、より一層の興味を創出。		

【グッドプラクティスの例　Ｂ１レベル】

上位１４実証

学校名	実証コース	レベル	手法	対象	言語活動別_評価（18点満点）							
					話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	Ave
埼玉日本語学校	B.就労コース	B1	(1)オンライン	1.進学	18	18	18	18		18	18	18.0
埼玉日本語学校	B.就労コース	B1	(3)オンデマンド	1.進学	18	18	18	18		18	18	18.0
埼玉日本語学校	B.就労コース	B1	(1)オンライン	3.一般	18	18	18	18		18	18	18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C.観光コース	B1	(1)オンライン	3.一般	18	18	18	18		18	18	18.0
埼玉日本語学校	B.就労コース	B1	(3)オンデマンド	3.一般	18	18	18	18		18	18	18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C.観光コース	B1	(1)オンライン	1.進学	18	17	18	18		18	18	17.8
帝京平成大学附属日本語学校	C.観光コース	B1	(1)オンライン	2.就職	17	18	18	18		18	18	17.8
東北多文化アカデミー	C.観光コース	B1	(1)オンライン	1.進学	18	17	17	16		18	18	17.3
岡山外語学院	B.就労コース	B1	(1)オンライン	1.進学	17	18	17	17		17	17	17.2
岡山外語学院	B.就労コース	B1	(3)オンデマンド	1.進学	17	18	17	17		17	17	17.2
岡山外語学院	B.就労コース	B1	(1)オンライン	2.就職	17	18	17	17		17	17	17.2
岡山外語学院	B.就労コース	B1	(3)オンデマンド	2.就職	17	18	17	17		17	17	17.2
岡山外語学院	B.就労コース	B1	(1)オンライン	3.一般	17	18	17	17		17	17	17.2
岡山外語学院	B.就労コース	B1	(3)オンデマンド	3.一般	17	18	17	17		17	17	17.2

日本語教育機関名	埼玉日本語学校		
レベル	Ｂ１	コース	就労コース
言語活動	話す(やりとり)、話す(発表)、聞く、読む、日本事情･日本理解、その他	学習方法	オンライン、オンデマンド
		対象	進学
グッドプラクティス内容（主な事項のみ）	・聴解、読解、漢字も学習したいとのニーズを受け、ビデオ教材を用いて聴解活動を行い、ビデオのスクリプトを用いて読解活動を実施。 ・漢字は、スクリプト内に出てきたものを使って読みと筆順の確認を実施。 ・会話練習では用意されているものの他にコンビニ以外でもいろいろな業種で幅広く使える会話表現を学ぶためにＰＰＴを自作し、練習を実施。		

【グッドプラクティスの例　Ｃレベル】

上位１０実証

学校名	実証コース	レベル	手法	対象	言語活動別_評価（18点満点）							
					話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	Ave
ARC東京日本語学校	D.フリーコース	C	(1)オンライン	1.進学	16	16	18	17		18		17.0
ARC東京日本語学校	D.フリーコース	C	(1)オンライン	2.就職	16	16	18	17		18		17.0
ARC東京日本語学校	D.フリーコース	C	(1)オンライン	3.一般	16	16	18	17		18		17.0
ARC東京日本語学校	D.フリーコース	C	(3)オンデマンド	1.進学			17	17		17		17.0
ARC東京日本語学校	D.フリーコース	C	(3)オンデマンド	2.就職			17	17		17		17.0
ARC東京日本語学校	D.フリーコース	C	(3)オンデマンド	3.一般			17	17		17		17.0
アークアカデミー新宿校	D.フリーコース	C	(1)オンライン	1.進学	17		17	17	17	17		17.0
アークアカデミー新宿校	D.フリーコース	C	(3)オンデマンド	1.進学	17		17	17	17	17		17.0
千駄ヶ谷外語学院	D.フリーコース	C	(1)オンライン	2.就職	17	17	17	17	17	17		17.0
千駄ヶ谷外語学院	D.フリーコース	C	(1)オンライン	3.一般	17	17	17	17	17	17		17.0

日本語教育機関名	ＡＲＣ東京日本語学校		
レベル	Ｂ１、Ｂ２、Ｃ	コース	就労コース
言語活動	話す(やりとり)、話す(発表)、聞く、読む、日本事情・日本理解	学習方法	オンライン
		対象	進学
グッドプラクティス内容（主な事項のみ）	・「聞く」については、内容を理解する回と音声の特徴に気を配って聞く回など、自身で工夫して視聴するように指導。日本語教師は受講者のレベルに配慮しつつ、ある程度のスピードで発話することで、受講者が日本語の音声やスピードに慣れるよう工夫。 ・「日本事情・日本理解」については、来日経験がなかったり、自国にコンビニがない受講者がいたため、実際にコンビニで売られている商品などについても紹介。加えて、提供された教材のみでイメージが沸きにくいものについては、適宜イラストや写真を追加して、受講者の理解を促進。		

■学習方法別

【全体的傾向】

- ✓ 学習方法別では、オンラインでの実証評価が高い傾向にある。次いで、ハイフレックスとなっている。
- ✓ 以下では、学習方法別の評価の高い実証事例について整理している。

学習方法	授業数	評価		
		平均値	最小値	最大値
オンライン	255	15.7	9.0	18.0
ハイブリッド	6	15.7	14.0	17.0
オンデマンド	129	15.0	10.0	18.0
ハイフレックス	11	15.5	12.2	17.0
計	401	15.4	--	--

【グッドプラクティスの例　オンライン】

上位２０実証

学校名	実証コース	レベル	手法	対象	言語活動別_評価（18点満点）							
					話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	Ave
岡山外語学院	D.フリーコース	A1	(1)オンライン	1.進学	18	18	18	18			18	18.0
岡山外語学院	D.フリーコース	A1	(1)オンライン	2.就職	18	18	18	18			18	18.0
ABK学館日本語学校	D.フリーコース	A1	(1)オンライン	1.進学				18	18			18.0
ABK学館日本語学校	D.フリーコース	A1	(1)オンライン	2.就職				18	18			18.0
ABK学館日本語学校	D.フリーコース	A2	(1)オンライン	1.進学				18	18			18.0
ABK学館日本語学校	D.フリーコース	A2	(1)オンライン	2.就職				18	18			18.0
ABK学館日本語学校	D.フリーコース	A2	(1)オンライン	3.一般				18	18			18.0
ABK学館日本語学校	D.フリーコース	A1	(1)オンライン	3.一般				18	18			18.0
ARC京都日本語学校	D.フリーコース	A2	(1)オンライン	1.進学	18	18	18	18	18	18		18.0
ARC京都日本語学校	D.フリーコース	A2	(1)オンライン	2.就職	18	18	18	18	18	18		18.0
ARC京都日本語学校	D.フリーコース	A2	(1)オンライン	3.一般	18	18	18	18	18	18		18.0
埼玉日本語学校	A.スタンダードコース	A1	(1)オンライン	3.一般	18		18	18	18			18.0
埼玉日本語学校	B.就労コース	B1	(1)オンライン	1.進学	18	18	18	18		18	18	18.0
埼玉日本語学校	B.就労コース	B1	(1)オンライン	3.一般	18	18	18	18		18	18	18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C.観光コース	B1	(1)オンライン	3.一般	18	18	18	18		18	18	18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C.観光コース	A2	(1)オンライン	3.一般	18	18	18	18		18	18	18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C.観光コース	A1	(1)オンライン	3.一般	18	18	18	18		18	18	18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C.観光コース	B1	(1)オンライン	1.進学	18	17	18	18		18	18	17.8
帝京平成大学附属日本語学校	C.観光コース	B1	(1)オンライン	2.就職	17	18	18	18		18	18	17.8
帝京平成大学附属日本語学校	C.観光コース	A2	(1)オンライン	2.就職	17	17	18	18		18	18	17.7

日本語教育機関名	岡山外語学院		
レベル	Ａ１、Ａ２	コース	フリーコース
言語活動	話す(やりとり)、話す(発表)、聞く、読む、その他	学習方法	オンライン
		対象	進学、就職
グッドプラクティス内容（主な事項のみ）	・発話をするタイミングが掴みにくく、ともすれば教師の話を聞くだけになってしまいがちなオンライン授業特有の環境を回避するため、会話の途中に意識してポーズを取り入れ、受講者が考えて、発話しやすい環境づくりを実施。 ・教師と受講者のみのやり取りにとどまらず、受講者間のやりとりも生む必要があったため、会話練習ではZoomのブレイクアウトルームを使用。 ・「話す（発表）」では、相手に伝わる発表を行うために、アクセントやイントネーション、ポーズ、プロミネンスなどの練習も継続実施。 ・「読む」では、受身・使役・使役受身を使用し、受講者が記述した「私の最悪な一日」（400字）という作文を画面共有して、各自発表を実施。 ・質問事項は授業終了後、チャットやメールで受け付け、回答したメールを返信。		

【グッドプラクティスの例　ハイブリッド】

全６実証

学校名	実証コース	レベル	手法	対象	言語活動別_評価（18点満点）							
					話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	Ave
アークアカデミー新宿校	A.スタンダードコース	A2	(2)ハイブリッド	1.進学	17		17	17				17.0
アークアカデミー新宿校	A.スタンダードコース	A2	(2)ハイブリッド	2.就職	17		17	17				17.0
アークアカデミー新宿校	A.スタンダードコース	A2	(2)ハイブリッド	3.一般	17		17	17				17.0
渋谷ラル日本語学院	D.フリーコース	A1	(2)ハイブリッド	1.進学	15		15	15	14			14.8
早稲田京福語学院	A.スタンダードコース	A2	(2)ハイブリッド	1.進学	15		15	14	13			14.3
早稲田京福語学院	A.スタンダードコース	A1	(2)ハイブリッド	1.進学	14		15	14	13			14.0

日本語教育機関名	アークアカデミー新宿校		
レベル	A２	コース	スタンダードコース
言語活動	話す(やりとり)、聞く、読む	学習方法	ハイブリッド
		対象	進学
グッド プラクティス内容 （主な事項のみ）	・「話す」では、発話機会を増やすため、基本練習でチェーンドリルを使用して互いに質問する機会を与えたり、応用練習でペアワークを取り入れたりして受講者間でやりとりする場を設定。タスクでは、ディスコースを応用して、実践的な場面を想定して、生きた日本語を使う機会を増加。 ・「聞く」では、学習項目をボトムアップで指導したのち、「みんなの日本語本冊」の「本文会話」で音声を聞く練習をできるだけ行うように工夫。スクリプトを見ずに音声を聞かせたり、各受講者が自身のペースで繰り返し聞くことができるよう配慮。 ・「読む」では、文字と音の一致や文章を読むスピードを上げるために、自宅学習（復習）として、本文の音読を何度か行うように指導。		

【グッドプラクティスの例　オンデマンド】

上位１０実証

学校名	実証コース	レベル	手法	対象	言語活動別_評価（18点満点）							
					話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	Ave
ARC京都日本語学校	D.フリーコース	A2	(3)オンデマンド	1.進学	18	18	18	18	18	18		18.0
ARC京都日本語学校	D.フリーコース	A2	(3)オンデマンド	2.就職	18	18	18	18	18	18		18.0
ARC京都日本語学校	D.フリーコース	A2	(3)オンデマンド	3.一般	18	18	18	18	18	18		18.0
埼玉日本語学校	B.就労コース	B1	(3)オンデマンド	1.進学	18	18	18	18		18	18	18.0
埼玉日本語学校	B.就労コース	B1	(3)オンデマンド	3.一般	18	18	18	18		18	18	18.0
専門学校長野ビジネス外語カレッジ	C.観光コース	A2	(3)オンデマンド	1.進学	18	18	18	18		18		18.0
専門学校長野ビジネス外語カレッジ	C.観光コース	A2	(3)オンデマンド	3.一般	18	18	18	18		18		18.0
KCP地球市民日本語学校	C.観光コース	A2	(3)オンデマンド	1.進学	17	17	17	17		18		17.2
KCP地球市民日本語学校	C.観光コース	A2	(3)オンデマンド	2.就職	17	17	17	17		18		17.2
KCP地球市民日本語学校	C.観光コース	A2	(3)オンデマンド	3.一般	17	17	17	17		18		17.2

日本語教育機関名	ＡＲＣ京都日本語学校		
レベル	A２	コース	フリーコース（A-３初級日本事情・会話）
言語活動	話す(やりとり)、話す(発表)、聞く、読む、書く、日本事情・日本理解	学習方法	オンデマンド
		対象	進学
グッド プラクティス内容 （主な事項のみ）	・来日後すぐに役立ち、且つ日本での留学生活に知っておくべき日本文化・日本事情を紹介し、学生が感じるであろう不安やストレスを緩和できるように配慮。テーマ選びから学生たちに寄り添えるように工夫。弊校に在籍する学生たちの様子から必要な情報、役立つ情報を決定。そして、例えば京都の交通機関について説明する回では、切符の買い方、ICOCAでの改札の入り方などを１つずつ写真を示して紹介。 ・初回の「日本語の勉強を始めよう」では、日本人と外国での数字の書き方の違いなどを示したり、最終回では進学・就職のテーマを取り上げ入国前から進路について考えられるように工夫。 ・反転授業で事前に動画を見てきている学生が相手であり、＋αの情報を伝えたり、学生の質問に答える時間を取るように配慮。		

【グッドプラクティスの例　ハイフレックス】　上位１０実証

学校名	実証コース	レベル	手法	対象	言語活動別_評価（18点満点）							
					話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	Ave
東京ギャラクシー日本語学校	B.就労コース	B2	⑷ハイフレックス	2.就職	18	17	17	16		17		17.0
東京ギャラクシー日本語学校	B.就労コース	B2	⑷ハイフレックス	3.一般	18	17	17	16		17		17.0
カイ日本語スクール	D.フリーコース	A1	⑷ハイフレックス	3.一般	17	16	17	16	16		17	16.5
カイ日本語スクール	D.フリーコース	A2	⑷ハイフレックス	3.一般	17	16	17	16	16		17	16.5
カイ日本語スクール	D.フリーコース	B1	⑷ハイフレックス	3.一般	17	16	17	16	16	16	17	16.4
カイ日本語スクール	D.フリーコース	B2	⑷ハイフレックス	3.一般	17	16	16	17	16	16	17	16.4
東京ギャラクシー日本語学校	B.就労コース	B1	⑷ハイフレックス	3.一般	17	17	16	16		16		16.4
東京ギャラクシー日本語学校	B.就労コース	B1	⑷ハイフレックス	2.就職	17	16	16	16		16		16.2
東京ギャラクシー日本語学校	B.就労コース	A2	⑷ハイフレックス	2.就職	13	12	14	14		14		13.4
東海学院文化教養専門学校	C.観光コース	A1	⑷ハイフレックス	3.一般	13	11	13	13		13		12.6

日本語教育機関名	東京ギャラクシー日本語学校		
レベル	Ａ２、Ｂ１、Ｂ２、	コース	就労コース
言語活動	話す(やりとり)、話す(発表) 聞く、読む、日本事情･日本理解	学習方法	ハイフレックス
		対象	就職、一般
グッド プラクティス内容 （主な事項のみ）	・「話す」では、授業中は常にマイクをONにし、質問したり練習を実施。会話の練習の際は、ブレイクアウトルームを使用したり、チェーンドリルなどをして、受講者間でやり取りする場を設定。導入部では母国の様子を考えて発表し、その後日本ではどのような様子か考え、発表する場を設定。 ・「聞く」では、事前学習と授業で聞くことによって、日本語の自然な表現に慣れるように工夫。動画視聴の際、事前に内容質問をすることで全員でみながら大意を掴む練習を実施。「今日のポイント」表現箇所を動画教材を使用したシャドーイング練習を取り入れ。 ・「日本事情・日本理解」では、事前に日本のコンビニ特有の商品や会計方法など動画教材を見てもらう。写真や絵のほうがわかりやすいものはインターネットの画像を共有。敬語表現によって相手への尊敬度を表せるように、動画スクリプトからわかる日本事情を補足を入れながら解説。		

■対象別

【全体的傾向】

- ✓ 対象別では、対象による大きな変化の差はみられない。
- ✓ 以下では、対象別の評価の高い実証事例について整理している。

対象	授業数	評価		
		平均値	最小値	最大値
進学	151	15.4	9.0	18.0
就職	86	15.5	10.0	18.0
一般	164	15.4	10.3	18.0
計	401	15.4	--	--

【グッドプラクティスの例　進学】　　上位１０実証

学校名	実証コース	レベル	手法	対象	言語活動別_評価（18点満点）							
					話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情日本理解	その他	Ave
専門学校長野ビジネス外語カレッジ	C.観光コース	A2	(3)オンデマンド	1.進学	18	18	18	18		18		18.0
ABK学館日本語学校	D.フリーコース	A1	(1)オンライン	1.進学				18	18			18.0
ABK学館日本語学校	D.フリーコース	A2	(1)オンライン	1.進学				18	18			18.0
ARC京都日本語学校	D.フリーコース	A2	(1)オンライン	1.進学	18	18	18	18	18	18		18.0
埼玉日本語学校	B.就労コース	B1	(1)オンライン	1.進学	18	18	18	18		18	18	18.0
埼玉日本語学校	B.就労コース	B1	(3)オンデマンド	1.進学	18	18	18	18		18	18	18.0
ARC京都日本語学校	D.フリーコース	A2	(3)オンデマンド	1.進学	18	18	18	18	18	18		18.0
岡山外語学院	D.フリーコース	A1	(1)オンライン	1.進学	18	18	18	18			18	18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C.観光コース	B1	(1)オンライン	1.進学	18	17	18	18		18	18	17.8
岡山外語学院	D.フリーコース	A2	(1)オンライン	1.進学	17	18	17	17			18	17.4

日本語教育機関名	専門学校長野ビジネス外語カレッジ		
レベル	Ａ２	コース	観光コース
言語活動	話す（やりとり）、話す（発表）、聞く、読む、日本事情・日本理解	学習方法	オンデマンド
		対象	進学
グッドプラクティス内容（主な事項のみ）	・日本の有名な観光地をビデオで見ることで、日本が良く知られている東京や大阪などの大都市だけではなく、地方にも素晴らしい観光地があることが分かり、来日の動機付けにつながる。 ・ナレーションや会話例な、教師の発話など多くの日本語を繰り返す聞くことで、日本語の聞き取りが向上。 ・会話例を繰り返し読むことで、観光地や会話でよく使用する表現を滑らかに読めるよう学力が向上。 ・会話例を繰り返し練習し、また副教材を使用して表現の練習をすることで、簡単な事柄であれば自身のことや自国について話すことを達成。 ・食べられないものを伝えたり、体の不調を訴えるなど、観光地で自ら話すことが必要となる事柄について伝達。 ・受講者同士で会話練習を繰り返すことで、お互いに信頼関係が築かれ、発言に反応しあうなどのコミュニケーションが発生。 ・ネイティブ日本語教師から直接法で日本語を学び、内容を理解し、発言ができたことで日本語学習の自信につながり、日本語学習の意欲が向上。		

【グッドプラクティスの例　就職】

上位１０実証

学校名	実証コース	レベル	手法	対象	言語活動別_評価（18点満点）							
					話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	Ave
ABK学館日本語学校	D. フリーコース	A1	(1)オンライン	2. 就職				18	18			18.0
ABK学館日本語学校	D. フリーコース	A2	(1)オンライン	2. 就職				18	18			18.0
ARC京都日本語学校	D. フリーコース	A2	(1)オンライン	2. 就職	18	18	18	18	18	18		18.0
ARC京都日本語学校	D. フリーコース	A2	(3)オンデマンド	2. 就職	18	18	18	18	18	18		18.0
岡山外語学院	D. フリーコース	A1	(1)オンライン	2. 就職	18	18	18	18			18	18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C. 観光コース	B1	(1)オンライン	2. 就職	17	18	18	18		18	18	17.8
帝京平成大学附属日本語学校	C. 観光コース	A2	(1)オンライン	2. 就職	17	17	18	18		18	18	17.7
帝京平成大学附属日本語学校	C. 観光コース	A1	(1)オンライン	2. 就職	17	17	18	18		18	18	17.7
岡山外語学院	D. フリーコース	A2	(1)オンライン	2. 就職	17	18	17	17			18	17.4
ARC東京日本語学校	D. フリーコース	B2	(1)オンライン	2. 就職			17		18		17	17.3

日本語教育機関名	ＡＢＫ学館日本語学校		
レベル	Ａ１	コース	フリーコース 「漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス
言語活動	読む、書く	学習方法	オンライン、オンデマンド
		対象	就職
グッド プラクティス内容 （主な事項のみ）	・「読む」においては、漢字の多用な読みを含む短文シートを、学生でペアを作り、相互に練習、その後、教師の指導で音読。漢字のへんやつくりなどの部分をパズルにして、どのような漢字なのか、学生に推理。漢字YouTube動画にて、読み方を復習、漢字アプリにて、実際、読み方を書いて練習。 ・「書く」においては、漢字YouTubeでは、漢字の一つずつのストロークを、教師が動画で解説しているが、同YouTubeを見て、漢字の書き方を理解。漢字アプリにより、スマホに指で、漢字の書き方を練習。		

【グッドプラクティスの例　一般】

上位１５実証

学校名	実証コース	レベル	手法	対象	言語活動別_評価（18点満点）							
					話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他	Ave
埼玉日本語学校	A. スタンダードコース	A1	(1)オンライン	3. 一般	18		18	18	18			18.0
埼玉日本語学校	B. 就労コース	B1	(1)オンライン	3. 一般	18	18	18	18		18	18	18.0
埼玉日本語学校	B. 就労コース	B1	(3)オンデマンド	3. 一般	18	18	18	18		18	18	18.0
ABK学館日本語学校	D. フリーコース	A2	(1)オンライン	3. 一般				18	18			18.0
ABK学館日本語学校	D. フリーコース	A1	(1)オンライン	3. 一般				18	18			18.0
ARC京都日本語学校	D. フリーコース	A2	(1)オンライン	3. 一般	18	18	18	18	18	18		18.0
ARC京都日本語学校	D. フリーコース	A2	(3)オンデマンド	3. 一般	18	18	18	18	18	18		18.0
専門学校長野ビジネス外語カレッジ	C. 観光コース	A2	(3)オンデマンド	3. 一般	18	18	18	18		18		18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C. 観光コース	B1	(1)オンライン	3. 一般	18	18	18	18		18	18	18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C. 観光コース	A2	(1)オンライン	3. 一般	18	18	18	18		18	18	18.0
帝京平成大学附属日本語学校	C. 観光コース	A1	(1)オンライン	3. 一般	18	18	18	18		18	18	18.0
東京ギャラクシー日本語学校	D. フリーコース	A2	(1)オンライン	3. 一般	18	18	17					17.7
大阪文化国際学校	C. 観光コース	A2	(1)オンライン	3. 一般	17	17	18	18		17	18	17.5
専門学校長野ビジネス外語カレッジ	C. 観光コース	A2	(1)オンライン	3. 一般	17	17	17	18		18		17.4
ARC東京日本語学校	D. フリーコース	B2	(1)オンライン	3. 一般			17		18		17	17.3

日本語教育機関名	埼玉日本語学校		
レベル	Ａ１	コース	スタンダード
言語活動	話す(やりとり)、聞く、読む、書く、日本事情、その他	学習方法	オンライン
		対象	一般
グッド プラクティス内容 （主な事項のみ）	・授業の開始時間前にZoomに参加される受講者は、その時間をコミュニケーションの時間とし、既習文型を用いて簡単なやり取りを実施。 ・テキストの練習問題だけでなく、受講者自身の生活や身近な話題についてＱＡ。 ・口頭練習では、Zoomのホワイトボード機能やGoogleＰＰＴを利用して受講者の言ったことをそのままリアルタイムで文字に起こし、受講者が誤りに気づき、自身で訂正するという良い反応が得られた。		

３－３．オンライン日本語教育プログラム評価

●評価の方法

日本語教育におけるオンライン授業の有効性、及び最適なオンライン授業のあり方に関する知見を得ることを目的に、以下の調査・分析を行う。

・調査方針

方針１：本事業で実証する多様な日本語教育方法（オンライン型・オンデマンド型・ハイブリッド型・ハイフレックス型）に対する実施・参加のしやすさ、取組み意欲・学習意欲の向上などの観点から、オンライン授業の手法の有効性を調査・分析

方針２：教育を受ける側（受講者）、提供する側（教師）へのアンケート調査をもとに、それぞれの対象者（受講者）にとって有効であり、どのような要素が学力・学習意欲向上に貢献しうるのかを主観的調査を中心に調査・分析

・調査内容

調査は、受ける側（受講者）、提供する側（教師等）の両視点において実施した。

主観的調査

受ける側（受講者）

- 日本語教育を受ける受講者を対象とした受講前・受講後におけるアンケート調査を実施
- 以下の内容で構成

[受講環境に関する設問]受講する際の通信環境、利用機器、ＩＴスキル等について、設問（４問）を設定
受講後も同様の設問を設定

[受講コースに関する設問(受講後のみ)]受講したコースについての設問を設定

[受講意欲に関する設問]受講者の受講への期待、不安等について、設問（８問）を設定
受講後も同様の設問を設定

[学力向上の自己評価(受講後のみ)]言語活動の基礎的区分である「話す」「聞く」「読む」「書く」「日本事情・日本理解」の自己評価について、設問（７問）を設定し、受講者自らの学力を自己評価

[オンライン授業への感想(受講後のみ)]オンライン授業に参加した感想について、設問（６問）を設定

×

提供する側（教師等）

- 日本語教師を対象に以下の調査を実施

[アンケート調査]（事前・事後）
担当した日本語授業における受講者の反応（事前・事後）・オンライン授業取り組みへの意識の変化などを把握するためのアンケートを実施。

- 日本語教育機関責任者を対象に以下の調査を実施

[アンケート調査]
当該事業を通じた日本語教師の教授スキルの変化、今後のオンライン授業取り組みへの意識の変化などを把握するためのアンケートを実施。

→ **個別の日本語オンライン授業の有効性を評価**

・調査の実施方法

オンライン日本語教育実証の分析のための調査は、１次公募から３次公募で募集した各日本語教育機関へ同一の内容で実施している。各機関ともに、採択通知受領後に受講者・教師の事前アンケート回答を順次実施、実証授業終了後に受講者・教師の事後アンケートを実施している。また、日本語教育機関責任者に対し、実証事業全体を通してのアンケートを実証終了後に実施している。

アンケート名称	アンケート形式
受講者　事前アンケート 受講者　事後アンケート	learningBOX（日本語・英語・中国語簡体字・中国語繁体字・韓国語・ベトナム語）
日本語教師　事前アンケート 日本語教師　事後アンケート	learningBOX（日本語のみ）
日本語教育機関責任者アンケート	Microsoft forms

１）受講者による評価（アンケート）

①調査項目

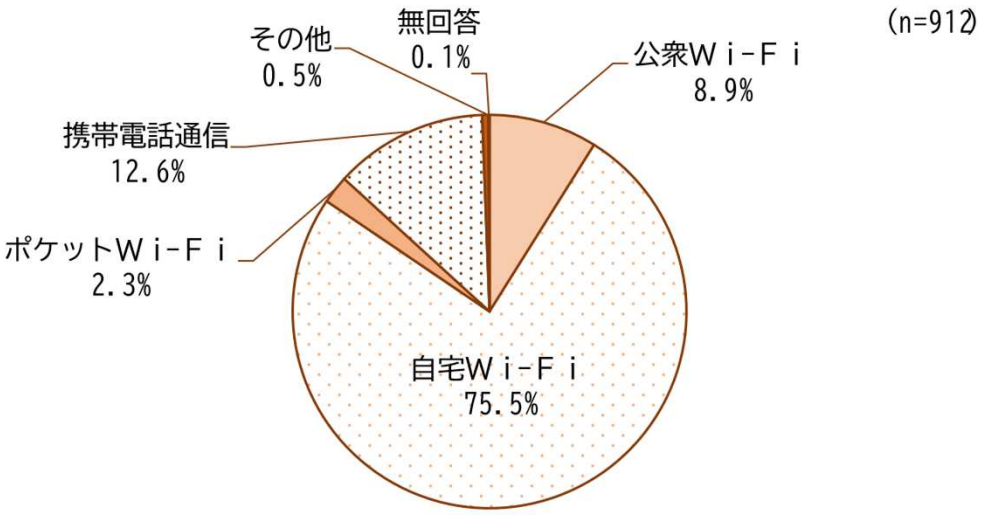
オンライン日本語授業の受講者を対象とし、当事業の前後でオンライン授業への不安や成果を把握することを目的としたアンケート調査を実施した。項目は下の通りである。

事前	事後
• 授業を受ける時の通信環境や使用機器 • ＩＴスキル • オンライン授業への期待 • オンライン授業への不安	• 授業を受ける時の通信環境や使用機器 • オンライン授業への満足度 • ＬＭＳの使いやすさ • オンライン授業でできたこと • オンライン授業による日本語力を向上度合い • 今後のオンライン授業の意向 • 今後の日本語教育の意向

②事前アンケート調査結果

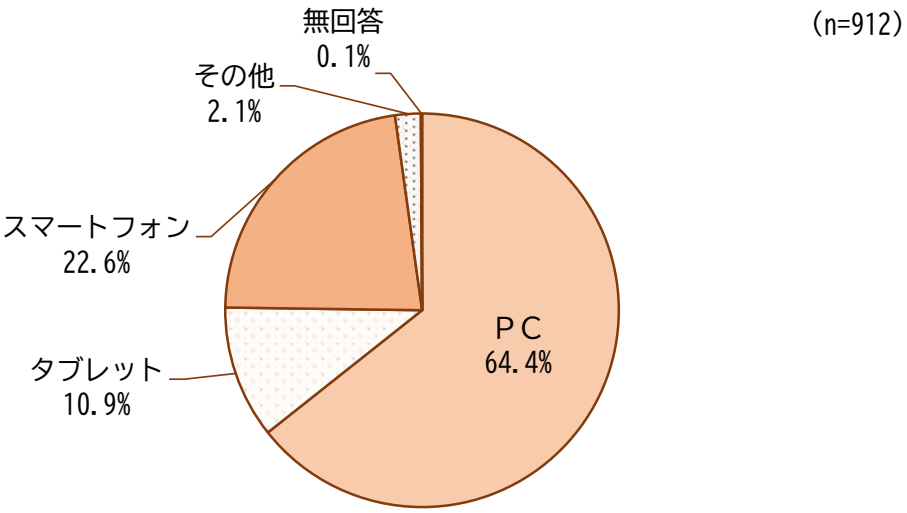
●授業を受ける時の通信環境

授業を受ける時の通信環境について、「自宅Ｗｉ-Ｆｉ」が７５．５％と最も多く、Ｗｉ-Ｆｉ環境の人の割合（「公衆Ｗｉ-Ｆｉ」「自宅Ｗｉ-Ｆｉ」「ポケットＷｉ-Ｆｉ」の合計）は８６．７％となっている。



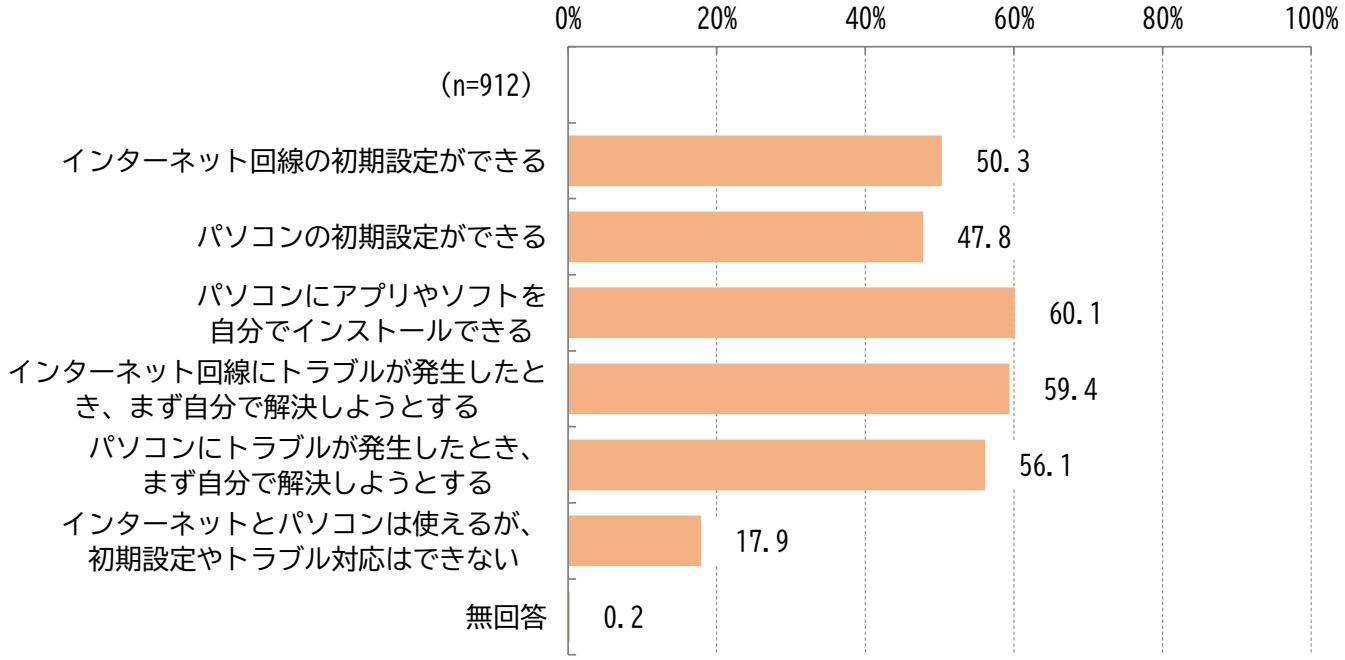
●授業を受ける時に主に使用する機器

授業を受ける時に主に使用する機器について、「ＰＣ」が６４．４％と最も多く、次いで「スマートフォン」が２２．６％、「タブレット」が１０．９％となっている。



●回答者のＩＴスキル（ＰＣの設定とトラブル解決）

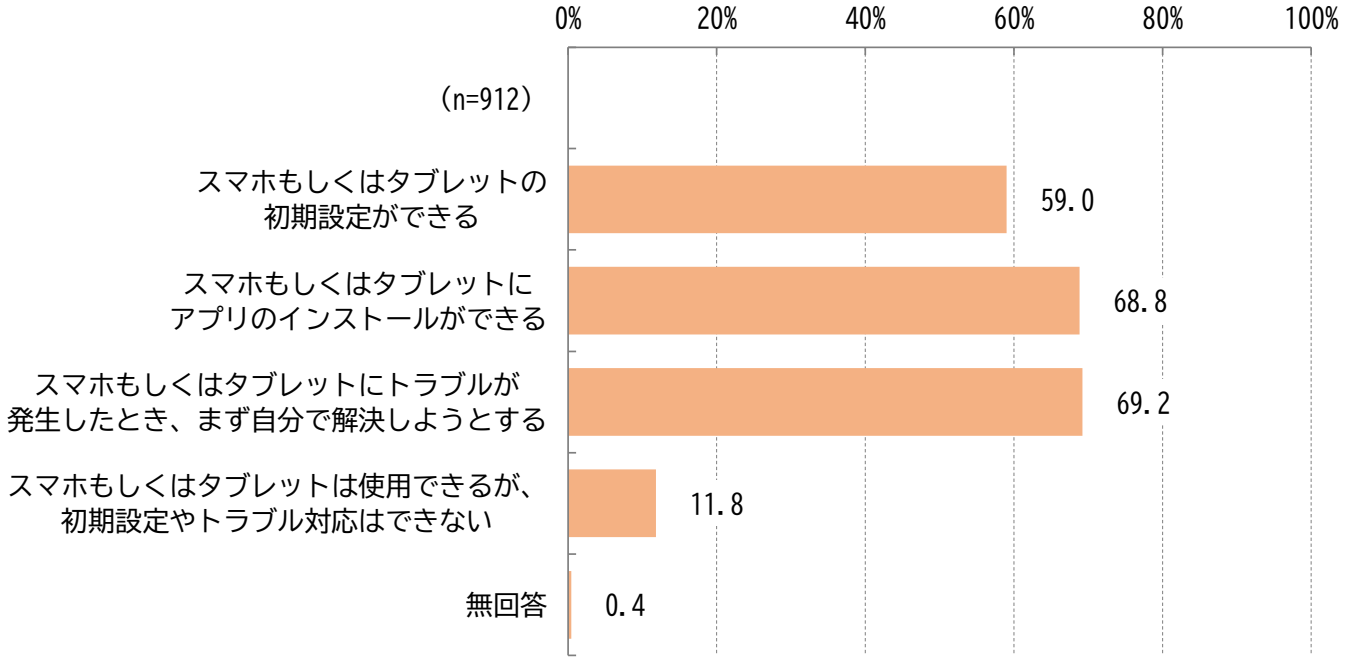
回答者のＩＴスキル（ＰＣの設定とトラブル解決）について、インターネットやパソコンの初期設定やトラブル対応を５割弱から約６割の人ができると回答している一方、できない人は２割弱となっている。



●回答者のＩＴスキル（スマートフォン・タブレットの設定とトラブル解決）

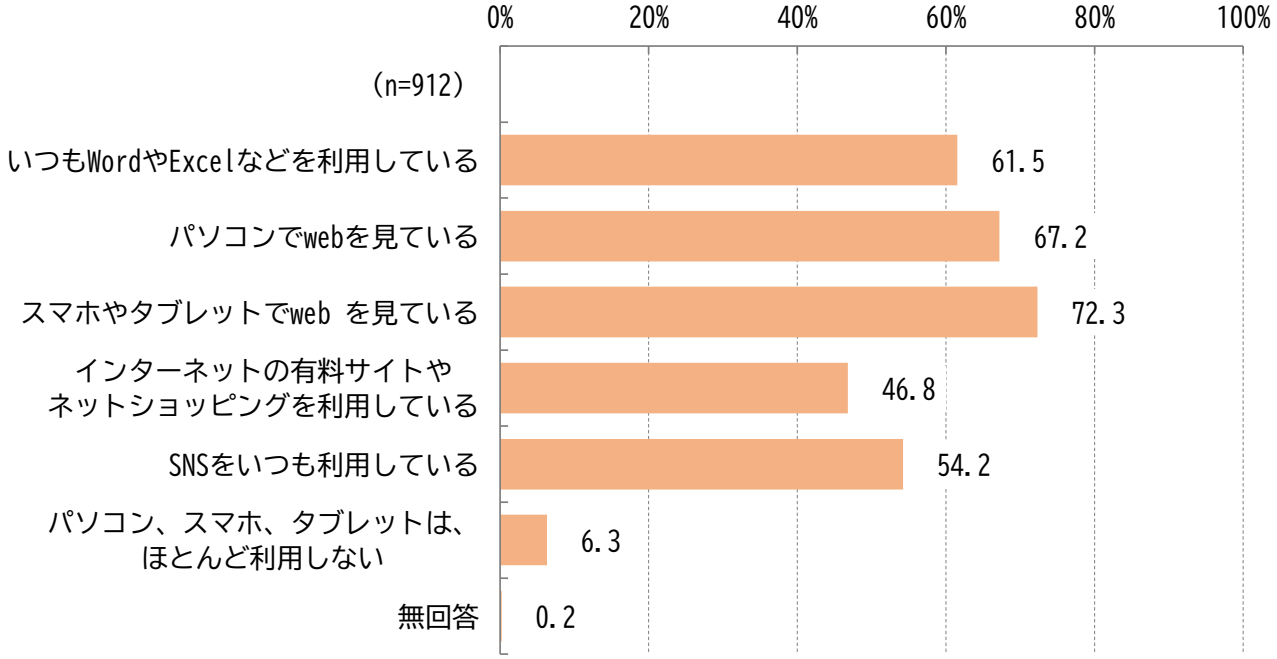
回答者のＩＴスキル（スマートフォン・タブレッの設定とトラブル解決）について、スマホもしくはタブレットの初期設定やトラブル対応を約６割から約７割の人ができると回答している一方、できない人は１割強となっている。

ＰＣよりもスマートフォン・タブレットの設定やトラブル解決に関するＩＴスキルを持っている人の方が多くなっていることがわかる。



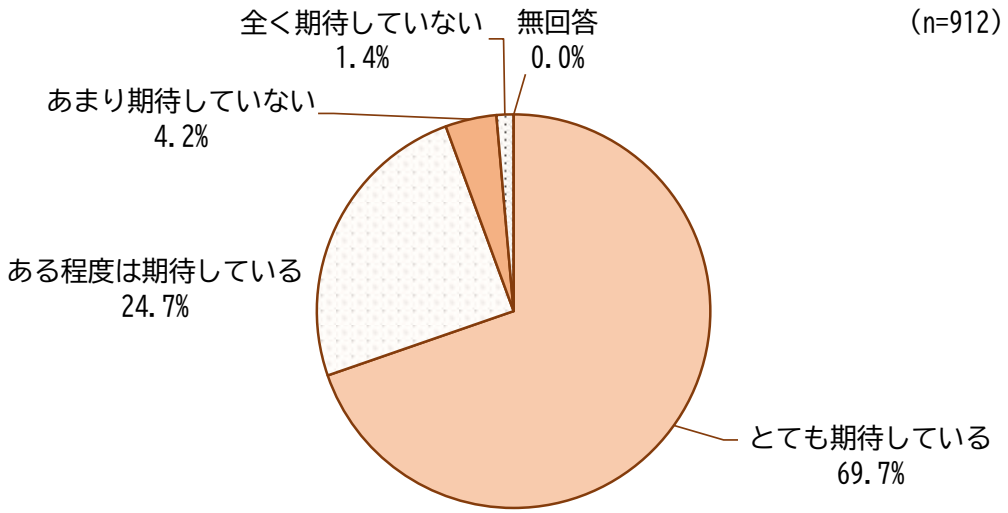
●ＩＴの利用状況

ＩＴの利用状況について、パソコンまたはスマホやタブレットでＷｅｂを見ている人が７割弱から７割強となっている。一方、「パソコン、スマホ、タブレットは、ほとんど利用しない」は６．３％となっている。



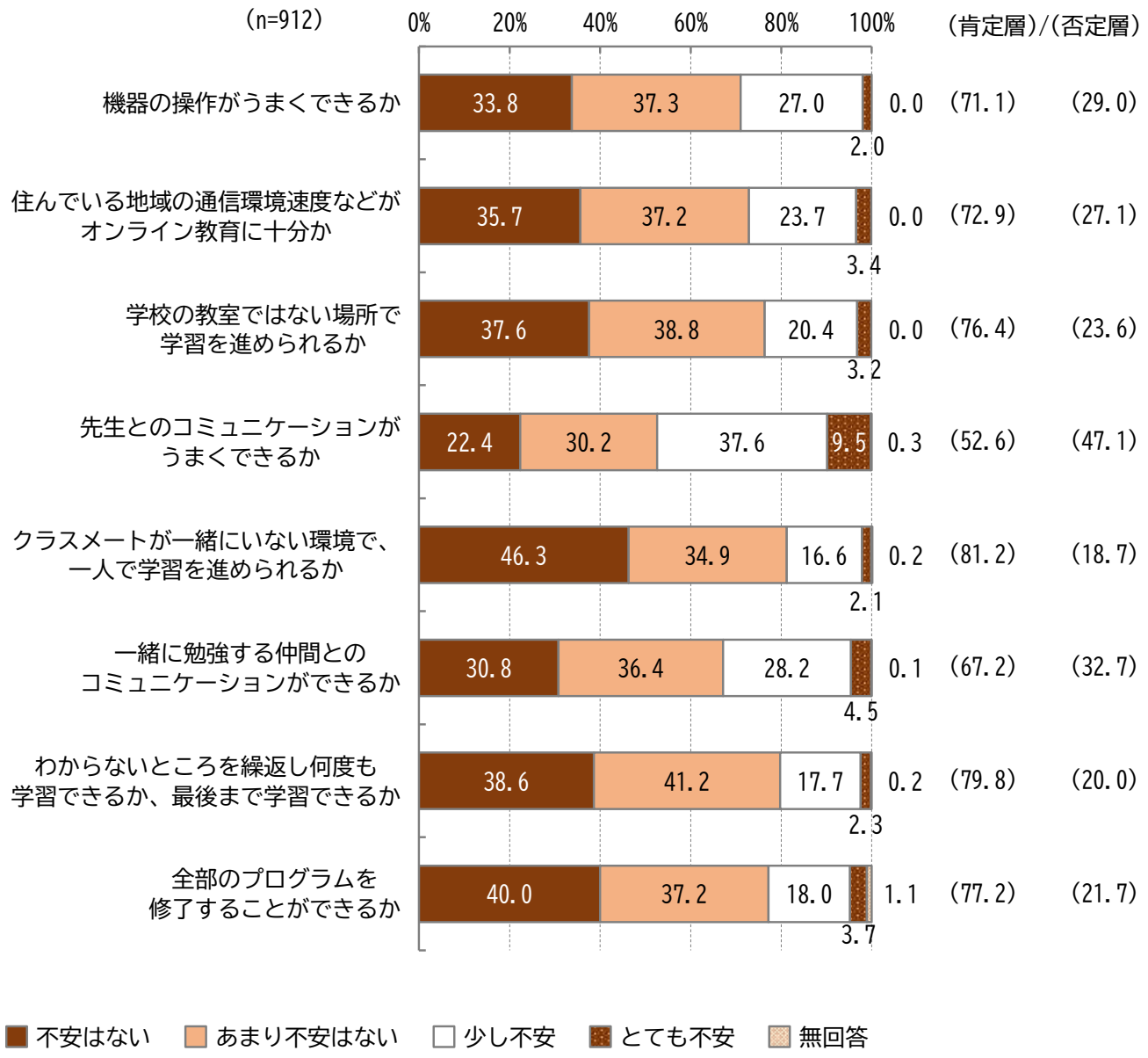
●今回のオンライン授業の授業に対する期待

今回のオンライン授業の授業に対する期待について、“期待している”（「とても期待している」「ある程度は期待している」の合計）が９割半ばとなっており、多くの受講者が期待していると伺える。



●オンライン授業の授業を受ける時の不安度合い

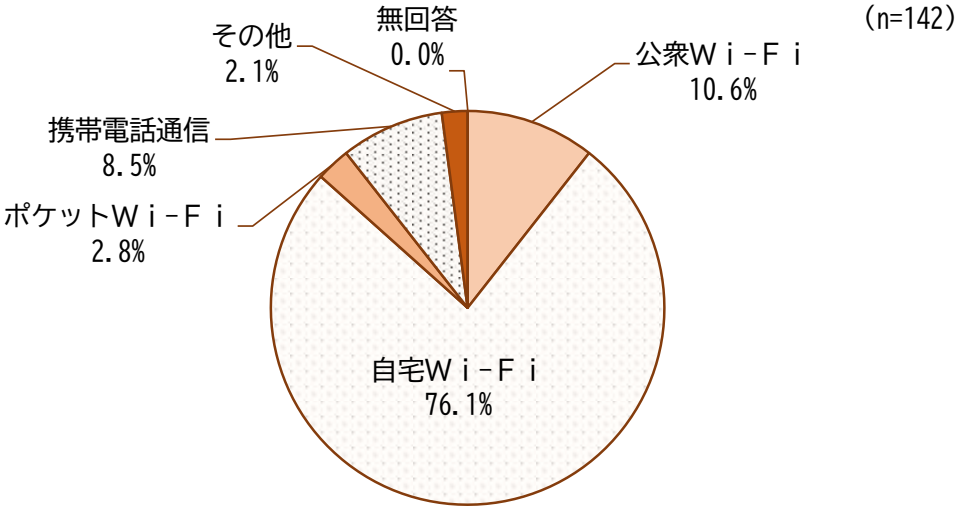
オンライン授業の授業を受ける時の不安度合いについて、不安と回答した“否定層”の割合（「少し不安」「とても不安」の合計）に着目すると、「先生とのコミュニケーションがうまくできるか」が４７．１％と最も高く、次いで「一緒に勉強する仲間とのコミュニケーションができるか」が３２．７％となっており、先生や仲間とのコミュニケーションに不安を抱く受講者が多いことが伺える。



③事後アンケート調査結果

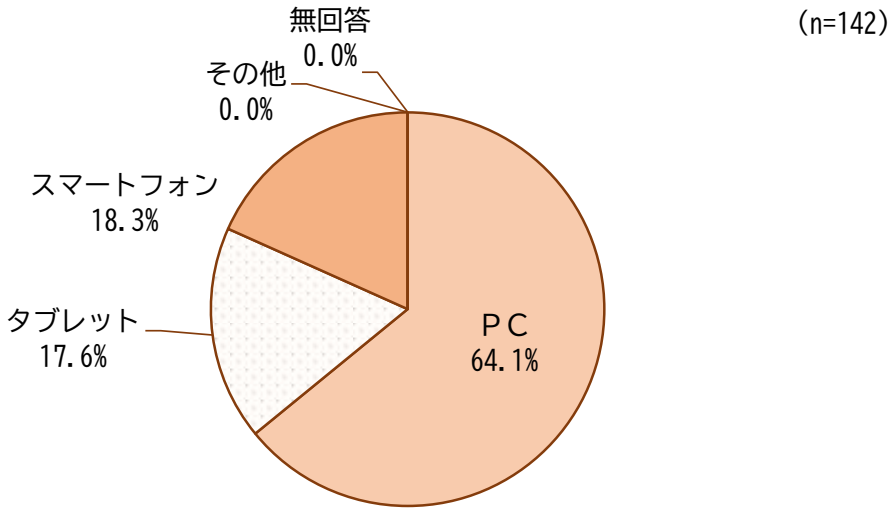
●授業を受ける時の通信環境

授業を受ける時の通信環境について、「自宅Ｗｉ-Ｆｉ」が７６．１％（事前は７５．５％）と最も多く、Ｗｉ-Ｆｉ環境の人の割合（「公衆Ｗｉ-Ｆｉ」「自宅Ｗｉ-Ｆｉ」「ポケットＷｉ-Ｆｉ」の合計）は８９．５％（事前は８６．７％）となっている。



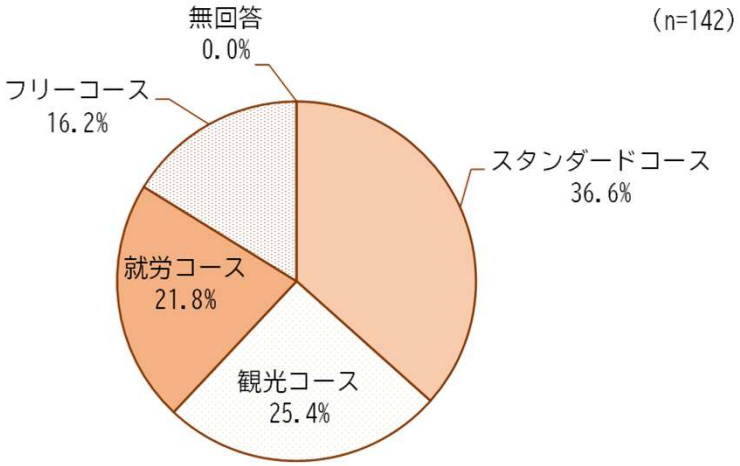
●授業を受ける時に主に使用する機器

授業を受ける時に主に使用する機器について、「ＰＣ」が６４．１％（事前は６４．４％）と最も多く、次いで「スマートフォン」が１８．３％（事前は２２．６％）、「タブレット」が１７．６％（事前は１０．９％）となっており、タブレットがやや増えている。



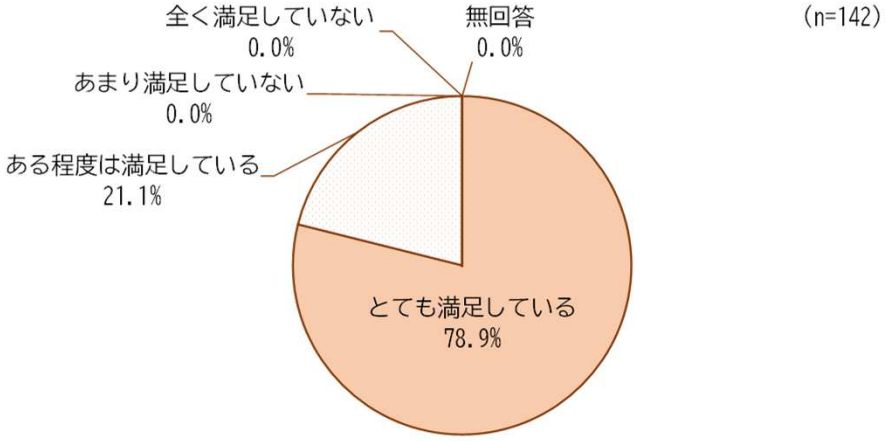
●受講したコース

受講したコースについて、「スタンダートコース」が３６．６％と最も多く、次いで「観光コース」が２５．４％、「就労コース」が２１．８％、「フリーコース」が１６．２％となっている。



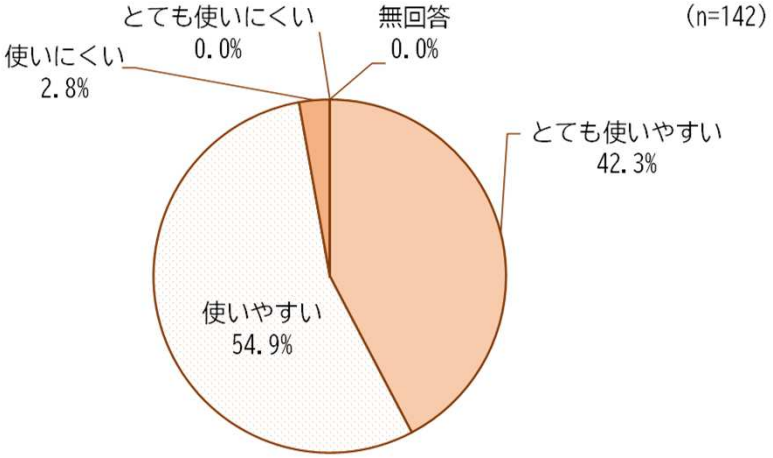
●今回のオンライン授業の授業に対する満足度

今回のオンライン授業の授業に対する満足度について、“満足している”（「とても満足している」「ある程度は満足している」の合計）が１００％となっており、全ての受講者が満足していると伺える。



●授業で利用したＬＭＳの使いやすさ

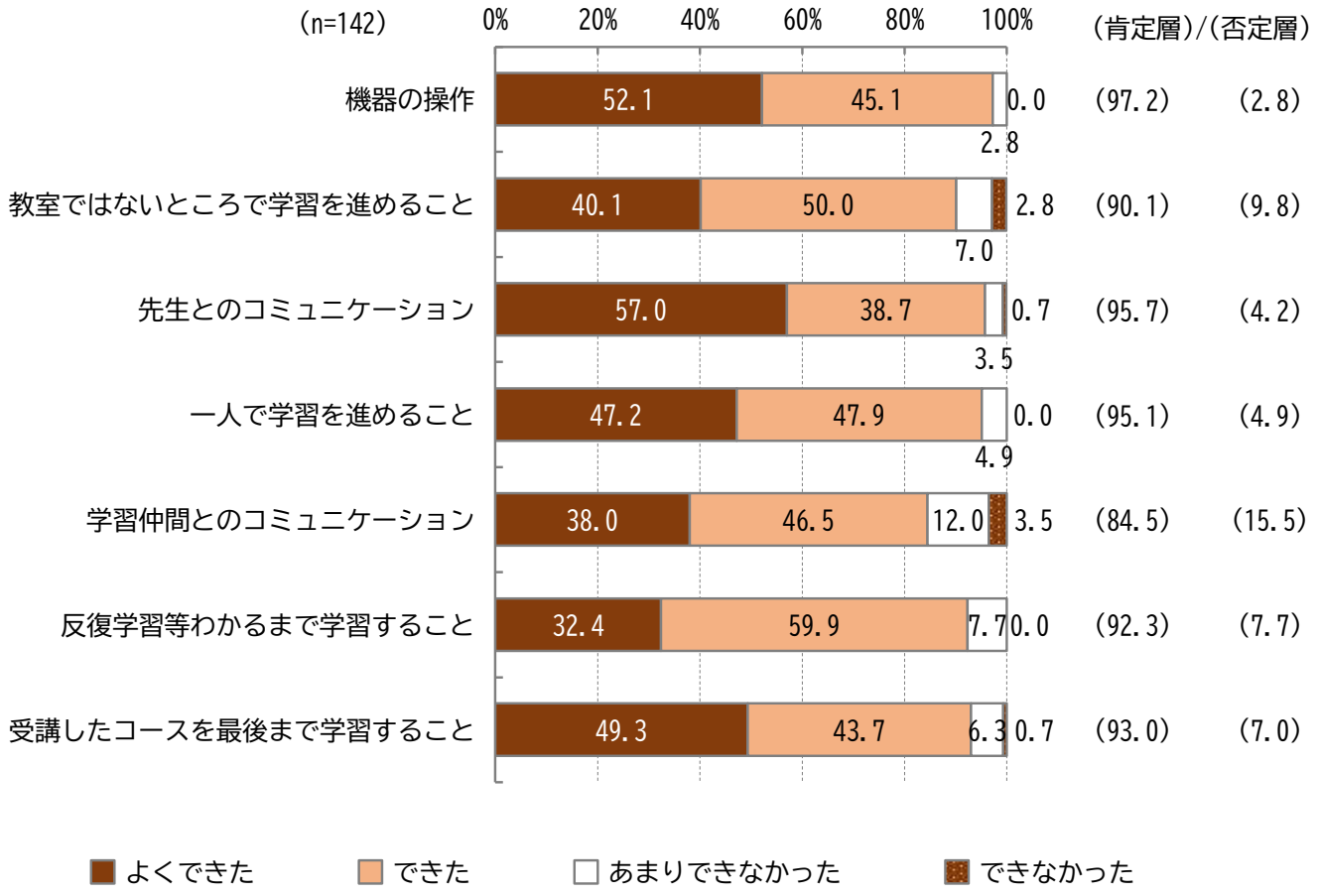
授業で利用したＬＭＳの使いやすさについて、“使いやすい”（「とても使いやすい」「使いやすい」の合計）が９７．２％となっており、ほとんどの受講者にとってＬＭＳが使いやすかったと伺える。



●今回のオンライン授業においてできたこと

今回のオンライン授業においてできたことについて、できたと回答した“肯定層”の割合（「よくできた」「できた」の合計）に着目すると、「学習仲間とのコミュニケーション」を除き、全ての項目で９割を超えている。

事前調査では最も不安を抱く人が多かった「先生とのコミュニケーション」は、“肯定層”が９５．７％となっており、不安が解消されたことが伺える。

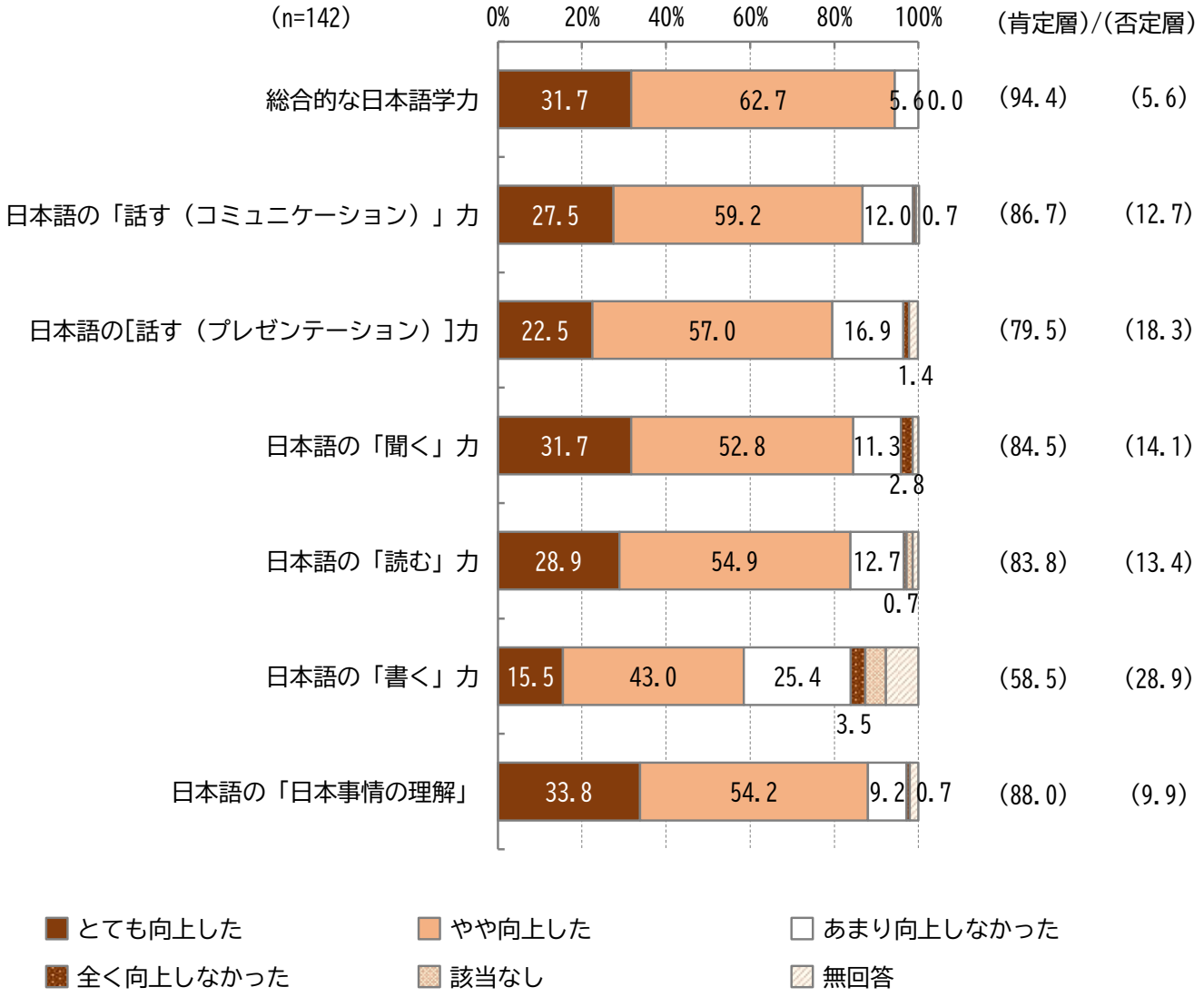


●選んだコースで授業を受けて日本語の力がどのくらい向上したかどうか

選んだコースで授業を受けて日本語の力がどのくらい向上したかどうかについて、向上したと回答した“肯定層”の割合（「とても向上した」「やや向上した」の合計）に着目すると、「総合的な日本語学力」が９４．４％と最も多く、次いで「日本語の「日本事情の理解」」が８８．０％となっている。一方、「日本語の「書く」力」は“肯定層”の割合が５８．５％と最も少なくなっている。話す、読む、聞く力の方が、書く力よりも向上していることが伺える。

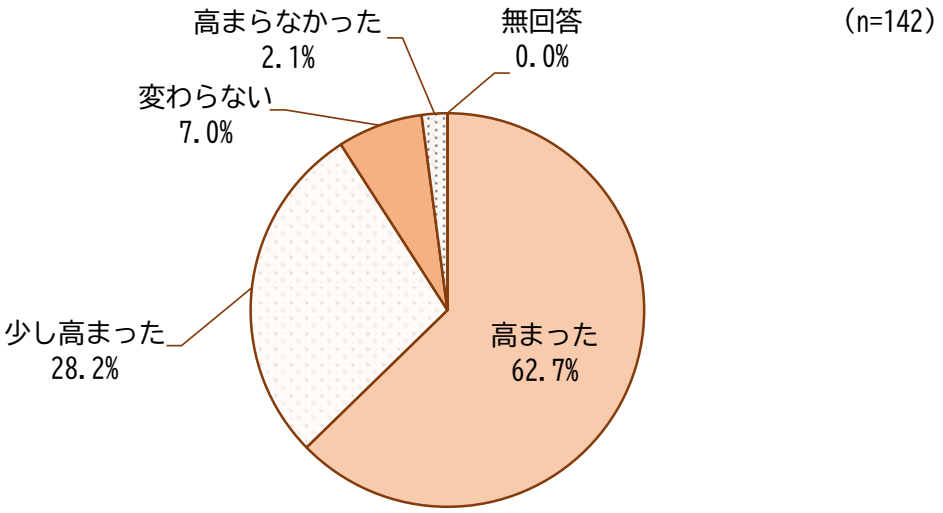
受講したコースの良いところとしては、「先生が丁寧にわかりやすく教えてくれた」「観光コースでは日本の観光地や旅行時の表現、名物や土産など日本の文化的側面を含め学ぶことができた」などの回答があげられた。

一方、悪いところとしては、「電波や通信の問題で再生時に動画がうまく映らなかった時があった」「動画の内容が難しくあまり聞き取れなかった」などの回答があげられた。



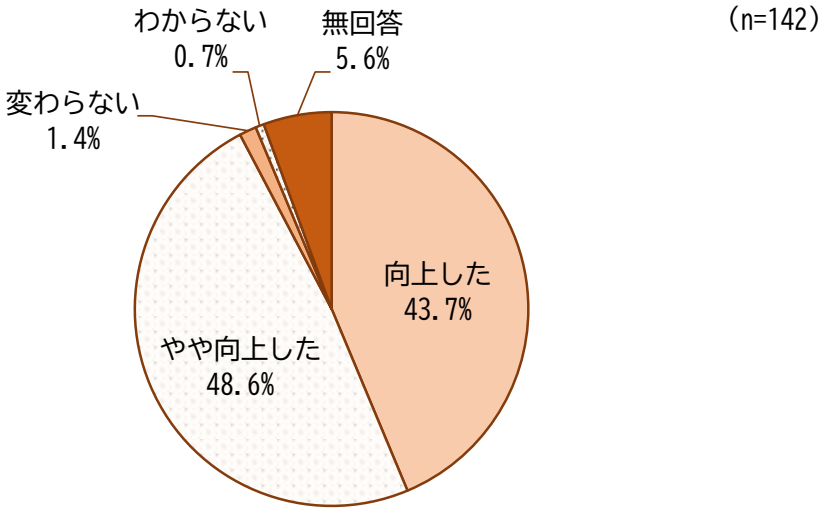
●オンライン授業を受けての日本留学の気持ち

オンライン授業を受けての日本留学の気持ちについて、“高まった”人の割合（「高まった」「少し高まった」の合計）は９０．９％となっており、オンライン授業が日本留学への気持ちをより高めることに寄与したことがうかがえる。



●オンライン授業を受けての日本語の能力

オンライン授業を受けての日本語の能力について、“向上した”人の割合（「向上した」「やや向上した」の合計）は９２．３％となっており、前述した「総合的な日本語学力」が向上したと回答した人の割合（９４．４％）とほぼ同じことがわかる。



●オンライン授業の継続意向と日本語学習の継続意向

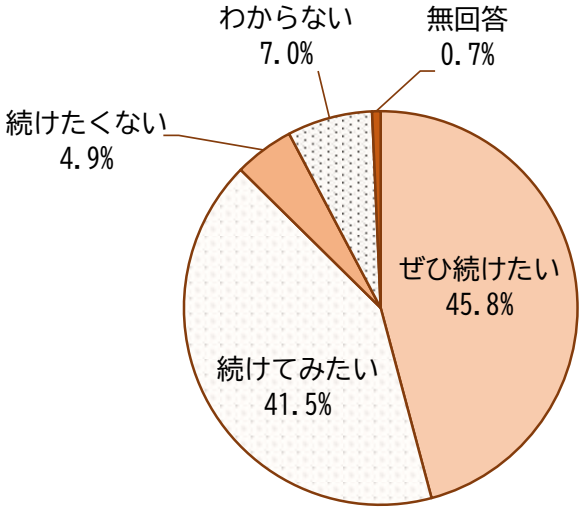
オンライン授業の継続意向（上グラフ）について、“続けたい”人の割合（「ぜひ続けたい」「続けてみたい」の合計）は８７．３％、日本語学習の継続意向（下グラフ）について、“続けたい”人の割合（「ぜひ続けたい」「続けてみたい」の合計）は９３．７％となっており、９割前後の受講者が継続に前向きになっていることがうかがえる。

オンライン授業を「ぜひ続けたい」または「続けてみたい」と回答した人の理由をみると、「オンライン授業はコミュニケーションが取れておもしろい」「時間がとても自由」「以前から日本語をオンライン授業で受けており、オンラインで学ぶことが好きだから」「近々日本を離れるためオンライン授業しか受講できないから」などがあげられた。

日本語学習の継続意向「ぜひ続けたい」または「続けてみたい」と回答した人の理由をみると、「日本語がうまくなりたい」「進学したいから」「就職したいから」などがあげられた。

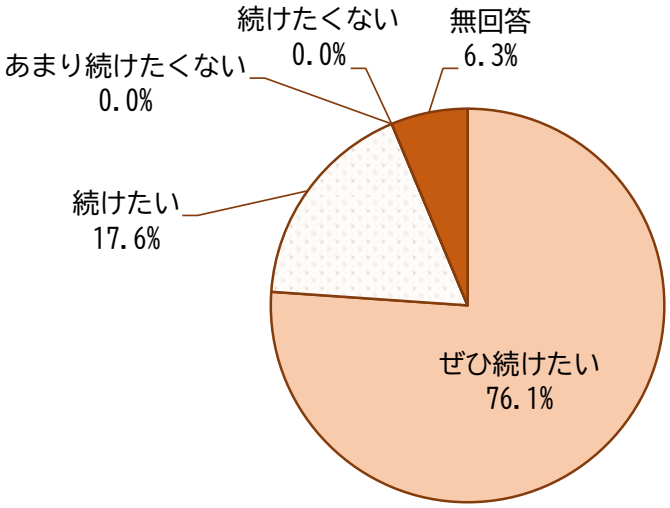
●オンライン授業の継続意向

（n=142）



●日本語学習の継続意向

（n=142）



２）日本語教師による評価（アンケート）

①調査項目

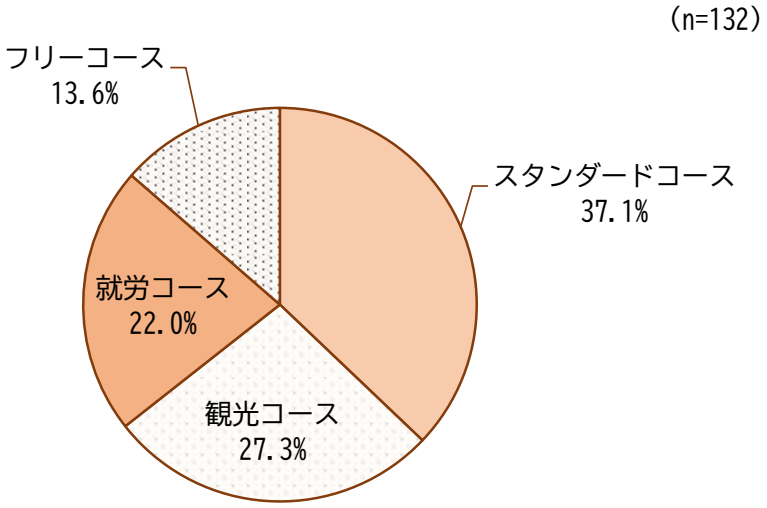
日本語教師を対象とし、当事業の前後でオンライン授業への期待や不安、満足度や成果を把握することを目的としたアンケート調査を実施した。項目は下の通りである。

事前	事後
• オンラインでの授業経験 • オンライン授業への期待 • オンライン授業への不安	• オンライン授業への満足度 • オンライン授業への不安の解消状況 • ＬＭＳやオンライン教材等の使いやすさ • オンライン授業の成果

②事前アンケート調査結果

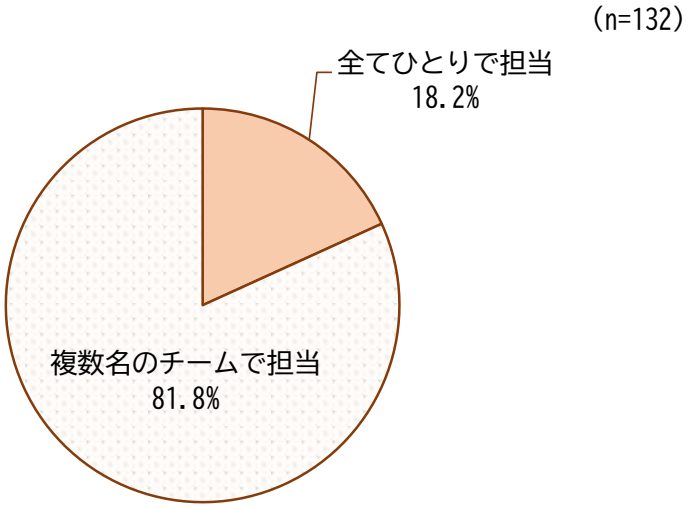
●受け持つ予定のコース

受け持つ予定のコースについて、「スタンダートコース」が３７．１％と最も多く、次いで「観光コース」が２７．３％、「就労コース」が２２．０％、「フリーコース」が１３．６％となっている。



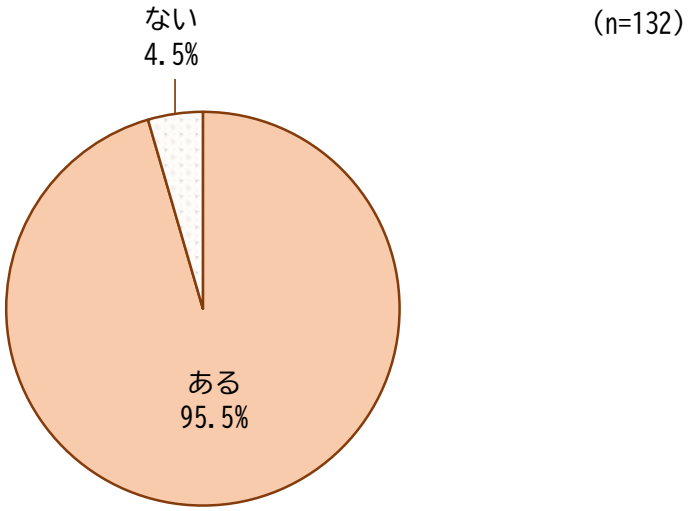
●受け持つクラスの分担量

受け持つクラスの分担量（上グラフ）について、「全てひとりで担当」が１８．２％、「複数名のチームで担当」が８１．８％となっている。



●過去のオンラインによる授業経験

過去のオンラインによる授業経験について、「ある」が９５．５％、「ない」が４．５％となっており、わずかながら経験のない教師が一定数認められる。

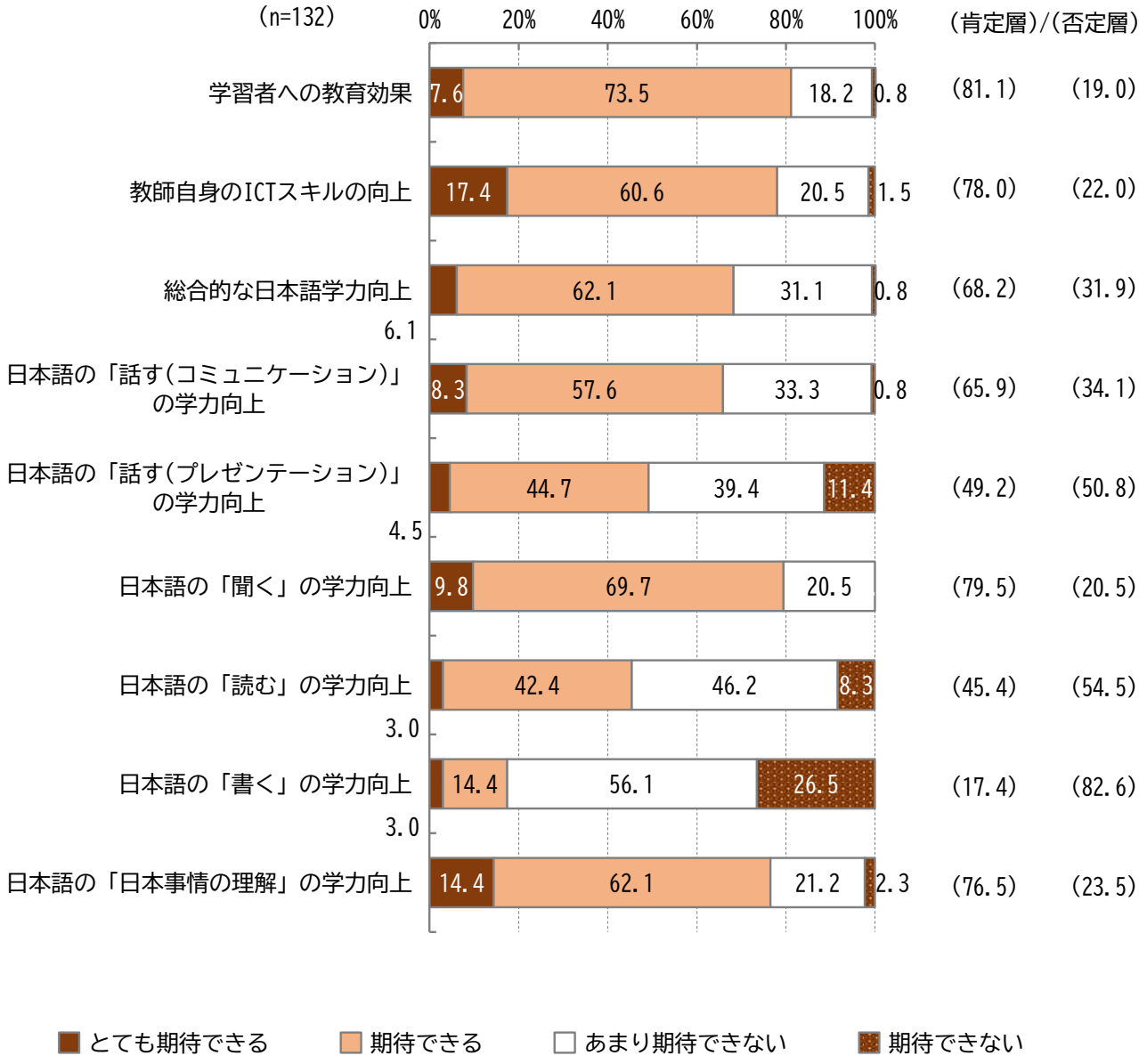


●今回のオンライン授業に対する期待度合い

今回のオンライン授業に対する期待度合いについて、期待できると回答した“肯定層”の割合（「とても期待できる」「期待できる」の合計）に着目すると、「受講者への教育効果」が８１．１％と最も多く、次いで「日本語の「聞く」の学力向上」が７９．５％、「総合的な日本語学力向上」が６８．２％、「日本語の「話す(コミュニケーション)」の学力向上」が６５．９％となっている。

一方、「日本語の「書く」の学力向上」は１７．４％と最も少なくなっており、あまり期待されていないことがうかがえる。

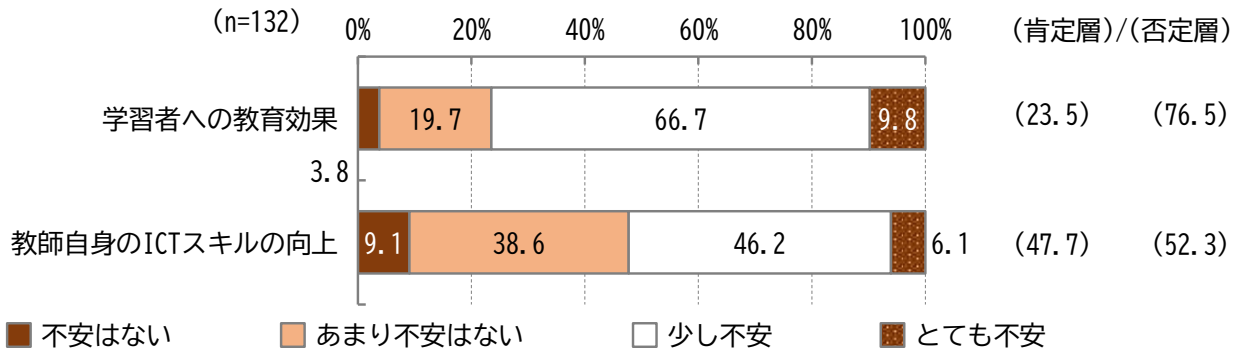
今回のオンライン授業に対する期待することとしては、「海外の受講者が日本からのオンライン授業を受けることで勉強や留学のモチベーションが高まること」「今まで留学できない経済状況や環境にあった学生にも日本語を学ぶチャンスが与えられること」「常に画面に顔が映っているため受講者の表情がよくわかること」などの回答があげられた。



●オンライン授業の不安度合い

オンライン授業の不安度合いについて、不安と回答した“否定層”の割合（「少し不安」「とても不安」の合計）に着目すると、「受講者への教育効果」が７６．５％、「教師自身のＩＣＴスキルの向上」が５２．３％となっている。

オンライン授業の不安としては、「インターネット環境が良くない可能性があること」「受講者のデバイス環境が一定ではないため授業をコントロールしづらいかもしれない」「対面と比べて相手の反応がわかりにくいのではないか」などの回答があげられた。

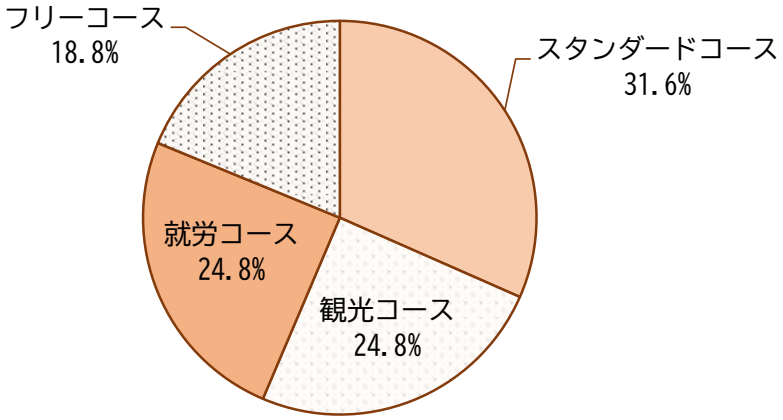


③事後アンケート調査結果

●受け持ったコース

受け持ったコースについて、「スタンダートコース」が３１．６％と最も多く、次いで「観光コース」と「就労コース」が２４．８％、「フリーコース」が１８．８％となっている。

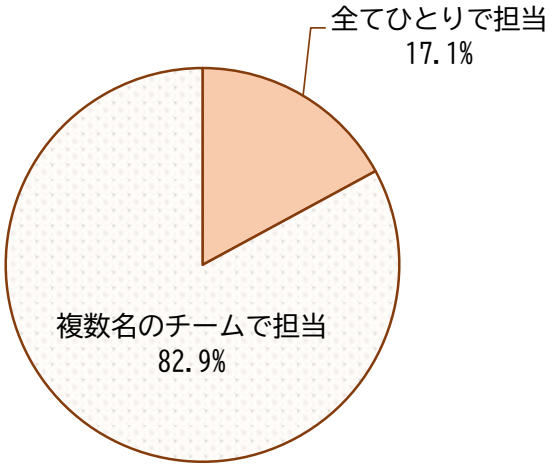
（n=117）



●受け持ったクラスの分担量

受け持ったクラスの分担量について、「全てひとりで担当」が１７．１％、「複数名のチームで担当」が８２．９％となっている。

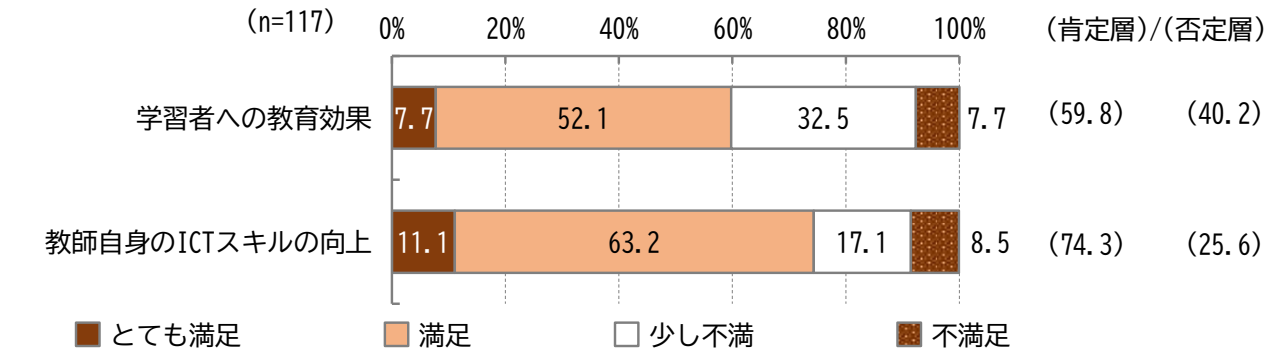
（n=117）



●オンライン授業による教育効果と教師自身のＩＣＴスキル向上への満足度

オンライン授業による教育効果と教師自身のＩＣＴスキル向上への満足度について、満足と回答した“肯定層”の割合（「とても満足」「満足」の合計）に着目すると、「受講者への教育効果」が５９．８％、「教師自身のＩＣＴスキルの向上」が７４．３％となっている。

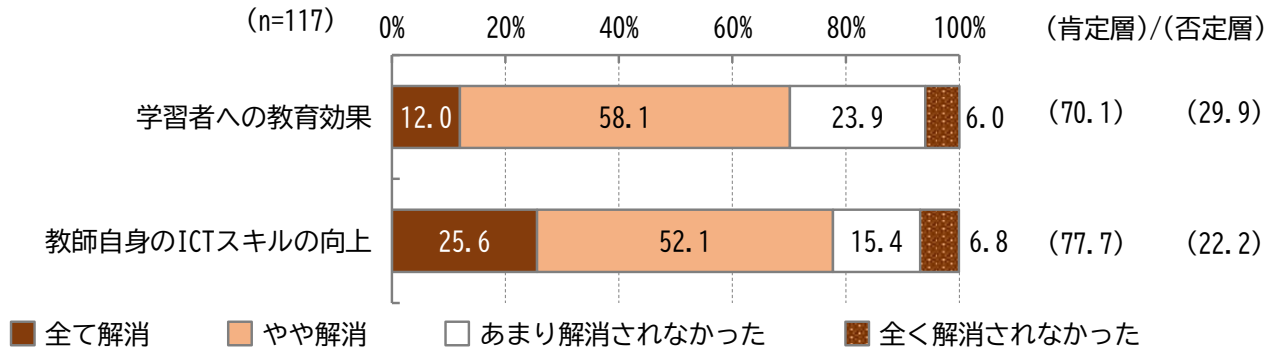
オンライン授業のその他の成果としては、「教師感のコミュニケーションが活発になった」「教師自身がオンライン授業のやり方を習得できた」など、受講者の日本語能力の向上以外に、教師自身にとってのメリットもあることがうかがえる。



●オンライン授業による教育効果と教師自身のＩＣＴスキル向上への不安解消度合い

オンライン授業による教育効果と教師自身のＩＣＴスキル向上への不安解消度合いについて、解消と回答した“肯定層”の割合（「全て解消」「やや解消」の合計）に着目すると、「受講者への教育効果」が７０．１％、「教師自身のＩＣＴスキルの向上」が７７．７％となっている。

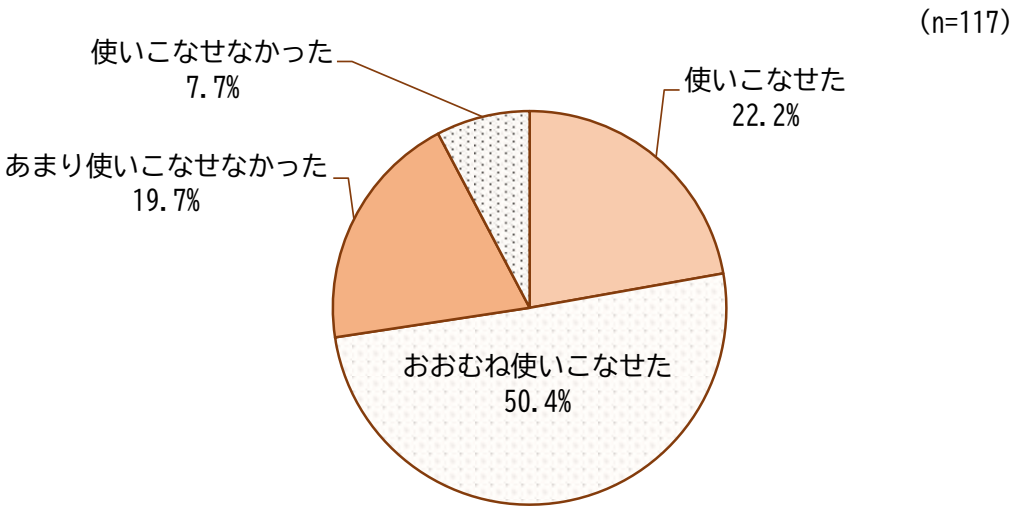
オンライン授業に対する不安が解消されたこととしては、「受講者の生活環境によって動画視聴ができないケースもあったが、全くついていけないというわけではなかった」「教材の扱いに不安を抱いていたが、それほど問題なく取り組めた」「受講者間の日本語能力の差が不安だったが、同じ国籍の人同士で助け合ってもらいながら良い雰囲気で授業ができた」などの回答があげられた。



●今回のオンライン授業で用いたＬＭＳを使いこなせたかどうか

今回のオンライン授業で用いたＬＭＳを使いこなせたかどうかについて、使いこなせたと回答した人の割合（「使いこなせた」「おおむね使いこなせた」の合計）は７２．６％となっている。

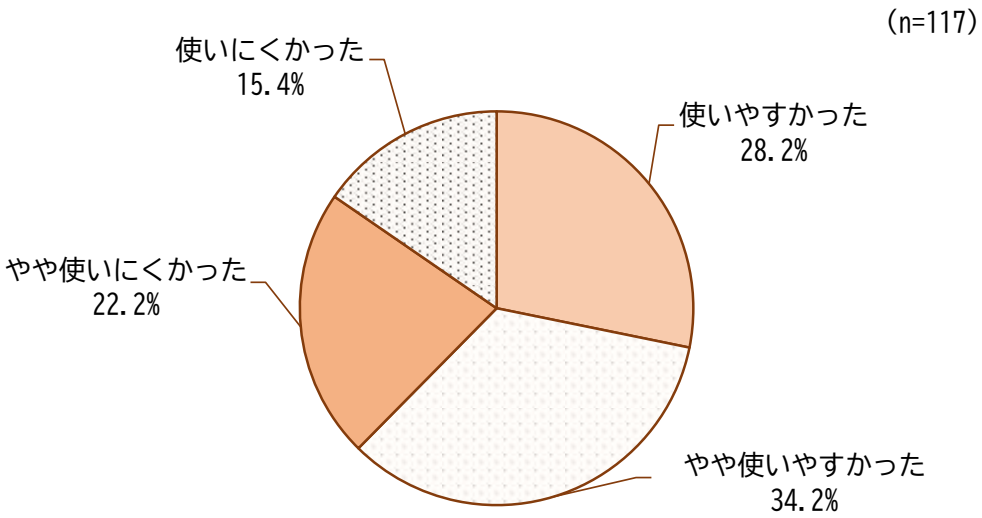
ＬＭＳを用いたオンライン授業についての改善点としては、「教師ページと受講者ページをわかりやすく区別する」「動画の閲覧回数制限はない方が良い」「スムーズにｐｐｔが使えない」などの回答があげられた。



●今回使用したオンライン教材・副教材が使いやすいかどうか

今回使用したオンライン教材・副教材が使いやすいかどうかについて、使いやすかったと回答した人の割合（「使いやすかった」「やや使いやすかった」の合計）は６２．４％となっている。

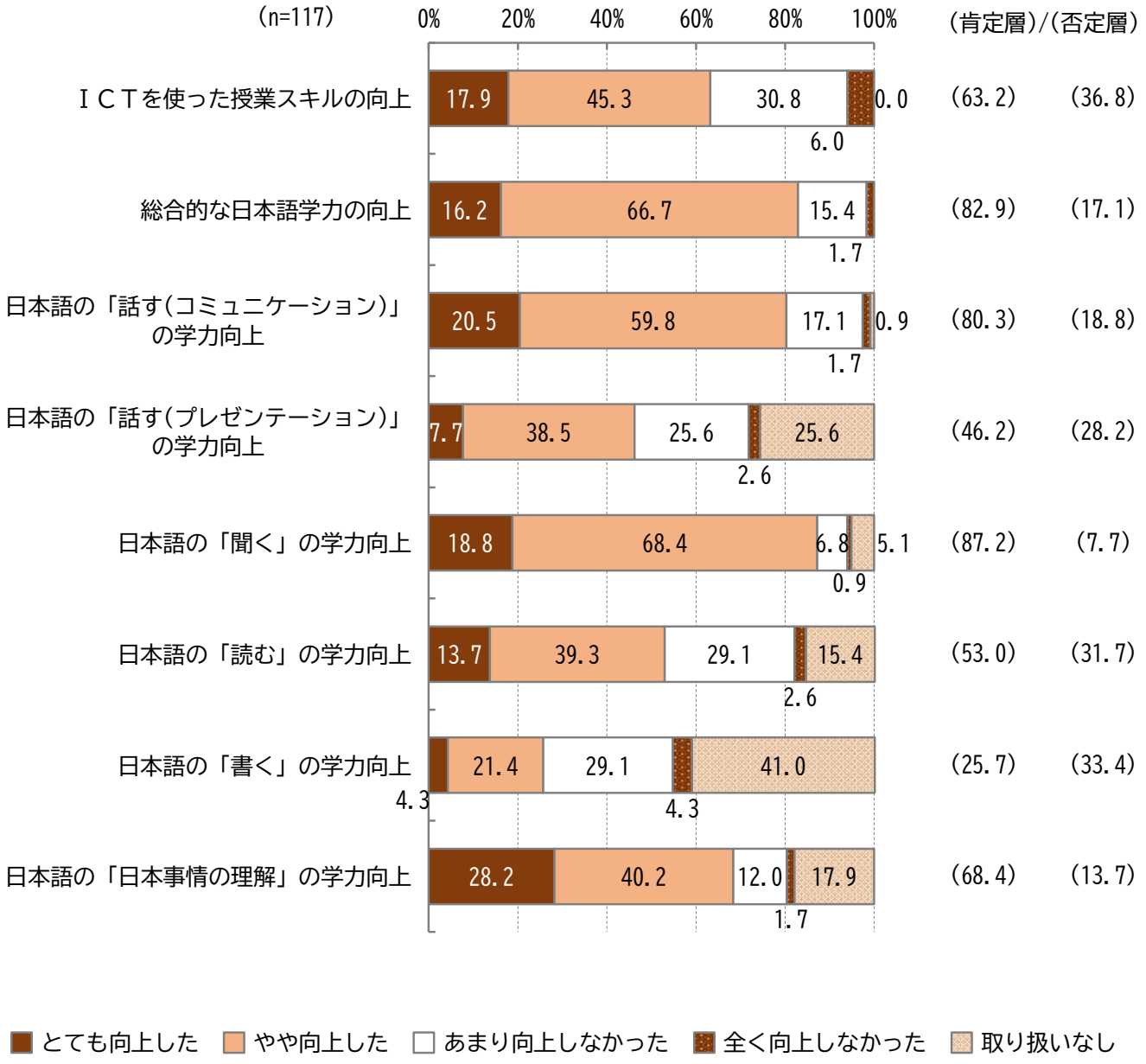
教材・副教材についての改善点としては、「写真・イラストを多くする」「内容が難しすぎる」などの回答があげられた。



●今回のオンライン授業による能力向上

今回のオンライン授業による能力向上について、向上したと回答した“肯定層”の割合（「とても向上した」「やや向上した」の合計）に着目すると、「日本語の「聞く」の学力向上」が８７．２％と最も多く、次いで「総合的な日本語学力の向上」が８２．９％、「日本語の「話す(コミュニケーション)」の学力向上」が８０．３％となっている。

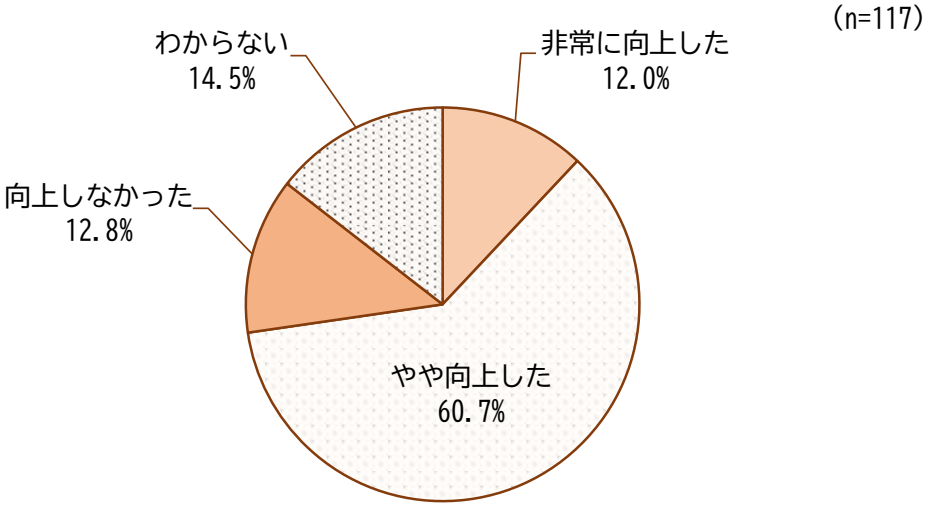
一方、「日本語の「書く」の学力向上」は２５．７％と最も少なくなっており、事前に期待できると回答した“肯定層”の割合が１７．４％と低かったことから、他の能力と比べて期待値も成果も低いことが認められる。



●当事業を通じて日本語教師の教授能力・スキルが向上したか

当事業を通じて日本語教師の教授能力・スキルが向上したかについて、向上したと回答した人の割合（「非常に向上した」「やや向上した」の合計）は７２．７％となっている。

日本語の教授能力・スキルの向上について「非常に向上した」または「やや向上した」と回答した人の理由をみると、「オンライン授業の特性を踏まえた授業展開ができたから」「一つのクラスにレベル差のある受講者がいる場合に、語彙コントロールを適宜行い、対応できたから」「オンラインの特性で相当量の情報提供ができたため」などがあげられた。

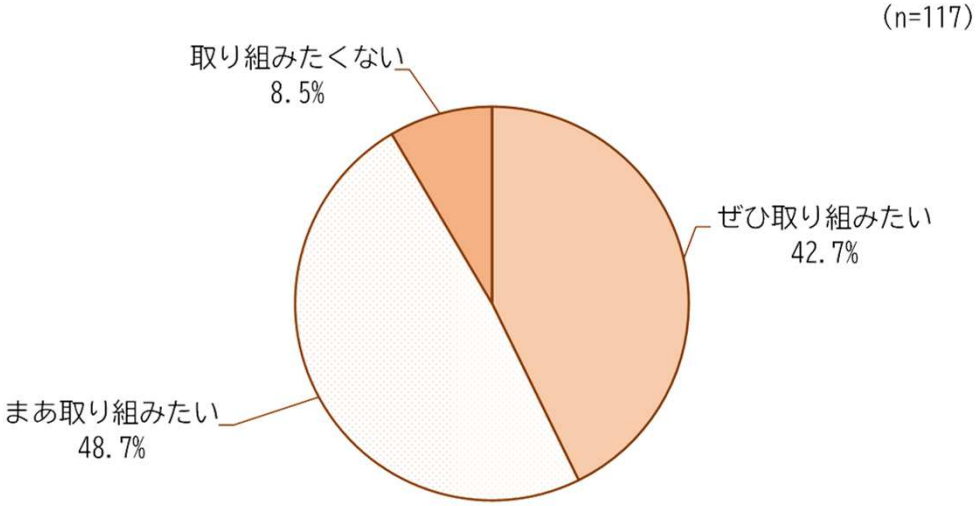


●今後のオンライン授業の継続意向

今後のオンライン授業の継続意向について、取り組みたいと回答した人の割合（「ぜひ取り組みたい」「まあ取り組みたい」の合計）は９１．４％となっている。

「ぜひ取り組みたい」または「まあ取り組みたい」と回答した人の理由をみると、「様々な事情で日本への留学が難しい人はいると思うのでオンライン授業を展開するべき」「コロナだけではなく、世界情勢、経済状況、個々の身体的な理由で来日できない受講者にとってオンライン授業は有益と思うから」「日本語教育機関に入学前、長期休暇中の留学生に授業が行えることは、さらなるビジネスチャンスがあると感じたから」などがあげられた。

「取り組みたくない」と回答した人の理由を見ると、「ＩＣＴ自体は、授業でどんどん利用していきたいが、やはり対面での授業よりも制約が多いため、必要がなければ対面で行っていきたい」「オンライン教育のメリットもあるが、言語を習得するにあたってはやはり対面での授業が効果的だと思う」「機械の操作に気を取られて、授業自体に集中できない。画面を通してだと、受講者の様子をしっかり把握することが難しい」などがあげられた。

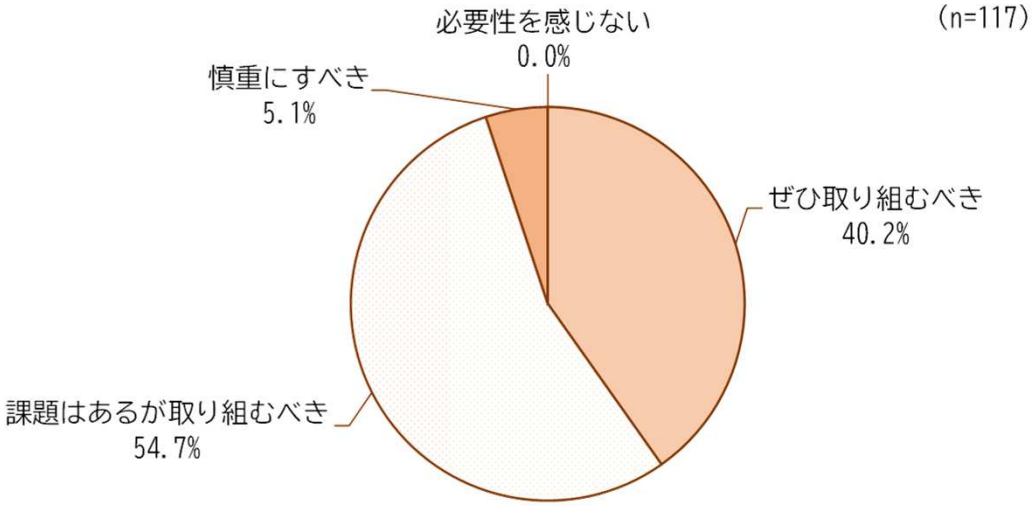


●日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な受講者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきと思うかどうか

日本語教育機関が渡日前の日本語教育をオンラインで実施したり、通学が困難な受講者へのオンラインによる日本語学習機会の提供を今後積極的に取り組むべきと思うかどうかについて、取り組むべきと回答した人の割合（「ぜひ取り組むべき」「課題はあるが取り組むべき」の合計）は９４．９％となっている。

「ぜひ取り組むべき」または「課題はあるが取り組むべき」と回答した人の理由をみると、「日本や日本語に魅力を感じている受講者にＰＲする機会になるから」「せっかく持った日本への興味を通学が難しいことだけで途切れさせたくないから」「通学が困難な受講者へオンライン授業を行うことができれば、日本語の普及がさらに活発になるだけではなく、日本語教育事業もより活発になるから」などがあげられた。

「慎重にすべき」と回答した人の理由をみると、「入国前と入国後の受講者の対応に区分を設けなければ、取り組みが曖昧なものになり、結果として残っていかないと感じる」「余程大規模な教育機関でない限り、日本語教育機関側に余裕がないと思う」などがあげられた。
また、現時点で「慎重にすべき」と回答した人の中で、「人員がいれば取り組むのはよい」「オンライン教育の取り組み自体は教育の機会が増えるため、取り組んでいくべきだと思う。ただ、中には安易にオンライン授業を選択する受講者もいるため、その点は慎重にすべきだと感じる。また、対面での受講者とともに学習する場合、オンラインでのコミュニケーションの取り方に慣れていない受講者は、日本語学習と共に機器操作やリアクションの取り方、教材のやりとりの仕方などを学ばなければならない。そのため学習開始時は、少し易しいクラスから始めた方日本語教師やクラスメートとの良い関係が作れ、その後の学習もスムーズだと思う」といった意見もあげられた。



３）日本語教育機関責任者による評価（アンケート）

①調査項目

日本語教育機関責任者を対象とし、当事業の評価やオンライン授業への意向を把握することを目的としたアンケート調査を実施した。項目は以下の通りである。

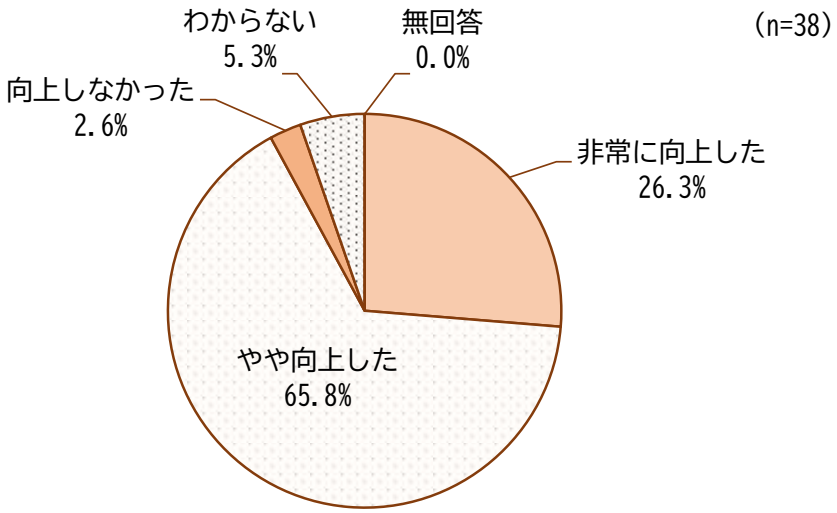
日本語教育機関責任者調査
• 当事業を通じて自身の日本語教師の教授能力・スキルが向上したかとその理由 • 今後のオンライン授業に関する取組意向 • 渡日前や通学困難者に対する日本語教育のオンライン実施意向とその理由

②調査結果

●当事業を通じて日本語教師の教授能力・スキルが向上したか

当事業を通じて日本語教師の教授能力・スキルが向上したかについて、向上したと回答した人の割合（「非常に向上した」「やや向上した」の合計）は９２．１％となっており、当事業に対する前向きな評価が多いことがうかがえる。

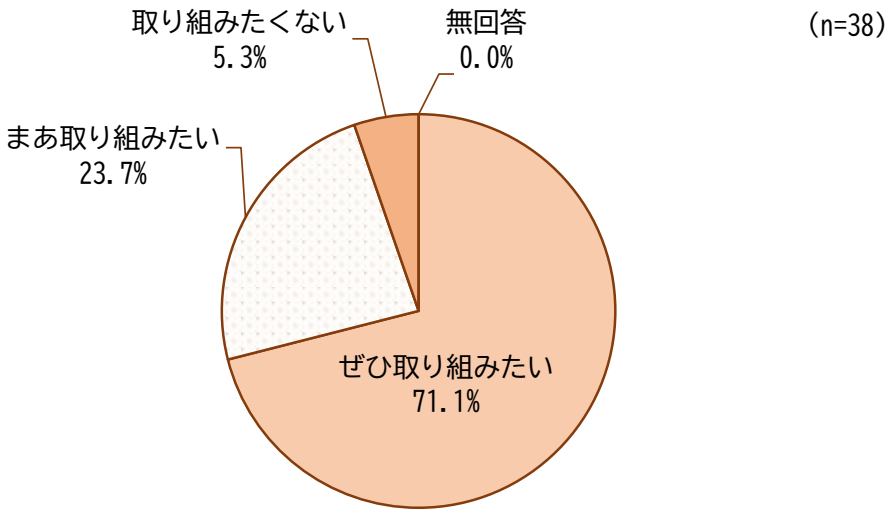
「非常に向上した」または「やや向上した」と回答した人の理由をみると、「当校では実践したことのない反転授業を体験することができたから」「オンライン授業に必要なツールを使いこなし、注意事項や配慮すべき点も習得することができていたから」などがあげられた。



●今後のオンライン授業に関する取組意向

今後のオンライン授業に関する取組意向について、取り組みたいと回答した人の割合（「ぜひ取り組みたい」「まあ取り組みたい」の合計）は９４．８％となっており、オンライン授業に対する実施意向の強さが伺える。

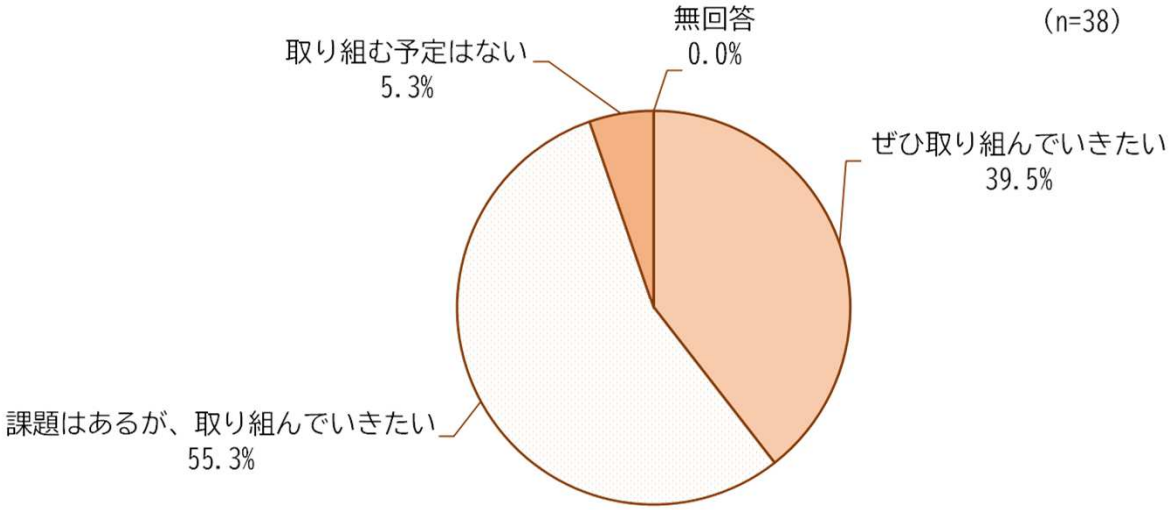
「ぜひ取り組みたい」または「まあ取り組みたい」と回答した人の理由をみると、「来日できない学習希望者に日本語教育を提供できる機会となるから」「遠方の人的リソースとのつながりや情報収集など、教室の枠や制約を超えた活動が可能になったから」などがあげられた。



●渡日前や通学困難者に対する日本語教育のオンライン実施意向

渡日前や通学困難者に対する日本語教育のオンライン実施意向（下グラフ）について、取り組んでいきたいと回答した人の割合（「ぜひ取り組んでいきたい」「課題はあるが、取り組んでいきたい」の合計）は９４．８％となっており、オンライン授業に対する実施意向と同様に実施意向の強さがうかがえる。

「ぜひ取り組んでいきたい」または「課題はあるが、取り組んでいきたい」と回答した人の理由をみると、「日本語教育の裾野を拡げるためにとても効果的だから」「渡日前に日本語の知識をインプットしておいて、来日後にコミュニケーション重視の授業を対面形式で行えばとても効果的な教育が期待できるから」「渡日前に限定して考えると、来日後の受講者の受け入れがスムーズになるから」などがあげられた。



4－1．日本語教師研修

自主事業として実施した日本語教師研修の概要について、以下に示す。

1）目的と研修概要

●オンライン授業での日本語教育の指導スキルのボトムアップを行い、オンライン授業に対応できる日本語教師の裾野を広げる。

●日本語教師が「日本語教育の参照枠」の理論を理解し、学習方法・教え方・評価手法を包括的にとらえたシラバスによりカリキュラム化された研修を実施し、日本語教師のスキル向上を目指す。研修は「理論編」「実践編」の２コース設定し、それぞれ１コマ９０分×１０回の研修とした。

項目	内容
研修内容 特徴	• 学習、教授、評価に係る日本語教育の包括的な枠組みを示す「日本語教育の参照枠」に対する理解を深めるために、理論編・実践編の２コースを設定し、それぞれ全１０回ずつ研修を行った。 • 場所を問わず多くの日本語教師が参加できるよう、オンラインで実施した。 【企画委員所属校】 アークアカデミー/ABK学館/千駄ヶ谷日本語教育研究所
目的・ねらい	• 参加した受講者同士で参照枠を学びあい、様々な学習観、評価観を知り、自らの勤務する日本語教育機関への導入計画やマイスクールCan doを作成して、現場のカリキュラムに活かすことを目指す。 **＜理論編の目的･ねらい＞** 1.「日本語教育の参照枠」の内容を知り、学習、教授、評価に係る包括的な理解を深める。 2. 各自の所属校において、参照枠を活かした日本語教育の基準や目標を定め、導入計画を作成する。 3. 参加した受講者同士の横のつながりを作り、人的リソースを増やす。 **＜実践編の目的･ねらい＞** 1.「日本語教育の参照枠」の内容を知り、学習、教授、評価に係る包括的な理解を深め、活用できるようになる。 2. 各自の所属校において、参照枠を活かした日本語教育の基準や目標を定め、マイスクールCan doを作成する。 3. 参加した受講者同士の横のつながりを作り、人的リソースを増やす。
研修担当	アークアカデミー/千駄ヶ谷日本語教育研究所　日本語教師養成講座日本語教師

2）研修内容

①日本語教師研修の内容

理論編・実践編における各回の研修テーマを以下に示す。

各回の概要

［理論編］

授業回	テーマ
1	オリエンテーション　「日本語教育の参照枠」の現状と課題
2	「日本語教育の参照枠」の構成
3	「日本語教育の参照枠」における日本語能力観
4	漢字を含む文字の扱いについて
5	Ｃａｎ　ｄｏについて
6	「日本語教育の参照枠」の今後に向けた検討課題
7	評価の概念
8	多様な評価方法
9	日本語能力の判定試験
１０	Ｃａｎ　ｄｏをベースにしたカリキュラム開発

［実践編］

授業回	テーマ
1	「日本語教育の参照枠」の概要
2	ルーブリック
3	聴解指導
4	読解指導
5	反転学習
6	口頭表現指導１）
7	口頭表現指導２）
8	作文指導
9	マイスクールＣａｎ　ｄｏ作成１）
１０	マイスクールＣａｎ　ｄｏ作成２）

②日本語教師研修の応募要件

研修の実施にあたっては、以下の応募要件を設定した。

受講対象者	告示校の推薦を受けた専任日本語教員（経験1年以上が望ましい）
講師レベル・条件	日本語教師養成講座講師経験10年以上の講師が担当
実施環境	learningBOX利用（受講生登録、講師登録、出欠管理、成績管理などを実施）
必要備品	PC（カメラ・音声）、通信/事務局からのレンタルなし パワーポイントや資料をダウンロードする必要あり
その他	成果物提出、出席率80%以上の受講生には、修了証授与

・研修受講者の募集は、事業ホームページで行った。

【募集期間】　２０２２年４月２８日（木）～５月２５日（水）

【提出書類】　推薦書

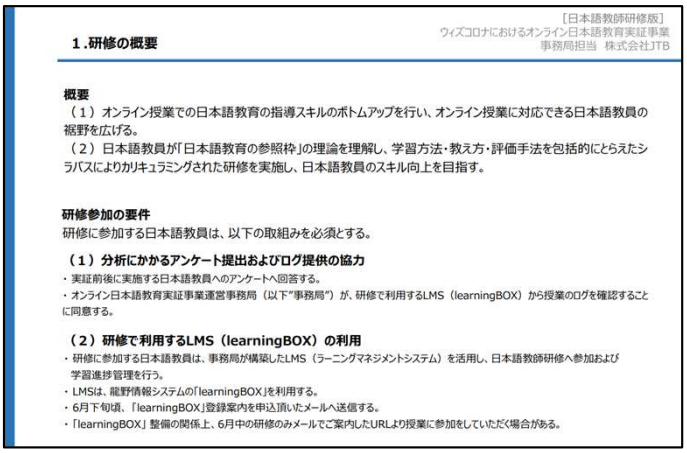
［『日本語教師研修の手引き』より抜粋］

ウィズコロナにおける
オンライン日本語教育実証事業

研修概要・申込の手引き
［日本語教師研修版］

令和4年5月13日版
（Ver.1.1）

【問合せ先】
オンライン日本語教育実証事業運営事務局（株式会社JTB）
メール：onlinenihongo@jtb.com（※土・日曜・祝日は翌営業日以降の対応とさせていただきます。）


1.研修の概要

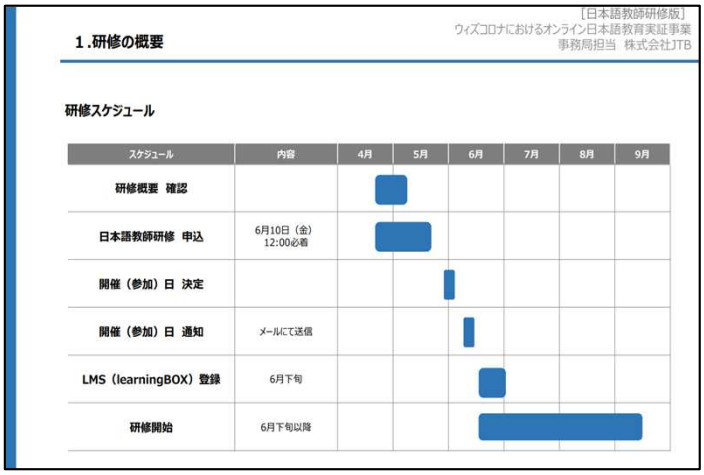
［日本語教師研修版］
ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業
事務局担当　株式会社JTB

概要
（１）オンライン授業での日本語教育の指導スキルのボトムアップを行い、オンライン授業に対応できる日本語教員の裾野を広げる。
（２）日本語教員が「日本語教育の参照枠」の理論を理解し、学習方法・教え方・評価手法を包括的にとらえたシラバスによりカリキュラミングされた研修を実施し、日本語教員のスキル向上を目指す。

研修参加の要件
研修に参加する日本語教員は、以下の取組みを必須とする。

（１）分析にかかるアンケート提出およびログ提供の協力
・実証前後に実施する日本語教員へのアンケートへ回答する。
・オンライン日本語教育実証事業運営事務局（以下"事務局"）が、研修で利用するLMS（learningBOX）から授業のログを確認することに同意する。

（２）研修で利用するLMS（learningBOX）の利用
・研修に参加する日本語教員は、事務局が構築したLMS（ラーニングマネジメントシステム）を活用し、日本語教師研修へ参加および学習進捗管理を行う。
・LMSは、龍野情報システムの「learningBOX」を利用する。
・6月下旬頃、「learningBOX」登録案内を申込頂いたメールへ送信する。
・「learningBOX」整備の関係上、6月中の研修のみメールでご案内したURLより授業に参加をしていただく場合がある。


1.研修の概要

［日本語教師研修版］
ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業
事務局担当　株式会社JTB

研修スケジュール

スケジュール	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月
研修概要　確認							
日本語教師研修　申込	6月10日（金） 12:00必着						
開催（参加）日　決定							
開催（参加）日　通知	メールにて送信						
LMS（learningBOX）登録	6月下旬						
研修開始	6月下旬以降						

日本語教師研修「日本語教育の参照枠理論編・実践編」

概要	目的	「日本語教育の参照枠」を理解し、学習・教授・評価を包括的にることのできる日本語教員の育成を図る。 全体目標 ： 日本語教育の参照枠の理解を深め、日本語教育機関の横のつながりを作り、持続可能な人的リソースを増やす。 理論目標 ： 各自の勤務校において、参照枠を活かした日本語教育の水準や目標を定め、カリキュラム導入計画を作成する。 実践目標 ： 参照枠を活かした日本語教育の水準や目標を定め、マイスクールCan-doを作成する。
	概要・特徴	参加した受講生同士が参照枠を学びあい、様々な学習観、評価観を知り、自らの勤務する学校のマイスクールCan-doを作成して、現場のカリキュラムに活かすことを目指す。
実証内容	手法	オンライン形式（Zoom使用）
	実証期間	【理論編】 R1：6月22日～8月31日 R2：6月24日～9月2日 R3：6月25日～9月3日 ※休講：8月11日～8月17日 【実践編】 J4：7月5日～9月13日 J5：7月7日～9月15日 J6：7月9日～9月17日 ※休講：8月11日～8月17日
	実施頻度・回数	【理論編】週1回　全10回／30名／各クラス R1：水曜クラス　10：00～11：30 R2：金曜クラス　13：30～15：00 R3：土曜クラス　10：00～11：30 【実践編】週1回　全10回／20名／各クラス J4：火曜クラス　10：00～11：30 J5：木曜クラス　13：30～15：00 J6：土曜クラス　13：30～15：00
	使用教材	「日本語教育の参照枠」の報告（文化審議会国語分科会　令和3年10月）、手引書、オリジナル資料
	シラバス概要	【理論編】 日本語教育の参照枠について理解し、その現状と課題を知る 日本語能力観、日本語熟達度の捉え方を理解する 5つの言語活動ごとのCan-do（活動、方略、テクスト、能力）を知る Can-doをベースにしたカリキュラム開発計画の手順を考える 【実践編】 5つの言語活動別に、生活・留学・就労等の活動状況に応じたCan-doを検討する 参照枠を活かした日本語教育の基準や目標を考える 各自の勤務校におけるマイスクールCan-doを作成する
条件	受講対象者	告示校の推薦を受けた専任日本語教師（経験1年以上が望ましい）
	講師レベル・条件	日本語教師養成講座講師経験10年以上の講師が担当
	学習進捗管理等	learningBOXを利用。各受講者へ登録案内を行い、本システムを通じ出欠・成績・学習進捗管理を行う。
	受講者の必要備品	PC（カメラ・音声）、インターネット環境、パワーポイントのダウンロード
	その他の必要事項	成果物提出。出席率80%以上の受講生には、修了証を授与。

【研修者　人数】
募集の結果、各タームごとの受講人数を以下に示す。
※理論編・実践編両方の参加者はそれぞれ１名としてカウントしている。

日本語教育の参照枠　理論編		日本語教育の参照枠　実践編	
Ｒ１（理論　水曜日）	１３名	Ｊ４（実践　火曜日）	１０名
Ｒ２（理論　金曜日）	１５名	Ｊ５（実践　木曜日）	１４名
Ｒ３（理論　土曜日）	７名	Ｊ６（実践　土曜日）	７名

３）日本語教師研修実施スケジュール

日本語教師研修　理論編/実践編はそれぞれ、以下のスケジュールで実施した。

［事務局ホームページより抜粋］

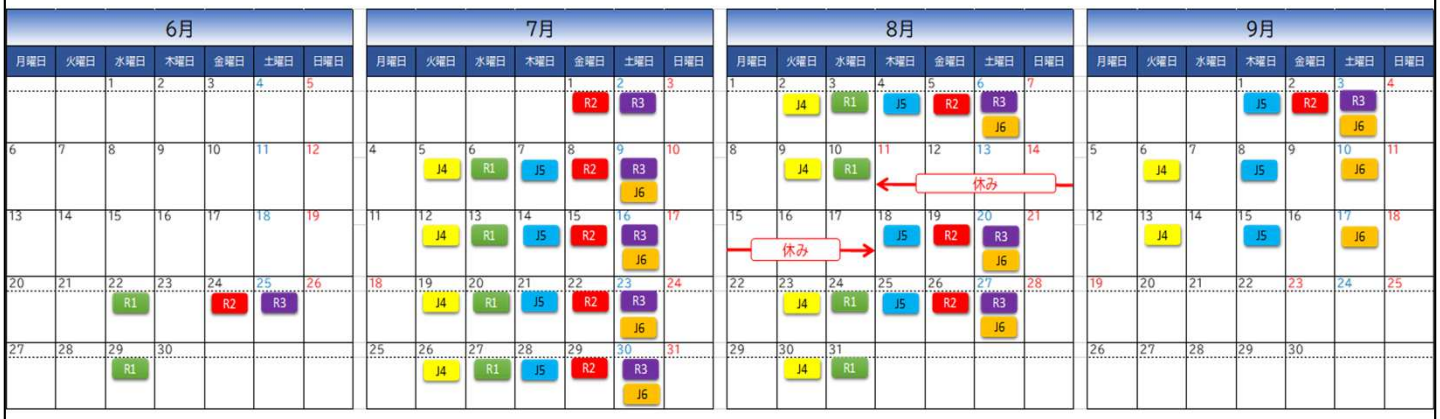
日本語教師研修スケジュール

【理論編】週1回 全10回／30名

R1 ： 6月22日～8月31日 水曜クラス 10:00～11:30
R2 ： 6月24日～9月 2日 金曜クラス 13:30～15:00
R3 ： 6月25日～9月 3日 土曜クラス 10:00～11:30

【実践編】週1回 全10回／20名

J4 ： 7月5日～9月13日 火曜クラス 10:00～11:30
J5 ： 7月7日～9月15日 木曜クラス 13:30～15:00
J6 ： 7月9日～9月17日 土曜クラス 13:30～15:00



※休講期間:8月11日～8月17日

４）理論編

理論編

●コース設定の背景とねらい

・令和３年１０月１２日に文化審議会国語分科会により「日本語教育の参照枠 報告」がまとめられたが、Ｃａｎ ｄｏにのみに注目が集まることから、理論編においては「報告」を網羅して取り上げることとした。

・受講者が「報告」に記載されていることを鵜呑みにせず、様々な角度から検討し、所属校に当てはめて考えられるように研修を組んだ。

・受講者が研修で学んだことを所属校に持ち帰り、教職員にレクチャーできるようになることが重要だと考えた。その力を付けるため、例えば、「報告」の中にある参照枠の全体像をまとめたポンチ絵を用いて参照枠を他者に説明する活動などを実施した。

・所属校において実際に行動に移せるように、導入計画書作成を最終課題とした。無理のない提出のために、作成→意見交換→修正→提出という流れにした。

・毎回の授業にグループワークを取り入れ、受講者同士のつながり が深められるようにした。

・研修を通して得た気づきを可視化するため、毎回の授業後に振り返りシートに入力してもらった。それを受講者間で共有し、他者の気づきや視点からも学びが得られるようにした。

＜達成目標＞

報告（※）・・・日本語教育の参照枠 報告

回	「報告（※）」該当ページ	目標
1	p.1-8	「日本語教育の参照枠」の検討経緯について理解し、その現状と課題を知る
2	p.9-16	「日本語教育の参照枠」の構成や、期待される効果について理解し、他者に説明することができる
3	p.17-23	・「日本語教育の参照枠」の全体的な尺度を理解し、所属校のレベルについて参照枠の尺度で表すことができる ・「言語活動の熟達度」を理解し、言語活動の具体的な内容をイメージすることができる
4	p.66-70	漢字学習の方針について検討し、所属校の文字指導のカリキュラム作りに活かせるようになる
5	p.24-65	活動Ｃａｎ ｄｏの内容を確認し、方略Ｃａｎ ｄｏ、テクストＣａｎ ｄｏ、能力Ｃａｎ ｄｏとの関連性を理解する
6	ポンチ絵 p.23 p.71 p.115-116	・留学の現場に即した言語活動別の熟達度やＣａｎ ｄｏを考えることができる ・「日本語教育の参照枠」の今後に向けた検討課題について考察し、所属校に導入する際の課題、留意点を考える
7	p.72-78 p.117-123	日本語能力を測定する評価の概念を整理する
8	p.79-89 手引p.18-30	・多様な評価の在り方を整理し、事例を考える ・Ｃａｎ ｄｏをベースにしたカリキュラム開発の方法を理解する
9	p.90－101 p.124－133	・日本語能力の判定試験を概観し、「日本語教育の参照枠」への理解を深める ・最終課題である「日本語教育の参照枠」導入計画の要素を考える
10	ポンチ絵	・「導入計画書」の内容を深める ・「理論編」の研修で学んだことを振り返る

＜テキスト＞
・「日本語教育の参照枠 報告」
（出典：文化庁審議会国語分科会　令和３年１０月１２日）
・「『日本語教育の参照枠』の活用のための手引」
（参考：文化審議会国語分科会日本語教育小委員会
「日本語教育の参照枠」の活用に関するワーキンググループ　令和４年１月２８日）

＜各回の流れ＞　１コマ９０分

１．目標共有

２．ウォーミングアップ
・所属校の現状の共有　等

３．「日本語教育の参照枠 報告」の記載内容の確認

４．各回のテーマに合わせたグループワーク
・記載内容の共感する点、課題について話す
・記載内容を解釈して、他者に説明する
・所属校で取り入れる場合、どのように行えるか意見交換する 等

５．まとめ、事前課題、次回授業内容案内　等

６．振り返り：振り返りシートに、得られた気づきや、新たに抱いた疑問を入力する

＜最終課題＞

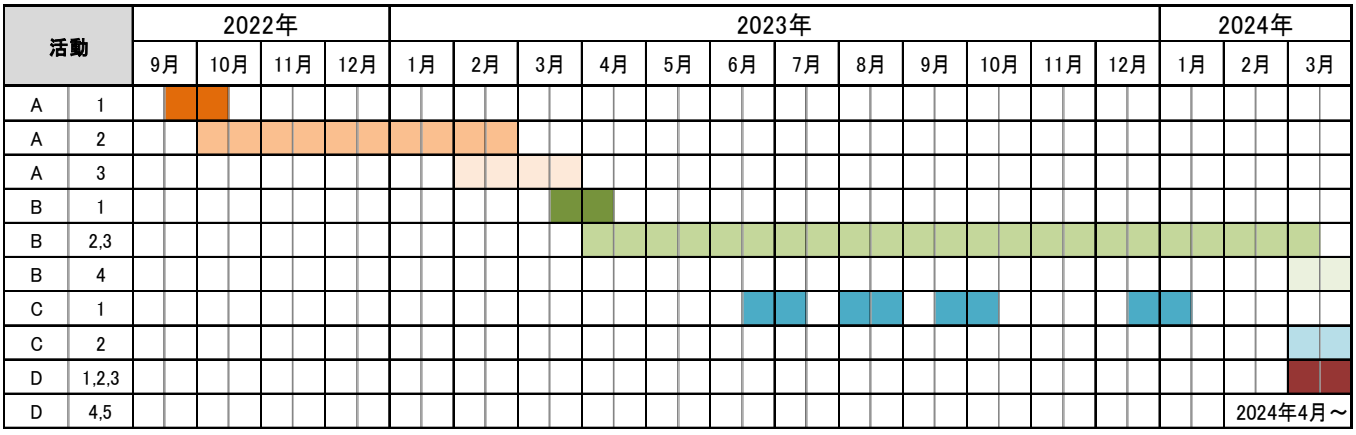
※提出例

日本語教育の参照枠　導入計画書

1．概要

目標 ※最終的にどうなるか／どうなりたいか			・「日本語教育の参照枠」を参照したカリキュラム（各レベルの目標、マイスクールCan do、評価等）を整備する。 ・教員、学生間でカリキュラムを共有し、学習者が「自律学習を進め」、「自己実現（目標達成）できる」学校環境を作る。
活動 ※目標達成までに行う具体的なこと	A	点検 検討	現行カリキュラム（Can doベース）の目標について、「実際の受入れ学生」「参照枠報告・手引」を参照しながら、改善点を抽出する。 1．今後の「日本語教育の参照枠」の導入計画を共有する。 2．下の項目について、現行カリキュラムを点検する。 （1）各レベルの設定内容・文言は適切か （2）レベル間のステップは適切か （3）期間・教材は適切か 3．（1）～（3）の改善案を検討し、暫定版を作成する。
活動	B	共有 試行	暫定版を試行し、点検・修正を行う。 1．報告・意見交換会等を開き、非常勤講師を含めた教員全体で共有する 2．暫定版カリキュラムに基づき、授業を実践し、授業目標（学校に合った言語活動別Can do）を蓄積する 3．カリキュラム、授業目標、現行の評価方法等を比較・対照し、ズレや齟齬を洗い出す。 4．蓄積された授業目標とマイスクールCan doを照合し、シラバス作成に向けた準備態勢に入る。
活動	C	改訂	1．対象レベルや対象科目を限定しながら、段階的に改訂する。 （1）6月末（初級1、初中級） （2）8月（中級2、上級2） （3）9月末（初級2、中級1） （4）12月（中上級、上級1） 2．改訂したものを一つにまとめ、新カリキュラム（各レベルの目標、マイスクールCan do）を作成する。
活動	D	実践	専任講師、非常勤講師、学生間で共有し、新カリキュラムに基づいた教育活動を実践する。 1．教務会議にて新カリキュラムの最終点検を行い、完成させる（対象：専任講師） 2．報告・意見交換会を開き、非常勤講師に新カリキュラムについて報告、意見交換を行う。 3．担任講師がクラスオリエンテーション資料を作成する。 　＊初級レベルにおいては、専任講師が資料を作成し、日本語以外の必要言語の翻訳資料を作成する。（担当：各言語職員） 4．学期の最初に各クラスで学生と共有する。（2024年4月） 5．実践を開始する。（2024年4月～）
導入準備期間			～2024年3月　※その後は、見直し・修正・実施を繰り返していく。→　2024年4月～　授業シラバス作成・評価の改訂
導入体制 ※導入に関わる人員。上記活動欄に、活動別に記入してもいい。			リーダー：教務主任 上記活動全般：日本語教育部（専任講師全員） 試行・共有・実践：非常勤講師を含めた講師全員

2．スケジュール



●受講者の気づき

- 参照枠ができた経緯、背景、課題がわかった。
- 参照枠は画一化を図るものではないことを理解した。
- 参照枠を他者と読み解くことで、視点の違い等多くの気づきが得られた。
- 評価の考え方、評価の仕方が多岐にわたること、日本語教育機関により教育内容、評価方法に大きな違いがあることを知った。
- 評価する内容、項目、配点、留意点等を受講者に明確に提示し、透明化を図ることの大切さを知った。
- 自己評価やピア評価が受講者の内省を促し、メタ認知能力を高めることで自律性を育てることが理解できた。
- 日本語受講者を社会的存在としてとらえるという言語教育観から、自校の学習目標はもっと先を見たものが必要なことに気づいた。
- 自校に取り入れるには、様々な課題があることに気づいた。
- 自校に足りない点だけでなく、できている点にも気づくことができた。
- 受講者の目的達成のために必要なことは何かを一番に考える視点が与えられた。

●研修作成における成果（企画委員　総括）

- 当初、多くの受講者は「日本語教育の参照枠」の理解が漠然としていたが、研修によって、自身の言葉で説明ができるほどまでに理解度を高めることができた。
- 受講者は、規模も背景も異なる告示校に勤務し、経験年数や役職も異なっていたが、「日本語教育の参照枠」を各自の立場で具体的に実践するイメージを持てるようにすることができた。
- グループワークを多用することで、他校の参考例に接したり、自校の強み等に気づいたりすることができ、受講者の視野を広げることができた。
- カリキュラムについて十分な検討を行った上で研修を開始したが、各回の授業後に、教師が記録した連絡事項や受講者が記載　した振り返りシートをもとに、研修の状況を実施委員間で毎回検討し、柔軟な対応もした。その結果、最終課題である所属校の導入計画作成まで無理なくたどり着かせることができた。
- オンラインでの実施により、全国から多様な受講者を集めることができた。
- オンライン授業に不慣れな受講者も、研修を通してオンライン授業を展開する上でのノウハウになじむことができた。また、オンラインでの実施により、話し合い過程での成果物の共有等も円滑に行う ことができ、学習効果の高い研修を展開することができた。

5）実践編

実践編

●コース設定の背景とねらい

- 実践編から研修に参加する受講者もいることを想定し、初回の授業において「日本語教育の参照枠」の活用のための手引第１章のＱＡを用いて、参照枠の概要理解が深められるようにした。
- パフォーマンス課題に対する客観的評価としてルーブリックによる評価を行う場合が多いこと、受講者自身が学習目標を設定する際にも参照することで自律的な学習態度を獲得するのに有効なため、ルーブリック評価を研修に取り入れた。
- 所属校の授業実践の幅が広げられるように、オンライン学習の利点を活かした「反転学習」について理解を深める回を設けた。
- 受講者が所属校の現状を客観的に把握し、参照枠を活かした目標が定められるようになるため、最終課題として「マイスクール　Ｃａｎ　ｄｏ」 を作成することにした。各自の所属校の授業やカリキュラムの実際を振り返り、他者に説明するなどのスモールステップの活動を取り入れ、無理なく最終課題につなげられるように研修を組んだ。
- 毎回の授業にグループワークを取り入れ、受講者同士のつながり が深められるようにした。
- 受講者が研修を通して得た気づきを可視化するため、毎回の授業後に振り返りシートに入力してもらった。それを受講者間で共有し、他者の気づきや視点からも学びが得られるようにした。

＜達成目標＞

回	目　　標
1	「日本語教育の参照枠」の内容について理解する
2	ルーブリックによる評価を授業に取り入れられるようになる
3	所属校の「聞くこと」の活動を振り返り、Ｃａｎ　ｄｏを意識したカリキュラム作りができるようになる
4	所属校の「読むこと」の活動を振り返り、Ｃａｎ　ｄｏを意識したカリキュラム作りができるようになる
5	反転学習を授業に取り入れられるようになる
6	所属校の「話すこと」の活動を振り返り、Ｃａｎ　ｄｏを意識したカリキュラム作りができるようになる
7	Ｃａｎ　ｄｏを意識した「やり取り」のシラバス案を作成することができる
8	所属校の「書くこと」の活動を振り返り、Ｃａｎ　ｄｏを意識したカリキュラム作りができるようになる
9	マイスクールＣａｎ　ｄｏ作成１） 所属校の「マイスクールＣａｎ　ｄｏ」を作成する
１０	マイスクールＣａｎ　ｄｏ作成２） 「マイスクールＣａｎ　ｄｏ」の内容を深める 「実践編」の研修で学んだことを振り返る

＜テキスト＞
・「日本語教育の参照枠 報告」
（出典：文化庁審議会国語分科会　令和３年１０月１２日）
・「『日本語教育の参照枠』の活用のための手引」
（参考：文化審議会国語分科会日本語教育小委員会
「日本語教育の参照枠」の活用に関するワーキンググループ　令和４年１月２８日）
・「つながるひろがるにほんでのくらし」
（参考：「生活者としての外国人」のための日本語学習サイト
つながるひろがるにほんでのくらし）

＜各回の流れ＞　１コマ９０分

１．目標共有

２．ウォーミングアップ
・所属校の授業実践例の共有　等

３．各回のテーマに合わせたグループワーク
（グループワークの例）
・評価の実践活動
・活動ごとに作成した目標設定シートの共有と意見交換

４．まとめ、事前課題、次回授業内容案内　等

５．振り返り：振り返りシートに、得られた気づきや、新たに抱いた疑問を入力する

＜最終課題＞

※提出例

マイスクールＣａｎ　ｄｏ：聞くこと

目標

期	レベル	聞くこと
第１期	Ａ１	はっきりゆっくり話してもらえれば、教師の指示や簡単なアナウンス（集合時間、場所、必要な持ち物、行動など）が語彙レベルで理解できる。
第２期	Ａ２	短いはっきりとした簡単なメッセージやアナウンス、第三者間のやり取りの要点が聞き取れる。
第３期	Ｂ１	短い情報文や第三者間のやり取りを聞いて必要な情報を得ることができる。内容理解のためのキーワードを掴み大意を理解することができる。
第４期	Ｂ１	日本社会の一面を表すまとまった話を聞いて必要な情報を聞き取ったり大意を掴むことができる。
第５期	Ｂ２	ニュースの全体の構成を意識し、５Ｗ１Ｈを掴むことができる。
第６期	Ｂ２	ニュースの全体の構成を意識し、キーワードを掴み大意が取れる。
第７期	Ｃ１	まとまった長さのニュースを聞き、キーワードを掴み大意が取れる。
第８期	Ｃ１	まとまりのある講義や研究発表、インタビューを構造を意識し談話展開を予測しながら聞くことができる。

Ｃａｎ　ｄｏ

期	レベル	Ｃａｎ　ｄｏ
第１期	Ａ１	（１）【包括的な聴解】★ 意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。
第１期	Ａ１	（２）【広報・アナウンスや指示を聞くこと】★ 当人に向かって、丁寧にゆっくりと話された指示なら理解できる。短い簡単な説明なら理解できる。
第２期	Ａ２	（３）Ａ２【他の話者同士の対話の理解】★ ゆっくりと、はっきりとした議論なら、自分の周りで議論されている話題は大体分かる。
第２期	Ａ２	（４）Ａ２【広報・アナウンスや指示を聞くこと】★ 短い、はっきりとした、簡単なメッセージやアナウンスの要点は聞き取れる。
第３期	Ｂ１	（２）Ｂ１．１【包括的な聴解】 短い物語も含めて、仕事、学校、余暇などの場面でふだん出合う、ごく身近な事柄について、共通語で明瞭に話されたものなら要点を理解できる。
第３期	Ｂ１	（９）Ｂ１．１【音声メディアや録音を聞くこと】★ 比較的ゆっくりとはっきりと話された、ごく身近な話題に関するラジオの短いニュースや、比較的簡単な内容の録音された素材なら、主要な点は理解できる。
第４期	Ｂ１	（５）Ｂ１．１【聴衆の一人として生で聞くこと】 もし、はっきりと共通語で発音されるならば、ごく身近な話題についての簡単な短い話の要点を理解できる。
第４期	Ｂ１	（８）Ｂ１．２【音声メディアや録音を聞くこと】 はっきりとした共通語で話された、個人的に興味がある話題であれば、録音され、放送された音声素材の大部分の情報の内容を理解できる。
第５期	Ｂ２	（２）Ｂ２．１【包括的な聴解】 自分の専門分野での技術的な議論を含めて、共通語で話されれば、抽象的な話題でも具体的な話題でも、内容的にも言語的にもかなり複雑な話の要点を理解できる。
第５期	Ｂ２	（７）Ｂ２【広報・アナウンスや指示を聞くこと】 共通語で普通のスピードで話されていれば、具体的なことでも抽象的なことでも、アナウンスやメッセージを理解できる。
第６期	Ｂ２	（１）Ｂ２．２【包括的な聴解】 生であれ、放送であれ、身近な話題でなくとも、個人間、社会、学問、職業の世界で通常出合う話題について、共通語で話されれば理解できる。周囲の極端な騒音、不適切な談話構成や慣用表現だけが理解を妨げる。
第６期	Ｂ２	（３）Ｂ２．１【包括的な聴解】★ もし話題がそれなりに身近なもので、話の方向性が何らかの標識で明示的に示されていれば、長い話や複雑な議論の流れでも理解できる。
第７期	Ｃ１	（３）【包括的な聴解】★ 構造がはっきりしていない場合、または内容の関係性が暗示されているだけで、明示的でない場合でも、長い発話を理解できる。
第７期	Ｃ１	（４）【他の話者同士の対話の理解】★ 抽象的で複雑、かつ未知の話題でも、グループ討議やディベートでの第三者間の複雑な話し合いを容易に理解できる。
第８期	Ｃ１	（１）【包括的な聴解】★ 特に耳慣れない話し方をする話者の場合には、時々細部を確認しなければならない場合があるが、自分の専門外の抽象的で複雑な話題についての長い発話にも十分に付いていける。
第８期	Ｃ１	（５）【聴衆の一人として生で聞くこと】 大体の講義、議論、ディベートが比較的容易に理解できる。

●受講者の気づき

・ 目標に合った課題の設定、課題に合った評価の設定が重要であることを再認識した。

・多様な学習目的を持った受講者が在籍する日本語教育機関で、どのような目標を設定していくか、その目標をどうやって共有していくかを引き続き検討していきたい。

・ 今あるＣａｎ ｄｏを教師間で共有していく場を設け、さらには受講者とも共有していくことを具体的に考えたい。

・ 実際に複数人で同じやり取りを評価したときに、同じルーブリックで評価しても評価者間でズレが生じた。校内でルーブリック評価を取り入れているが、もっと基準のすり合わせを行っていく必要があると強く感じた。

・ 反転学習を効果的に取り入れるには、受講者の事前学習への動機付けが非常に重要だと改めて実感した。これまで、あまり意識せずに行っていた授業を振り返ってみて、反省・改善すべき点がはっきりした。

・ 反転学習も含め、授業実践に関してどんなことができるのか具体的に考え、アイデアを共有できたのはとても有意義であった。実際に現場で授業を行っている先生と実践上の注意点やメリットの意見交換ができ、参考になった。

・ 授業実践例など、各校の工夫も聞くことができ、視野が広がった。所属校以外の方と意見交換する機会がほとんどないので貴重な時間だった。

●研修作成における成果（企画委員　総括）

・ 受講者の所属校ではルーブリック評価を未実施のところも多かったが、評価にルーブリックを取り入れる意義や留意点を再認識することができていた。今後実践していきたいと意欲的な声を多く聞くことができた。

・ Ｃａｎ ｄｏを意識したカリキュラム作りを４回にわたって行った。当初は目標設定をシートに記入することに時間がかかる方が多かったが、毎回の授業において少人数のグループに分かれ、受講者同士で各自の所属校の現状共有と目標設定について意見交換をすることにより、今後の課題についてよく捉えられることができるようになっていった。研修当初は漠然とした不安を抱いていた「マイスクールＣａｎ ｄｏ」作成も、各回の積み重ねにより、各自の課題が明確になっていたので、大きな混乱なく作成することができた。

・この研修では、「日本語教育機関で設定されている目標をきちんと捉え直すきっかけになった」、「普段与えられた教材をこなすことに終始し、レベル別や個々の授業の目標等考えたことがなかったが、今後は日々の授業から考えていきたい」、「『マイスクールＣａｎ ｄｏ』をすぐには実現できそうにないが、自分の授業で実践を始めて周りを巻き込んでいきたい」、といった前向きな声が多く聞かれた。新たな気づきを得ることができたことが伺える。

6）日本語教師研修受講者を対象とした調査結果

①調査項目

日本語教師研修受講者を対象とし、研修内容の有効性を測ることを目的としたアンケート調査を実施した。受講前（事前）、受講後（事後）、受講３ケ月後に実施しており、それぞれの項目は以下の通りである。

なお、受講前アンケートは理論編・実践編でそれぞれ実施、受講後および３か月後アンケートは理論編・実践編共通の内容で実施した。

共通設問	年齢・性別・役職・日本語教師経験年数・所属校の人数規模
受講前（事前）	• 日本語教育の参照枠の理解度 • 日本語教育の参照枠の自身の状況 • 日本語教育の参照枠についての所属校の現状 • 日本語教育の参照枠について本研修に期待すること • オンライン授業について現在の自身の課題 • オンライン授業について現在の所属校の課題
受講後（事後）	• 研修後の満足度とその理由 • カリキュラム導入計画の作成についての満足度とその理由 • マイスクールCan doの作成についての満足度とその理由 • 受講者同士のつながり構築の観点における研修後の満足度とその理由 • 研修全体の満足度とその理由 • 研修受講による自身の変化 • 日本語教育の参照枠の理解に関する自身の課題･目標 • 研修受講後の所属する教育機関の変化 • 日本語教育の参照枠の理解に関連した、所属する教育機関の課題･目標 • 研修受講後の自身の変化 • オンライン日本語教育の取り組みに関連する自身の課題･目標 • 研修を受講し、所属する教育機関の現状について変化 • オンライン日本語教育の取り組みに関連した、所属する教育機関の課題･目標 • 研修受講により、日本語教育に対する言語教育観の変化とその理由 • 日本語教育の参照枠についての意見 • 教材･サポート等、事務局への満足度とその理由
受講3ケ月後	• 事後アンケートで記入した日本語教育の参照枠の理解に関する自身の課題、目標に対する成果と具体的な成果等 • 事後アンケートで記入した日本語教育の参照枠の理解に関連した、所属する教育機関の課題･目標に対する成果と具体的な成果等 • 日本語教育の参照枠の理解に関連し、自身･所属する教育機関の課題、今後の目標 • 事後アンケートで記入したオンライン日本語教育の取り組みに関する自身の課題･目標に対する成果と具体的な成果等 • 事後アンケートで記入したオンライン日本語教育の取り組みに関連した、所属する教育機関の課題･目標に対する成果と具体的な成果等 • 日本語教育の参照枠の理解に関連し、自身･所属する教育機関の課題、今後の目標 • 3か月後の成果も踏まえた研修全体の感想

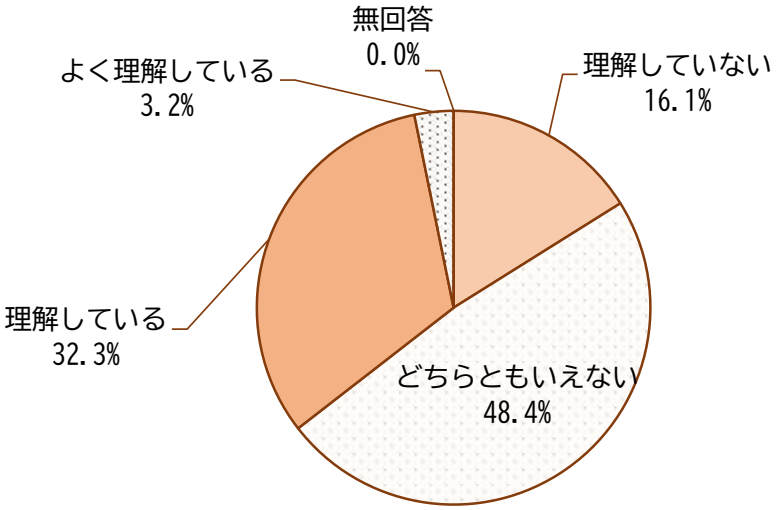
②調査結果

１）受講前（事前）アンケート調査

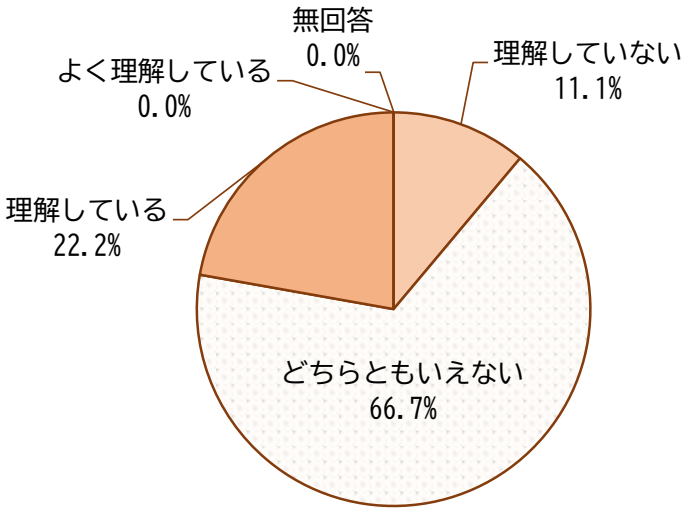
日本語教育の参照枠についての理解度について、理解していると回答しなかった受講者の割合（「理解していない」「どちらともいえない」の合計）に着目すると、理論編の受講者は６４．５％、実践編の受講者は７７．８％となっており、実践編の受講者の方がより理解していない状態であったことがわかる。

日本語教育の参照枠についての理解度

【理論編】 （n=31）



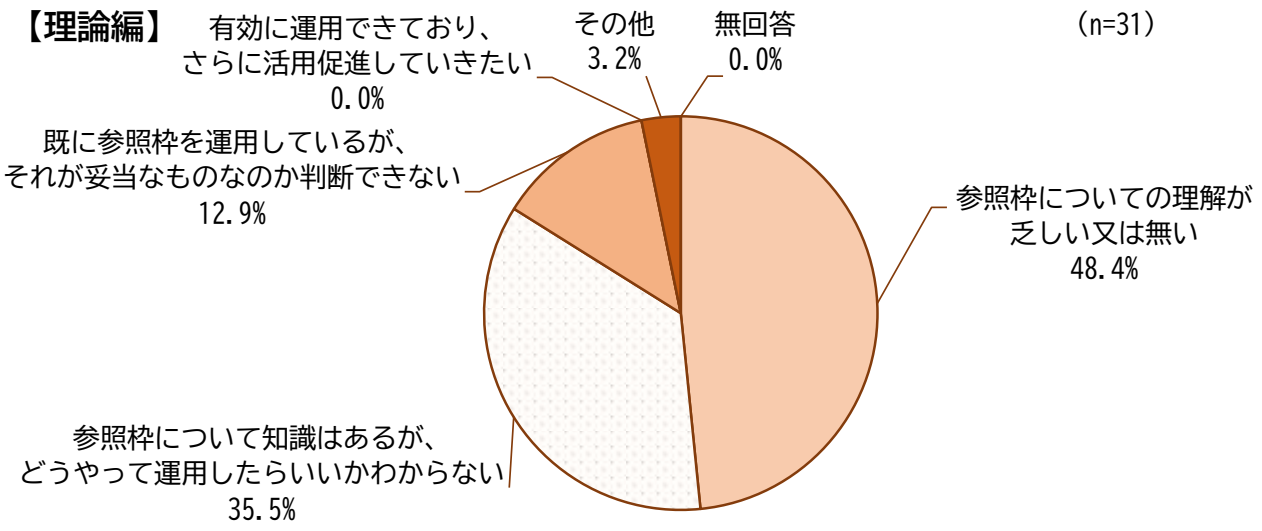
【実践編】 （n=27）

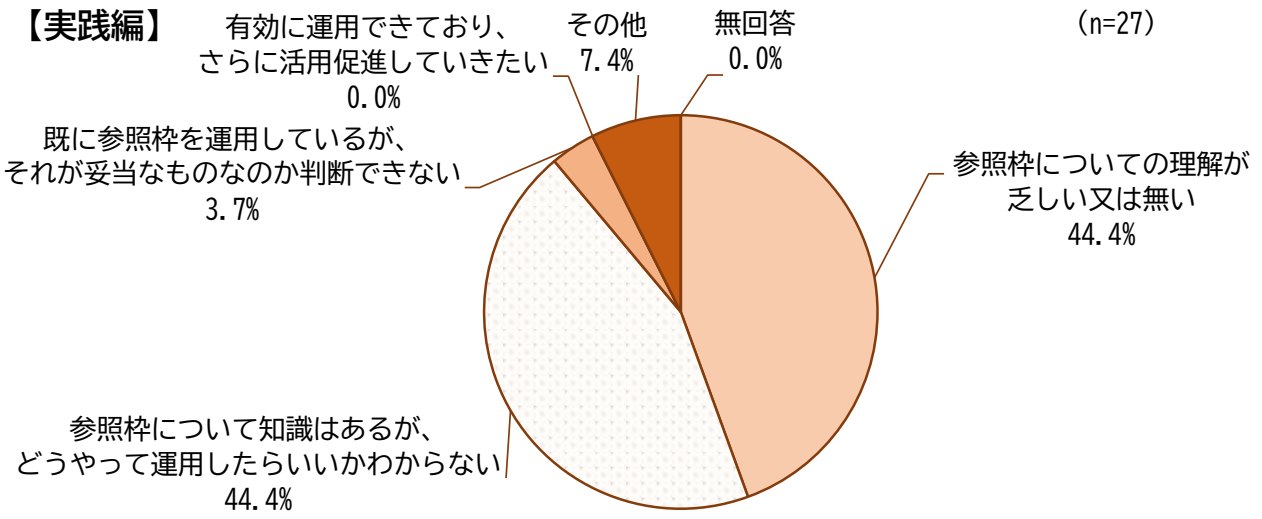


日本語教育の参照枠における自身の現状について、「参照枠についての理解が乏しい又は無い」に着目すると、理論編の受講者は４８．４％、実践編の受講者は４４．４％となっており、４割以上の受講者が参照枠についての理解が乏しい又は無い状態であったことがわかる。

また、理論編、実践編の受講者ともに「有効に運用できており、さらに活用促進していきたい」が、０．０％（０人）となっている。

日本語教育の参照枠における自身の現状

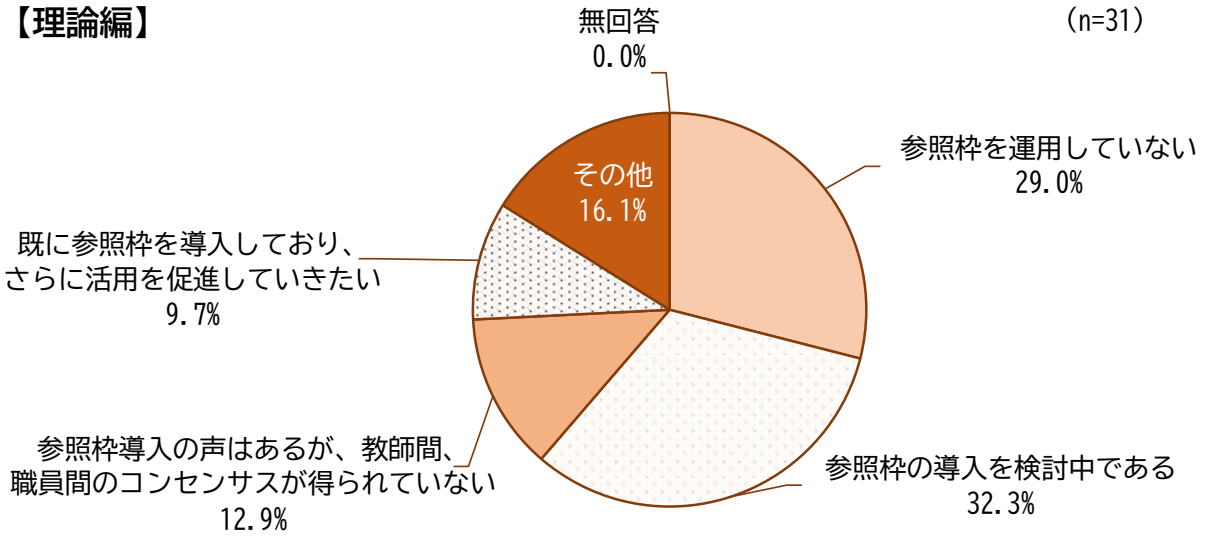




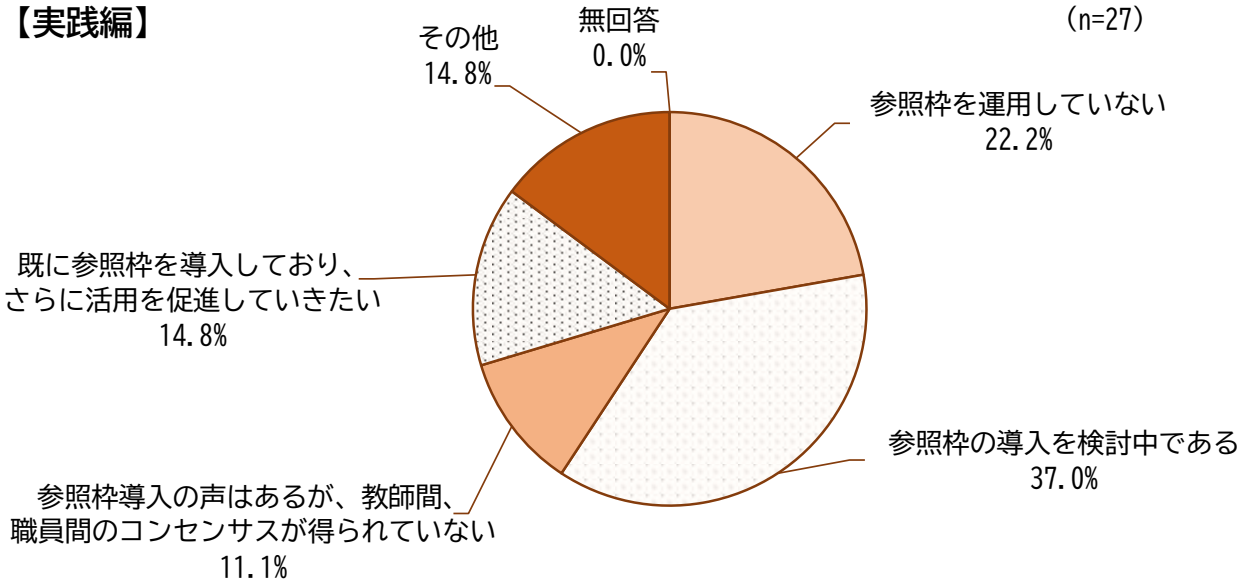
日本語教育の参照枠における所属校の現状について、参照枠の導入可能性があると回答した受講者の割合（「参照枠の導入を検討中である」「参照枠導入の声はあるが、教師間、職員間のコンセンサスが得られていない」の合計）に着目すると、理論編の受講者は４８．１％、実践編の受講者は４５．２％となっており、４割以上の受講者の所属校が参照枠の導入可能性があることがわかる。

日本語教育の参照枠における所属校の現状

【理論編】



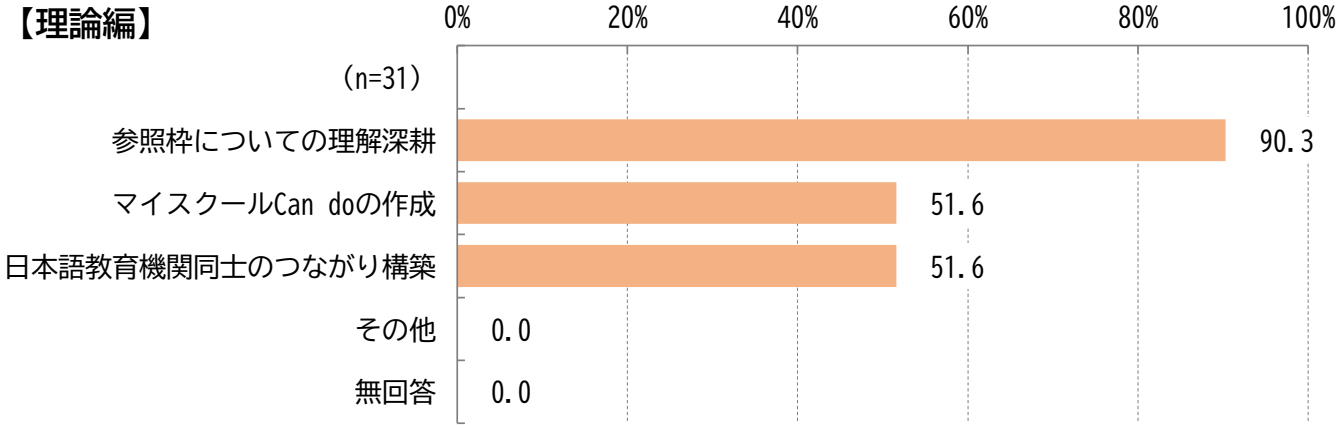
【実践編】



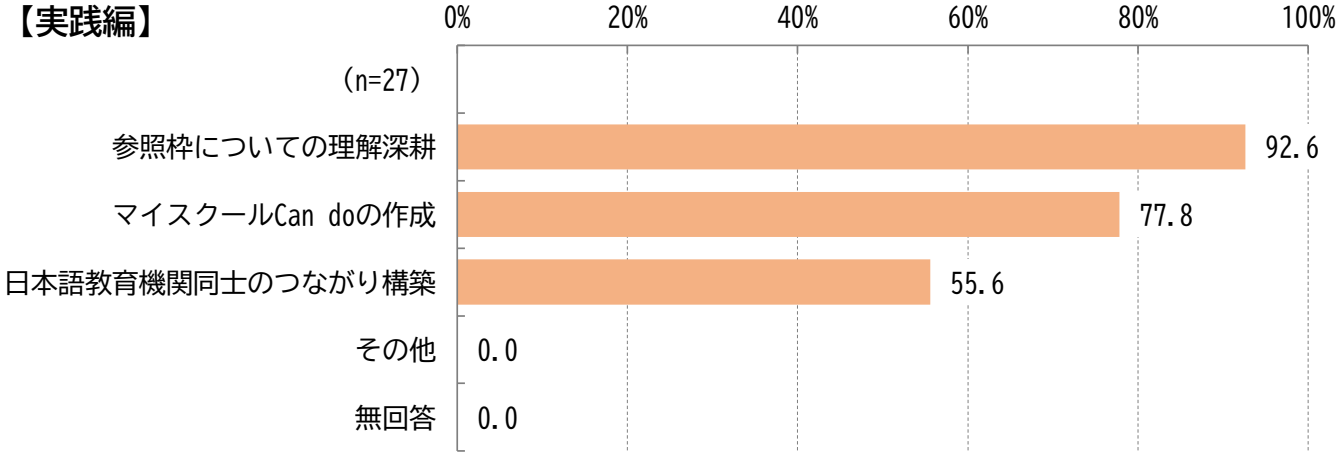
日本語教育の参照枠について研修に期待することは、理論編・実践編の受講者ともに「参照枠についての理解深耕」が９割台となっている。

日本語教育の参照枠について研修に期待すること

【理論編】



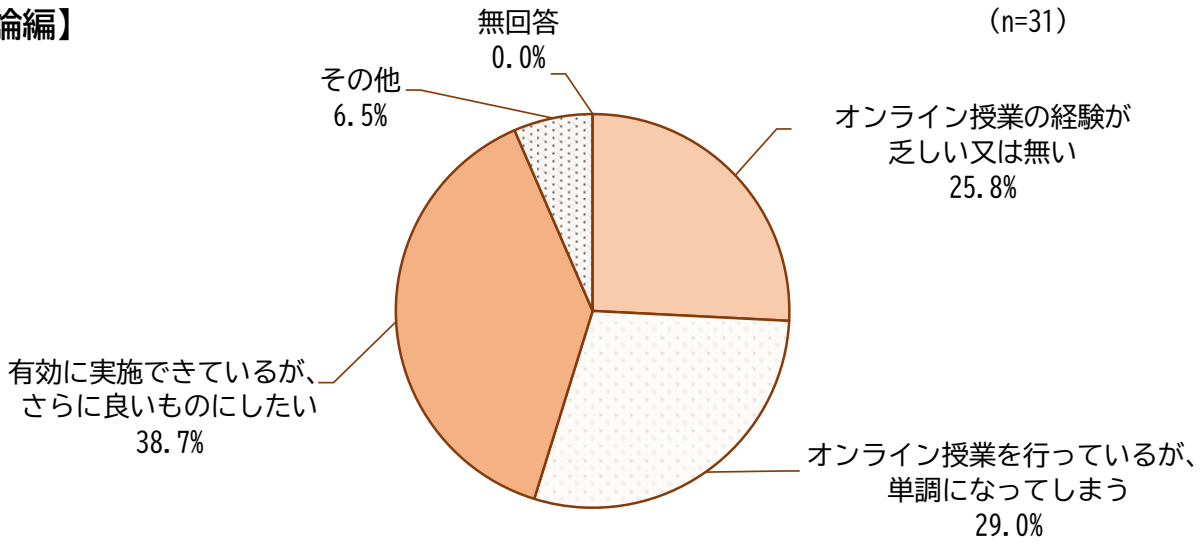
【実践編】



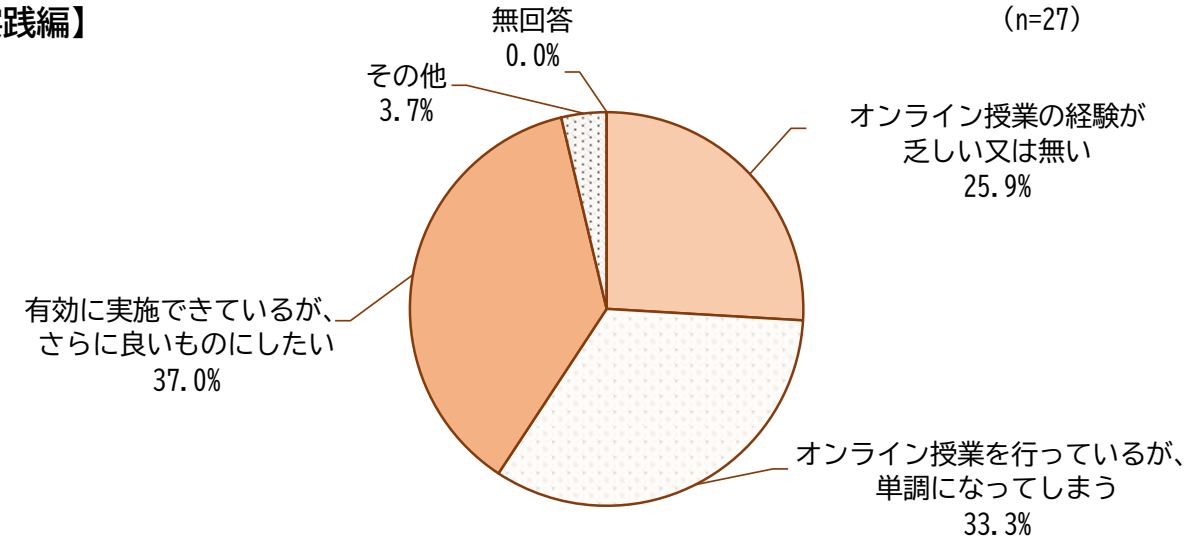
オンライン授業における現在の自身の課題について、有効に実施できていると回答しなかった受講者の割合（「オンライン授業の経験が乏しい又は無い」「オンライン授業を行っているが、単調になってしまう」の合計）に着目すると、理論編・実践編の受講者ともに５割以上となっている。

オンライン授業における現在の自身の課題

【理論編】



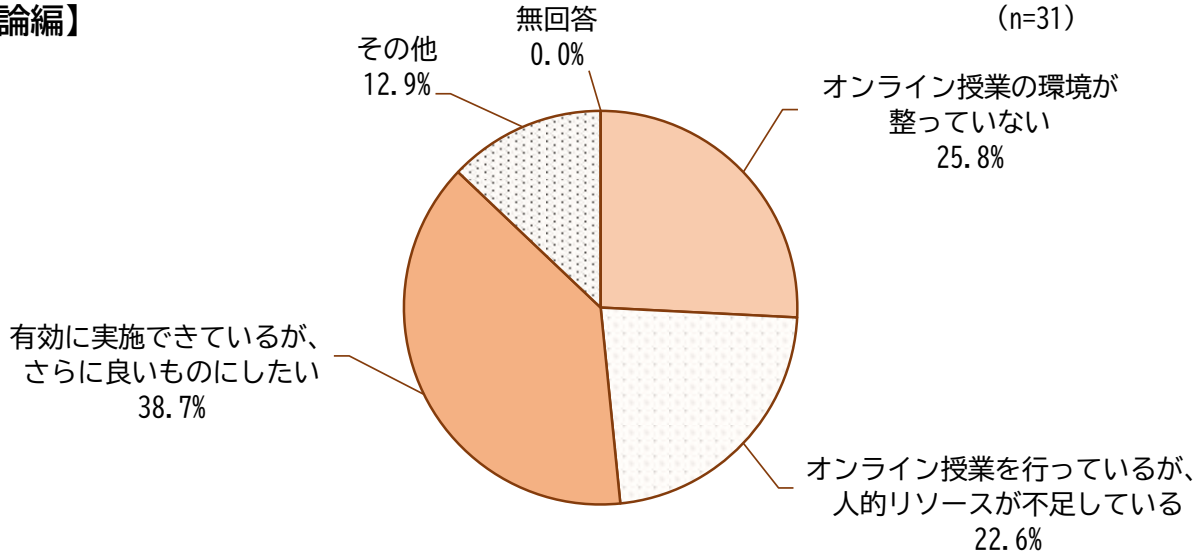
【実践編】



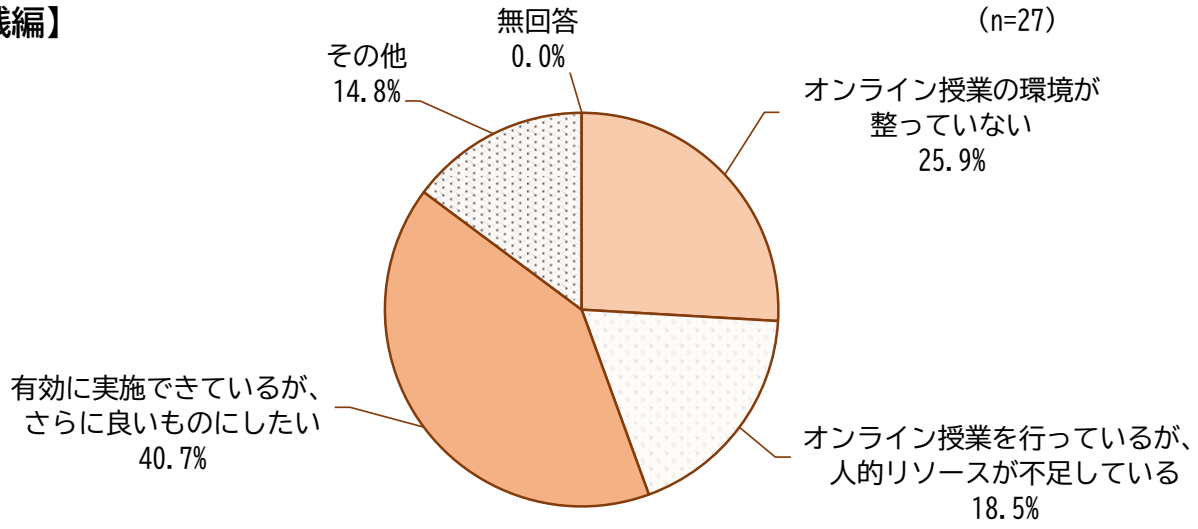
オンライン授業について現在の所属校の課題について、「オンライン授業の環境が整っていない」に着目すると、理論編の受講者は２５．８％、実践編の受講者は２５．９％となっており、２割半ばの受講者の所属校について、オンライン授業の環境が整備されていないことがわかる。

オンライン授業について現在の所属校の課題

【理論編】



【実践編】

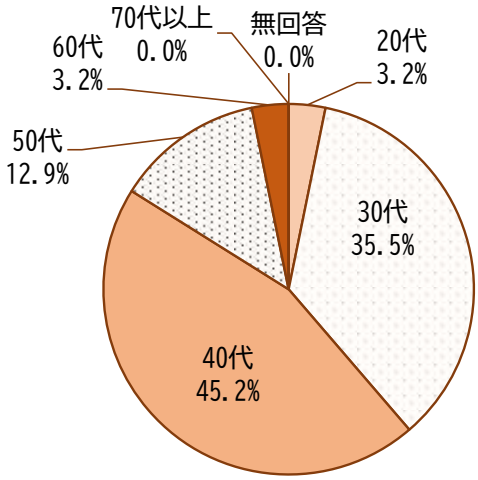


理論編の受講者の年齢、役職は以下の通りである。

受講者の年齢

【理論編】

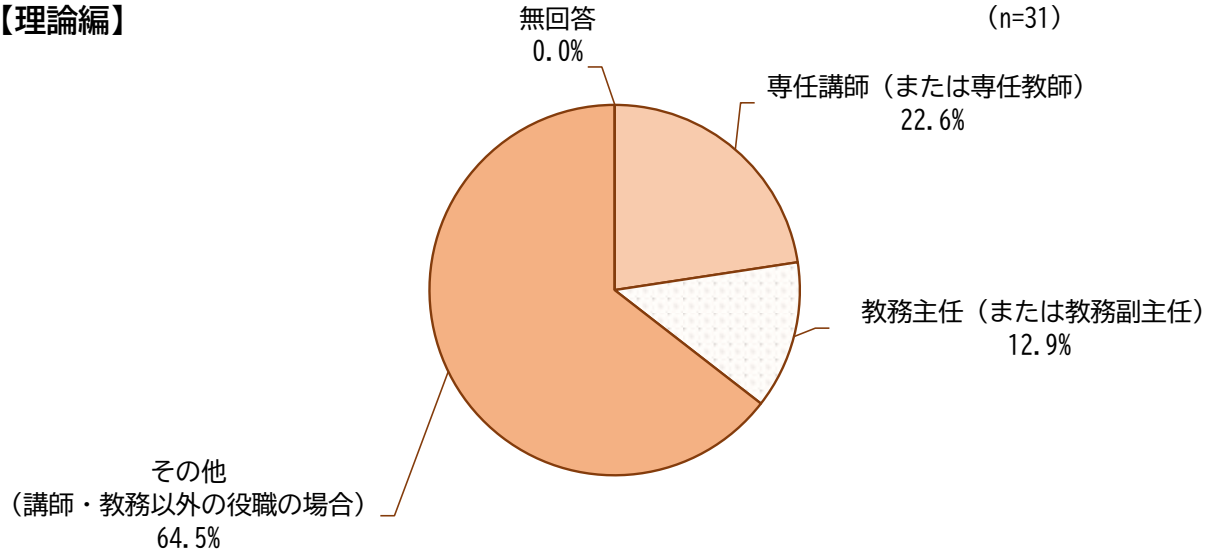
（n=31）



受講者の役職

【理論編】

（n=31）

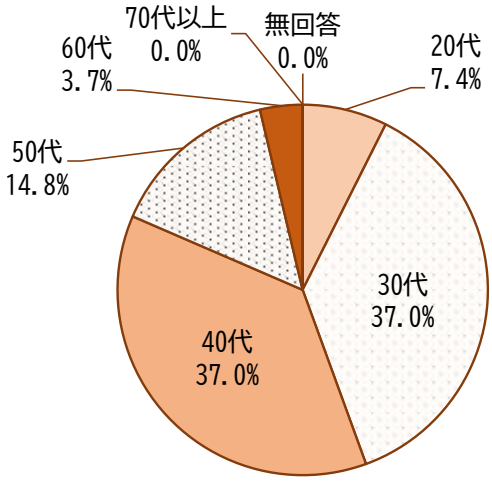


実践編の受講者の年齢、役職は以下の通りである。

受講者の年齢

【実践編】

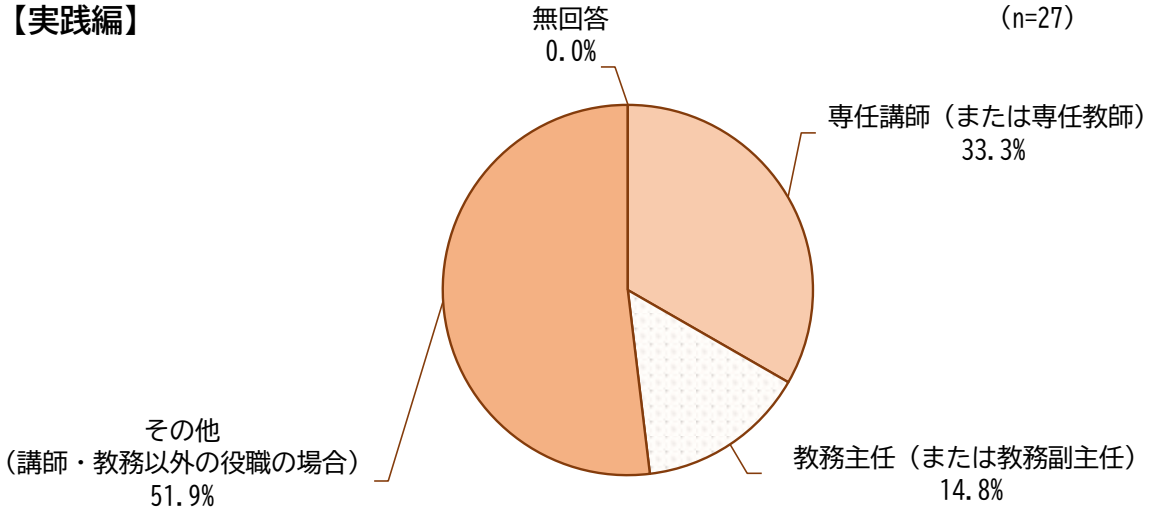
（n=27）



受講者の役職

【実践編】

（n=27）



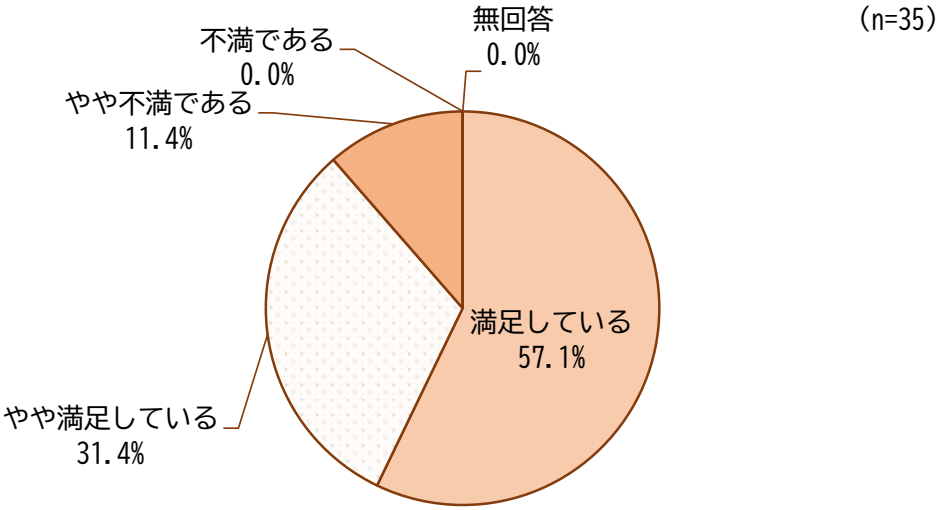
2）受講後（事後）アンケート調査

日本語教育の参照枠の理解深耕の観点における研修後の満足度（上グラフ）と、カリキュラム導入計画の作成の観点における研修後の満足度（下グラフ）は、それぞれ“満足”（「満足している」「やや満足している」の合計）が９割弱となっている。

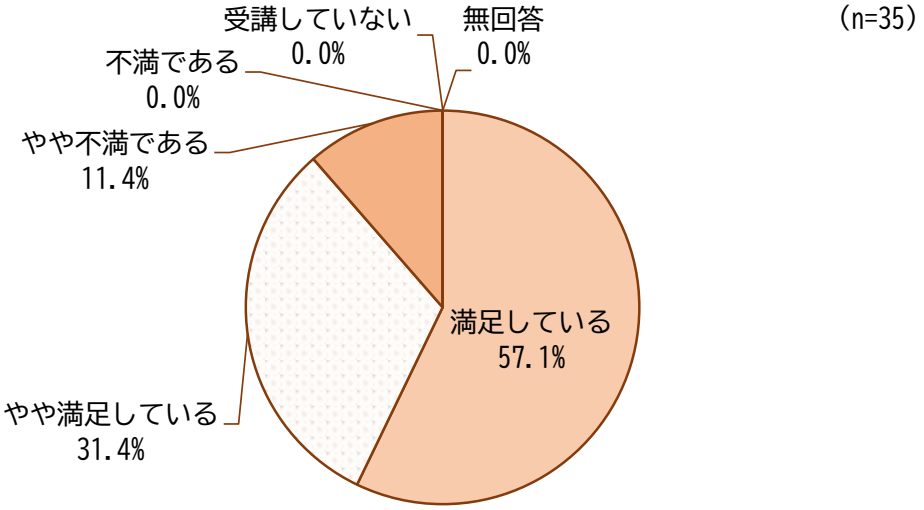
日本語教育の参照枠の理解深耕の観点における研修後の満足度について、「満足している」または「やや満足している」と回答した人の理由をみると、「グループワークを通して内容を理解できたから」「これまで曖昧な理解だった参照枠について深く理解できたから」などがあげられた。

カリキュラム導入計画の作成の観点における研修後の満足度について、「満足している」または「やや満足している」と回答した人の理由をみると、「具体的に導入計画を考えるきっかけになったから」「実際に計画案を作ることで、今後どのように生かしていくかを考えるきっかけとなったから」などがあげられた。

日本語教育の参照枠の理解深耕の観点における研修後の満足度



カリキュラム導入計画の作成の観点における研修後の満足度

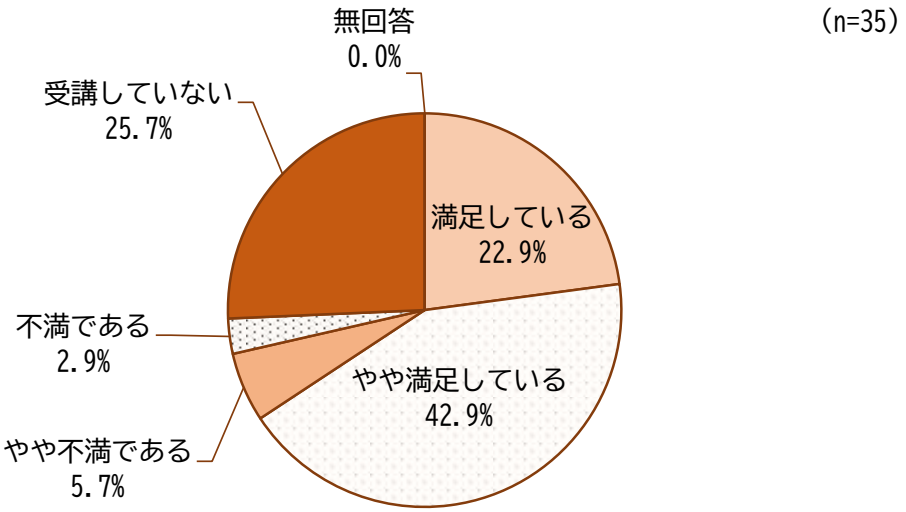


マイスクールＣａｎ ｄｏの作成の観点における研修後の満足度（上グラフ）と、受講者同士のつながり構築の観点における研修後の満足度（中グラフ）は、それぞれ“満足”（「満足している」「やや満足している」の合計）が６割半ばとなっている。

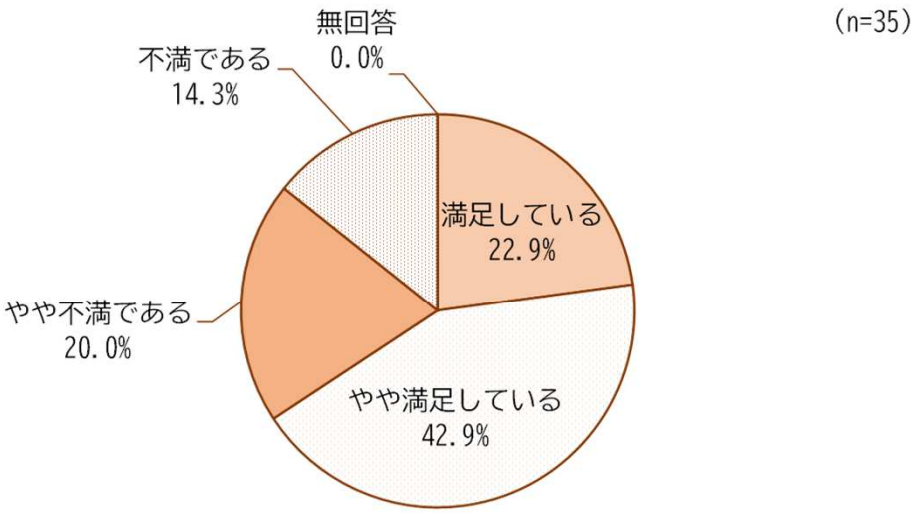
マイスクールＣａｎ ｄｏの作成の観点における研修後の満足度について、「満足している」または「やや満足している」と回答した人の理由をみると、「それぞれのＣａｎ ｄｏについて一つ一つ確認できたことがよかったから」「実際に新たなマイスクールＣａｎ ｄｏを作成していくためには非常にためになる機会だったから」などがあげられた。

受講者同士のつながり構築の観点における研修後の満足度について、「満足している」または「やや満足している」と回答した人の理由をみると、「他の日本語教育機関の様子がわかったから」「横のつながりができたことが最大の成果だったから」などがあげられた。

マイスクールＣａｎ ｄｏの作成の観点における研修後の満足度



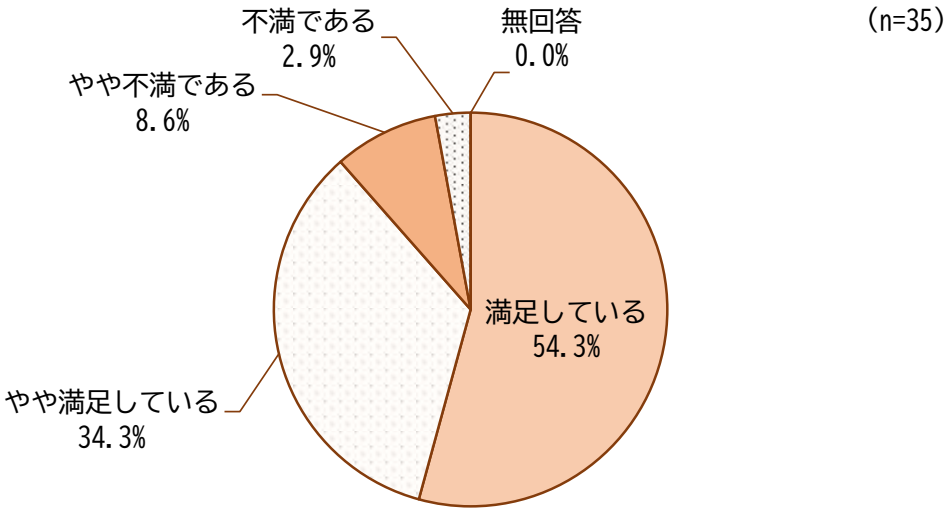
受講者同士のつながり構築の観点における研修後の満足度



研修全体をとおしての満足度（下グラフ）は、“満足”（「満足している」「やや満足している」の合計）が９割弱となっている。

「満足している」または「やや満足している」と回答した人の理由をみると、「ふだん話せない他校の先生と交流できて良い刺激になったから」「もう少し話し合う時間があれば良かったが、他校での取り組みを聞けて勉強になったから」「参照枠導入が具体的にイメージできるようになったから」「所属校の現状を俯瞰的にみて、現在できていること、できていないことが整理できたから」などがあげられた。

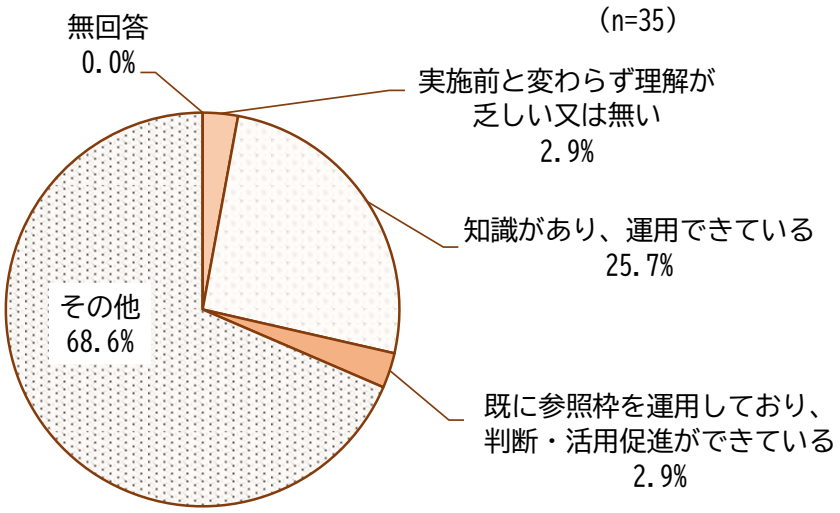
研修全体をとおしての満足度



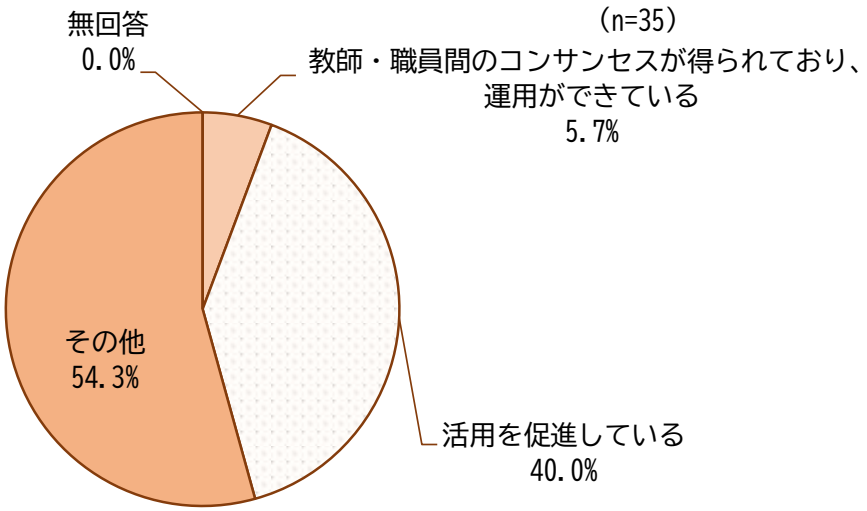
日本語教育の参照枠の観点から、研修受講後における受講者自身の変化（上グラフ）について、「知識があり、運用できている」は２割半ばとなっており、「実施前と変わらず理解が乏しい又は無い」の回答者よりも多い。「その他」は７割弱となっている。「その他」は「運用には至っていないが、知識が身についた」という趣旨の回答がほとんどであり、今後、所属校で運用していくことが期待される。

日本語教育の参照枠の観点から、研修受講後における所属する教育機関の変化（下グラフ）について、「活用を促進している」は４割、「その他」は５割半ばとなっている。 「その他」は「これから運用に向けて調整する」という趣旨の回答が多く、所属校には受講者一人の力で変化させていくことは難しいとうかがえる。

日本語教育の参照枠の観点から、研修受講後における受講者自身の変化



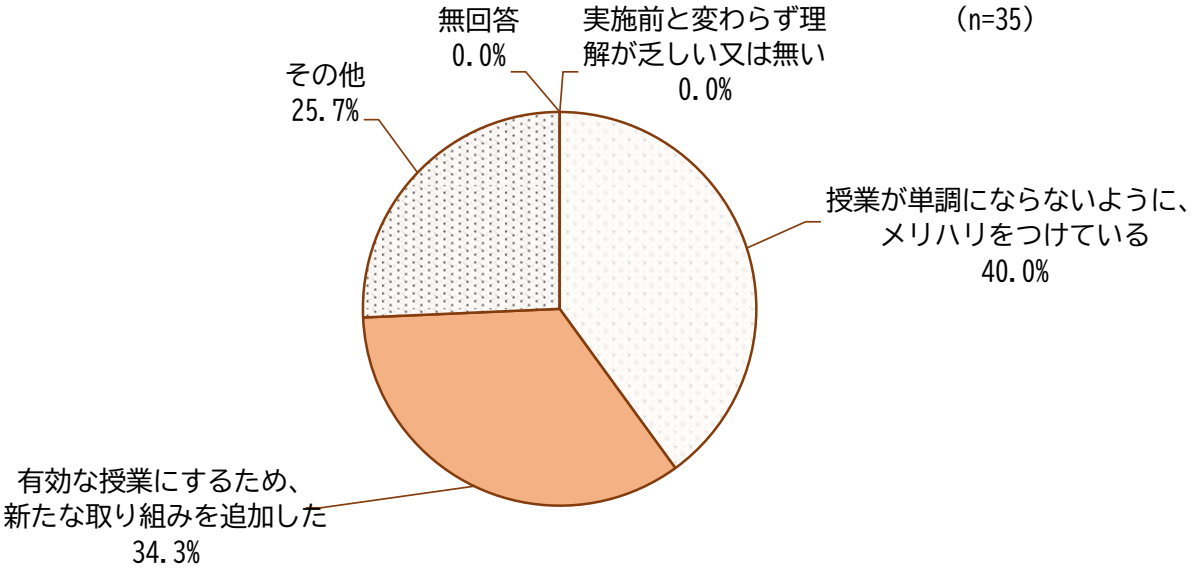
日本語教育の参照枠の観点から、研修受講後における所属する教育機関の変化



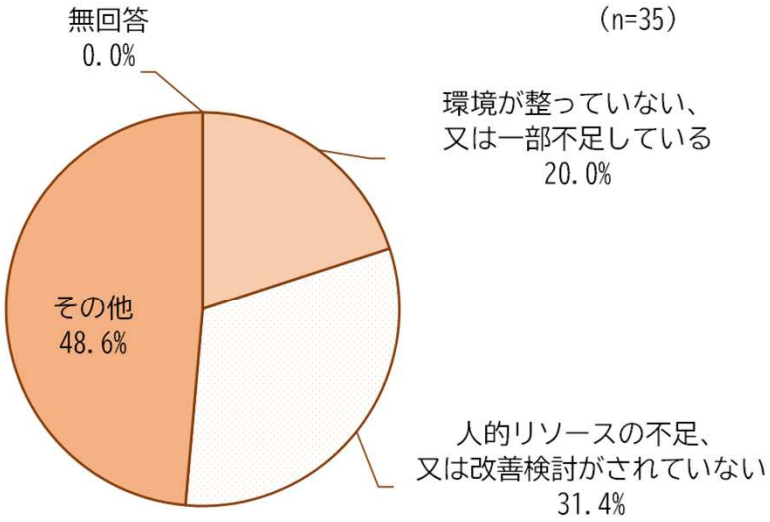
オンライン日本語教育の取り組みの観点から、研修受講後における受講者自身の変化（上グラフ）について、工夫や新たな取り組みを実践している人（「授業が単調にならないように、メリハリをつけている」「有効な授業にするため、新たな取り組みを追加した」の合計）は７割半ばとなっている。

オンライン日本語教育の取り組みの観点から、研修受講後における所属する教育機関の変化（下グラフ）について、「環境が整っていない、又は一部不足している」は２割と事前アンケート調査結果（理論編受講者２５．８％、実践編受講者２５．９％）とやや減っている。 「その他」は「今後検討を進める予定」という趣旨の回答が多く、一部の日本語教育機関では前向きな動きも認められる。

オンライン日本語教育の取り組みの観点から、研修受講後における受講者自身の変化



オンライン日本語教育の取り組みの観点から、研修受講後における所属する教育機関の変化



研修受講により日本語教育に対する言語教育観の変化（上グラフ）があった受講者は８割強となっている。

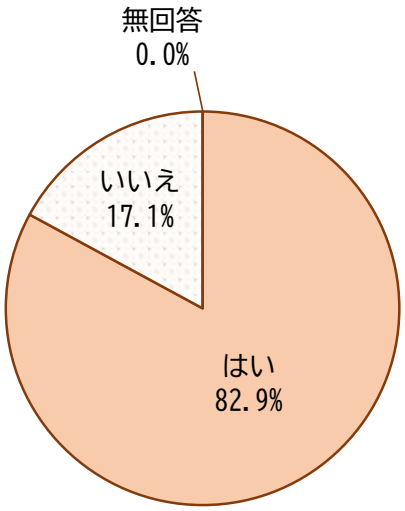
「はい」と回答した人の理由をみると、「受講者を社会の一員として捉え、受講者に必要な言語教育とは何かを考えるようになったから」「多様な日本語を認めるということを強く意識するようになったから」「教育現場で働く者として視野が広がったから」などがあげられた。

教材・サポート等、事務局への満足度（下グラフ）について、“満足”（「満足している」「やや満足している」の合計）が８割強となっている。

「満足している」または「やや満足している」と回答した人の理由をみると、「教材やレジュメがわかりやすかったから」「ｌｅａｒｎｉｎｇ　Ｂｏｘの使い方を丁寧に教えてもらえたから」「返信が早く、急な欠席にも対応してもらえたから」「振替授業の対応がスムーズだったから」などがあげられた。

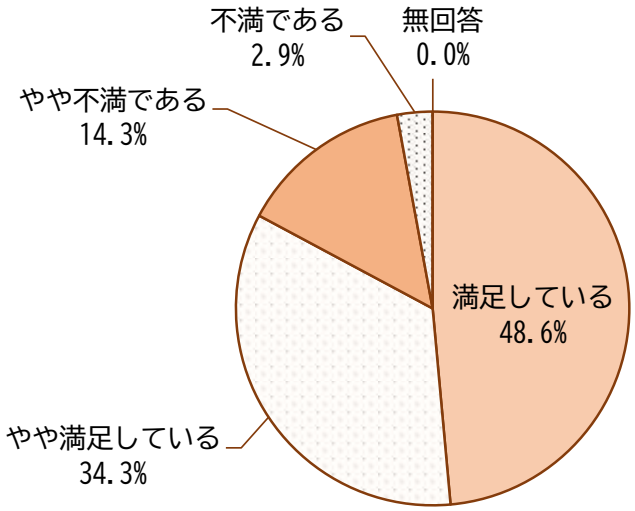
研修受講により日本語教育に対する言語教育観の変化

（n=35）



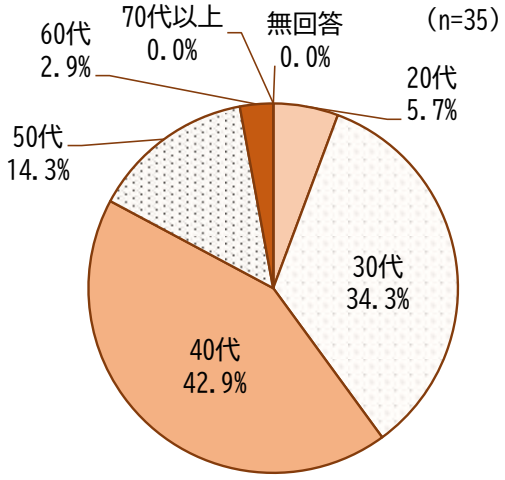
教材・サポート等、事務局への満足度

（n=35）

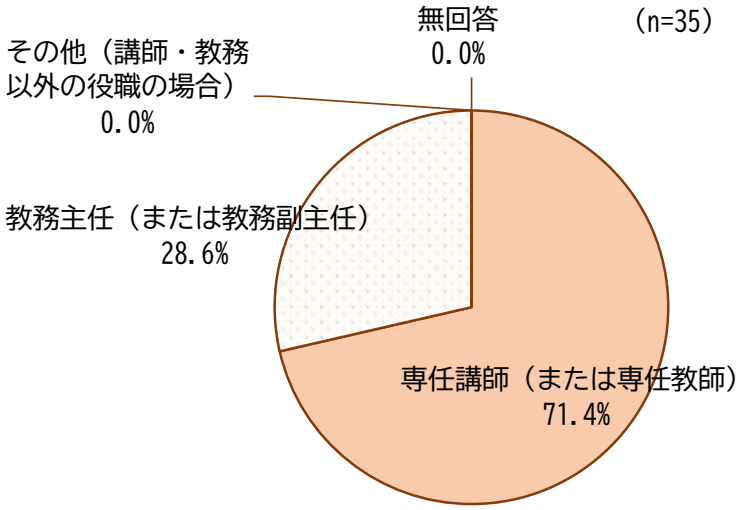


受講者の年齢、役職、日本語教師経験年数、所属校の人数規模は以下の通りである。

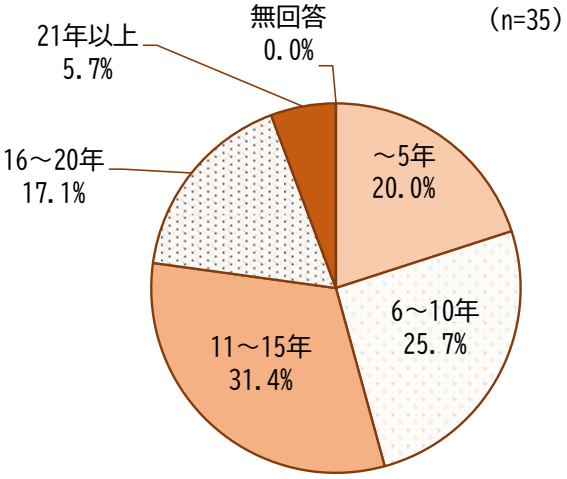
受講者の年齢



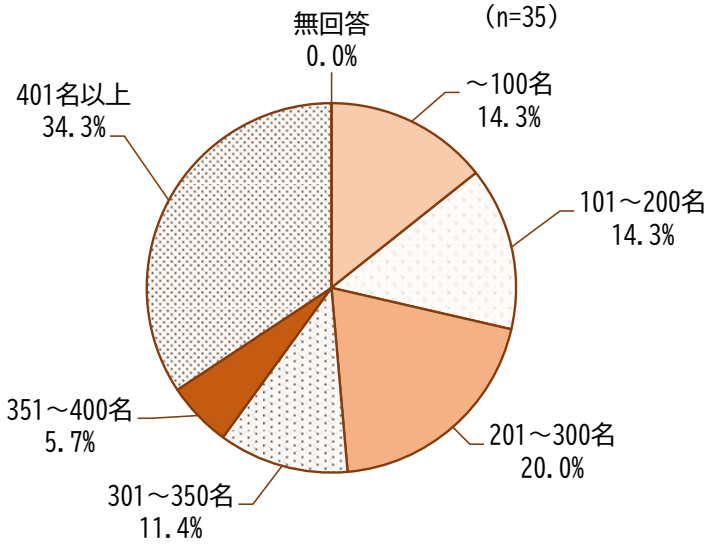
受講者の役職



受講者の日本語教師経験年数



受講者の所属校の人数規模



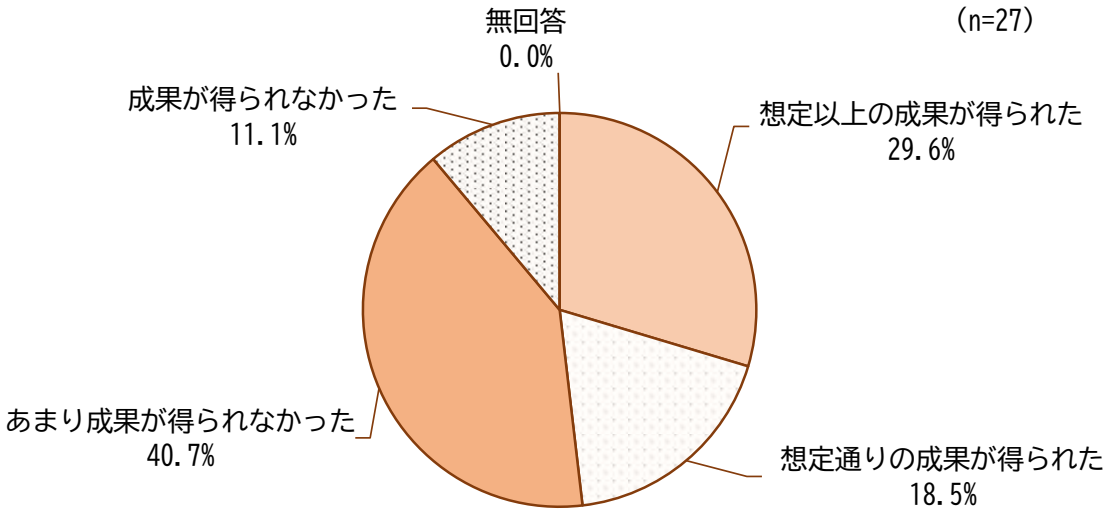
４）受講３ケ月後アンケート調査

日本語教育の参照枠の理解に関連した自身の課題・目標に対する成果（上グラフ）について、“成果が得られた”（「想定以上の成果が得られた」「想定通りの成果が得られた」の合計）が５割弱となっている。

「想定以上の成果が得られた」または「想定通りの成果が得られた」と回答した人の理由をみると、「日本語教育機関でもともと掲げている目標が参照枠とそこまでかけ離れていないことがわかったから」「授業運営における目的設定の意識が変わったから」「カリキュラムに対して参照役を意識するようになったから」などがあげられた。

一方、「あまり成果が得られなかった」または「成果が得られなかった」と回答した人の理由をみると、「課題と目標に沿って計画を立てたが、まだ実行できていないから」「入国した学生数が急増し、忙しくて学んだことが活かせていないから」「校内で想定外の業務が多数発生しているため」などがあげられた。

日本語教育の参照枠の理解に関連した自身の課題・目標に対する成果



研修前後及び３ヶ月後について、日本語教育の参照枠における受講者自身の理解状況等をみた。

研修前は「参照枠についての理解が乏しい又は無い」が４４．４％に対して、研修後は２．９％と大きく減少、研修後の「その他」では「運用には至っていないが、知識が身についた」という趣旨の回答がほとんどであり、今後、所属校で運用していくことが期待される。

３ヶ月後には“成果が得られた”（「想定以上の成果が得られた」「想定通りの成果が得られた」の合計）が５割弱となっており、研修が日本語教育の参照枠の理解に一定程度寄与したことがうかがえる。

【研修前】日本語教育の参照枠における受講者自身の現状（理論編ｎ=31、実践編ｎ=27）

選択肢	理論編（%）	実践編（%）
参照枠についての理解が乏しい又は無い	48.4	44.4
参照枠について知識はあるが、どうやって運用したらいいかわからない	35.5	44.4
既に参照枠を運用しているが、それが妥当なものなのか判断できない	12.9	3.7
有効に運用できており、さらに活用促進していきたい	0.0	0.0
その他	3.2	7.4
無回答	0.0	0.0

【研修後】日本語教育の参照枠の観点から受講者自身の変化（ｎ=35）

選択肢	（%）
実施前と変わらず理解が乏しい又は無い	2.9
知識があり、運用できている	25.7
既に参照枠を運用しており、判断・活用促進ができている	2.9
その他	68.6
無回答	0.0

【研修３ヶ月後】日本語教育の参照枠の理解における受講者自身の課題・目標に対する成果（ｎ=27）

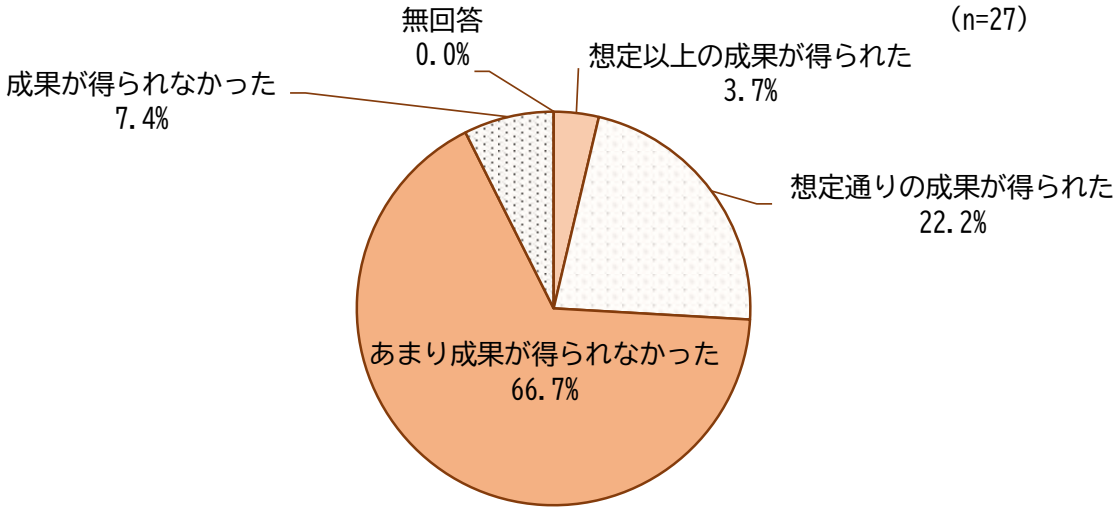
選択肢	（%）
想定以上の成果が得られた	29.6
想定通りの成果が得られた	18.5
あまり成果が得られなかった	40.7
成果が得られなかった	11.1
無回答	0.0

日本語教育の参照枠の理解に関連した所属する教育機関の課題・目標に対する成果（下グラフ）について、“成果が得られた”（「想定以上の成果が得られた」「想定通りの成果が得られた」の合計）が２割半ばとなっており、受講者自身の方が成果の実感を得ていることがうかがえる。

「想定以上の成果が得られた」または「想定通りの成果が得られた」と回答した人の理由をみると、「コースデザインやカリキュラムを作成する時に参考にしているから」「カリキュラムに参照枠を導入するための計画が進んでいるから」などがあげられた。

一方、「あまり成果が得られなかった」または「成果が得られなかった」と回答した人の理由をみると、「日々の業務に追われ具体的な行動に移せていないから」「研修後すぐに受験シーズンとなり構想を練る時間もなく対応できていないから」などがあげられた。

日本語教育の参照枠の理解に関連した
所属する教育機関の課題・目標に対する成果



研修前後及び３ヶ月後について、日本語教育の参照枠における受講者の所属校の状況等をみた。

研修前は「既に参照枠を導入しており、さらに活用を促進していきたい」が１４．８％に対して、研修後は「活用を促進している」が４０．０％と増加しており、日本語教育の参照枠の導入が進められている状況がうかがえる。

３ヶ月後には“成果が得られた”（「想定以上の成果が得られた」「想定通りの成果が得られた」の合計）が２割半ばとなっており、受講者自身の成果の実感度合い（５割弱）と比べると低いことがわかる。

【研修前】日本語教育の参照枠における受講者の所属校の現状（理論編ｎ=31、実践編ｎ=27）

選択肢	理論編（%）	実践編（%）
参照枠を運用していない	29.0	22.2
参照枠の導入を検討中である	32.3	37.0
参照枠導入の声はあるが、教師間、職員間のコンセンサスが得られていない	12.9	11.1
既に参照枠を導入しており、さらに活用を促進していきたい	9.7	14.8
その他	16.1	14.8
無回答	0.0	0.0

【研修後】日本語教育の参照枠の観点から受講者の所属校の変化（ｎ=35）

選択肢	（%）
教師・職員間のコンサンセスが得られており、運用ができている	5.7
活用を促進している	40.0
その他	54.3
無回答	0.0

【研修３ヶ月後】日本語教育の参照枠の理解における受講者の所属校の課題・目標に対する成果（ｎ=27）

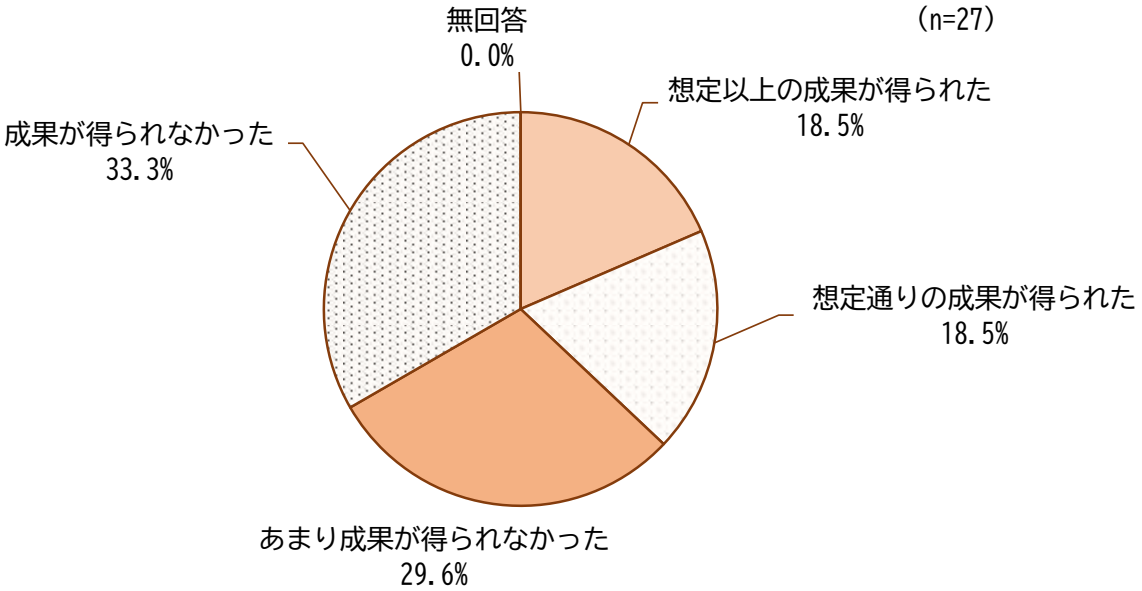
選択肢	（%）
想定以上の成果が得られた	3.7
想定通りの成果が得られた	22.2
あまり成果が得られなかった	66.7
成果が得られなかった	7.4
無回答	0.0

オンライン日本語教育の取り組みに関連した自身の課題・目標に対する成果（上グラフ）について、“成果が得られた”（「想定以上の成果が得られた」「想定通りの成果が得られた」の合計）が３割半ばとなっており、“成果が得られなかった”（「成果が得られなかった」「あまり成果が得られなかった」の合計）と回答した受講者の方が多い。

「想定以上の成果が得られた」または「想定通りの成果が得られた」と回答した人の理由をみると、「対面授業も含めてＩＣＴの活用を意識することにより、授業運営をより効率的に進められるようになったから」「ルーブリック評価を実施し、受講者が自分自身の日本語力を客観的に評価することができたから」などがあげられた。

一方、「あまり成果が得られなかった」または「成果が得られなかった」と回答した人の理由をみると、「日々の業務に追われて検討までたどりついていないから」「オンライン授業の機会がなくチャレンジする場がないから」などがあげられた。

オンライン日本語教育の取り組みに関連した自身の課題・目標に対する成果



研修前後及び３ヶ月後について、オンライン授業・日本語教育における受講者自身の状況等をみた。

研修前は「有効に実施できているが、さらに良いものにしたい」が３７．０％に対して、研修後は“授業を工夫している”（「授業が単調にならないように、メリハリをつけている」「有効な授業にするため、新たな取り組みを追加した」の合計）が７４．３％となっており、オンライン授業の中で工夫を凝らしている人が一定程度いるとわかる。

３ヶ月後には“成果が得られた”（「想定以上の成果が得られた」「想定通りの成果が得られた」の合計）が３割半ばとなっており、日本語教育の参照枠の理解に対する受講者自身の成果の実感度合い（５割弱） と比べると低いことがわかる。

【研修前】オンライン授業における受講者自身の現状（理論編ｎ=31、実践編ｎ=27）

選択肢	理論編（%）	実践編（%）
オンライン授業の経験が乏しい又は無い	25.8	25.9
オンライン授業を行っているが、単調になってしまう	29.0	33.3
有効に実施できているが、さらに良いものにしたい	38.7	37.0
その他	6.5	3.7
無回答	0.0	0.0

【研修後】オンライン日本語教育の取り組みの観点から受講者自身の変化（ｎ=35）

選択肢	（%）
実施前と変わらず理解が乏しい又は無い	0.0
授業が単調にならないように、メリハリをつけている	40.0
有効な授業にするため、新たな取り組みを追加した	34.3
その他	25.7
無回答	0.0

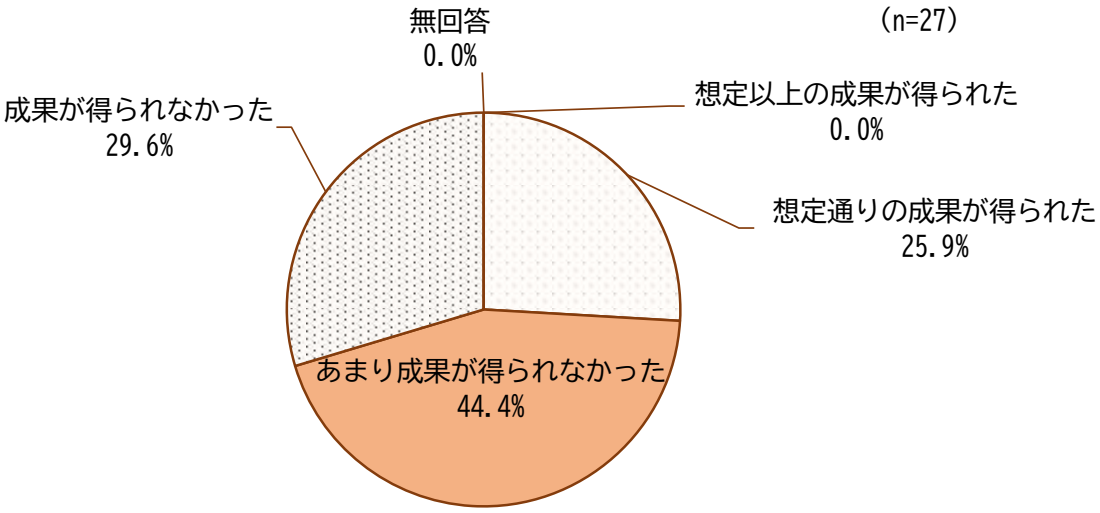
【研修３ヶ月後】オンライン日本語教育の取り組みにおける受講者自身の課題・目標に対する成果（ｎ=27）

選択肢	（%）
想定以上の成果が得られた	18.5
想定通りの成果が得られた	18.5
あまり成果が得られなかった	29.6
成果が得られなかった	33.3
無回答	0.0

オンライン日本語教育の取り組みに関連した所属する教育機関の課題・目標に対する成果（下グラフ）について、“成果が得られた”（「想定以上の成果が得られた」「想定通りの成果が得られた」の合計）が２割半ばとなっており、同様に“成果が得られなかった”と回答した受講者の方が多い。

「あまり成果が得られなかった」または「成果が得られなかった」と回答した人の理由をみると、「日々の業務が忙し過ぎて研修内容まで振り返ることができていないから」「対面授業の強化を図っており、オンライン授業の機会がないから」などがあげられた。

オンライン日本語教育の取り組みに関連した所属する教育機関の課題・目標に対する成果



研修前後及び３ヶ月後について、オンライン授業・日本語教育における受講者の所属校の状況等をみた。

研修前は「オンライン授業を行っているが、人的リソースが不足している」が１８．５％に対して、研修後は「人的リソースの不足、又は改善検討がされていない」が３１．４％と増えており、研修を通じて人的リソースの不足に気付いた人が多くなったことがうかがえる。

３ヶ月後には“成果が得られた”（「想定以上の成果が得られた」「想定通りの成果が得られた」の合計）が２割半ばとなっており、日本語教育の参照枠の理解と同様に、受講者自身の成果の実感度合い（３割半ば）と比べると低いことがわかる。

【研修前】オンライン授業における受講者の所属校の現状（理論編ｎ=31、実践編ｎ=27）

選択肢	理論編（%）	実践編（%）
オンライン授業の環境が整っていない	25.8	25.9
オンライン授業を行っているが、人的リソースが不足している	22.6	18.5
有効に実施できているが、さらに良いものにしたい	38.7	40.7
その他	12.9	14.8
無回答	0.0	0.0
オンライン授業の環境が整っていない	25.8	25.9

【研修後】オンライン日本語教育の取り組みの観点から受講者の所属校の変化（ｎ=35）

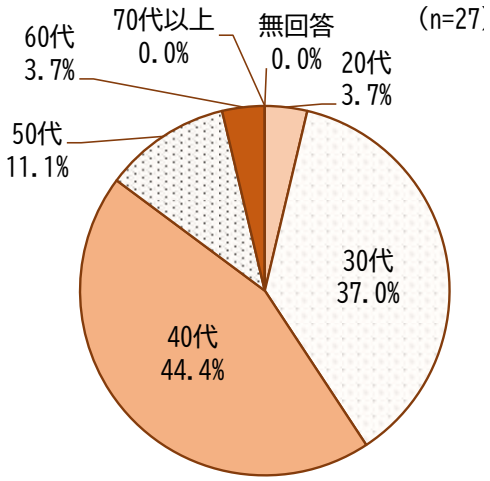
選択肢	（%）
環境が整っていない、又は一部不足している	20.0
人的リソースの不足、又は改善検討がされていない	31.4
その他	48.6
無回答	0.0

【研修３ヶ月後】オンライン日本語教育の取り組みにおける受講者の所属校の課題・目標に対する成果（ｎ=27）

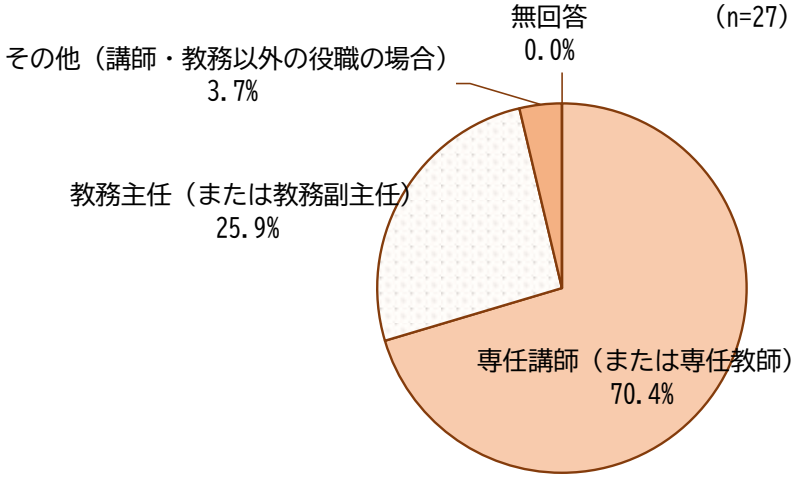
選択肢	（%）
想定以上の成果が得られた	0.0
想定通りの成果が得られた	25.9
あまり成果が得られなかった	44.4
成果が得られなかった	29.6
無回答	0.0

受講者の年齢、役職、日本語教師経験年数、所属校の人数規模は以下の通りである。

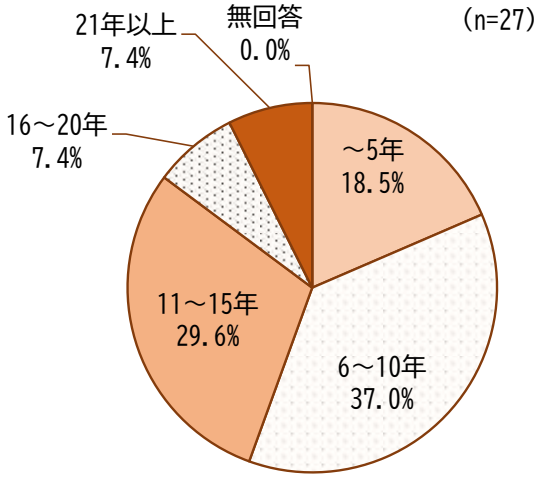
受講者の年齢



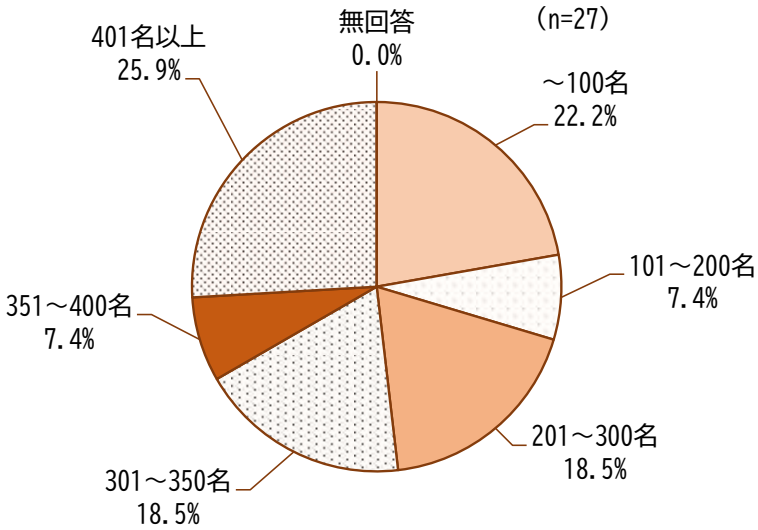
受講者の役職



受講者の日本語教師経験年数



受講者の所属校の人数規模



●日本語教師研修受講者調査　総括

- 日本語教育の参照枠の理解深耕の観点における研修後の満足度と、カリキュラム導入計画の作成の観点における研修後の満足度は９割弱となっており、研修全体を通しての満足度も９割弱となっていることから、多くの日本語教師が研修に対して満足していることがうかがえる。

- 研修全体に対して満足したと回答した人の理由をみると、「ふだん話せない他校の先生と交流できて良い刺激になったから」「もう少し話し合う時間があれば良かったが、他校での取り組みを聞けて勉強になったから」など、他校の先生との交流や日本語教育機関の状況に関する情報交換ができた点があげられた。

- 研修前は「参照枠についての理解が乏しい又は無い」が４４．４％に対して、研修後は２．９％と大きく減少、研修後の「その他」では「運用には至っていないが、知識が身についた」という趣旨の回答がほとんどであり、今後、所属校で運用していくことが期待される。３ヶ月後には“成果が得られた”（「想定以上の成果が得られた」「想定通りの成果が得られた」の合計）が５割弱となっており、研修が日本語教育の参照枠の理解に一定程度寄与したことがうかがえる。

- 研修前は「有効に実施できているが、さらに良いものにしたい」が３７．０％に対して、研修後は“授業を工夫している”（「授業が単調にならないように、メリハリをつけている」「有効な授業にするため、新たな取り組みを追加した」の合計）が７４．３％となっており、オンライン授業の中で工夫を凝らしている人が一定程度いるとわかる。

- 教材・サポート等、事務局に対して８割強の日本語教師が満足しており、教材・サポート等が効果的であったことがうかがえる。

- 教材・サポート等、事務局に対して満足したと回答した人の理由をみると、「教材やレジュメがわかりやすかったから」「返信が早く、急な欠席にも対応してもらえたから」など、わかりやすい教材や柔軟かつ迅速な対応に関する前向きな評価が得られた。

- 日本語教育の参照枠の理解に関連した日本語教師自身または所属する教育機関の課題・目標に対して成果が得られなかったと回答した人の理由をみると、「日々の業務に追われ具体的な行動に移せていないから」「研修後すぐに受験シーズンとなり構想を練る時間もなく対応できていないから」など、研修自体に効果がないというよりも、研修の成果を発揮できる場面やチャンスがないことがうかがえる。

７）全体総括

- 極めて意義の高い研修であったにもかかわらず、受講者を告示校の専任教師に限定していたため、今後は、広範な層に対する研修を展開したい。
- オンラインで研修を実施したことにより、移動時間がかからなかったことは、多忙な教師にとって受講のしやすさにつながった。今後も、同じ形式で実施することにより、受講者がより多くなると考える。
- 受講者同士で形成された横のつながりを生かし、所属校における導入計画、マイスクールＣａｎ ｄｏの実践を共有し合う場を設け、そこで得られた気づきをもとに、本研修の内容をさらに改善・充実させることが今後の展望である。
- 実践編に関しては、今後、この研修に続く形で、「留学」「生活」「就労」といった分野別の研修を展開したい。

4－2．Zoom研修

実施したZoom研修の概要について、以下に示す。

1）目的と研修概要

項目	内容
研修内容・特徴	オンライン日本語教育の経験がない、または浅い日本語教師向けに、オンライン授業を行う際に欠かせないオンライン配信アプリケーションの使い方を覚え、授業実施の心理的ハードルを下げる。
研修形式	オンデマンド動画を作成し、事業専用kintoneおよびLMSでいつでも好きなときに視聴ができる環境を整えた。

各回の概要

入門編	01基本情報
入門編	02ミーティングに入室する参加者側
入門編	03ミーティングでの操作
入門編	04ミーティングの開催準備
入門編	05ミーティングの開催
実践編	06単方向・双方向の授業
実践編	07授業で使える機能　その1
実践編	07授業で使える機能　その2
実践編	07授業で使える機能　その3
実践編	07授業で使える機能　その4
実践編	08詳細設定
実践編	09トラブルへの対処　その1
実践編	09トラブルへの対処　その2

２）実施内容

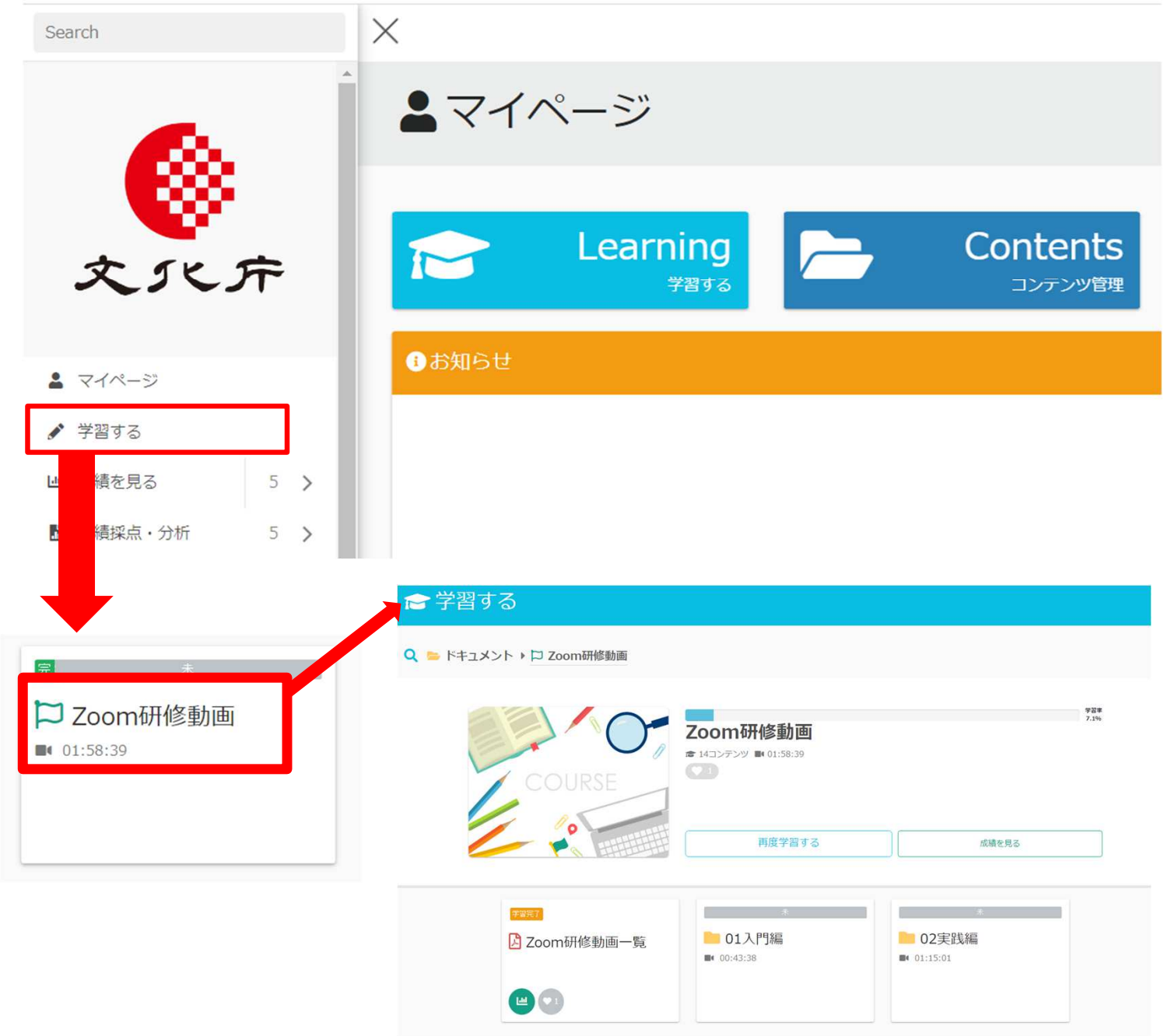
		大項目			小項目
理論編	1	基本情報		1 2 3 4	Zoomでできること 機材や通信環境 Zoomのアカウント ウェブポータルとアプリケーション
	2	ミーティングに入室する 参加者側		5 6 7 8 9	ミーティングへの参加方法 学生側ができること デバイスの違い オーディオとカメラの設定 名前の変更
	3	ミーティングでの操作		10 11 12 13 14 15	表示画面の切り替え マイクのON／OFF カメラ（ビデオ）のON／OFF リアクション　絵文字のリアクション リアクション　手を挙げる等の意思表示 チャット機能
	4	ミーティングの開催準備		16 17	サインインとミーティングのスケジュール ミーティングへの招待
	5	ミーティングの開催		18 19 20 21	ミーティングの開始 ホストと共同ホスト 待機室、入室許可 ホストの権限でできること
実践編	6	単方向・双方向の授業		22 23	単方向・双方向の授業 ハイブリッド型の授業
	7	授業で使える機能	その１	24 25 26	参加者のマイク・カメラの操作とリクエスト オーディオ・ビデオ等の設定 音声共有
		授業で使える機能	その２	27	画面共有　共有するものの見やすさ、 画面共有のいろいろな方法、共有画面の切り替え方
		授業で使える機能	その３	28 29 30	ホワイトボード チャットとファイル共有 ブレイクアウトルーム
		授業で使える機能	その４	31 32 33 34	投票 レコーディング レポート 授業運営上でのコツ
	8	詳細設定		35 36 37 38	設定できること 入退室通知、待機室 チャット 画面共有
	9	トラブルへの対処	その１	39 40 41	音声のトラブル 画面のトラブル 画面共有のトラブル
		トラブルへの対処	その２	42 43 44 45	ホスト（教師）が落ちた場合 ミーティングに参加者がいない ホストなのに、ホストを追い出された 意図的な妨害

Zoom研修は、事業kintoneおよびLMS（learningBOX）よりいつでも視聴できるよう整えた。

●kintone

Kintoneアカウントは採択通知後に日本語教育機関ごとに１アカウント付与した。
アカウントは各校１つのため、一度に視聴できる人数は限られるものの、実証授業開始前にＺｏｏｍ研修動画を視聴し、その後授業に取り組めるフローを実現した。

●learningBOX

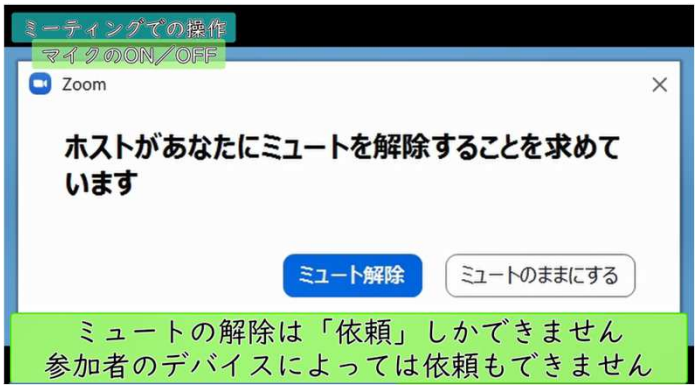


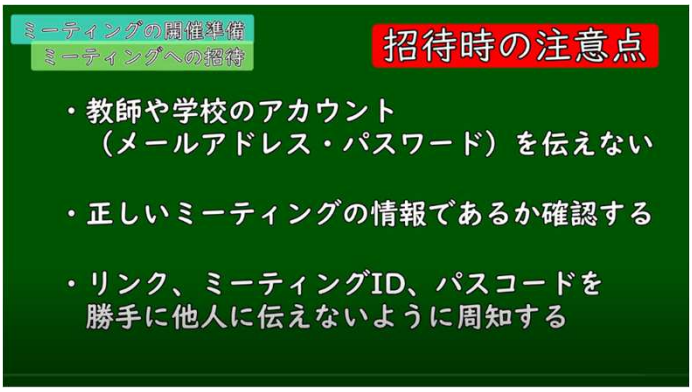
learningBOXは各日本語教育機関の教師用に１０アカウント前後を目安とし付与（※受講者アカウント数は除く）した。複数の日本語教師が同時にオンデマンド受講できる環境を提供することで、効率的にZoomの使い方を学習できるようにした。

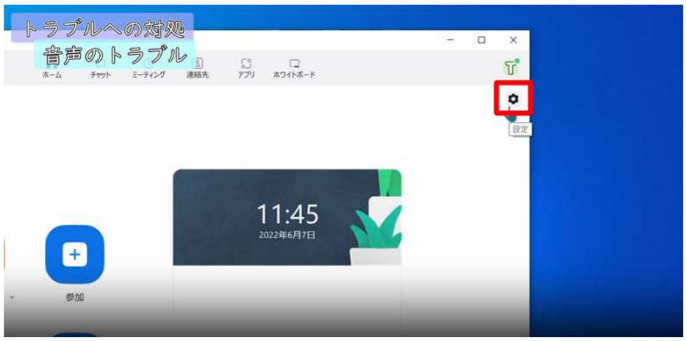
●Zoom研修画面より一部抜粋

- 「入門編」「応用編」に分けて動画を作成した。

オンデマンド教材とすることで、自由な時間に自身の理解度に合わせて研修を受講（視聴）できる。







「5．評価検証委員会による分析」は、4ページに記載の評価検証委員が実証成果を評価・分析した内容をまとめたものである。

5－1．文化庁の枠組みによる「グッドプラクティス」

『3－2．グッドプラクティス　1）実証結果にみるグッドプラクティス』で抽出したグッドプラクティスは「文化庁の枠組みに照らして選定したグッドプラクティス」（以下「文化庁GP」）と呼ぶこととする。

しかしながら本事業の評価検証委員会は全員一致で、文化庁の枠組に照らして「グッドプラクティス」を選定する作業には教育的に大きな問題があると判断している。理由は以下の通りである。

- オンライン授業における効果的な試みについて論じる場合、まずは「オンライン」という形態についてどう対応するかという汎用的な基本方針から論じるべきである。教育現場をこのように細分化し、それぞれ別々に効果的授業例を抽出しようとする機械的な方法論は、「オンライン授業すべてに通じる基本的な工夫」に対する注目を失わせるものである。

- 近年は、「話す」「聞く」「読む」「書く」など、各技能に分断してトレーニングを行うのではなく、統合的な活動の中で各技能を関連させながら伸ばしていくという教育方法がとられることが多い。各技能に分断して効果的実践を抽出しようとする発想そのものが旧時代のものであり，教育観のアップデートができていないと言わざるを得ない。

- オンライン授業を【オンライン】【ハイブリッド】【オンデマンド】【ハイフレックス】の4手法に分けているが、これら4つの手法は一部階層関係をなしており、並列的（4つのどれかに素直に分類できる）なものではない（ここで詳細を論じることはしないが、一例を挙げるならば、【ハイブリッド】は【ハイフレックス】を含む概念である）。そもそも「オンライン授業」の定義及びその類型化自体が不明確であった。

- 例えばA1レベルで効果的と考えられる実践が抽出できたとして、その実践での工夫が「A1レベルにおいて特に有効」だったのか、「A1レベルだけでなく多様なレベルにおいて有効と考えられるが、たまたまその実践での対象レベルがA1だった」のかを区別することは決してたやすいことではない。そうした実践に対し、一律に「A1レベルにおいて有効」というラベルを貼って紹介することは誤解を招く危険性が高い（このことは「レベル」についてだけでなく、「手法」や「目的」についても当てはまることである）。

- マトリクス内の、あり得る限りの全項目について複数の「グッドプラクティス」を選定するということは、結果として、真に優れた実践を見つけ出すというより、「必要な数の実践を無理に「グッドプラクティス」として選定せざるを得ない」ということになる。これは、実際は「グッド」とは呼びにくい事例も「グッドプラクティス」として広報されてしまうという結果を招くこととなり、本末転倒である。

5－2．教育的視点から見たグッドプラクティス

『3－2．グッドプラクティス　1）実証結果にみるグッドプラクティス』では、あくまでも文化庁の枠組みに則った「文化庁GP」を選定したが、上で述べたとおり、本事業の外部評価委員会としては、こうした枠組みに基づいて文化庁GPを選定すること自体、非教育的で意義の薄い作業であると考える（選ばれた文化庁GPが非教育的なのではない。GP選定のために示された枠組みそのものが非教育的なのである）。評価検証委員会では、本事業の仕様に沿って、文化庁GP選定のためのルーブリックを策定し、文化庁GPを選定するところまでは実施した。しかし今回の事業を多少とも意義あるものにするためには、異なる観点によるグッドプラクティスの選定およびその分析が不可欠であると判断し、以下の教育的観点から見たグッドプラクティスを追加で選定することとした。

日本語教育機関側から提出された報告書を読む限り、本事業には全体として、オンライン授業について十分な経験を持っていなかった日本語教育機関が、日本語教育機関全体および個々の教師のオンライン授業リテラシーの向上を目指して参加したケースが多かったものと判断される。このため、「フリーコース」以外の3コース（スタンダード・観光・就労）においては、事務局側で準備した教材を「実際に使うことで学びを得る」というスタンスでの参加がほとんどであった。日本語教育機関側で独自に「コースの目標」を設定し、「教育内容・方法」を案出するのではなかったため、こうした観点で評価を行うことが適切であるとは考え難い。

一方、本事業には極めて多くの日本語教育機関が参画しており、その中には、所与の環境の中でオンライン授業を円滑に進めるべく独自の工夫を案出していたり、オンライン授業における受講者の様子を真摯に観察することで、今後のオンライン授業の改善に資する気づきを得たりしていたと思われる参加校も見受けられた。こうした日本語教育機関の試みは、「教育目標がどの程度達成されたか」「採用された教育方法が効果的であったか」というように、性急に「結果」のみを求めるような観点ではなく、「実践のさなかでの観察に基づき、工夫や気づきを得ようとしていたか」というような、「未来に向けての可能性」といった観点から見ていくことではじめて適切に評価することができるものであろう。そうした工夫や気づきが見られた実践を、教育的視点から見たグッドプラクティスと呼び、顕彰していくことは重要なことと考える。

そこで本事業の評価検証委員会では、以下の手順により教育的視点に基づく分析を行い、「文化庁GP」とは別に、独自観点によるグッドプラクティスを選定することとした。

＜教育的視点からみたグッドプラクティスの抽出方法＞

１）　評価検証委員会にて作成したルーブリックにより、全項目について４点の評価を得たものを中心に[1]、高得点を得た実践を抽出する。

２）　これらの実践について記述された「最終報告書」を詳細に読み、以下２つの観点において「高く評価すべき」と判断される実践を、３名の委員の合議により抽出する。

＜グッドプラクティスの評価ポイント＞

■評価ポイント１：観察に基づく教育方法の案出・調整

オンライン授業の実践の中で、受講者の反応、通信環境等をリアルタイムに観察するとともに、そうした観察に基づいて教育方法等を適切に案出・調整することができているか

■評価ポイント２：観察に基づく考察・課題の明確化

オンライン授業の実践の中での観察に基づき、将来のオンライン授業実践の継続・改善にも資するような考察を行うとともに、未来に向けて対処すべき課題を明確に自覚できているか

[1]担当者が謙虚であったため，あるいは実践の問題点を的確に捉えることができていたために，実際の実践は優れていたにもかかわらず自己評価は低めとなっている学校があったことも想定できる。このため，ルーブリックの３項目（日本語教育機関の実証内容）については４点だけでなく，３点であったものも含め抽出の対象とすることとした。

この手順によって得られたグッドプラクティスを以下に示す。なお、各校・コースの報告書内の文言から、各評価ポイントについて「高く評価できる」と判断する根拠となった部分を引用するとともに、その部分がなぜ高く評価できるかについて、委員としてのコメントを付す。

報告書からの引用部分はHG教科書体で示した。

東北多文化アカデミー（スタンダードコース）

評価ポイント１：観察に基づく教育方法の案出・調整

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- 事務局提供のテストを定期的に実施して習熟度を確認した。受講者はＬＭＳの利用が困難だったため、メールにより実施した。具体的には、対象の課の終了後、学校から受講者へ問題用紙のＰＤＦを送信し、受講者は解答を写真に撮って返送し、その後正答と得点を各々へ送りフィードバックした。【学習方法】
- コース開始直後、途中（『みんなの日本語　Ⅰ』１０課終了後）、コース終了後の３回、評価を実施した。受講者はＬＭＳの利用が困難だったため、ＬＭＳ上のものと同じ内容のGoogleフォームを作成し、そこから自己評価を入力してもらった。【評価方法】

≪評価検証委員会コメント≫

テスト自体は事務局提供のものであり、日本語教育機関側が独自に作成したものではない。しかしそのテストを、当初はＬＭＳ上で実施の予定であったが、受講者にとってＬＭＳの利用が困難であることを知ると、テストの実施方法をメールのやり取りによるものへ、また自己評価の記入はGoogleフォームによるものへと柔軟に変更している。不測の事態に対し、適切に対応できていることがうかがわれる。

評価ポイント２：観察に基づく考察・課題の明確化

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- オンラインでは「書く」活動を行うことが難しく、受講者の手元が見えないためリアルタイムで指導することは非常に困難である。しかし今回のひらがな・カタカナの学習で実施したように写真を送ってもらい添削したり、文字の学習が終わっても継続的に「書く」課題を与えるなどして、会話だけにとどまらない総合的な日本語能力習得を目指したい。【オンライン授業上の課題／改善点】

≪評価検証委員会コメント≫

オンラインでは受講者の手元が見えないため、手で「書く」活動を行うことが難しい、という課題を認識しているが、リアルタイムでの指導は難しくとも、書いた文字を写真に撮って送ってもらって添削する、という代替案を案出し、実施している。オンラインでも活動が行いやすい「話す・聞く」という活動に偏るのでなく、困難であっても継続的に「書く」課題を与え続け、バランスのとれた日本語能力の習得を目指そうとしている。

続き

東北多文化アカデミー（スタンダードコース）

評価ポイント２：観察に基づく考察・課題の明確化

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- 受講者にある程度の日本語能力がないと、通信トラブルなどがあった際に対処が難しい。画面がうまく共有されていない、音声が聞こえづらいなどの問題を受講者から伝えることができないと、支障があるまま授業が進んでしまう。オンラインで初級クラスの授業を行う場合は、日本語教師だけで実施するのではなく、技術面でのサポーターも配置する必要がある。【オンライン授業上の課題／改善点】

≪評価検証委員会コメント≫

技術上のトラブルがあったとき、その解決のためには受講者にある程度の日本語能力が必要、という新たな気づきを得て、「初級クラスの授業を行う場合は、技術面でのサポーターも配置する必要がある」という提案をしている。この記述内容によれば、そのサポーターは受講者に理解可能な言語ができる必要があることになるが、しかし仮にそうでないにしても、日本語を教える日本語教師の他、技術的問題に専門に対応する担当者がその場にいれば、より適切な対応を行える可能性があるだろう。

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- 自己評価では、コース開始直後は「よくできる」という回答が非常に多かったが、コース途中や終了後は評価が下がり、日本語教師からの評価に近付く傾向が見られた。授業への参加が自身の不得意な部分に気付くきっかけとなり、モチベーションアップにつながったようである。【学習効果・成果（総括）】

≪評価検証委員会コメント≫

受講者の自己評価を、「学習成果」を確認するための手段と安直に捉えるのでなく、日本語教師からの評価と突き合わせることによって、「受講者自身が自分自身の学習状況を適切に把握できているか」を確認するための手段として活用している。オンライン授業では対面授業と比較すると、受講者の習得状況を正確に捉えることは困難となるため、様々なデータを複合的に活用していくことが重要となるだろう。

早稲田京福語学院（観光コース）

評価ポイント１：観察に基づく教育方法の案出・調整

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- 元々固有名詞を知らない状態であり、全体を聞き取ってもたとえば「原宿って何ですか」といったように一部何のことを言っているのか分からないという状態であった。地方の特徴的な話し方や名称等を学び理解することで、会話のスピードを遅くする必要がないレベルにまで聞き取りができるようになった。
- 固有名詞については元々読み方を知らないために止まってしまうこともあったため、毎回の穴埋めテストでフリガナを取るなど工夫したところ、最終的には全体の文章もスラスラと読めるようになった。【日本語能力評価の結果】

≪評価検証委員会コメント≫

「観光」がテーマの教材であったため、その中に出てくる固有名詞がわからないとまったく理解ができなくなる、ということに気づき、固有名詞の理解に特化した練習を導入することで「聞く」「読む」における理解度を上げることに成功している。

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- 当初、会話の概ねの意味は理解しているものの、基礎が定着していなかったからか流暢に話すまでには至っていなかった。おそらく「日本の観光」という授業内容であることから受身の姿勢であったと思われる。そのため、自身の文化との比較を促すという働きかけを行なってみた。最初の受身的な姿勢から、自文化との比較という形で発話を促した。すると徐々に学生同士の会話量が増え、中旬には日本の観光地と比較した学生自身の出身地の観光地について全員がスムーズに説明できるようにまでなった。【学習効果・成果（総括）】

≪評価検証委員会コメント≫

ここでも使用教材が、参加者がまだ直接体験したことのない「日本の観光」という話題を取り上げていたという特質から、受講者は情報を受身的に受容するという態度を示しがち、という傾向が見られた。
このことに対応するために「自文化との比較を促す」という新たな働きかけを行い、結果として学生相互の発話量が増え、スムーズな発話が可能となったという。

続き

早稲田京福語学院（観光コース）

評価ポイント２：観察に基づく考察・課題の明確化

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- 今回のコースを通し、「他国の文化を学ぶことで自国の文化を振り返ることができる」ということを改めて感じた。今後、既存の学習内容に加え、随所に観光コースの内容を導入することで、「日本について学びながら自国のことを自分の言葉で説明する」という形で、当校で目標としている「表現力の強化」に繋げていきたい。【学習効果・成果（総括）】

≪評価検証委員会コメント≫

「他国の文化を学ぶことで自国の文化を振り返ることができる」、「自国のことを自分の言葉で説明することで、表現力の強化につなげていくことができる」というのは、今回の「オンライン観光コース」の教材を使ってみての気づきであったが、この気づきを「オンライン観光コース」の教材を使用する際だけでなく、それ以外の教育の場においても活用していこうとする展望を示している。

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- 分からない語彙等は学生同士で助け合うなど、オンライン上でも学生達が「傍観」から「協力」し合う形が自然と形成されていたのは予想外であった。どうしてもオンラインだと隣同士で話しにくい、相談しにくいという問題があり、「こんな質問をして笑われないか」と心配して分からないままにしてしまう傾向にあるが、今回のクラスではお互いに助け合う形ができたのは良かった。逆に言えば、クラス内でそれだけの親しい関係が築けたからこそであり、仮に大人数になってしまった場合はそれが難しいのではないかと改めて感じた。

≪評価検証委員会コメント≫

実践前は、「オンライン授業だと学生同士の協力関係は生まれにくい」という印象を持っていたようだが、「日本文化と比較して自国の文化を語る」という活動を行うことで、オンラインでも学生同士の協力関係を作り出すことが十分可であるという実感を得ている。こうした実感が得られたということは、教師側が今後オンライン授業を行うにあたっての心理的ハードルを下げたものと思われる。
一方、オンライン授業において学生同士の協力関係を作り出すには、参加者の人数という要因も考慮に入れなければならないという新しい問題意識も得ている。

埼玉日本語学校（就労コース）

評価ポイント１：観察に基づく教育方法の案出・調整

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- 用意されている教材をただ使うのではなく受講者のニーズを確認し授業を行った。会話に加え、聴解、読解、漢字も学習したいとのことであったので、ビデオ教材を用いて聴解活動を行い、ビデオのスクリプトを用いて読解活動を行った。漢字についてはスクリプト内に出てきたものを使って読みと筆順の確認をしていった。また会話練習では用意されているものの他にコンビニ以外でもいろいろな業種で幅広く使える会話表現を学ぶためにＰＰＴを自作し練習を行った。【学習方法】
- 就労コースのレベルに達していない受講者には無理なく学習が進められるよう、受講者のレベルに合わせて授業の内容を工夫して進めていった。具体的には就労コースの教材をベースとしつつ、会話文の中にある易しめの文法をピックアップして練習できるようにＰＰＴを自作して導入・練習をしていった。このようにダブルスタンダードの授業を展開することで受講者間にレベル差はあるものの取りこぼしなく授業が展開できた。【学習方法】

≪評価検証委員会コメント≫

教材自体は事務局作成のものであるが、それだけでなく必要に応じ様々な補助教材を自作し、学習内容に厚みをつけている。また、用意された教材をうまく受講者のニーズに合わせ聴解活動と読解活動に活用できている点にも工夫が見られる。クラス内にレベル差のある場合対処が難しいが、レベルの低い受講者に対しては基本的な日本語力が身につくように対処することで、全員に対して一定の学習効果を上げている。

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- 提供されている教材に加え、日本の文化や習慣等を紹介すべく様々な活動を行った。具体的には各回の終わりに宿題として「訪れてみたい日本の地」や「食べてみたい日本食」など様々なテーマを決め、各自調べてもらい次の授業の冒頭で発表してもらったり日本文化の紹介だけでなく自国の文化や習慣についても発表してもらう時間を設けるなどし文化や習慣の比較学習を進めていった。【学習方法】
- コンビニやカフェで実際に買い物する様子を撮影して見せたり、近くにある神社や街並みを撮影して紹介するといった活動も行い、受講者は大変興味を持って撮影したものを見てくれた。授業後の感想では「コンビニで使う日本語だけでなく、日本の文化も学習できて非常に楽しかった。ぜひ日本へ行ってみたい」という声が多数上がり、日本留学・日本語学習のよい動機づけになったように思う。

≪評価検証委員会コメント≫

単に教材を学ぶだけでなく、受講者が能動的に活動でき、自分自身の興味関心を学びに活用できるように工夫している。また、簡単に動画が撮影できるという現代のテクノロジーのメリットを最大限に活かし、受講者の動機づけに働きかけることができている。このような取り組みは、他の教育機関でも容易に実践に組み込むことができため、参考になると思われる。

ＫＣＰ地球市民日本語学校（フリーコース）

評価ポイント１：観察に基づく教育方法の案出・調整

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- ターム中盤、及び最終日に発話力テスト（一問一答と会話作成）を行い、評価する。
  一問一答：教師と学生が一対一で行い、その返答内容を点数化し、評価する。
  会話作成：学生同士ペア、または３人のグループになり、与えられた場面とそれぞれの役割に沿って会話を作成し、練習する。
  その後、スクリプトなどは見ないで発表する。教師はその返答内容（※）を点数化し、評価する。
- ※評価項目：文法、単語、発音、談話構成
  ※評価方法：評価基準を作成し、評価を行った。また、会話は録音・録画し、評価は２名の教師で行い、その平均点を最終評価とした。【日本語能力評価の結果】

≪評価検証委員会コメント≫

オンライン授業において、筆記テストは不正を１００％排除できない。そのため形成的評価が必要になるが、評価のための活動を複数用意し、複合的に学習成果を判断しようと試みている。評価項目や基準の作成を行った上で、担当教師１人が評価するのではなく、録音録画を用い２名の教師が評価を行い、教師の平均点を評価としている点も客観的である。

評価ポイント２：観察に基づく考察・課題の明確化

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- 授業外での聴解練習が少ない受講者は、音自体を聞き取ることができない場合も多かった。
- 今後の課題としては、日本語に触れる機会が少ない海外在住の受講者にどうやって自主的に自宅学習をさせるかである。また、受講者の動機づけになるような、そして学習意欲が持続できるような自宅学習用教材を充実させることも課題である。
- デジタル化が進み、受講者は書くことの必要性をあまり感じないのではないかとも予想していた。文字は必要ないとの声も出ているが、学生からは書いて勉強したかった、書いたものを提出し添削してほしかったとの意見が半数以上の受講者から出た。その理由は、初級段階では書いて覚えるのが効果的ではないか、書くことで覚えることにもつながる、というものだった。今後、デジタル教材を使用し、オンラインのみのでの授業を行う際、どのように受講者に書かせ、それを文法理解につなげていくかが課題である。

続き

KCP地球市民日本語学校（フリーコース）

評価ポイント２：観察に基づく考察・課題の明確化

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- 今回のコースを通し、「他国の文化を学ぶことで自国の文化を振り返ることができる」ということを改めて感じた。今後、既存の学習内容に加え、随所に観光コースの内容を導入することで、「日本について学びながら自国のことを自分の言葉で説明する」という形で、当校で目標としている「表現力の強化」に繋げていきたい。【学習効果・成果（総括）】

≪評価検証委員会コメント≫

この日本語教育機関はＬＭＳを活用し、複数の学習コンテンツを用意ししっかりした反転授業を行なっていた。しかし、学習コンテンツがある程度あっても自習しない学生がいることに気がつき、より充実した学習コンテンツの必要性に言及している。また、手書き問題は、オンラインでの日本語教育において教師が最も解決策を求めていることであるが、これまではあまり受講者側が文字を書く必要性があると感じているかわからないところがあったが、今回の取り組みで受講者から出た声から文字学習のニーズを見付け、今後どのようにしたら良いかと模索し始めている。

≪実施校最終報告会資料からの引用≫

- オンライン特有のインターネット環境の問題点は、どうやっても起きてしまう。また、同時双方向で、初級段階の日本語で交流するのも難しい。zoom上の交流だけでなく、他のツールを使うなど一つの方法に頼らずに方法を考えていかなければならない。

≪評価検証委員会コメント≫

現時点では、オンライン授業を実施する際には、インターネット環境に起因する問題を完全になくすことは不可能である。しかし「不可能」という事実を指摘するだけでなく、「他のツールを使うなど一つの方法に頼らずに方法を考えていかなければならない」と、問題解決の方策についても言及している。同時並行で複数のツール（インターネット上のツール以外のものも含む）をバックアップとして準備し、あるツールが使えなくなったときは別のツールで代用できるようにしておくべき、ということは重要な指摘である。

5－3．オンラインによる日本語教育の成果と課題

1）オンラインによる日本語教育の成果

今回の事業の当初の趣旨は、「入国が困難な外国人留学生への日本語教育環境を構築するため、オンラインを活用した日本語教育を実証することで、ウィズコロナにおける持続的な日本語教育のあり方を検討する」（「公募要領」より）、ということであった。

ここで「日本語教育を実証する」という表現は，なにを証明するのかが明確でなくあいまいであるが、仮に「オンラインを活用した日本語教育を実際に行ってみることで、『オンラインを活用した日本語教育』が実施可能であり、効果があることを証明する」という意味であるとするならば、本事業の趣旨は一定程度達成され、成果を挙げたということができるだろう。

本事業に参加した日本語教育機関には、オンラインを活用した日本語教育について必ずしも豊富な経験を持っていたわけではなく、この事業に参加することで日本語教育機関全体および個々の教師のオンライン授業リテラシーを向上させることを企図していた日本語教育機関も少なくなかったものと考えられる。フリーコース以外の３コース（スタンダード、就労、観光）においては、各日本語教育機関は事務局側で準備した教材を「実際に使ってオンライン授業を試行する」という形で本事業に参加していたが、４-２で言及したように、そうした試行のプロセスにおいても、

- **オンライン授業の実践の中で、受講者の反応、通信環境等をリアルタイムに観察するとともに、そうした観察に基づいて教育方法等を適切に案出・調整することができている（評価ポイント１）**
- **オンライン授業の実践の中での観察に基づき、将来のオンライン授業実践の継続・改善にも資するような考察を行うとともに、未来に向けて対処すべき課題を明確に自覚できている（評価ポイント２）**

という「学び」が実際に得られていることを、各日本語教育機関が作成した最終報告書（最終報告会資料）に基づき確認することができた。

オンライン授業というのは多くの参加校にとっては新しい経験であり、また学生側の通信環境等の不安定要因により、当初予定していた計画通りには進みにくいという事情がある（このことは教育活動には必ずついてまわることではあるが、オンライン授業では特にそれが起こりやすいという特色がある）。このためオンライン授業の実施者側には、上記２つの評価ポイントとして記載したようなことが特に強く求められると言える。

今回の事業では、参加校がどのようにして受講者の様子を把握し、その観察に基づいてどのような工夫を案出していたか、さらにそこから、他の場面にも敷衍可能な課題をどのようにして見つけ出していたか、という実例を抽出し、紹介することができた。

しかし真の意味で大切なのは、「こういうトラブルが生じたときに、このようなやり方で対処した」という「対処事例」としてリスト化し、マニュアル的なTIPS集として活用を促すことではない。上で挙げられた「対処事例」は、あくまでも１つの事例にしか過ぎず、同種のトラブルに対して異なる対応を行うことも当然ながらあり得る。大切なのはこれらの事例を、同種のトラブルに出会ったときに「自分ならどのように対応するか」「他にも適切な対応はできないか」について、自ら考え出すためのヒントとして活用しようとすることである。

オンライン授業を真の意味で普及していくためには、他の教育機関における成功事例をそのまま模倣するのではなく、そうした事例を読む側が、「なぜこのケースではこの対処が功を奏したのか」「自分たちの教育機関で同様のトラブルが起こったとき、同様の対処は有効なのか」「もし有効でないとしたらそこにどのような調整が必要になるのか」などのことを、自律的に、かつ動的に考えていくことが重要と考えられる。

なお、本事業で抽出された「グッドプラクティス」については、「そのまま模倣できるモデル」として捉えるべきではない。**これらの実践は、「それをもとに各日本語教育機関が自ら考察を深めるための材料」として提示されている**のだということをここで改めて強調しておきたい。

2）オンラインによる日本語教育の課題

オンラインによる日本語授業を実施する中で、複数の日本語教育機関から「問題点・課題」として頻繁に指摘されたこととしては以下のようなものが挙げられる。

- **受講者側の通信環境が悪く、受講者が何度もZoomから落ちるなどして、十分なコミュニケーションが取れなかった。**
- **ビデオをONにするよう求めたが、最後までビデオをONにしない受講者もおり、学習の定着度が見えにくかった（通信環境による可能性もあり）。**
- **対面の授業と比較すると、同じ活動を行うのにも時間がかかり、効率が悪かった。**
- **受講者のマイクが雑音を拾ってしまい、他の受講者の妨げとなるケースもあった。**
- **日本語レベルが高くない受講者に対しては、Zoomやブレイクアウトルームの機能についての説明は母語に頼らざるを得ず、困難であった。**
- **（無料参加で強制力がないため）受講者側のモチベーションが必ずしも高くなかった。**

しかしながらこうした問題点は、今回のような形でオンライン授業を行う際にはついてまわることで、予想可能であったことである。かつ、授業を運営する側にとってはいずれもコントロール不可能な要因であり、これらの問題点を根本的に解決することはできない。授業運営者としては、こうした問題は避けられないものとして受け入れた上で、「授業運営上の悪影響をいかにして低減していくか」を考えていかざるを得ない。

こうした問題に接した参加校の中には、「Zoomだけに頼らず、他のツールも使えるようにしておく」「オンラインでは対面で行っていた活動をそのまま行うのではなく、オンラインに特化した活動を行う」「技術面に特化して問題に対応できる要員にいてもらう」など、具体的対応方法について言及していた日本語教育機関もあった。一方でこれらの問題を、「オンライン授業がうまくいかなかった理由」としてのみ捉え、その対応方法の案出までにはいたっていない日本語教育機関も少なからず見受けられた。また「うまくいかなかった理由」を、事務局が準備した教材の不備にのみ帰している学校も見受けられた。不備の指摘は重要なことではあるが，事態の改善のためには，そうした不備に対する対応策の提案がなされていればさらによかった。

「オンライン授業」とは新しい形態の授業であり、授業の効果的な進め方等について、明確な方法論が確立しているわけではない。各校の実践の場において様々な工夫を積み重ね、共有を行うことにより、「日本語教育業界全体として」有効な方法論を作り上げていくべき段階にある。

こうした段階においては、「オンライン授業に参画する日本語教育機関それぞれが、方法論の確立に直接参画していこう」とする機運を、日本語教育業界全体で高めていくことが極めて重要と考える。様々な制約がある中で、それでもオンライン授業を実施していく必要があるとしたらどうすればいいのか。それは、誰かから教えてもらえることではなく、それぞれの日本語教育機関が、機関なりの個別的な事情を勘案しつつ、自律的に考えていかなければならない。「人任せにはできない」という当事者意識をどのように涵養していくかということこそが、オンライン日本語教育の最大の課題と言えるであろう。

5－4．オンライン授業普及に向けた制度・仕組みに関する提言

1）オンライン授業普及に向けた制度・仕組みに関する問題点

オンライン授業の普及に向け、今後どのような制度・仕組みを構築していくかについて考察するにあたっては、まずは今回の「ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業　委託業務」という事業自体がどのように評価され得るか、というところから論じなければならない。

率直に申し上げる。今回の事業は、教育的な観点から見たとき、看過し難い問題点が多数含まれていたと言わざるを得ない。最も大きな問題点は，事業の目的があいまいであったか，あるいはある時点から変質してしまったように見えるところである。

公募要領によれば、本事業の趣旨は、「入国が困難な外国人留学生への日本語教育環境を構築するため、オンラインを活用した日本語教育を実証することで、ウィズコロナにおける持続的な日本語教育のあり方を検討する」ということであった。前節で述べたように、ここでの「実証」という語の意味について、一つの解釈をするのあれば、「オンラインを活用した日本語教育を実際に行ってみることで、『オンラインを活用した日本語教育』が実施可能であり、効果があることを証明する」という趣旨であったとみることはできる。また公募開始時、文化庁からは「オンライン授業の『裾野を広げる』」という意味の説明があった。このことはつまり、これまでオンライン授業をあまり経験してこなかった日本語教育機関にもオンライン授業を実施するための機会を提供し、日本語教育機関全体および個々の教師のオンライン授業リテラシーを向上させることを企図していたものと考えられる。少なくともこの報告書を執筆している評価検証委員としては、そういう理解のもと、この事業に参画することを承諾している。

ところが事業開始後，文化庁からは，事業の成果として，「レベル」「技能の種類」「実施手法」「学習目的」を組み合わせたマトリクスの各項目から「グッドプラクティス」を複数選定することが求められた。またその際の【分析の観点】として、①コースの目標設定とプログラムの適切性、②教育内容・方法の適切性、③目標の達成度・成果の分析、というものも示された。これは、「分析の観点」というより「適切性評価の観点」と呼ぶべきものであった。

すでに開始している実践に対しこのような「適切性評価」を求めるということは、「オンライン授業の『裾野を広げる』」というencouragingな趣旨とは合致しない。かつ、このような適切性評価を目指すのであれば、対象となる日本語教育機関はさらに絞るべきであった（このような多数の機関を対象に適切性評価を行う場合、極めて形式的かつ非教育的なやり方に基づく評価とならざるを得ない）。

このことは文化庁自体、この事業は何を最優先の目的として行われるべきか、その目的に合わせて事業自体を同設計し、目的に合わせてどのような成果を求めるべきかということについて、何ら明確な指針を持っていなかったということを如実に示している。このことにより、以下に示すような様々な問題が顕在化したと言える。次ページで詳細に述べる。

■問題点１：最終評価方法の提示時期

受託者であるＪＴＢ（評価検証委員も含む）は、本事業の目的は「オンライン授業の裾野の拡大」、つまり、オンライン授業の経験が少ない日本語教育機関にもオンライン授業の実施を経験してもらい、それによって教師のオンライン授業リテラシーを高めるとともに、今後のオンライン授業のあるべき姿についても検討するところに主眼が置かれており、教育効果の評価等が主目的ではない、と理解していた。

しかしながら上述のように、実証開始後において「分析観点を示した上で、マトリクスの項目ごとに「グッドプラクティス」を選定する」ということを求められた。このような形で最終評価を求めるのであれば，そうした方針は実証開始前に、より明確な形で示されるべきであった。あるいは逆に、「オンライン授業の裾野の拡大」 というようなことには言及すべきでなかった。

本事業受託者は、フリーコースを除く３つのコース（スタンダード、観光、就労）については事務局側で教材を準備し、その教材に基づいて各校にオンライン授業を実施してもらう、という実施形態を取ることとし、各校でのコースの目標設定や、その目標に応じた教育内容の設定などは求めておらず、すでに実証が始まっている時期においてマトリクスや分析観点を示されても、それによる適切な評価は困難である。

■問題点２：「グッドプラクティス」という語のあいまい性

本事業では「グッドプラクティス」を抽出するよう求められているが「グッドプラクティス」とは何を指しているのかについての説明は見当たらず、どのような実践を「グッド」をみなせばいいのかが不明であった。

もちろん、ある教育実践が「グッド」と言えるためには様々な理由や観点があり得る。したがって、「グッドプラクティス」の条件についてはあえて一切提示せず、外部評価委員の見識に基づき、自ら理由や観点を挙げて「グッドプラクティス」を抽出してほしい、という指示なら理解できる。しかしそれなら、委託者側から【分析の観点】を示すのはやめてほしい。示された【分析の観点】は総花的で焦点が絞られていず、委託者として一体どういう実践を「グッドプラクティス」として抽出してほしいのかが不明であった。

また，抽出された「グッドプラクティス」が今後どのように活用されていくのかについても説明がなかった。公的機関の事業において，ある実践が「グッドプラクティス」として認定されるということは、日本語教育業界に対し少なからぬ影響を与えることが予想される。

あいまいな観点に基づき、「どういう方針に基づきグッドといえるのか」が不明な実践を、不用意にグッドプラティスとして公開していくことは得策ではないと考えられる。

■問題点３：「マトリクス」の非教育性

「マトリクス」によって教育現場を細分し、それぞれから「グッドプラクティス」を選定させようとすること自体が非教育的である。

その理由については先に詳細に論じたためここでは繰り返さない。

２）オンライン授業普及に向けた制度・仕組みに関する提言

こうした指示がなされた経緯はどうあれ、実証開始後になってから４２０に細分化されたマトリクスごとに評価を行うことが求められたことは、教育的見地、さらには参加校との信義の見地からも、極めて大きな問題がある。そのことはここではっきり記しておかなければならない。いまこの文章を書いている評価検証委員は「日本語教育を通じ社会をより円滑に動かしていく」ことのために貢献すべき立場にあるからである。この事業に関わった私たちすべての者がいまここで考えるべきことは，「日本語教育において，オンライン授業を『いい意味で』普及していくのはどうすればよいか」ということであって，委託者である文化庁の指示にそのまま従うことでは決してないからである。

以下では上記のような観点から、「オンライン授業普及に向けた制度・仕組み」について提言する。

■提言１：制度・事業の目的は誤解のないような形で示すとともに、中途でぶれさせない

今回の事業では、「オンライン日本語教育実証」の「実証」という語が何を指しているかがあいまいであり、読み手によって多様な解釈を許す余地があった。

つまり、オンライン日本語教育を実際にやってみて、「実現可能であることを示す」という意味にも、「どの程度の効果があるのかを示す」という意味にも取れる。事業の趣旨がこのようなあいまいな形で示され、事業開始後に「本事業の趣旨は実はこういうことであったので、こういう形で最終報告をしてほしい」と指示されることは事業として妥当なことではない。事業の趣旨・目的は、「だれが見ても一意に解釈できる」形で示し、解釈のしようによって目的が変質してしまうようなことが決してないようにすべきである。

■提言２：目的に沿った事業・制度デザインにする

今回の事業では、１事業者あたり数十校が参加し、オンライン日本語教育の「実証」を行っている。これは、事業の目的が「オンライン日本語教育の裾野を広げる」というものであれば、妥当な事業デザインであったと言える。「裾野を広げる」という目的のためには「量」が重要であり、まずは多数の日本語教育機関に事業に参加してもらうことが必要と考えられるからである。

一方で「グッドプラクティスの抽出」ということを目的に据えるのであれば、参加校はぐっと絞り、個々の日本語教育機関の教育実践の方法や内容について、さらに詳細な事情を聞けるようにすべきである。「グッドプラクティスの抽出」のためには、教育の「質」についての詳細な検討が不可欠となるからである。さらに、グッドプラクティスを一方的に抽出するだけでなく、評価検証委員からもきめ細やかなモニターやフィードバックができるようにし、日本語教育機関側と事業受託者との協働によって実践をさらによいものへと改善していけるような体制とすべきである。

ＪＴＢが受託した今回の事業では、３８校から延べ８３コースの参加があった。実証結果を報告する「中間報告会」「最終報告会」に参加したが、いずれの報告会でもごく一部の日本語教育機関からの報告を求めるものであり，発表していない日本語教育機関の実践の内容と成果は書かれた報告書のみで評価を行わなければならなかった。報告書には盛り込めない教育上の工夫もあった可能性があり、我々委員が優れた実践を見過ごしていた可能性は決して少なくはない。「グッドプラクティスの抽出」を目的とするのであれば、すべての実証参加校の実践をきめ細かく把握することが不可欠であり，事業の形態はそうした把握が可能となるようなものにしていかなければならない。

■提言３：日本語教育機関側によるより深い「振り返り」が可能となるような促しを行う

もし今回の事業の目的が、「オンライン日本語教育の裾野を広げる」というものであったとするならば、前述のように、今回の事業デザインは大筋として妥当なものであったと言える。しかしながらこのように、数多くの日本語教育機関にオンライン授業の経験を積んでもらうことが目的であったとするならば、「やりっぱなし」にならないよう、「エビデンスに基づく実践の深い振り返り」を促すような仕掛けが必要であった。

参加校から提出された報告書には、言語活動ごとの目標について、「教育内容」「学習方法」「評価方法」「日本語能力評価の結果」を記載した後、「学習効果・成果（総括）」「オンライン授業上の課題／改善点」等が書かれているが、「学習効果・成果」として実際に挙げられたこととしては、例えば

- **（受講者に）日本語学習を習慣づけることができた**
- **受講者も（授業時間を）楽しみにしてくれていた**

というような、確たる根拠に支えられているとは言いにくい、授業担当者の主観的感想に基づくものが散見された。また「課題／改善点」についても、「授業がうまくいかなかった理由」について記載するにとどまり、そうした課題を今後どのように改善していったらよいかについての考察まで書かれている例は必ずしも多くはなかった。

これは、授業後に「振り返り」が必要ということは、多くの日本語教師が当然のこととして理解している反面、その振り返りとはどうあるべきか、ということについて、十分な共通理解が得られていない、という事情に基づくものであろう。振り返りによって、教育活動による「成果」が得られたと主張するなら、同じ教育現場を共有しない者にとっても「確かにそうした成果が得られたのであろう」と納得できるようなエビデンス（例えば、受講者に、観察可能な行動変容が見られたことを記述するなど）を示す必要があるだろう。また、「この点がうまくいかなかった」という「反省」を示すだけでは、「今後気をつけたい」といったような精神論的決意に終わってしまう可能性が高い。反省を、今後の改善に確実につなげていくためには、「うまくいかなかった原因は（例えば）受講者側の回線状態の不良によるものである」というような他責的要因を挙げるだけでなく、「そうした要因がある中で、自分はどう振る舞えばよかったのか／今後どう振る舞えばよいのか」という、「当事者としての自律的考察」が促されなければならない。

日本語教育機関側が作成した報告書に、「成果のエビデンス」や「当事者としての自律的考察」が少なかった要因としては、「『振り返り』としてはそのような記述が必要」ということが十分に理解されていなかったことがあげられる。単に授業を振り返って「成果」や問題点」を書くように、という指示だけでは、そこに何を書くべきか、ということが十分には伝わらない可能性がある。成果として「～ということができるようになった」ということを記載する際には、必ず「そうした変化を明らかに示すエビデンス」も示すよう、また授業での問題点に気づいた場合は、「当事者として自分はそこでどのように振る舞うべきか」ということも記載するよう，明示的に求めるとともに，実践を行った学校側の深い内省が可能となるようなフィードバックを行っていくことが必要と考える。

■提言４：オンライン授業を経営上でも成立させるために

日本語教育機関からのコメントの中には、「オンライン授業に参加する学生の人数と、日本語教育機関の経営との兼ね合いについて危惧するものも見られた。例えば以下のようなものである。

- **今回は少人数のクラス編成にしたため、一人一人の反応を確かめながら授業を進めることができた。ただ、学校の経営的に考えると、このような少人数制は難しい場合が多く、経営、授業運営の両面から考えて適切なクラス人数を検討すべきだろう。**
- **オンライン授業を今後、有料化した場合に、どの程度、授業料を支払っていただけるか未知数である。ぜひ、本プロジェクトのような事業あるいは、今後も日本語教育機関がオンライン授業の実験を継続できるよう、臨みたい。**

こうしたコメントはつまり、「今回の事業では、無料、かつ少人数のクラスであったためオンライン授業を成立させることができた。しかしこうした事業を離れ、日本語教育機関独自の発意によってオンライン授業を実施しようとしても、経営面でうまく行かない可能性が高い」という危惧を示しているということができる。

この種のオンライン授業は、公的支援があってはじめて可能、ということでは意味がない。今回のような事業の継続を求める声もあるようだが、日本語教育機関側が公的支援を離れ、経営的にも成立しうるビジネスモデルを確立しないことには、オンライン授業という教育形態を持続させていくことは不可能であろう。

そのためには、単なる教育方法・教育内容の改善以前の問題として、例えば受講者募集手段等についても考え直す必要がでてくるかもしれない。オンライン授業では、「強制」によって受講者を従わせることが困難となるため、「いかにして意欲の高い学生を集めるか」、ということが重要になってくる。そのためには学生を紹介する仲介業者に対する指示や契約形態についても変えていく必要があるかもしれない。

また、根本的なビジネスモデルの変革、という発想を持つことが必要になるかもしれない。例えば英語教育の世界では、日本にいる受講者とフィリピンにいる日本語教師とをオンラインでつなぎ、２5分程度という短時間ではあるが、１対１で毎日会話の練習ができる、というやり方が新しいビジネスモデルとして確立している。こうしたモデルが日本語教育でもそのまま活用可能かどうかはわからない。しかしこのような「新規ビジネスモデルの開拓」という発想なしに、これまで日本語教育機関内において対面で行ってきた日本語授業を、同じ教科書を使ってオンラインに置き換える、ということに終始していては、将来的に日本語教育業界にも参入してくるかもしれない大資本に太刀打ちできなくなるだろう。

≪総括≫

オンライン授業への対応を、「ウィズコロナ」という状況だけで捉えるよりも、視野を広げて考えるべきである。ＩＣＴ、ＡＩ等の発達は、今後の教育の根本的な在り方に大きな影響を及ぼす可能性がある。むしろ我々教育に関わる者は、**「不確実で先の読めないＶＵＣＡの時代に教育はどうあるべきか」、というより大きな文脈の中で物事を考えていくべき**であり、「コロナ」というのはその不確実性の１つの要因でしかない。いま目の前にある問題にどう対処するか、ということだけでなく、**その２歩３歩先を見通すパースペクティヴを持つことこそが、我々日本語教育に関わる者にいま求められている**ことなのであり、そうした視点から教育政策や制度が構築されていくことを強く望む。

６－１．全国各種学校日本語教育協会　総括

今回の実証事業において、全国各種学校日本語教育協会はアドバイザーとして参画した。自主事業においては、実証事業で使用するオンライン授業のシラバス・カリキュラム・教材等の作成を行った。実証事業においては、参加した日本語教育機関に対して、事業の説明やアドバイスを実施した。これらの事業を通じて得た成果については、以下の通りである。

１）自主事業について

①スタンダードコース

【ひらがな・カタカナ教材作成】

日本語学習が初めての学習者に対して、ひらがな・カタカナのパワーポイント教材を作成した。「多量のイラストや動画を用いた教材であるため、参加した学習者からわかりやすいとの声が上がった」との報告があった。加えて、まとめテストも実施し、学習者、教師ともに成果を振り返ることができる教材となった。

【初級授業教材作成】

入門初級の学習者を想定し、日本語の電子教科書『みんなの日本語Ⅰ』を利用したオンライン授業用の入門編と初級用の２教材を作成した。利用した教師からは、

・黒板代りの多数のパワーポイントや教案が非常に有用であった

・テストのバリエーションが豊富で評価を嫌がる学習者が減少した

・LMSを利用したことによって、宿題やテストの提出や評価が効率化され好評であった

との声があった。

②観光コース

「日本観光」というテーマの中で、各地紹介のための画像とナレーション、及び観光場面で必要なコミュニケーションのための会話教材を作成し、１本の動画にまとめた。反転学習のための事前学習用動画も、英語・中国語・ベトナム語の翻訳版を作成した。学習者からは、

・画像により日本観光への関心が高められ、学習の動機付けとなった

・事前学習用の動画を視聴することにより、日本語能力が低い学生も参加できた

などの声があった。

③就労コース

大手コンビニ会社様の協力を得て、コンビニの就労現場で使われている生きた会話を取り入れた、反転授業用の動画教材、授業用パワーポイント等オンライン教材を作成した。「この動画を使用した授業は、学生のモチベーションアップにつながっただけでなく、教師側にとっても現場の状況が理解しやすく、臨場感溢れる教室活動が実施できた」との声があった。

④Zoom研修動画

オンライン授業に不慣れな日本語教師が、本事業を実行する上で欠かせない研修であると認識し、丁寧な「Zoom研修動画」を作成した。その結果、「オンライン授業が未経験の日本語教師に特化した動画で、Zoomを使った授業ができるようになった」との声が多数寄せられた。

⑤日本語教師研修

本事業では、「日本語教育の参照枠」を教材として、学習・教材・評価に係る日本語教育の包括的な枠組みの理解と実践を目指して研修を実施した。参加した教員からは以下のような回答があった。

・日本語文法を構造的に捉えた指導から脱却して、多様な目的を持った学習者に対して、広い視野を持って教育内容を考える事ができた
・研修により自校のオリジナル「マイスクールCan do」を作成する方向に考えを深める事ができた
・共に学ぶ他校の教師と共通の指標を持ち、議論を深める中で自校の課題点を持つ事ができた
・今後の改善点が見える化したため年間計画を立てやすくなった

以上のように、教師研修に参加した日本語教育機関の教師には、日本語教育を広く捉える視点を持つ明らかな変容が見られた。

２）実証事業について

実証事業に参加した日本語教育機関からは、「当該実証事業を通じて、ICTスキルが向上し、対面授業と異なる効果が得られた。今後の教育活動においても非常に有用な経験だった。」との声が多数寄せられた。また、観光コース、就労コースでの大掛かりな授業用・事前学習用教材の作成は、個々の日本語教育機関だけでは難しかったが、これらのコースのオンライン授業や事前学習の成果を体験できたことは、実証事業参加の教師にとって貴重な経験であった。また、文型積み上げ型の初級授業とは異なるタスクシラバスの会話教材の授業に取り組めたことで、その成果と課題を認識でき、今後の日本語教育機関における教育内容を考える上で、大きな意義があった。

３）全体総括

一部の大手の日本語教育機関だけでなく、多くの日本語教育機関がこの実証事業に参加できたことで、通常授業以外のオンライン日本語授業に対して向き合うチャンスを得られ、日本語教育界において、オンライン日本語教育の裾野を広げることができた。日頃やってみたくても、費用や人材の面で難しかったことや、渡日前のオンライン授業に対しても、日本語教育機関および教師が、その実現に向けて前向きに取り組む、良い契機となった。今後、留学生に限らず、世界各地にいる日本語学習者や、日本国内の日本語教育空白地域にいる外国人生活者、就労者に対して、日本語教育機関がオンライン日本語教育を通じて活躍の可能性を広げる第一歩となった事業であった。

自主事業の教材作成については、全国各種学校日本語教育協会の会員校、スタンダード4校、観光4校、就労3校、教師研修3校と複数の学校の教師が協力して作成した。

・他校の教師の日本語教育に対する考えや意見を聞くことができ、視野が広がりとても刺激になった。通常の業務にもいい影響を与えてくれた
・ ICTによる会議や作業ができるようになり、首都圏の教師だけでなく地方の教師にも参加の機会があったことは、非常にありがたかった

という意見が多数寄せられた。当該事業は、 ICTを使った業務に対して積極的ではなかった教師のキャリアアップにも大変貴重な機会であった。

当該事業において、国内外に多くの拠点を持つ㈱ＪＴＢ様と一緒に企画、推進してこられたことで、今後の日本語教育の更なる展開を期待できると思われる。今までの課題として、多くの日本語教育機関、教師においては、オンライン授業ではなく対面授業でなければ、言語習得の成果は出ないというビリーフがあった。しかしながら当該事業を実施した結果、海外にいる学習者へのオンライン日本語教育の成果が見られた。今後も引き続き教師へのICT教育の研修等を進め、国内外の日本語学習者に教育を提供できるように努めたい。このような観点から、事業終了後、全国各種学校日本語教育協会では、当該事業で作成した教材、教師研修について、有意義に活用していけるよう至急検討していきたい。

６－２．事務局　総括

今回、弊事務局では日本語教育モデル開発・日本語教師研修・事業報告会および分析の実施等の自主事業、そして３８校の日本語教育機関とともに実証事業を進めてきた。それらの事業全体を通じた成果・課題について述べていきたい。

はじめに、本事業において開発した日本語教育モデル（ＰＰＴ教材・動画教材等/成果報告１５ページ～３５ページ）について述べる。先述のとおり、弊事務局では３つの日本語教育モデル（スタンダードコース・観光コース・就労コース）を一般社団法人 全国各種学校日本語教育協会（以下、全各日協）とともに制作した。日本語教育のプロフェッショナルである全各日協と、実際に実証を行っている各日本語教育機関の声を聞き、タイムリーに修正を行いながら実証を進めその実証成果・課題を生の声として聴き共にコースを作り上げたことは大変貴重な機会・経験であった。

実証事業の運営・推進にあたっては専用システムであるkintone（事業進捗管理）・LMS：learningBOX（学習進捗管理）を活用した。ほとんどの日本語教育機関にとって初めて利用するシステムであるが故の煩雑さ等、利用開始時点における課題はあったものの、各日本語教育機関がそれぞれにシステム利用の工夫をしてくださったり、事務局でもマニュアル・説明動画を適宜更新したりしながら各システムの利用方法、可能性について検討する機会とすることができた。事業進捗管理面においては担当者制をとり、一つ一つの問い合わせに対しkintoneを通じて回答させていただく、よくご質問いただく内容はＦＡＱにまとめる等の対応を行った。定期的な提出物が多い中でも提出先・質問先を１プラットフォーム化することで大きな混乱を防ぎ、書類作成→提出→フィードバック確認をフロー化することができた。また、LMS：learningBOXの利用については各日本語教育機関の特性や学習者の受講環境等によって感じ方は多様であったが、実際に活用してみることで見えてきた成果・課題が多く出てきた。必ずしもLMSの利用を前提として考えるのではなく、外部環境・受講者の状況を総合的に考えより良い手段で授業を行っていくことが重要であることをあらためて気づかされた。そういった観点において、今後のオンライン日本語教育の環境整備の選択肢のひとつとなるLMS活用の機会を提供できたことは成果であると考えている。

６－２．事務局　総括

「持続可能な環境整備」の視点では、授業・受講環境のほかに日本語教育機関・日本語教師同士のつながり構築も意識した。事務局の工夫として事業報告会を２回実施したが、中間報告会では「日本語教育機関同士の活動を中間報告会の場でも見えるようにすることで、実証のモチベーションをお互いに向上しあえる環境づくり」を、最終報告会では「日本語教育機関主体の報告会スタイルへの挑戦、日本語教育機関が主体的に課題と向き合い、検討できる土壌づくり」を目標に会を構成し実施した。特に最終報告会の日本語教育機関ディスカッションの場では、各日本語教育機関の取り組みについて共有し合い、共通の課題について深く議論し、時に解決策を共創できたことは、多くの日本語教育機関にとって今後の日本語教育を考える機会、課題へのヒントを得る機会となった、との声を多くいただいた。同様に、日本語教師研修においても受講者である日本語教師の方々同士をおつなぎし、所在地や所属する団体の枠を超えたつながりを構築していくきっかけを作ることができた。

本事業を取り巻く環境は事業開始時～実証開始時～事業終了時において目まぐるしく変化した。諸外国からの日本入国に大きな制限が課される中で、手探りでオンライン日本語教育の可能性を検討し始めた事業開始時。日本入国の制限が緩和され、にわかに対面での授業が活発になり始めた実証開始時。そして、コロナ禍以前のような賑わいが日本語教育機関に戻ってきた事業終了時。外部環境の変化に戸惑うことも多くあった１年であったが、不確実な現代において様々な場面・状況を想定した準備・実証ができたことは、多くの日本語教育機関そして事務局にとっても得難い経験であった。

事業で各日本語教育機関が得た成果・課題を生かし、オンライン教育のみならず日本語教育全体が今後も発展していくことを願うとともに、その過程で弊社がどのように関わり発展の一助となれるか、事業で得た成果をどのように伸ばし、課題にどう向き合っていくべきか、全各日協や日本語教育機関とともに考えていきたい。